発掘調査報告第24集

馬住ヶ原工業団地及び馬住ヶ原運動公園造成事業
緊急発掘調査報告

辻沢南遺跡

1988.3

駒ヶ根市土地開発公社
駒ヶ根市教育委員会

発掘調査報告第24集

馬住ヶ原工業団地及び馬住ヶ原運動公園造成事業
緊急発掘調査報告

辻　沢　南　遺　跡

1988.3

駒ヶ根市土地開発公社
駒ヶ根市教育委員会

古代辻沢へのアプローチ

紺碧の空を白い雲が流れる。
沢から谷へ，谷から台地へ，濶葉樹の林を縫って風が渡る
こんこんと湧く清水
やがて流れとなり岸の草を洗いながら曲りくねって天竜に下る

辻沢は，自然に恵まれた，古代文化の故里である。

何千年の歴史を秘める　土器　石器、
何を語ろうとしているのか
火山灰が台地をうめつくした時のことか
種火を嵐から守った時のことか
大事を子孫に伝えた儀式のことか

川のほとりにたたずめば，今なお，古代人達の生活の息ずきが聞こえてくる
かろやかな狩人達の足音が

純白のベールをかけた駒ケ岳の秀峰を仰ぎ見ながら思う
はるかな古代人の使った土と火と水のにおいを

そして足ばやな秋は次のきびしい季節のおとずれをつげる

辻沢は古代文化を語る豊庫である。

辻沢遺跡群研究会

辻沢南遺跡航空写真

辻沢南遺跡遺構全影（気球による撮影）

飾り玉

香炉形土器（第80号住居址出土）

有孔つば付土器（第31号住居址出土）

序　　文

今回ここに刊行の運びとなりました報告書は，「馬住ケ原工業団地及び馬住ケ原運動公園造成工事」に伴う発掘調査報告書であります。

辻沢南遺跡のある一帯は，多くの遺跡の存在が古くから知られ，辻沢遺跡群と称され注目されている所であります。今までにも数回にわたる調査がなされ住居址などが確認されております。

この一画辻沢南遺跡に，種々の事情から工業団地造成とそれに伴うグランド造成が計画され，発掘調査の止むなきに至り，昭和60年に試掘調査をつづいて61年に約4箇月をかけて発掘調査を行いました。

その結果は，当初の予想を大きく上回る縄文時代中期の大集落が確認され，目を見はらせるものがありました。

4箇月余の発掘調査，それにつづく整理作業と長期にわたって，ご指導いただいた友野良一団長を始めとする調査団の皆さん，北沢雄喜会長をはじめとする「辻沢遺跡群研究会」の方々，快く発掘作業に参加して下さった地元の方々，地権者の皆さま方等，多くの方々のご協力・ご厚志によって無事初期の目的を果たすことができました。ここに関係者の皆さま方に心から感謝を申し上げます。

残念ながら遺跡は保存でき得なかった訳でありますが，この報告書が地域史研究の一助にならんことを念願する次第であります。

昭和63年 3 月25日

駒ケ根市教育長　　木　下　　衛

例　　言

1　この報告書は，馬住ケ原工業団地及び馬住ケ原運動公園造成事業に伴うもので，駒ケ根市開発公社の委託を受けて実施したものである。昭和61年度に発掘調査つづいて昭和62年度に整理作業と２年にわたるものである。

2　本報告書は，契約期間内にまとめることが要求されているため，調査によって検出された遺構・遺物をより多く図示することに重点をおき，資料の再検討は後日の機会にゆだねることとした。

3　各遺構の測量にあたっては，正確さと時間短縮の面から気球による写真測量を導入することとし，株式会社パスコに委託して行い，報告書用製図は気賀沢進があたった。

　焼土はドットで表わし，正位の埋甕はウメ，逆位の埋甕はフセで表示し，縮尺は各図に示してある。

4　土器の復元整理作業は木下平八郎・小松原義人・和田武夫・気賀沢があたった。

5　土器の実測は復元されたものの内，100個体についてはスリースペースシステムによる図化作業を株式会社パスコに委託し，省力化を図った。それ以外のものについては製図とともに気賀沢があたった。

6　写真撮影は，遺構・遺物とも木下があたり編集も行った。

7　本報告書の編集は本文執筆とともに気賀沢があたった。

8　本報告書をまとめるにあたり，研究会を開き，多くの方々から貴重なご意見をいただいたが今回十分に生かすことができなかったことをおわびする次第である。

9　本報告書は，本文・図・表・図版にわけて編集してある。

10　石器については，時間の関係上遺構共伴出土のものの数量のみにとどめてある。

11　遺物及び実測図等調査に伴う関係資料は，駒ケ根市立博物館に保管してある。

目　　次

プロローグ
巻頭図版 1
　　2
　　3
序　　文
例　　言
目　　次
第Ⅰ章　発掘調査の経緯……1
　第1節　発掘調査に至るまでの経過……1
　第2節　発掘調査経過……3
　第3節　調査の実施……4
第Ⅱ章　遺跡の環境……6
　第1節　遺跡の位置及び地形・地質……6
　第2節　歴史的環境……7
第Ⅲ章　発掘調査概要……8
第Ⅳ章　遺　　構……9
　第1節　住　居　址……9
　第2節　竪　穴　址……46
　第3節　ロームマウンド……47
　第4節　土　　壙……47
　第5節　単独埋甕遺構……48
第Ⅴ章　遺　　物……49
　第1節　土器及び土製品……49
　第2節　石器及び石製品……51
第Ⅵ章　ま　と　め……52
　第1節　土器の変遷について……52
　第2節　住居址の形態について……54
　第3節　集落について……55

辻沢南遺跡住居址一覧表……57
土壙一覧表……61
遺構別石器一覧表……74

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　発掘調査に至るまでの経過

昭和59年８月に「馬住ケ原工業団地造成計画」が策定され，関係者に計画が提示された。一方この計画区域の中には辻沢遺跡群の中でも最も大規模な辻沢南遺跡がある所から，地元の研究団体である「辻沢遺跡群研究会」より遺跡保存の陳情書が提出された。

その後，市関係機関と辻沢遺跡群研究会と連絡協議を行う中，辻沢南遺跡の重要性から，「試掘調査」を行った上で保存措置について検討することとなった。

これに基づき，市開発公社の委託を受け，昭和60年11月20日より約１箇月間試掘調査が行われた。調査費用は180万円で駒ケ根市埋蔵文化財発掘調査会が行った。

その結果は調査報告書に詳述するように13基の住居址の確認と多量の土器・石器を検出している。この結果を踏まえて，今後の対応が検討されたが，種々の事情から現在の計画を変更することは，困難とのことから，止むを得ず記録保存として発掘調査を行うこととなった。

昭和61年５月12日，辻沢南遺跡発掘調査の打合せが行われ，市開発公社の委託を受けて，市埋蔵文化財発掘調査会が実施することとした。当年度は県営ほ場事業関連の発掘調査の事業量も多く，当遺跡の規模からしても単年度で報告書作成を行うことは無理があるため，61年度は発掘調査と一部整理のみとし，大方の整理と報告書刊行は62年度事業とした。

調査費用は61年度 1,900万円，62年度 600万円　総額 2,500万円である。

団長には日本考古学協会員友野良一氏をお願いし，辻沢南遺跡発掘調査団を編成し，昭和61年６月９日より発掘調査を開始した。

○　駒ケ根市埋蔵文化財発掘調査会

顧　問	小平　善信	（駒ケ根市文化財保存会長）	
〃	鈴木　義昭	（駒ケ根市教育委員長）	＜昭和62年９月30日まで＞
〃	中山　敬及	（　〃　）	＜昭和62年10月１日より＞
会　長	木下　　衛	（駒ケ根市教育長）	
理　事	中村　平一	（駒ケ根市教育次長）	
〃	友野　良一	（駒ケ根市文化財審議会委員長）	
〃	松村　義也	（　〃　副委員長）	
〃	竹村　　進	（　〃　委員）	
〃	中山　敬及	（　〃　〃）	＜昭和62年９月30日まで＞
〃	林　　赳	（　〃　〃）	
〃	福沢　正陽	（駒ケ根市立博物館長）	
監　事	宮下　恒男	（駒ケ根市収入役）	

監　事	北沢　晋六	（駒ケ根市郷土研究会長）
幹　事	堀　　勝福	（駒ケ根市教育委員会次長補佐・社会教育係長）
〃	滝沢　修身	（　　〃　　社会教育係）
〃	気賀沢　進	（駒ケ根市立博物館）
〃	白沢　由美	（　　〃　　嘱託）

○　**辻沢南遺跡発掘調査団**

団　長	友野　良一	（日本考古学協会員）	＜発掘担当者＞
調査主任	気賀沢　進	（　　〃　　）	＜　〃　＞
調査団	北沢　雄喜	（辻沢遺跡群研究会長）	
	木下平八郎	（長野県考古学会員）	
	小町谷　元	（上伊那考古学会員）	
	小松原義人	（長野県考古学会員）	
	田中　清文	（　　〃　　）	
	吉沢　文夫	（辻沢遺跡群研究会員）	
	和田　武夫	（長野県考古学会員）	（50音順）
指導者	笹沢　　浩	（長野県教育委員会文化課）	
	太田　喜幸	（　　〃　　）	
	小林　秀夫	（　　〃　　）	
	芦部　公一	（　　〃　　）	
	樋口　昇一	（長野県埋蔵文化財センター）	
	丸山敞一郎	（　　〃　　）	
	唐木　孝雄	（　　〃　　）	
	三上　徹也	（　　〃　　）	
	宮下　健次	（長野県史刊行会）	
	神村　　透	（王滝中学校教諭）	
	下平　博行	（国学院大学生）	
	酒井　健次	（長野県考古学会員）	（順不同）

第２節　発掘調査経過

発掘調査は長期にわたるため，日誌は省略し概略を記述するのみにとどめる。

昭和61年度

６月５日　現地へ器材運搬行う。

６月６日　調査団現地の下見と打ち合わせ行う。

６月９日　発掘開始

試掘をしてなかった南側部分と中田切川に面した一段低いテラス面をトレンチ方式で表土はねを行う。

その後116ラインより北はグリット方式にて表土はぎを行い，遺跡の南限を確認することとした。遺構は試掘によって得られた結果より南側に，拡がっていることがわかり，予想した以上の規模の大集落となる様子となり，調査方式の再検討を迫られることとなった。

７月以降，遺構の全てを完掘し，集落の全体像を明らかにすべく10月中旬まで厳しい作業が続けられた。７月中旬からは，県営ほ場整備事業に伴う高見原遺跡の発掘調査を併行して行うこととなり，調査員団も人員減となり，調査に支障をきたすこととなった。

６月初旬から始まった発掘調査が終ったのは10月13日で４箇月余の長期の発掘であった。測量などすべての作業の終了は10月19日である。

遺物の洗浄作業及び註記作業は７月21日から併行して行ってきたが，ぼう大な出土品を洗浄しきれず，一部62年度に持ちこした。

遺物整理作業は高見原遺跡に主体がおかれ，埋甕などを主にごく一部行ったのみで，大半は62年度分となった。

昭和62年度

中断していた整理作業を４月23日より始める。量が多く復元作業は仲々はかどらない。すべて終了したのは63年１月末であった。

本年も県営ほ場整備事業に伴う発掘調査など４件の調査を行うこととなり，図面整理などは，大幅に遅れ，63年２月になってようやく本格化し，原稿執筆の終了したのは３月中旬であった。

土器の実測作業が全くできないため，100個体を10月に株式会社パスコに依頼して，スリースペース方式によって図化し，約２箇月で納品となった。大変な労力を費す実測作業が大幅に手間が省けて非常に助った。

63年２月７日（日）上伊那考古学会と共催にて，辻沢遺跡の出土品見学会と縄文時代中期後半の土器群について研究会を開催した。遠来からも参集していただき盛会の内にできありがとうございました。

発掘調査から整理作業と長期にわたって，ご指導いただいた，友野団長始め調査団の皆さん，炎天下から秋までと長期間，発掘作業にたずさっていただいた皆さん，本当にありがとうござい

ました。心からお礼申し上げます。

第3節　調査の実施

1　調査方法

工場団地予定地約45,000㎡の内，遺跡主体部は北側に寄るだろうという予想はされたものの，61年度の試掘調査によっても，その南限は明確とはなっていなかった。そのため中田切川に面した低位段丘上に2本と，グリッド116ラインより南側に2本計4本のトレンチを設定し，北側は，試掘調査時のグリッドを利用することとした。

グリッドの基準は用地の北東とし，南北方向に2m毎に算用数字，東西方向にA・B・C順，つづいてイ・ロ・ハ……とした。

当初遺物包含層・遺構面まで手掘りによる表土除去を行っていたが，予想していた以上に遺構が密集しており，全面発掘の必要が生じたため，116ラインから北については，順次重機を用いて表土の除去を行った。重機によって表土除去を行った面積は24,500㎡に及び，この全面にわたって遺構検出を行っている。

試掘結果から住居址は50軒位と予想していたが，思いがけぬ遺構密集状態のため，集落全体を掘ることに主体をおいたため，さらには7月から併行して進められた高見原遺跡の発掘調査もあって，断面観察等はほとんどできずに終っている。この点二者択一の苦しい選択結果であり，この責任は全て，現場主任の気賀沢にある。

遺構の測量は全体図200分の1，遺構図20分の1とし，各遺構図については，気球による写真測量を株式会社パスコに依頼して行い，報告書用の製図は調査団があたった。現場での作業の効率化と正確度については満足の行くものであった。現在色々なシステムによる測量方法が考古学の現場に採り入れられてきている。コスト面で問題はあるが，今後多いに活用方法を検討する必要があるといえよう。

2　整理作業

ぼう大な量の遺物を前にして限られた日数と人数で行う整理作業には限界がある。石器については，遺構別の出土一覧表に示すにとどめた。土器については，図化できたもの以外，共伴関係を示す資料として拓影をのせてある。図化したものは原則として6分の1，拓影図は3分の1でそのつど指示してある。土製品，石製品の内，土偶，土製円板については抽出し，他は一覧表にて示した。

図化した土器272個体の内，完形に近いもの100個体については株式会社パスコに依頼してス

リースペース方式によって図化を行った。各地において写真図化や本方式など導入して整理作業の効率化を図っている。当遺跡においては，図化方法を限定せずに，入札を行った結果スリースペース方式を採用したものである。測定者による表現方法の違いなど，加筆は必要であるが，整理作業に果たした役割は大である。

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置及び地形・地質

辻沢南遺跡は，駒ケ根市赤穂福岡馬住ケ原（赤穂14番地代）に所在し，JR飯田線福岡駅の南西方向約１Kmの段丘上に位置する。南側には中田切川が東流して飯島町との境をなしている。標高は680～690ｍである。

伊那谷は長野県の南部にあり，東には赤石山脈，中央構造線をはさんで戸倉山・高烏谷山を初めとする前山の伊那山脈が並行して走る。西には木曽山脈があり，天竜川をはさんで南北に並走する。

伊那盆地は，この高峻な両側の山地からの過剰堆積により山麓に大小いくつもの扇状地が形成され，山麓から流れ出た中小の河川が直交して天竜川に注ぎ田切地形を造っていることは有名である。

駒ケ根市赤穂地区は，市の境界となっている北の大田切川，南の中田切川によって形成された複合扇状地からなり，小河川による田切地形が顕著な所である。辻沢南遺跡はこのような小河川の一つ辻沢川の南岸にあり，南には中田切川が流れ赤穂地区の最南端にあたる。天竜川から数えて３段目の段丘突端部に位置し，比高差は15ｍ前後を測る。

南を流れる中田切川との比高は45～50ｍ，北の辻沢川とは15ｍ前後である。辻沢川は，当遺跡付近にてＶ字谷を形成して中田切川に注ぐが，現在では源流もわからないほどの小河川である。中田切川との距離は上流は狭くなり当遺跡はこの両河川にはさまれた三角形の台地となっている。

辻沢川の沿岸は工場や宅地で往古の姿はなくなったとはいえ，今でも雑木林や湿地帯がみられ市内でも数少ない原始相の残る地域といえよう。

遺跡地は東に向かって５～６°の傾斜を示しているが，台地の中央部に微高地がみられ，その陵線上に南限の住居址群が並んでおり，住居址群の中央部分はローム基盤もやや低く凹地状となり黒色土が厚く堆積している。

当遺跡は伊那礫層を基盤とし，その上に２～３ｍの厚さに新期ローム層（Ⅲ層・御岳第四軽石層）が覆っている。漸移層（Ⅱ層）は10～15cmで表土（Ⅰ層）は40～50cmを測る。先述した中央凹地部で60cmを測ることができる。

調査地一帯は畑地で，西側は山林，東側は南側では山林が台地突端まで続くが，北側は，住宅や家畜舎となりすでに破壊されている。

第２節　歴史的環境

赤穂地区は小河川に沿った台地上に数多くの遺跡が分布しているが多くはここ近年のほ場整備事業によって消滅しており，残された遺跡は数えるほどとなっており，今後十分な保存を図る必要がある。

辻沢川沿岸は，多くの遺跡が知られ，総称して辻沢遺跡群と称している。これらの遺跡群については，地元の研究団体「辻沢遺跡群研究会」が詳細な調査を行うとともに，保護を行っている。

段丘下は旧三州街道の通っていた所で多くの石仏も残されており，交通の要所となっていた所である。この沿線上には経塚が２基（２・13）あったことが確認されているが現在は残っていない。段丘下にある馬住の原遺跡（３）は住宅建設に伴い辻沢遺跡群研究会の手によって調査がなされ，縄文時代中期井戸尻最末から曽利期にかけての住居址２軒が確認されている。

辻沢川をへだてた北側には，川頭（４－縄文中期・後期），辻沢丸山（５－縄文早期・中期・晩期），辻沢北（６－縄文早期・中期・晩期・弥生），辻沢原（７－縄文中期）がある。辻沢丸山・辻沢北遺跡よりは押型文土器も採集されており注目される。

辻沢川が中田切川に注ぐ地点には筒沢遺跡（８）があり，縄文中期の土器とともに晩期の遺物が採取されている。

辻沢遺跡群の周辺にも多くの遺跡がみられる。山麓に位置する養命酒工場用地内遺跡からは，押型文土器を始め，早期から前期初頭の土器や縄文時代中期・平安時代の住居址さらに水神平系土器が調査によって発見されている。扇央部には大徳原遺跡（24－縄文中期・弥生），大原北遺跡（25－縄文中期），大原南遺跡（26－縄文中期・平安）がある。当遺跡と同一段丘面にある駒ケ根工業高校遺跡（27）からは縄文時代中期の土器が出土している。この北側の十二天遺跡（28）は縄文時代後期の上伊那の標識遺跡となっており注目される。現在は原野となっている。

これらの遺跡の北側には，上穂沢川が流れ，その流域にも多くの遺跡があり，発掘調査が行われている。14は舟山遺跡で縄文時代早期の小竪穴群が検出されている。その西にある羽場下遺跡（16）は縄文前期末の住居址４軒が確認されている。その西側には，縄文時代中期の大城林遺跡（18），藤助畑遺跡（16），八幡原遺跡（17），北方遺跡（19），南原遺跡（21），横前新田遺跡（22）がある。大城林遺跡は弥生時代中期の木棺墓が確認されており注目される。

10の荒神沢遺跡と12の如来寺遺跡は縄文時代晩期の遺跡で荒神沢遺跡からは発掘によって，住居址とともに多くの土壙群が晩期末の土器とともに出土している。

荒神沢遺跡の東段丘突端には丸塚古墳（10）があった。大正年代の開田によって壊され，直刀などが出土している。現在は石碑が残っている。

養命酒工場用地内遺跡一段高い段丘上の林道の切り通しからは，押型文を伴う小竪穴が確認されており非常に興味深いものがある。

第Ⅲ章　発掘調査概要

今回の調査は用地面積45,000㎡の内の遺跡対象地24,500㎡全面をはぐという市内では始めての調査であった。

調査の詳細は後述するとおりであるが，確認された遺構は縄文時期の住居址100軒と，同時期と認定される328基の土壙群・竪穴遺構2基・ロームマウンド1基・単独埋甕遺構7基である。遺構外の遺物としては有舌尖頭器1点が出土している。

遺跡の北東部が，住宅4軒と家畜舎のためすでに破壊されており，多くの遺物が出土したとのことで，遺跡は台地突端までに及んでいたものと思われる。西側山林は工場団地の予定地とされているが，東側の山林部分は当分現状保存が図れるとのことで幸いなことである。

ここで遺構外の遺物出土状態についてふれておくこととする。

地形の所でふれておいたが，集落群の中央部分（45号住・52号住居址）が20mほどの円形状にわずか凹地状を呈しており表土も厚い堆積を示していた。この黒色土層中に多量の土器が出土していた。当初黒色土層中の住居址の存在を考え，床面の検出に努めたが，焼土・床面など遺構の確認はできなかった。土器は散在的な出土状態であった。周囲の住居址からの流入も考えられるが，定かではない。

遺構の検出は第Ⅱ層漸移層で行うよう極力努めたが，覆土流入土は一部に表土がみられたが，大半は漸移層と内眼では仲々識別しにく第Ⅲ層ローム層に至っている。住居址はローム層を掘り込んだ竪穴式が大半で，平地的なものは17号・25号・61号・95号の4軒のみであった。もともと全く掘り込んで，なかったものかは不明である。

第Ⅳ章にて各遺構別に記述することとする。

第Ⅳ章　遺構

第１節　住居址

1　第１号住居址（第６・88・89，201図）

本址は住居址群の南西部にあり，最も南に位置している。プランは円形を呈し4.2×3.9ｍを測る。炉は中央やや北東寄りに位置し，８個の自然石からなる楕円形の石組炉である。主軸はＳ－72°－Ｅで北西部が入口と考えられる。

掘り込みは15cm前後と浅く床面はあまり堅緻でない。主柱穴は１・３・７・10の４本と考えられる。

土器は炉東脇に88図－１がさらに５がP_7の横の床面から伏さった状態で出土している。土器は全体に多い。石器は覆土中より打製石斧15・磨製定角石斧・特殊磨石・横刃形石器が各１・床面より石礫３点，掻器，やす状石器（201図－４）各１点が出土している。

時期は辻沢遺跡のⅠ期（以下〇期のみとする）である。

2　第２号住居址（第７・90図）

１号住居址の北にあり，東側にある第６号住居址に一部貼床している。西には３号住居址がある。プランは東側がやや張ってはいるが，隅丸長方形を呈す。大きさは4.6×5.3ｍを測る。掘り込みは深く床面は固く堅緻であるが，全面に浅い小ピットがみられる。

東側の一部は６号住居址に貼り床しており，その床面差は10cmほどで貼床はあまりはっきりと検出できなかった。北と西には周溝がある。

炉は中央西寄りに位置し，炉石はすべて抜かれている。掘炬燵状の石囲炉と考えられる。主軸はＮ－79°－Ｗで入口はほぼ東にあたる。主柱穴は１～４の４本である。

出土土器は少ない。石器は石皿がP_4の脇にすえられていた外，打製石斧３・磨製蛤刃石斧１が出土し，覆土中よりは打製石斧８点を含め19点が出土している。

時期はⅡ期（新）である。

3　第３号住居址（第８・91・92図）

第２号住居址の西に位置し，北には第４号・５号住居址がある。プランは東側が張り出た五角形を呈し，4.5×5.4ｍの大きさを測る。床面は堅く東側部分には浅い小ピットがみられる。

炉は中央西寄りに位置し，基盤の小礫を残し全て抜かれている。掘り込み状態からして掘炬燵状石囲炉と考えられる。主軸はＮ－75°－Ｗである。

主柱穴は１・４・５・７の４本で，入口部には２・３が対となり入口部の施設と考えられる。

東部分床面上には不整形の花崗岩がみられた。炉の東にある石は割り石で炉に使用されていたものと考えられる。P_7 の東床面上には平盤な花崗岩がすえられており上面は平滑で石皿的機能を有していたと思われる。周溝がほぼ一周する。

土器・石器とも多いが図化できたものは少ない。92図－21は小形の深鉢で炉の横から出土したものである。石器は70点と多いが打製石斧１が床面より出土したのみで他は全て覆土中である。打製石斧33点の外，磨製石斧が定角５・蛤刀１・乳棒状石斧４と計10点出土しており注目される。磨製石斧は定角１を除けばすべて破損品である。土製円板１点が覆土中より出土している。

時期はⅡ期（旧）である。

4　第４号住居址（第９・93図）

本址は第３号住居址の北に位置し，北西部を第５号住居址に切られている。

プランは楕円形を呈すと考えられ，大きさは南北5.2ｍ，東西は推定4.6ｍである。床面は堅く北東方向にわずかに傾斜している。炉は中央やや南奇りにあり炉石は全て抜かれ15㎝前後の浅い掘り方を残すのみである。石組炉と考えられるがプランは不明である。底には小礫が数多くみられた。主柱穴は１～４と第５号住居址南側に検出された６を加え５本である。主軸方向はＳ－53°－Ｗで入口は北東部であろう。P_1の横に土壙37がある。入口の関係から本址に伴うものとは考えにくい。石皿がP_3の南壁ぎわにすえられていた。周溝は一周する。

P_2の北壁ぎわ入口左部分にあたる位置から口縁と胴下半部を欠いた正位の埋甕（93図－８）が検出されている。内部からは何も検出されていない。

土器は炉内及び周辺から出土している。石器は石皿を含め28点が出土している。石礫２，削器１，不定形石器１の５点以外は床面出土である。打製石斧12，定角石斧４，特殊敲打器・凹石・石皿各１，横刃形石器４が出土している。

時期はⅠ期である。

5　第５号住居址（第９・94図）

第４号住居址の北西部を切ってつくられている。プランは東側が張り出した五角形で，大きさは3.7×3.8ｍと小形のものである。第４号住居址との床面差は５㎝とわずかで，床面は北にやや傾いている。周溝は一部切れるがほぼ全周する。

炉は掘炬燵状石囲炉で，東側部分は横長に石がすえられている。主軸方向はＮ－90°－Ｗで入口は東である。炉の北東には土壙12があり炉はその覆土上に構築している。北東部は土壙13によって壊されている。

主柱穴は２，３，４が現存するが４本と考えられる。

土器は少ない。94図－３の小形深鉢が東側炉石わきから出土している。２は浅鉢で半完形品である。石器は全部で12点出土，床面よりは打製石斧４，定角石斧・敲打器・凹石・横刃形石器各１の８点が出土している。

時期は土器が少なくはっきりしないがⅡ期（旧）であろう。

6　第6号住居址（第10・95・96図）

当址は第2号住居址の東にあり，西側は一部第2号住居址の貼床がみられた。

プランは隅丸長方形で4.2×4.6mを測ることができる。北東部と東壁には土壙33，57があり掘り込まれている。床面は堅く炉に向かってわずかながら傾斜しており，浅い小ピットが多く検出された。周溝は全周する。

炉は中央西寄りにあり炉石は全て抜かれている。掘り方は深く掘炬燵状石囲炉であろう。主軸はN－89°－Wで入口は東である。主柱穴は1～4の4本である。

土器は多く出土している割には破片が多く図化できたものは少ない。96図－9は炉北東覆土中に立った状態で出土したものである。石器は全部で44点出土している。36点は覆土からのもので8点が床面より出土している。打製石斧5，定角石斧2，石錘1である。土製円板5点が覆土中より出土している。

時期はⅠ期と思われるが，住居址のプランや炉形態はⅡ期に近いものがある。Ⅰ～Ⅱ期の過渡期と考えたい。

7　第7号住居址（第11・97・98図）

当址は第8号住居址の南にあり，第1号住居址とともに南縁を形成する。3.9×4.8mの楕円形を呈し，周溝は北側と西側中央部分にみられる。床面は堅くほぼ平らである。

炉は中央やや西寄りにあり，五角形の石組炉で掘り込みは20cmほどである。6個の自然石からなる炉は東側中央の炉石のみ横長にすえており，焚き口であろう。主軸はN－86°－Wで入口は東側である。

主柱穴は1，2，4，5，6の5本と考えられるがP_2は入口部分にあたり4本の可能性もある。

土器は多く炉の西を除いた周囲から床面ないし5cmほど浮いた状態で，横倒しまたは逆位の状態で集中して検出されている。

石器は54点と多く，その内16点が床面より出土している。16点の内訳は打製石斧9，定角石斧・乳棒状石斧・石錐・掻器各1と敲打器3である。土製円板2点が床面より出土している。

時期は破片の中にⅡ期的なものもみられるが，Ⅰ期の所産である。

8　第8号住居址（第12・99・100・101・198図）

本址は第6号住居址の東，第7号住居址の北に位置し，北東部は第10号住居址によって切られている。第10号住居址に切られるためはっきりしないが，5.1×5.2mを測る隅丸方形を呈すものと思われる。床面は固くやや北に傾き中央部に浅い小ピットが多くみられる。

南側を一部除いて周溝がみられる。炉は中央西寄りに位置し，炉石は抜かれているが炉内東側に炉石と思われる細長い自然石が一つ残されている。もとは掘炬燵状石囲炉であろう。主軸方向

はN－89°－Wである。

主柱穴は14，15，18と第10号住居址のP_5と重複する19の４本と考えられる。壁ぎわに13，16，17の小ピットがみられる。母屋柱の可能性もある。

P_{14}とP_{19}の中間東壁ぎわに正位の埋甕（99図－11）が確認された。胴下半部を欠くもので内部からは何も検出されなかった。位置はほぼ入口にあたる。

炉の北東部から壁にかけて自然石とともに土器が20cmほど浮いて出土している。破片がほとんどである。また炉の東床面から炉に流れ込む状態で完形に近い土器が出土した。99図－10は台付と考えられる。土器とともに三角壔土製品（198図－１）と土製円板７点が出土している。

石器も多く68点出土している。覆土中より22点，床面より46点出土している。46点の内訳は，打製石斧27，定角石斧・乳棒状石斧・大形粗製石匙・敲打器・磨石・特殊磨石・凹石・石礫各１，特殊敲打器・掻器各２，横刃形石器７である。

時期はⅡ期（旧）である。

9　第９号住居址（第13・102図）

第５号住居址の西に接するように確認された。掘り込みが浅く壁が不明瞭で東側は壁がない。

南北4.２m，東西推定4.３mを測る隅丸方形を呈すと思われる。床面のタタキは顕著でない。炉はやや北寄りにあり五角形の石組炉で，南側の２つの炉石は横にすえられている。主軸方向はN－24°－Eである。

周溝はない。主柱穴と考えられるものは１と４の２本を残すのみで土壙によって壊されているもとは４本であろう。

土器，石器とも極めて少ない。土器は破片のみである。石器は覆土中より打製石斧が２点出土しただけである。

時期は遺物が少なくはっきりしないが，住居址のプラン，炉と考え併せⅠ期に属すると思う。

10　第10号住居址（第12・103図）

第６号住居址の北東を切っており，東には第12号住居址がある。第８号住居址との床面差はわずかで南東部で５cmほど，中央部でははっきりした段差はみられない。

プランはわずかながら稜を持つ八角形に近いものである。大きさは5.７×5.９mを測る。炉は中央西寄りにあり，炉石はすべて抜かれている。掘炬燵状石囲炉であったと考えられる。主軸方向はS－88°－Wで入口は北東部となる。主柱穴は１・４・５（19）・８の４本で，入口部には２，３のピット２つがあり入口施設があったと考えられる。P_5の西に石皿が出土している。

炉の上と炉の東側床面より15cmほど浮いて自然石がほぼ同レベルで出土している。廃絶後意識的に並べた可能性があるが性格は不明である。

土器は極めて少なくすべて破片である。石器は石皿を入れて15点と少ない。内床面からは石皿の外に打製石斧６と特殊敲打器１が出土している。

時期は遺物は少なく定め難いがⅡ期（新）と思われる。

11　第11号住居址（第14・104・105図）

第７号住居址の南東にあり同様南縁を形成している。5.4×5.7ｍを測り円形のプランを持つ。床面は炉の西にてやや凹み，堅くタタかれている。周溝は全周する。

炉は中央西寄りに位置し，６個の炉石からなる方形石組炉で炉石はすべて縦長に用いられ，石すき間には小石をつめている。主軸方向はＳ－70°－Ｗである。

P_{11}は浅くその周辺には自然石が集積している。明確に組み合わせた感じはみられないが，屋内祭祀の一例とも考えられる。またP_1の東脇にも集石がみられた。主柱穴は１・４・７・８・９の５本である。P_{11}が位置からして柱穴とも考えられるが浅くて無理がある。

土器は多く出土しているが図化できたもの深鉢の底（105図－10）のみである。石器は全部で60点出土しており床面よりの出土47点である。内訳は打製石斧24，定角石斧・凹石・石礫各３，蛤刃石斧・乳棒状石斧・磨石・特殊敲打器・磨石・掻器各１，敲打器・特殊磨石各２，横刃形石器５である。

時期は新しい要素もみられるが，Ⅰ期である。

12　第12号住居址（第15・106・107図）

第10号住居址の東に位置し，東には第13号・14号住居址がある。隅丸長方形のプランで4.7×5.2ｍを測る。床面は非常に固くタタキしめられている。炉は中央西寄りにあり，炉石は全て抜かれている。掘炬燵状石囲炉であったと考えられる。主軸方向はＳ－55°－Ｗで入口は北東である。

周溝は南東コーナーと入口と考えられる東中央部にて切れている。主柱穴は１・５・６・７の４本で入口施設としてP_3・P_4がみられる。炉の手前には自然石が無雑作にみられ，P_5の壁ぎわには，花崗岩を楕円形に整形してあり丸石信仰として注目される。P_7の北壁ぎわに石皿が置かれていた。

遺物の出土状態はいわゆる吹上パターンを示すもので，東方向から炉に向かってなだれ込んだ状態を示し，15cmほどの間層をおいて床面直上炉の南と東側から集中的に土器が出土している。図化し得たものは多いが半完形のものである。石器は土器に混じって覆土中より17点，床面より18点の計35点が出土している。床面の内訳は打製石斧７，定角石斧２，特殊敲打器４，凹石・石皿各１，横刃形石器３である。床面より１点土製円板が出土している。

時期はⅡ期（旧）と考えられる。

13　第13号住居址（第16・108図）

第12号住居址の北東部に位置する。プランは隅丸方形で大きさは4.5×4.6ｍである。床面はやや南に傾いている。周溝は北と南側にみられない。

炉は中央やや南寄りに位置し，掘炬燵状石囲炉の炉石はすべて抜かれている。主軸方向はS－26°－Wで入口は北東部にあたる。主柱穴は1・2・5・6（7）の4本である。炉の手前に小ピットがみられるが間仕切であろうか。P_8・P_{10}は入口施設に伴うものである。北壁入口右部には平盤な花崗岩がすえられている。

土器は少ない。108図－4は浅鉢である。石器は25点あり，内床面より21点出土している。内訳は，打製石斧14・定角石斧・削器・不定形石器各1，特殊敲打器・横刃形石器各2である。

時期はⅠ期であろう。

14　第14号住居址（第17・109・201図）

第12号住居址の南東に位置する。円形のプランで大きさは4.8×4.8mを測る。周溝は一周する。炉は中央南寄り東側の炉石は抜かれている。長方形の石組炉であったと考えられる。北側の炉石は横長にすえられている。主軸方向はS－34°－Eで入口は北東にあたる。

主柱穴は1・4・6・10の4本で入口部には施設のためP_{12}・P_{13}が対をなしている。

炉の南床面上より半折れのヒスイ製の有孔大珠（201図－6）が出土している。土器は少ないが図化できたものは多い。109図－1・2・5はP_8の内部より出土したものである。石器は34点で内床面よりは打製石斧17，定角石斧・大形粗製石匙・磨石・特殊磨石・掻器各1，特殊敲打器2，横刃形石器3の計27点が出土している。

時期はⅠ期である。

15　第15号住居址（第18・110図）

第14号住居址の東に位置し，北には第16号住居址がある。プランは六角形に近いもので，4.7×4.9mを測る。掘り込みは浅く，床面には無数の小ピットが掘られており，タタキは顕著でない。

炉はやや北東寄りにあり，変五角形を6個の炉石で造っている。西側の2個はやや内傾斜に横長にすえられている。主軸方向はS－70°－Eで北西部が入口にあたる。

主柱穴は1・2・4・5・8の5本で入口にP_7とP_6が対をなしている。

土器，石器とも少ない。110図－1は炉の東脇から出土したものである。炉の内部より出土した土器はもろく復元できなかった。3は香炉形土器で4分の1しかない。石器は16点で床面より8点出土している。内訳は打製石斧・定角石斧各2，蛤刃石斧・石錘・石磨・横刃形石器各1である。覆土中より土製円板2点が出土している。

時期はⅠ期に属する。

16　第16号住居址（第19・111図）

本址は第15号住居址の北に位置し，東には第17号住居址が，北にはやや離れて第33号住居址がある。5.3×5.3mの隅丸方形で，床面は中央がやや高くなる。周溝は全周する。

炉は西寄りにあり炉石は全て抜かれている。炉の北東床面上に割石が三つに折れて横たわっており炉石の可能性が強い。主軸方向はS－62°－Wで入口は東北部である。

主柱穴は1・4・6・7の4本と考えられ，入口部にはP_2・P_3が対をなしている。その中間入口部に口縁と胴下半部を欠いた正位の埋甕（111図－1）が確認されている。

土器・石器とも少ない。埋甕を除いて3の小形深鉢が完形に近いものである。石器は30点出土しているが，すべて覆土中のものである。

時期はⅡ期（旧）に属する。

17　第17号住居址（第20・112図）

第16号住居址の東に位置し，南にて第18号住居址を切っている。5.6×5.8mを測る円形プランを呈し，周溝は全周する。床面は非常に堅くタタキしめられている。

炉は中央東寄りにあり横長にすえられた西側の炉石を除いて抜かれている。掘炬燵状石囲炉であったと考えられる。主軸方向はN－89°－Eで入口はほぼ真西にあたる。

主柱穴は1・2・3・4・5・7の6本で入口部にP_8（P_9）・P_{10}が対をなしている。P_7とP_6の中間入口部右側にあたる所に逆位の埋甕（112図－1）がある。口縁を欠き底は中心部が1.5cmほど穿孔されている。

住居址の北部壁ぎわにピットに沿って自然石がみられる。何らかの意図を持ってすえたものであろう。

土器は少ない。112図－2・3は炉の南西脇から出土したものである。石器は17点出土しているが，床面からは凹石2点のみである。

1・2などⅠ期の様相を持つが，切っている第18号住居址との関係からすればⅡ期への過渡期としたい。

18　第18号住居址（第20・113図）

第17号住居址の南にあり北側は切られている。掘り込みはまったくみられず，炉のみ検出されたものである。プラン・規模はまったくわからない。炉は変五角形の石組炉で北西の炉石が横長にすえられている。これからすると入口部は北西の可能性がある。

炉の周囲に若干タタキが確認されたのみである。西側と東側にピットがあるが柱穴ははっきりしない。

遺物は少ない。113図－3は炉の横から1・2は内部から出土したものである。石器は打製石斧2点が床面より出土しているのみである。土製円板1点が出土している。

時期はⅠ期である。

19　第19号住居址（第21・114・115図）

第32号住居址の東に位置し，東から北にかけては第21号・20号・30号・28号・29号住が続いて

いる。プランは変五角形を呈し6.1×5.4mを測る。床面は堅くほぼ平らである。

周溝は全周する。炉は中央北寄りに位置し，南西部は土壙117によって壊されている。長方形ないし方形の石組炉であったものであろう。炉の南には石皿が伏さっている。炉石の一部に使用されたことも十分考えられる。主軸方向はN－17°－Eである。

主柱穴ははっきりしないが，1・2・3・6・9・10・11の7本と考えられる。

遺物は多い。土器は図化できたものが多く該期の好資料となる。115図－26・27は混入によるものと思われる。石器は56点出土し全て床面からのものである。打製石斧32，定角石斧6，蛤刃石斧・石皿各1，大形粗製石匙・敲打器・特殊敲打器・石礫・不定形石器各2，横刃形石器6である。

時期はⅠ期である。

20　第20号住居址（第22・116図）

第19号住居址の東に位置し，北にて第30号住居址と接し，南は第21号住居址にわずか切られている。

プランは長目の六角形を呈し4.9×4.1mを測る。掘り込みは浅く炉付近がわずかに低くなる。床面のタタキはさほど顕著でない。炉は北東に偏し西側は土壙173によって壊され，北と東に炉石を残すのみである。方形の石組炉であったと考えられる。主軸方向は炉の向きからしてN－48°－Eと考えられる。周溝は西側部分にみられる。

主柱穴は1・2・3・4の4本と考えられるが，炉及び柱穴とも住居址プランとずれをみせている。P_5・P_6は入口部施設のものであろう。

P_4の南縁に花崗岩の丸石がある。さらにP_5の脇に細長い花崗岩が横たわっている。立石として用いられたとも考えられる。

遺物は極めて少ない。土器は破片がわずかにみられただけである。石器も少なく11点が床面より出土している。内訳は打製石斧5・蛤刃石斧・乳棒状石斧・大形粗製石匙・石錐各1，横刃形石器2である。床面より土製円板2点が出土している。

時期は遺物が少なく決め難いが，Ⅰ期に属すると思われる。

21　第21号住居址（第22・117・118図）

第20号住居址の南東隅をわずかに切っている。床面差は25cmを測る。プランは隅丸方形で4.8×5.0mを測る。周溝は全周する。

炉は中央やや西寄りにあり，掘炬燵状石囲炉の炉石は全て抜かれている。主軸方向はN－70°－Wである。主柱穴は1・2・5・6の4本で入口部にはP_3とP_4が対となっている。この線上ややP_4よりに平盤な石をのせた正位の埋甕（118図－11）がみられた。胴上半部と底部を欠いたものである。

P_2の西壁ぎわより砥石が出土している。

土器は多い割には完形に近いものは少ない。石器は42点と多いが床面出土のものは８点だけで打製石斧・敲打器各２，石錐・石棒・横刃形石器・砥石１である。石棒は破片である。覆土中より土製円板が２点出土している。

時期はⅡ期（旧）に属する。

22　第22号住居址（第23・119図）

第21号住居址の東に位置し，南東には第23号住居址，北には第25号住居址がある。

プランは円形を呈すが，周溝の周り具合は六角形に近いものである。大きさは4.9×4.9ｍを測る。掘り込みは深く床面は中央部がやや凹くなる。

炉は南東寄りに偏し北東部には炉石がみられない。炉底からダラダラと床面に達しており石のあった痕跡は認められないので，もともとコ字状の石組炉であったものであると考えられる。主軸方向はＳ－50°－Ｗで入口は北東部にあたる。

主柱穴は１・２・３・６の４本である。

P_1 の北壁ぎわに正位の埋甕（119図－１）があり，胴下半部と口縁を欠いている。入口左部にあたる。埋甕の北東には床面より10cmほど高い所の壁を掘り込んだ状態で細長い自然石とこぶし大の円礫３個がみられた。埋甕に伴う配石遺構と考えるのが妥当であろう。

さらにその上部壁と同レベルの覆土中に細長い自然石を用いた配石遺構が検出されている。これは廃絶後のものである。

土器は少ない。119図－４は短頸の壷形土器で当遺跡で数例出土している。石器は28点出土しているがすべて覆土中のもので打製石斧が16点と卓越している。覆土中より土製円板１点が出土している。

時期は第Ⅰ期に属する。

23　第23号住居址（第24・120図）

第22号住居址の南東に位置し，北側の第24号住居址とともに調査区域東ぎりぎりに検出されたものである。東側は道をへだてて山林となっており，集落群は続いているものと思われる。

プランはくずれるが角形の形を残しており，大きさは5.0×5.4ｍである。東側は壁高が低い。

周溝は全周する。炉は南東寄りにあり，西と南には炉石がみられない。炉の掘り込みは浅くはっきりしないが，もともとＬ字であったものと考えられる。炉石はすべて横長に用いられている。主軸方向はＳ－61°－Ｅで入口は北西にあたる。

主柱穴は１・３・４・５・７・８・10・13の８本と考えたい。

土器・石器とも少ない。土器は図化できたものは P_{11} より出土した120図－１のみである。石器は打製石斧２，定角石斧・小形石匙各１，特殊敲打器・横刃形石器３の10点ですべて床面出土である。

時期は遺物が少なく決め難いが，Ⅰ期に属するであろう。

24　第24号住居址（第25・121図）

第23号住居址の北に位置し，西には第25号住居址及び第１号竪穴址がある。プランは隅丸方形で東側がやや貼り出ており五角形に近い　大きさは5.1×5.3ｍである。掘り込みは深く床面堅く良くタタキしめられている。周溝は全周する。

炉は南側に偏し，炉石は全て抜かれている。もとは掘炬燵状石囲炉であったものである。主軸方向はＳ－61°－Ｗである。主柱穴は２・５・８・12の４本と考えられ，１・６・７は支柱穴であろう。入口部にP_3・P_4が対となっている。この線上より壁ぎわP_4に寄った所から正位の埋甕（121図－８）が発見されている。口縁部を欠き底は中央部を４㎝ほど無雑作に打ち欠いている。入口左にあたる。

土器は少ない。石器は29点出土しており床面からは，打製石斧７，小形石匙１，特殊敲打器２，横刃形石器３の13点が出土している。P_5の東周溝ぎわより土偶の左足部分が１点検出された。

時期はⅡ期（旧）に属するであろう。

25　第25号住居址（第26図）

第24号住居址の西，第１竪穴址の南壁上に炉のみ確認されたものである。東西60㎝，南北50㎝のコ字形に石を組み南側には石はない。内部には焼土がわずかみられただけである。

北側は竪穴址の覆土に構築されている。貼床は検出できずまた南側は炉の周囲にタタキがみられたのみで柱穴も確認できなかった。内部に焼土を伴ったため住居址としたが，第22号住居址上部にみられた配石遺構と同様の性格を持つ可能性もある。

時期は遺物が全く伴わず不明である。竪穴址はⅡ期（新）の所産である。

26　第26号住居址（第27・122図）

第25号住居址の北東にあり，北側は土壙が掘られている。プランは楕円形を呈すと思われ，規模は東西4.1ｍを測り南北は4.6ｍほどと推定される。

床面のタタキは顕著でなく東にやや傾斜している。炉は南西よりにあり方形の石組炉である。炉石は四方とも縦長に用いられている。主軸方向はＳ－48°－Ｗである。主柱穴としては１・４の２柱穴が確認されただけであるが，本来は４柱穴であろう。

土器は少なく図化できたものは122図－１のみである。石器は床面より16点出土している。内訳は打製石斧６，定角石斧・特殊敲打器各２，敲打器１，横刃形石器５である。

時期はⅣ期である。

27　第27号住居址（第28・123・124図）

第20号住居址の北に位置し，北西部を第30号住居址に切られている。この一帯は土壙の密集地帯で住居址内にも多くの土壙がみられる。東側はトレンチャーによって壊されており，プランははっきりしないが，楕円形を呈すものと思われる。規模は南北5.3ｍを測るが主軸東西方向は不

明である。

炉はやや西寄り中央にあり，六角形を呈す石組炉で見事なものである。大きさは東西1.2ｍ，南北1.0ｍを測る。東側の2辺は石を横長に用いて二重に組んでおり，南側頂点部にも外側に石が組まれている。さらに南東頂点部炉石の間に刃部を欠いた蛤刃石斧が横に南西頂点部には頭部を欠いた蛤刃石斧が刃部を上に埋め込まれていた。(図版25－3・6)

主軸方向は炉からしてＳ－87°－Ｅで入口は東と思われる。主柱穴は4本と考えられるが不明である。

南側土壙138のきわに割石とくずれた花崗岩2個がすえられておりその上部からコップ形のミニチュア土器（124図－6）が底を上にして出土している。また炉南西床面に底を抜かれた短頸の壺形上器（124図－7）が正位の状態で出土している。底は7㎝のほぼ円形に打ち欠れている。口縁は後に消失したものである。埋設土器には良くみられるが本例のような出土例は珍しい。

土器はこれ以外にも多く出土している。土偶の胸部と土製円板が1点ずつ出土している。石器は23点の内22点が床面より出土している。内訳は打製石斧11，蛤刃石斧3，乳棒状石斧1，横刃形石器5，環状石斧2である。環状石斧はともに破片である。

時期は後出するものもみられるが，Ⅰ期の所産である。

28　第28号住居址（第28・125図）

第29号住居址の東にあり，南東部は第30号住居址を切っている。プランは隅丸方形で4.9×4.8ｍを測る。第30号住居址との床面差は20㎝弱である。周溝は全周している。

炉は中央西寄りに位置し，炉石は抜かれており，北と南にはピットが掘られている。掘炬燵状石囲炉であったと考えられる。主軸方向はＮ－50°－Ｗである。

住居址内には土壙148・174・190・149・197がある。

主柱穴は13・25の2本が認められるが北側は不明である。

土器は多く出土しているが図化できたものは少ない。石器は覆土中より16点，床面より18点出土している。18点の内訳は打製石斧8，乳棒状石斧・特殊敲打器・磨石・凹石・横刃形石器各1，石錘2，不定形石器3である。床面土製円板が1点出土している。

時期は確たるものがなくはっきりしないがⅡ期（新）と考えられる。

29　第29号住居址（第29・126図）

第28号住居址の北西に位置し，北東には第31号住居址が近接している。

プランは隅丸方形を呈し規模は4.5×4.3ｍである。床面は炉付近がやや凹くなる。炉は南に偏し，小ぶりな掘炬燵状石囲炉である。東を除いて偏平な割石を用いてきちっと造ってあり，その出来栄は見事なものである。北側と南側は一つの石を割って利用している。東側は2個の割石を横長にすえ一段低くしている。主軸はＮ－78°－Ｗである。

主柱穴は1・3・6・9の4本と考えられ，2・5・10は支柱穴であろう。周溝は南西部が切

れている。P_2 の北東壁ぎわに平盤な石がありそのわきに定角石斧が刃部を下にして出土している。

土器は少ない。炉の底より出土した126図－9以外は破片である。石器は26点出土しており床面からは13点である。内訳は打製石斧4，定角石斧・蛤刃石斧・敲打器・特殊敲打器各1，特殊磨石2，横刃形石器3である。

時期はⅡ期（旧）に属するであろう。

30　第30号住居址（第28・127図）

本址は東側にて第27号住居址を切り，北西部にて第28号住居址に切られている。プランは楕円形と思われるが定かでない。規模も不明である。第27号住居址との床面差は10cm弱である。

炉は第28号住居址の南東部に焼土を伴った長方形のピット（P_{12} と P_{13} の間）があり，これが本址の炉と思われる。炉石は当然抜かれている。掘形から掘炬燵状石囲炉と考えられる。

土壙156の北西壁より1mの所に正位の埋甕1（127図－4）さらに土壙157の北西にやはり正位の埋甕2（127図－5）が検出された。両者の距離は2mである。埋甕1の底は6cmのほぼ円形に打ち欠かれており口縁部まである。埋甕2は胴下半部を欠き口唇はないがもとはあったものと思われる。東と南側に自然石がおかれていた。炉及び埋甕の位置からすると入口部は埋甕の中間部と考えるのが妥当であろうか。

埋甕を除けば土器は少なく破片のみである。石器は25点出土しているが，定角石斧1点を除けば覆土中からのものである。

時期はⅡ期（旧）に属する。

31　第31号住居址（第30・128図）

第28号・29号住居址の北の土壙群の中に炉のみ確認されたもので，プラン等は全く不明である。炉は土壙160によって南東部を壊されている。もとは長方形の石組炉であったと思われる。

炉石におおいかぶさるように128図－1の有孔つば付土器がつぶれ込んで出土している。底を除きほぼ全部あるが，非常に焼きが悪く胴下半部は一部しか接合できなかった。土器はこれを除けば少量の破片のみである。

石器は一帯の覆土中より18点出土しているが住居址に伴うものはない。

時期はⅠ期である。

32　第32号住居址（第31・129図）

本址は第19号住居址の北西に位置している。プランは円形で4.2×4.4mと小形のものである。掘り込みはやや浅く床面は北東に傾斜している。壁は非常になだらかとなっているが，一部撹乱がみられたためのものである。

炉は北に偏し，北と東の炉石は抜かれている。炉の掘り込みはさほど深くないが，残された炉

石は割石を用いており掘炬燵状の石囲炉であったと考えられる。東の炉石は横長にすえられている。主軸方向はN－28°－Eである。

主柱穴は1・2・4・5の4本である。周溝は全周する。P_3と壁との間には楕円形の大きな花崗岩がある。さらにP_4の東には平盤な四角の自然石とこぶし大の礫がおかれている。

遺物は少ない。129図－1はP_4の内側床面より浮いて出土したものである。石器は全部で7点と少なく，床面出土のものは打製石斧2，大形粗製石匙・掻器各1の4点である。床面より土製円板1点が出土している。

時期は新しいものもみられるが覆土出土のものから考えるとⅠ期とするのが妥当であろう。

33　第33号住居址（第32・130図）

本址は第16号・17号・32号・35号・37号・34号住居址の中心に位置している。

プランは円形で，規模は6.1×6.0mである。周溝はほぼ全周している。炉は北東寄りに位置し，細長い自然石をコ字形に組んでいる。南西部には掘り形がみられるが，炉石があったかどうかははっきりしない。

主軸方向はN－58°－Eである。主柱穴は1・2・3・5・8・9の6本である。炉の北西と北東には土壙がみられる。

土器は多い。炉南東脇床面よりやや浮いて130図－1・3がさらにその下部に炉になだれ込むような形で4が出土している。5は胴部が半分しかないが，有孔つば付土器と考えられる。

石器は18点ですべて床面出土で，内訳は打製石斧7，大形粗製石匙・特殊敲打器・石礫・石錐各1，横刃形石器4，不定形石器3である。土偶の左足部と土製円板1が出土している。

時期はⅠ期に属する。

34　第34号住居址（第33・131図）

第33号住居址の西に位置し，北にはやや離れて第45号住居址がある。プランは隅丸方形を呈し規模は5.2×5.4mを測る。

炉は中央西に偏し，西側一部を残して炉石は抜かれている。掘炬燵状石囲炉で炉石の痕跡が良く残っている。主軸方向はN－84°－Wである。

主柱穴は1・4・5・6の4本で，入口部にはP_2・P_3が対をなしている。P_2・P_3の中間やや壁ぎわに正位の埋甕（131図－8）がある。内部には深鉢形土器の破片（9）が埋納されていた。

P_4の東，壁ぎわに花崗岩の丸石と平盤な石の上に伏せた状態で石皿がある。

土器は少なく埋甕の外には図化できたものは1点だけである。石器は29点あり床面からは打製石斧4，敲打器・特殊敲打器・石皿各1の7点が出土している。土偶の胴部片が床面より1点出土している。

時期はⅡ期（旧）に属するであろう。

35　第35号住居址（第34・132・133・198図）

本址は第36号住居址の西に位置している。プランは南側がやや張り出した五角形に近い隅丸方形である。規模は5.6×5.5mである。掘り込みは浅く北東部は壁がはっきりしない。周溝は東側にはみられない。

床面上には5cmほどの厚さで，全面に焼土の混じった炭化物の層がみられ，火災にあったことをうかがわせる。一部板状の建築材もみられたが構造物的なものはみられなかった。

炉は中央北寄りにあり炉石はすべて抜かれている。掘炬燵状の石囲炉である。主軸方向はN－19°－Wである。主柱穴は4・9・11の3本と北東部土壙に壊されたと考えられる1本を加え4本であると思われるが，P_1（P_{13}）とP_8が対応することから6本の可能性もある。入口部には対をなすP_6・P_7がある。

P_6の東に正位の埋甕がある。半分しかなく内部からは黒耀石の剥片と石片がみられた。後から掘られた形跡もなくもともとこの状態であったと考えられる。埋甕例としては珍しい。

P_9の西，壁ぎわより砥石が出土している。

覆土中には多量の土器がみられたが，床面上にはほとんど土器がみられない。炉石が抜かれている点と併せ考えると失火でなく何らかの目的を持って火を放ったものと考えたい。

132図－3は鉢形のミニチュア土器である。4の土器とともに下身部を欠いた土偶（198図－2）が覆土中より出土している。

石器は23点出土しており床面出土は13点，内訳は打製石斧8，定角石斧・蛤刃石斧・大形粗製石匙・特殊敲打器・砥石各1である。

時期は埋甕からしてⅡ期も新しい時期に属すると思われる。

36　第36号住居址（第35・134図）

第35号住居址の東に位置している。東側がやや張るが隅丸長方形を呈し，規模は5.0×5.4cmである。掘り込みは浅く西側は壁がはっきりしない。周溝はほぼ全周する。

炉は中央西寄りに偏し炉石は抜かれ，東側には基盤の礫が残っている。掘炬燵状石囲炉である。主軸方向はN－70°－Wである。炉の手前には浅い小ピットが穿たれており全体に床面は凹くなっている。

主柱穴は4本と考えられるが現存するものは2・5・6の3本である。炉の手前には割石2と楕円形の大きな花崗岩がみられた。割石は炉石の一部の可能性もある。炉の北東及び東壁・西壁には土壙が掘られている。

土器は覆土中より破片がかなり出土しているが，住居址に伴うものは少ない。石器は打製石斧11，定角石斧1，蛤刃石斧2の14点が床面上より出土している。土製円板1点が床面より出土する。

時期は遺物が少なく決め難いがⅡ期（新）に属するであろう。

37　第37号住居址（第36図）

第38号住居址の南に近接している。3.2×3.3ｍの隅丸方形のプランの小形な住居址である。床面は南東にやや傾斜しており，堅くタタかれている。

炉は中央北西にあり掘炬燵状石囲炉で４枚の割石を使った見事なものである。南西部は横長に用いられている。主軸方向Ｎ－45°－Ｅである。周溝は西と南にみられる。

主柱穴は１～４の４本である。P_4の西壁ぎわに安山岩の割石が床面上にみられ，P_2の西には花崗岩の細長い割石が横たわっている。立石として用いられていたものであろう。

P_3の南東周溝内より敲打器が出土している。土器は極めて少ない。石器は打製石斧２，乳棒状石斧・敲打器各１，特殊敲打器・横刃形石器各２の８点が床面より出土している。

時期は遺物が少なく決め難いがＩ期に属するであろう。

38　第38号住居址（第37・135・136図）

本址は第37号住居址の北に位置し，西には第45号住居址，北には第41号住居址がある。北東部で土壙197，南西部にて土壙196を切っている。

同心円状に拡張された住居址で新住居址は5.9×5.4ｍの楕円形である。主柱穴は１・２・３・４・６・８・９の７本である。周溝は部分的に途切れるがほぼ一周する。各柱穴間を結ぶかのようにロームで貼床された周溝が確認され，内部には柱穴が確認された。上部はロームを厚くつきかためており，当初は発見できなかったが，床面が乾くに従って異状がわかったものである。旧柱穴は11・12・13・14・16の５本である。P_1・P_2・P_9はやや外側にずらしたのみであるが，P_3・P_6は大きくずれており，P_4・P_8は新しく掘られたものでこの点からすると同心円に近いが南西部をわずかに広く拡張したことがうかがわれる。

旧住居址のプランは定かでないが周溝の状況は六角形を呈している。規模は周溝間で5.0×4.5ｍほどである。

床面は堅くタタキしめられているがやや南西に傾斜している。炉は南東寄りに偏しており，六角形の石組炉である。細長い河原石を縦長に用いて造っており南東部の３個は抜かれている。中心には深鉢形土器の胴央部（135図－11）が付設されていた。炉内部覆土中より骨片が少量出土している。

炉の痕跡が他にないこと，拡張状況から考えると旧住居址の炉の位置も同じと考えられるが，新たに造ったものか再利用かは不明である。主軸方向はＳ－79°－Ｅである。

P_8とP_9の中間に平盤な花崗岩の割合，P_4南壁ぎわにやや丸味を持った花崗岩がおかれている。

土器は炉内部から135図－５の短頸の壷形土器が横倒しで，炉北側床面上に伏さった状態及び横倒しの状態で多量に出土している。やや間層を持つものもみられた。図化できたものも多く該期の一括資料として良いであろう。

石器は土器に対し少なく12点である。床面からは打製石斧・石錘・敲打器・石礫が１点ずつ出

土しているのみである。

時期はⅠ期である。

39　第39号住居址（第39・137・138図）

第70・71号住居址の南にあり西にて第44号住居址を切っている。土壙が多く掘り込まれ床面及び壁はわずかに残るだけである。

6.1×6.2ｍの規模の隅丸方形と思われる。土壙200を掘り込んで焼土を持つピットがあり，これが炉と考えられる。掘り形からして掘炬燵状石囲炉であったと思われるが定かでない。炉石はすべて抜かれている。南東壁より70cmほど入った所より正位の埋甕（138図－11）が確認されている。

底は7cm角に打ち欠かれ口唇は一部を残すのみである。底にはわずか網代痕が残る。

炉の位置からすると主軸方向はＮ－60°－Ｅで埋甕は入口左にあたる。

第44号住居址との床面差は40cm弱である。周溝はみられない。

土器は多いが図化できたものは少ない。土壙が掘り込まれており他の混入も考えられる。

石器は51点と多いが床面からは12点の出土である。内訳は打製石斧7，定角石斧・敲打器・磨石各1，特殊敲打器2である。床面より土製円板1点が出土している。

時期は共伴遺物からしてⅡ期（新）に属するであろう。

40　第40号住居址（第39・139図）

第51号住居址の北に位置し，西にて第43号住居址をわずかに東では第44号住居址を切っている。

プランは六角形に近い円形を呈し，規模は4.6×4.8ｍを測る。第43号住居址との床面差は北にて5cm中央部でははっきりしない。第44号址とは10cmほどである。

炉は北西寄りに偏してあり，掘炬燵状石囲炉である。南西角には礫2個がつめられ，東側は2個細長い礫を用いて一段低くしている。主軸方向はＮ－54°－Ｗである。

周溝はみられないが東から北にかけては壁ぎわに浅い小ピットが穿たれている。主柱穴は2・4・6・7の4本である。

床から5cmほどは焼土と炭化物によって全面おおわれ火災に遭ったことを物語っている。炉のきわには丸太状の炭化物もみられた。

P_4の南壁ぎわに139図－3の小形深鉢形土器が横倒しの状態で出土している。またP_6の西壁ぎわに偏平な割石がたっておりその両側より4の釣手土器と1の香炉形土器が横倒しとなって発見された。さらにその西側には3の有孔つば付土器があり偏平な花崗岩をはさんで，蛤刃の磨製石斧2点を縦に並べている。（図版36－4，37－1・4）

1の香炉形土器は骨車状の突起を持ち片方欠けている。4は底部を欠いており台付と思われる。

石器は25点出土しているが，床面からは定角石斧・乳棒状石斧・特殊敲打器・横刃形土器各1，蛤刃石斧・不定形石器各2の8点が確認されている。

時期はⅠ期である。

41　第41号住居址（第38・140図）

当址は第38号住居址の北に位置し，北には第51号・第43号住居址がある。東に張り出し部を持つ隅丸方形を呈し，4.6×5.3ｍを測る。掘り込みは深く床面は中央部がやや凹くなる。西側には浅い小ピットが4個並んでいる。周溝は一部でかけるがほぼ全周する。

主柱穴は1・3・5・6・8の5本と考えられる。炉は中央やや北寄りにあり，北を除いて3面の炉石は抜かれている。掘炬燵状石囲炉で一部底に礫が敷かれている。主軸方向はN－24°－Eである。

南壁ぎわには大きな自然石がみられる。南壁入口よりやや左，P_5に寄った所から胴下半部を欠く正位の埋甕（140図－15）が出土している。さらに炉北西と西壁の中間に逆位の埋甕（140－14）がみられた。伏甕の壺形土器は底はすべて抜かれ縁辺はすられている。両者とも覆土中からの検出物はない。

土器は覆土中にはかなり見られたが床面近くで少なく破片のみである。石器は27点発見されており，床面出土のものは打製石斧3，特殊敲打器・横刃形石器各1の5点である。

時期はⅠ期である。

42　第42号住居址（第41・141図）

当址は第13号住居址と第34号住居址の中間に位置し西側には住居址は確認されていない。東壁は土壙206によって，大きく壊されている。南壁と西側にも土壙が掘り込んでいる。

プランは隅丸長方形を呈し4.8×5.5ｍを測る。炉は中央やや北寄りにあり炉石はすべて抜かれている。掘炬燵状石囲炉である。主軸方向はN－8°－Eである。周溝は全周する。

主柱穴は1・3・6・7の4本で入口部にP_4・P_5が対をなしている。P_4・P_5の中央やや壁寄りに胴下半部を欠いた甕（141図－1）が埋設されていた。内部からは特に何も検出されていない。

土器は多くなく埋甕以外は破片である。石器は打製石斧7，定角石斧・石錘・敲打器・凹石各1，特殊敲打器2の計13点が床面より出土している。

時期はⅡ期（旧）である。

43　第43号住居址（第39・142図）

第51号住居址の北に位置し，東側は第40号住居址にわずかに切られている。

プランは胴の張った隅丸方形で円形ともみられる。大きさは東西（主軸）推定4.3ｍ，南北4.5ｍである。床面はやや中央部が凹くなる。

炉は中央北西寄りに偏しており掘炬燵状石囲炉で，南西炉石は横長にすえられている。北東部は一部土壙247の覆土上に構築されている。土壙には貼床はみられなかった。主軸方向はN－57°

－Eである。主柱穴は5本である。

遺物は極めて少なく石器はまったく出土していない。142図－1は唯一図化できた小形深鉢形土器で，炉とP_3の中間床面に横倒しで出土したものである。

時期はⅠ期である。

44　第44号住居址（第39図）

本址は第39号住居址に東側を西側は第40号住居址に大半を切られ炉のみ残すものである。小形の五角形石組炉で一部石がみられない。

遺物はなく時期はさだかでないが切り合い等からⅠ期と思われる。

45　第45号住居址（第42・143図）

本址は第38号住居址の西に位置し，南には第34号住居址がある。

現存の炉の南（ｆ2）と東（ｆ3）に貼床された炉があり少なくとも2回の建替が行われたことがわかる。説明上旧旧－旧－新住居址とする。

新住居址はくずれた六角形を呈し6.1×6.0ｍの規模をもつ。炉は中央北に偏しコ字形石組炉である。西側の炉石は抜きとられたとも考えられるが，西に向かって炉底がせり上がっている所からもともとコ字形であったものであろう。東と北は割石を南側は河原石2個と小礫を埋め込んでいる。主軸はN－12°－Wと考えられる。周溝は東側で一部切れるがほぼ全周する。

主柱穴は1・4・8・11・13・15の6本でほぼ六角形の頂点に位置している。

新住居址の主柱穴を結ぶかのように貼床された周溝が確認されている。P_1とP_2の間には認められなかった。さらに貼床された柱穴と炉を囲むようにもう一本周溝が検出された。主柱穴を溝が結ぶ例は，塩尻市俎原遺跡例が良く知られる所で本遺跡においても第50号・第86号・第89号住居址例があるが貼床されている所から壁に伴う周溝と考えるのが妥当で旧住居址のものである。

この旧住居址はP_3・P_5・P_9・P_{12}・P_{14}・P_{17}の6本の柱穴からなる六角形のプランが想定される。規模は周溝間で4.7×4.0ｍを測る。

旧住居址の炉は位置関係からP_7の横にあるｆ2が考えられ，主軸方向は新住居址と逆方向となる。ｆ3を持つ旧旧住居址は内側に検出された周溝と関連すると思われるがプラン等は明確になし得ない。

P_{10}とP_{11}の中間，内側に逆位の埋甕（143図－10）がある。新住居址に伴うものと考えるのが妥当で主軸線上やや入口に寄っている。

住居址に直属する土器は少ない。石器は全部で24点出土しているが床面からは打製石斧3・定角石斧・特殊敲打器各1の5点である。覆土中から土製円板が3点出土している。

時期はⅠ期に属する。

46　第46号住居址（第43・144図）

第57号住居址の南に位置し，東に第89号住居址がある。北東部は土壙215・216によって壊される。

プランは円形を呈し6.0×6.3ｍを測る。床面は南西に向かってやや傾斜している。炉は中央西に偏し炉石はすべて抜かれており，掘炬燵状石囲炉である。主軸方向はＮ－60°－Ｗである。

主柱穴は１・２・３・６・７・８の６本である。入口にはP_4・P_5が対をなしている。この中間壁ぎわに，胴下半部を欠く埋甕（144図－10）がある。周溝は北東で切れている。

土器は埋甕以外図化できたものはない。石器は30点出土するがすべて覆土からのものである。

時期はⅡ期（旧）である。

47　第47号住居址（第44・146図）

本址は第88号住居址の南に位置している。北東部は土壙と耕作により壊されている。

プランは楕円形を呈すと思われ，東西5.5ｍ，南北は推定5.0ｍを測るであろう。炉は掘炬燵状石囲炉で，中央西に偏し北壁を除いて炉石は抜かれている。

主柱穴は１・３・４・５・６の５本が確認されているが本来は６本であろう。

P_4とP_5の壁ぎわには偏平なものと楕円形のやや大きな河原石が対にしておかれている。

遺物は少ない。土器は図化できたものはない。石器は打製石斧５，敲打器・磨石・横刃形石器各１，特殊敲打器４の12点が床面から出土している。

時期は出土土器が少なく決め難いがⅠ期に属するであろう。

48　第48号住居址（第45・146図）

第34号住居址の西に位置しており，西側は第50号住居址と重複する。両者には床面差がないが第50号住居址の周溝が本址部分で貼床されており切っていると考えられる。

プランは円形で5.2×5.1ｍを測る。壁高は東に行くに従い低くなり５㎝ほどとなる。炉は中央東寄りにあり，炉石はすべて抜かれている。多分掘炬燵状石囲炉と思われる。主軸はＳ－89°－Ｗである。

主柱穴は１・３・５・８・12・13の６本である。周溝は全周する。

土器は少なく住居址に直属するものはほんのわずかである。石器も５点と少なく床面からは打製斧１点が出土するのみである。

時期は土器がわずかではっきりしないがⅢ期に属するであろう。

49　第49号住居址（第47・147図）

第88号住居址の北東に位置し，北西には第77号住居址がある。隅丸長方形を呈し，4.8×5.2ｍを測る。炉は中央西に偏しており，掘炬燵状石囲炉で西を除き炉石は抜かれている。西の炉石は炉の中に倒れ込んでいる。東壁には炉石をすえるに用いた小礫がみられる。主軸はＮ－46°－Ｗ

である。周溝は全周する。

主柱穴は4本で入口部にはP_2・P_3が対をなしている。P_3寄り壁ぎわに正位の埋甕(147図−11)があり胴下半部を欠いている。P_2と炉の間には3個の花崗岩の割石がすえられている。

土器は多いほうである。石器は24点あり，床面からは打製石斧3，敲打器・凹石・横刃形石器・掻器各1，特殊敲打器2の9点が出土している。土偶胴部片が床面より出土している。

時期はⅡ期（旧）に属する。

50　第50号住居址（第45図）

本址は東を第48号住居址に，西を第89号住居址に切られている。全周する周溝は各住居址内で貼床されている。炉の移動がみられ拡張による建替が行われている。

新住居址はくずれた五角形を呈し6.2×5.6mを測る。床面は固く堅緻で第89号住居址との床面差は5cmほどである。炉は中央やや西に偏してあり，掘炬燵状石囲炉の炉石は抜かれている。西壁のものと思われる炉石が向きをかえて炉に倒れ込んでいる。炉の東は貼床がされ段差をもつて内部には焼土がみられた。旧炉を一部壊して構築したものである。

主柱穴は1・4・5・7の4本と考えられる。主軸方向はN−63°−Wである。

旧住居址の主柱穴は重複するP_7と共用したと考えられるP_1の外P_2・P_6の4本と考えられ，南東部へ拡張して新住居址が造られたものであろう。旧住居址の主軸方向もほぼ同じと思われる。

P_1・P_2・P_6・P_7をつなぐように貼床された溝がある。建替に伴い貼床されたもので旧住居址のものである。

遺物は床面より出土した横刃形石器1点のみである。

時期は切り合い関係，炉からしてⅡ期に想定できようか。

51　第51号住居址（第48・148図）

第40号・43号住居址の南に位置し，南西には第41号住居址がある。不整円形の小形な住居址で大きさは3.4×3.3mである。

炉は北寄りに位置し，掘炬燵状石囲炉である。東側の炉石は横長にすえられている。主軸方向はN−15°−Eである。主柱穴は1・3・5・6の4本である。周溝は全周する。

P_2とP_3の中間，壁から60cm入った所に底部を欠く小形の深鉢形土器（148図−1）が埋設されている。

土器は多く148図−2は炉になだれ込んだ状態で出土し半分を欠いている。石器は覆土中より横刃形石器1点が出土したのみである。

時期はⅠ期に属するであろう。

52　第52号住居址（第49・149図）

本址は第53号住居址の南に位置している。3.7×4.0mと小形な住居址で円形を呈すが六角形

に近い。周溝は北西部と北東部にて切れている。床面はやや中央が凹くなる。

炉は中央西寄りにあり掘炬燵状石囲炉で，東側は2個の炉石を用い横長にすえている。主軸方向はN－53°－Wである。主柱穴は1・3・4・5の4本である。

遺物は極めて少ない。149図－4は浅鉢形土器である。石器は7点覆土中より検出されている。

時期はⅡ期（旧）であろう。

53　第53号住居址（第50・150図）

第52号住居址の北に位置し西には第54号住居址がある。北東部は耕作によって壊されている。炉の位置からプランは楕円形を呈すものと思われる。規模は東西は推定4.8m，南北は5.6mを測る。周溝は全周していたものであろう。

床面は東にやや傾斜している。炉は中央西に偏し，掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれている。主軸方向はN－64°－Wであろう。主柱穴は現況4本認められもとは6本であったと思われる。

住居址に直属する土器は少ない。150図－10は炉内より出土したものである。12は釣手土器の釣手部分である。石器は覆土中より12点出土している。

時期は土器が少なく決め難いがⅡ期（新）に属するであろう。

54　第54号住居址（第51・151図）

第53号住居址の西に位置し，北には第64号住居址がある。

プランは胴張りの隅丸長方形で大きさは5.3×5.9mを測る。床面は東にやや傾いている。

炉は西に偏しており，掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれている。主軸方向はN－57°－Wである。主柱穴は1・3・7・8・9の4本である。P_3とP_9は内側に重複するP_2・P_8があり建替の可能性が強い。

入口部には不整円のP_5があり内部にP_6が掘られている。P_5は土壙とも考えられる。P_4・P_6は対をなしており入口部施設の柱穴と考えられる。

遺物は少ない。土器はすべて破片である。石器は16点あり，床面からは打製石斧5，横刃形石器1の6点が出土している。

時期はⅡ期（旧）であろう。

55　第55号住居址（第52・152図）

第89号住居址の北に位置し，南半部は第56号住居址によって切られている。

プランは西が張っており五角形を呈すと思われる。規模は推定5.2×5.0mである。周溝は全周していたものであろう。

炉は第56号住居址によって半分が壊され，炉石は北と東に2個が残っている。南側は抜かれたものであろう。炉は掘り形・炉石の状態から方形の石組炉と考えられる。主軸方向はN－15°－W

であろう。

残された炉石の間には深鉢形土器の底（195図－4・単独埋甕6）が埋設されていた。炉石を抜きとり一部炉の覆土を掘り込んで埋設されている。さらにP_1の覆土を一部掘り込んで浅鉢形土器（195図－5・単独埋甕7）が正位に埋設されている。また，第56号住居址の覆土を掘り込んで土器が2箇所（単独埋甕4・5）とP_2の上部覆土中に集積がみられる所から本2例は住居址に伴うものでなく後から埋設された単独埋甕遺構と考えられる。

主柱穴は1・6・8の3本が現況みとめられ，5本柱の可能性が強い。

炉の西床面上には20cmの円形に石錘19個と石片2片がみられた。魚具が置かれていたと考えられるが，第81号住居址床面上には円形に小礫が集積された例もあり何らかの儀礼行為とも考えられる。

土器は破片がわずかに出土したのみである。石器は石錘19点の外に打製石斧2，大型粗製石匙1点が床面より出土している。

時期は土器が少なくはっきりしない。単独埋甕との関連からすればⅠ期に属するであろう。

56　第56号住居址（第52・153図）

当址は北側にて第55号住居址を切っている。プランは隅丸方形で3.9×4.0mと小形な住居址である。床面は炉の東から壁にかけて炉の幅で皿状に凹くなり最も低い所では15cmほどの床面差がみられる。底は周囲と同様堅くタタキがみられる。

炉は中央西寄りに位置し，掘炬燵状石囲炉で西を除いて炉石は抜かれている。主軸方向はN－77°－Wである。主柱穴は4本である。

東壁ぎわ中央入口部に正位の埋甕（153図）がある。口縁部は3分の1ほどが残っている。

P_2・P_9の間壁ぎわに覆土をわずかに掘り込んで単独埋甕4・5があり，さらにP_2の覆土上部に中心部を凹めた集石がみられた。

遺物は極めて少ない。土器は埋甕以外は小破片わずかである。石器は10点あり，床面からは敲打器2，特殊敲打器・凹石各1の4点出土したのみである。

時期はⅠ期に属するであろう。

57　第57号住居址（第53・154・198図）

本址は第46号住居址の北に位置している。南壁より1mほど内側に溝がみられる。柱穴や炉からすると同一床面の切り合いともみられるが，旧住居址の存在を示すものはみあたらない。P_3・P_4の重複以外に柱の移動はみられないが，拡張された住居址と考えられる。新住居址は楕円形を呈し，4.5×5.3mを測る。旧住居址は隅丸方形で4.5×4.6mである。周溝は全周する。

掘り込みは浅く東に行くに従い低くなっている。炉は西寄りにあり炉石はすべて抜かれている。掘炬燵状石囲炉である。炉の南東には長さ30cmの花崗岩の角柱が床面より8cm頭を出して埋め込まれており炉石の一部というより立石と考えた方が良いであろう。主軸はN－75°－Wである。

P_2・P_3 の中間壁ぎわ入口部に胴下部を欠く正位の埋甕（154図）がある。P_6の西にはピットを囲むように偏平な花崗岩3個と細長い砂岩と礫を用いた配石がみられ，その南端床面上に下身部を欠く土偶（198図－3）が出土している。P_6の内部から蛤刃石斧と細長い自然石が検出されている。

土器は埋甕以外には少量の破片だけである。石器も少なく打製石斧3，蛤刃石斧・特殊敲打器各1の計5点で床面出土である。

時期はⅡ期（旧）に属する。

58　第58号住居址（第54・155・198図）

当址は第62号住居址の北に位置している。プランは不整円形を呈し4.7×4.8mを測る。床面は南東にやや傾斜する。壁は東に行くに従い低くなっている。

炉はやや北寄りにあり，掘炬燵状石囲炉で炉石は東を除いて抜かれている。主軸方向はN－32°－Wであろう。主柱穴は1・2・3・5・6・7の6本である。周溝は南東にはみられない。

土器は覆土中にはかなりみられたが，床面からは少ない。石器は26点あるが床面出土のものはない。土偶の顔部（198図－5）が出土している。

時期はⅠ期である。

59　第59号住居址（第55・156図）

本址は第77号住居址の北に位置している。プランは南が張り出た五角形を呈し，4.4×4.2mとやや小形のものである。床面は東にやや傾斜している。

炉は中央北に偏しており，掘炬燵状石囲炉で北と南は抜かれている。炉北壁には偏平な礫が床をわずかに掘り込んだ状態で並べられている。

周溝が南にてP_4に向かっていること，P_2・P_3，P_8・P_9の柱の移動を考えると建替が考えられ，石組炉を壊して新しい炉が造られたと考えたい。建替は南側の拡張によるもので旧住居址はP_4からP_8の南を結ぶ線が想定され隅丸方形を呈し大きさは3.8×4.2mを考えられる。主軸方向は変化なくともにN－43°－Wであろう。

主柱穴は新住居址は1・3・6・8・10，旧住居址が1・2・7・9・10が想定されいずれも5本であるP_1・P_2の線上中間（1）とP_2よりに（2）逆位の埋甕がみられた。両者の距離は45cmである。1は156図－7で口縁部を一部残し底部は不整形に打ち欠かれている。2は156図－11で胴上部を欠き底部は中心をずらして円形に欠かれ一部胴下部にまで及んでいる。1の埋設土器は口唇下に隆帯をはわせた小形の樽形土器である。両者とも床面よりやや下がった位置に埋設されるが貼床などみられず埋設状況からでは先後関係は判断できない。

P_7とP_8・P_9の脇には大きな河原石がみられる。

土器は多く出土している。炉と伏甕1の中間床面上より台付土器（156図－8）が北西壁ぎわより13の破片が出土している。石器は全部で15点出土しており，床面からは打製石斧2，特殊敲

打器・横刃形石器各１の４点のみである。

時期はⅡ期的様相もみられ，Ⅰ期でも後半に属するであろう。

60　第60号住居址（第56・157・158・201図）

第84号住居址の南東に近接し，南西部にて第84号住居址を切っている。

プランは円形に近い隅丸方形を呈し，規模は5.0×5.0ｍを測る。P_1・P_2の柱穴が他に比べ大きいこと，P_3が重複し，P_5・P_6が並列することから建替が十分考えられる。第84号住居址との床面差は20㎝弱である。

炉は中央西寄りに位置し，掘炬燵状の炉で炉石はすべて抜かれている。主軸方向はＮ－73°－Ｗである。主柱穴は１・２・３・５の４本である。

P_2・P_3の中間壁ぎわに上部に石を持った埋甕（158図－15）がある。胴下部を欠くものである。その左P_3よりに平盤な石がある。両者の石を発見し埋甕の存在の確認を翌日に行った処，左の石は内部が新しく掘られていた。埋甕を確認していないため断定はできないが，状況からして盗掘されたものと考えられ，非常に残念なことであるとともに責任を痛感するものである。

土器は覆土中より多く出土しているが，床面からは少ない。石器は少なく７点で，床面からは打製石斧が１点出土しているのみである。他に土偶の胴部とヒスイ製の有孔大珠（201図－５）が１点ずつ出土している。

時期はⅡ期（旧）に属する。

61　第61号住居址（第57・159図）

本址は第59号・第58号・第67号・第63号住居址に西から東を囲まれた状態で出土している。各位居址との間隔は８～11ｍであり，西及び北には住居址は確認されていない。

壁は確認できず床面は炉の周辺にタタキが認められただけである。

炉は細長い河原石を用いた石組炉で，西側にはもともと炉石をもたないコ字形と思われる。主柱穴は６本である。炉の西ピット寄りに平盤な河原石が11個みられた。

炉のすぐ東（２，159図－２）とそれから40㎝南（１，159図－１）が床面より５㎝ほど頭を出した状態で大形の深鉢形土器が埋設され，１の西からは同土器の口縁が出土している。このようなことからすると埋設時には床面上５～10㎝ほど口縁部が出ていたものと考えられる。１の内部には上部に大きな花崗岩を入れ込みその下部には円礫が，その下部には同土器の破片の一部が二重底状になっている。２の内部からは底からやや浮いて３の小形の深鉢形土器がやや傾いて出土しており周囲にはやや炭化物がみられ，上部は自然流入土がおおっている。１，２ともそれ以外に検出物はみられなかった。炉の脇と床面上に頭を出した状態で埋設された例は市内中沢高見原遺跡に２例知られる。高見原遺跡21号住居址例は入口部に埋甕を持ち炉の北西部壁ぎわに胴下半部が埋め込まれており，周囲から土器３個が出土している。さらに28号住居址例は，やはり入口部埋甕を持ち炉の奥に胴下半部を床面を掘りくぼめてすえられている。本例は入口部埋甕を持た

ない点，埋設方法に違いはみられるが同様な例で住居址内における生活用具の一つ特殊な貯蔵用として利用されたものでないかと考えたい。先に挙げた高見原遺跡第19号住居址からは入口部埋甕が2個ありそのうち1つからは，炭化栗が内部から出土し上部にロームブロックでふたをした例もみられている。数多くの報文をすべてあたることは無理があり，各地に類例があるのではないかと思われる。ご教示いただきたい。

埋甕以外遺物は少ない。石器は打製石斧4，蛤刃石斧・磨石・凹石各1の7点が床面より出土している。

時期はⅠ期であろう。

62　第62号住居址（第58・160図）

第58号住居址の東に位置し，南には第57号住居址がある。

プランは円形を呈し大きさは4.9×4.7mである。床面は東にやや傾斜している。炉は中央やや東寄りに位置し，方形の石組炉で東側の炉石は抜かれている。主軸方向はS－68°－Eである。周溝は全周する。

主柱穴は1・2・5・7の4本と考えられるが定かでない。

遺物は少なく土器は図化できたものはない。石器は床面より打製石斧4，石錘1の5点が出土している。

時期はⅠ期でも新しくⅡ期への過渡期であろう。

63　第63号住居址（第59・161図）

本址は第61号住居址の北東，第57号住居址の北西にあり西から北東にかけては住居址の空白地帯となっている。

プランは東の張り出た変五角形を呈し，5.1×5.3mを測る。炉は中央西に偏し掘炬燵状石囲炉で，西と東の一部を除いて抜かれている。主軸方向はN－74°－Wである。

主柱穴は5本である。周溝は全周する。

土器は少ない。161図以外に深鉢形土器の底部（無文）が2個ある。石器は35点あり床面から打製石斧26，定角石斧2，横刃形石器・不定形石器各1の30点が出土しており，打製石斧が卓越する。26点の内19点は欠損品である。

時期は土器が少なく決め難いが，Ⅱ期（旧）に属するであろう。

64　第64号住居址（第60・162図）

本址は第54号住居址の北に位置しており，北東部は耕作により壊されている。

楕円形を呈し大きさは推定4.1×4.7mと思われる。炉は中央北西寄りに位置しており，掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれている。主軸方向はN－48°－Wである。炉の東床面上にある大きな割石は炉石と思われる。

主柱穴は1・3・5の3本が確認されており本来は4本と思われる。P_1・P_3・P_5の壁ぎわに河原石が不規則にみられる。

土器は少なく覆土のもので住居址に直属するものはない。石器も打製石斧3点が覆土中より出土しているのみである。覆土中より土製円板1点が出土している。

時期は直属する土器がないためさだかでないが覆土のものからすればⅡ期（旧）であろう。

65　第65号住居址（第61・163図）

本址は第53号住居址の北東に位置し，北には第66号・第72号住居址などがある。南東部は耕作により壊されている。

プランは楕円形を呈すと思われ，南北5.1m，東西は推定5.7mであろう。炉は中央北寄りに位置し，掘炬燵状石組炉で東側と西側は炉石が抜かれている。炉の北西部には小さな2個の石がL字形に組まれ内部は凹くなっている。主軸方向はN－35°－Eである。

主柱穴として1・3・4・5がみられる。多柱穴と考えられるが不明である。

遺物は少なく土器・石器とも直属するものはない。

時期は直属するものがないが，Ⅱ期（新）であろうか。

66　第66号住居址（第62・164図）

本址は第65号住居址の北に位置し，東には第96号住居址，北東には第73号住居址がある。

プランは北東部が張り出した隅丸方形で4.3×4.3mを測ることができる。壁は東に行くに従い低くなる。炉は中央北に偏しており，掘炬燵状石囲炉で西と南の一部の炉石が抜かれている。主軸方向はN－11°－Wである。主柱穴は1・2・4・5の4本である。周溝は全周する。P_1壁ぎわに偏平な割石がみられる。

遺物は極めて少ない。164図－1の小形深鉢形土器がP_5の北東壁ぎわに横倒しで出土している。他はすべて破片である。石器は9点あり，床面からは打製石斧2，横刃形石器1の3点が出土しただけである。

1の土器は類例をあまり見ないが，器形・胴部の細線文からすればⅠ期のものと思われるところからⅠ期の住居址と考えられる。

67　第67号住居址（第63・165図）

本址は第61号住居址の東に位置している。プランは隅丸方形で3.8×4.0mと小形なものである。炉は中央西寄りにあり，掘炬燵状石囲炉で東の炉石は抜かれている。掘形からして炉石は横長に用いられていたものと思われる。主軸方向はS－84°－Eである。

主柱穴は1・3・4・5の4本でP_2は入口部施設の柱痕と考えられる。周溝は全周する。

土器は極めて少なく，小形深鉢形土器（165図－1）が図化できたのみである。石器は10点あるが，床面出土のものはない。

時期はⅠ期に属するであろう。

68　第68号住居址（第64・166・167図）

本址は第69号住居址の西にあり南をわずかに第72号住居址に切られ，西にて第96号住居址を切っている。北側には住居址がみられない。ピットの動きからすると拡張による建替が行われたものである。第96号住居址との床面差は15cmほどである。

新住居址は楕円形を呈し規模は5.6×4.7mを測る。炉はほぼ中央に位置し掘炬燵状の石囲炉で東側の炉石は2個の細長い自然石が横長にすえられ，焚口としている。炉の構造から入口は東と考えられ，主軸方向N－72°－Wである。炉の南側には凹みがみられ，旧住居址の掘形と考えられる。

主柱穴は1・2・4・9の4本が考えられるがやや偏在している。

内側にみられる周溝が旧住居址のもので主柱穴は1・2・5・8・11の5本で，拡張状況からして1・2は共用と思われる。内側の周溝上部には貼床はみられなかった。

P_{11}の西，壁ぎわに胴下半部を欠いた逆位の埋甕がある。

土器は覆土中に多くみられたが床面出土のものは極めて少なく破片のみである。石器は5点覆土中から出土している。

時期は伏甕からⅠ期に属するものである。

69　第69号住居址（第65・168図）

第72号住居址の東に位置し東にて第100号住居址を切っている。床面差は25cmほどである。

プランは東側が張り出した五角形に近い隅丸長方形である。規模は6.0×6.5mを測る。

床面はやや東に傾斜している。炉は中央西に偏し，掘炬燵状石囲炉で炉石のすべては抜かれている。主軸方向はN－65°－Wである。

主柱穴は4本である。

土器は覆土中より多く出土しているが，直属するものは少ない。168図－1はP_3の横から出土したものである。石器は32点と多いが床面出土は14点で，内訳は打製石斧6，定角石斧・乳棒状石斧・敲打器・特殊敲打器各1，横刃形石器4である。

覆土中より土製円板2点と花崗岩の丸石1個が出土している。

時期はⅡ期（旧）に属するであろう。

70　第70号住居址（第66・169図）

本址は第39号住居址の北に位置し，北側には第76号住居址がある。西にて第100号住居址をわずかに切っており，東には土壙250をはさんで第71号住居址がある。土壙によって壊されている。

プランは楕円形を呈し5.3×5.8mを測る。炉は中央西に偏し，掘炬燵状の石囲炉で炉石はすべて抜かれている。

169図－1は炉の東覆土中より出土したもので，床面土器は破片のみである。石器は21点あり床面出土は9点，内訳は打製石斧・敲打器・磨石・不定形石器各2，乳棒石斧1である。床面から土製円板1点が出土している。

時期はⅡ期（新）に属する。

71　第71号住居址（第66・170図）

第70号住居址の東に位置する住居址で，東には第99号住居址がある。東側は土壙250に壊され内部にも土壙309・310がある。

プランは隅丸長方形を呈すと思われ，規模は3.7×2.7ｍと小形のものである。炉は東寄りに浅く掘りくぼめた地床炉があり周囲に礫が無雑作にみられる。床面は炉の付近にタタキがみられるのみである。

P_1・P_3・P_5の3本が主柱穴と考えられるが本来4本と思われる。

遺物は極めて少なくすべて覆土中のものである。石器は5点である。

時期は直属するものがなくさだかでないが，Ⅱ期（新）に属するであろう。

72　第72号住居址（第64・171図）

第69号住居址の西に位置し，北の第68号住居址をわずかに切っている。その床面差は15㎝ほどである。

プランは隅丸方形を呈し，4.8×5.1ｍを測る。炉は中央北西に偏し，掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれている。主軸方向はＮ－52°－Ｗである。周溝は全周する。

主柱穴は4本である。東入口部壁ぎわに正位の埋甕（第171図－6）がある。胴下部を欠くものである。内部からは特に何も検出されていない。

土器は少なく直属するものは埋甕以外は破片がわずかにあるのみである。石器は28点出土するがすべて覆土中のものである。

時期は埋甕からしてⅡ期（新）に属するであろう。

73　第73号住居址（第67・172図）

本址は第66号住居址の北西に位置しており，北側には住居址群がみられない。

プランは隅丸方形で規模は4.4×4.9ｍである。炉は中央北に偏し掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれている。主軸方向はＮ－15°－Ｗである。

主柱穴は4本である。周溝は全周する。

P_3の西脇には花崗岩の丸石が，また西壁中央に寄りかかるように長さ80㎝ほどの楕円形の花崗岩が出土している。石柱と考えたい。東壁ぎわ中央入口部には1ｍほどの方形に床面が凹くなっている。

遺物は極めて少ない。土器は破片のみである。石器は9点あり，床面からは打製石斧1点が出

土するのみである。

時期はⅠ期も後半に属するであろう。

74　第74号住居址（第68・173図）

本址は第78号住居址の北西に位置しており，北西部を第83号住居址に切られている。北東部と南西部は土壙によって壊されている。

プランは東側が不整の隅丸長方形である。規模は東西6.0ｍ，南北は4.2ｍであろうか。

炉はほぼ中央にあり床面がわずかに掘りくぼめられた地床炉で周囲には割石や礫が無雑作におかれている。土壙337の北には裏面が蜂の巣状となる石皿がさらに炉の東に蜂の巣石が出土している。

P_2・P_3・P_7・P_8などみられるが主柱穴ははっきりしない。住居址の形態や炉は第71号住居址に類似する。

土器は破片のみで図化できるものはない。石器は40点と多いが床面出土のものは，打製石斧２，特殊敲打器・凹石・蜂の巣石・石皿各１の６点のみである。覆土中より土製円板１点が出土する。

時期はⅡ期（旧）に属するであろう。

75　第75号住居址（第69・70・174図）

本址は第81号・82号・80号・76号・79号・78号住居址とともに調査区の北東端にあり，北側は家畜舎によって未調査のまま破壊されている。住居址群は北に続いていたものと考えられる。

北東部を第81号住居址，南東部を第79号住居址によって切られている。５軒の住居址が複雑な重複関係を示し，遺物は各住居址とも混在がみられる。

北側の柱穴群の外側はやや床面が高くなっており古い住居址があったと考えられる。プランは円形を呈すと思われる。床面はやや南に傾斜している。周溝がみられる。

炉はやや北東寄りに位置し，円に近い石組炉で内形は長方形となる。主軸方向はＮ－15°－Ｅと思われる。柱穴は壁に沿ってみられ多柱穴となる。P_{12}は浅いものである。

炉の北東P_{16}より打製石斧と蛤刃石斧各１とともに浅鉢形土器（175図－８）が半分出土している。

土器は８以外は破片がわずかに出土したのみである。石器は17点出土するがすべて覆土中のものである。

時期はⅠ期に属するであろう。

76　第76号住居址（第69・70・175図）

本址は第70号住居址の北に位置し，北側にて第80号住居址と重複する。両者の床面差はない。第80号住居址の周溝に貼り床があったことから本址の方が新しいと考えられる。

周溝は北側にみられるだけである。プランは胴張りの隅丸方形で6.3×6.5ｍを測る大形な住

居址である。床面は炉に向かってやや傾斜している。

炉は中央北西に偏しており，掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれ礫が覆土中に流入している。主軸方向はN－50°－Wである。

主柱穴は26，31（32），33，34の4本である。P_{26}とP_{31}の中間入口部壁ぎわに正位の埋甕（175図－7）がある。口頸部を欠いている。

埋甕の南床面上に半折れした細長い硬砂岩の自然石がある。石柱とも考えられる。

土器は多い。石器は18点あり床面からは，打製石斧5，特殊磨石・横刃形石器各1の7点が出土している。土偶の胸部片と右足部が炉わきから出土している。

時期はⅡ期（旧）に属する。

77　第77号住居址（第71・176図）

第59号住居址の南にあり，北西部は住居址の空白地帯となっている。プランは六角形に近い楕円形を呈しており，5.5×5.9mを測る。床面はやや南東に傾斜している。

炉は中央北寄りに位置し，掘炬燵状石囲炉で西壁と北の一部を除いて抜かれている。主軸方向はN－41°－Wである。主柱穴は1・3・5・6・7・8の6本である。周溝は全周する。

P_1・P_5・P_7・P_8のわきには割石や自然石が置かれており興味深い。

炉の北西部になだれ込むような状態で小形深鉢形土器（176図－1）が出土している。石器は打製石斧7，乳棒状石斧・横刃形石器各1の9点が床面より出土している。

時期はⅠ期も後半に属すると思われる。

78　第78号住居址（第72・177図）

本址は第74号住居址と第75号住居址との中間に位置し，北側は土壙261号に切られている。

プランは楕円形を呈し，5.1×4.5mを測る。壁は南東部が低くなり壁がみられず周溝も切れている。炉は北東部に偏し炉石は北東部を残して抜かれている。掘形から石組炉で長方形と考えられる。主軸方向はN－60°－Eである。

遺物は極めて少ない。土器はすべて細片である。石器は覆土中より9点出土し直属するものはない。

時期は土器が少なく決めがたいがⅠ期に属するであろう。

79　第79号住居址（第69・178・201図）

本址は第75号住居址の南東部を切って，第80号・82号・81号住居址に貼床するものである。第75号住居址との床面差は20cm弱である。

第81号住居址への貼床はロームブロックがかなり認められタタキもしっかりとしたものであった。第80号住居址との床面差は5cmで第82号住居址の炉を埋めたて南側80号住居址の北西床面上にロームブロックがわずかにおおう程度の不明瞭なものであった。

プラン・規模は不明である。炉は北と西にL字形に炉石がみられ焼土がうすくみられた。炉石が抜かれたものかははっきりしない。

炉の西わきから滑石製の飾り玉（201図－7）が出土している。土器は炉付近より出土している。石器は9点あるが，床面からは乳棒状石斧1点が出土するのみである。

時期は土器が混在しており定かにはできないが，重複関係からしてⅡ期（新）に属するであろう。

80　第80号住居址（第69・179図）

第76号住居址と第81号住居址の中間に位置し，第82号・79号住居址と重複する。南側にて第76号住居址と重複するが，本址の周溝が第76号住居址内において貼床されていた。北側周溝を切るように第82号住居址の炉があり，炉が完全な形で残っていることは本址の方が古くなると考えられる。

プランは隅丸長方形を呈すと考えられ，規模は4.3×4.7である。炉は中央やや西寄りにあり，東側は土壙269号によって壊されている。掘炬燵状石囲炉で東以外は炉石は残っている。主軸方向はN－65°－Wであろう。

主柱穴は20・22・28・24の4本と考えられる。

炉の西わきから香炉形土器（179図－1）が伏さった状態で床面上より出土している。坏部・吊手部の一部を欠くが優品である。一部を除き黒色に焼かれるが焼成はあまりよくない。一部にスス状の付着物がみられる。

さらに西壁ぎわより黒耀石の石核が6点集積状態で出土している。

土器は香炉形土器以外は破片のみで少ない。石器は石核以外に5点ある。床面からは打製石斧2，定角石斧1の3点が出土している。

時期はやや新しいものもみられるが，香炉形土器からするとⅡ期（旧）に属するであろう。

81　第81号住居址（第69・180・199図）

本址は南側一部が第79号住居址に貼床されている。

プランは隅丸長方形で東壁は土壙264号によって壊される。規模は4.6×5.4mである。床面より10cmほどは焼土と炭火物の層が全面をおおっており西壁ぎわには周溝に沿って炭化した板材がみられた。壁の保護材と考えられる。

炉は中央西に偏し，西側を土壙263号によって壊されている。炉石は北側一部を残すのみである。掘炬燵状石囲炉で炉石は抜かれものでその後土壙が壊っているものと考えられる。主軸方向はN－67°－Wである。

主柱穴は1，2，3・5の4本である。

P_4の北側に底部を接合面からはずした小形の深鉢形土器（180図－1）が逆位に埋設されていた。その上には風化しくずれておるが花崗岩の丸石がのせられている。P_2の南80cmの所にき

れいな丸石と刃部を欠く蛤刃石斧１が並べられており，さらにその西床面上には，径40cmほどに円形状小礫が集積されている。また炉東わきより土偶の胴部（199図－６）が出土している。

蛤刃石斧以外には，石器は直属するものはなく，土器も破片がわずかに出土したのみであり，故意に火を放ったものと考えられる。内部にみられる非常に特異な現象はこれに伴なう儀礼の行偽であろう。

覆土中より12点石器が出土している。

時期はⅡ期（旧）に属するであろう。

82　第82号住居址（第69図）

第79号住居址と第80号住居址の間に確認されたもので炉のみのものである。炉は掘炬燵状石囲炉で覆土中にはロームブロックがみられ第79号住居址によって貼床されたことを物語っている。

炉内より打製石斧１点が出土している。

時期は遺物がなく不明である。重複関係からⅡ期の所産であることは間違いない。

83　第83号住居址（第68・181図）

本址は南側にて第74号住居址を切っている。北側は家畜舎のために削られており南側３分の１ほどを残すのみである。炉は確認されていない。

第74号住居址との床面差は20cm強を測る。南壁ぎわに正位の埋甕がみられた。口唇部を欠いている。埋甕の東には石皿が，西壁ぎわP_9の西に蜂のす石がおかれている。

土器は埋甕以外には小破片がわずか出土している。石器は前述したもの以外にない。

時期はⅡ期（新）であろう。

84　第84号住居址（第56・182図）

第86号住居址に南接し，東側は第60号住居址によって切られている。プランは円形を呈すものと思われ，規模は4.8×4.9ｍを測るであろう。

床面固く良好で浅い小ピットが数多く穿たれている。炉はやや北寄りに位置し，方形石組炉であるが，掘炬燵状石囲炉に近いものである。主軸方向はＮ－17°－Ｗである。

P_7，P_7，P_8，P_{11}の４本が主柱穴として確認され，第60号住居址内にみられるP_4，P_6を加えて６本と考えられる。

遺物は少ない。土器は破片のみで図化できるものはない。石器は14点あり，床面からは石礫・掻器各１の２点のみである。

時期はⅠ期に属する。

85　第85号住居址（第73・183・198・199図）

本址は第60号住居址の北東に位置し，東側にはやや離れて第88号・49号・77号住居址がある。

プランは不整の円形を呈し，4.8×4.8mを測る。床面は北東にやや傾斜している。炉は中央やや北寄りにあり，掘炬燵状石囲炉である。西と東の炉石は抜かれ，東側は炉石を横長にすえている。西側炉底には平盤な石が敷かれている。炉北西部には3個の石からなるコ字形の副炉がみられた。

主軸方向はN－2°－Eである。周溝は全周する。主柱穴は1・3・6・10・11・12の6本である。P_6，P_8は入口施設に伴うものである。

土器は多く出土している。石器は20点あり，床面からは打製石斧5，蛤刃石斧1，敲打器・特殊敲打器各2の10点が出土している。土偶の顔部（198図－4）と胴部（199図－7）が炉わきから出土している。

時期はⅠ期に属する。

86　第86号住居址（第74・184図）

本址は，第60号・84号住居址の北に近接し，北西にやや離れて第90号住居址がある。床面は炉の東から入口部にかけてやや凹くなっている。プランは楕円形を呈し5.2×6.1mを測る。

炉は中央西寄りに位置し，掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれている。主軸方向はN－75°－Wである。主柱穴は6本である。

周溝は全周し，内部柱穴を結んで隅丸方形状に溝がみられる。P_2・P_4の中間ややP_4より入口部に正位の埋甕（184図－13）がある。上部に石をのせているが，埋設土器は3分の1しかなかった。

P_4の東壁ぎわに大きな平盤な石と埋甕の西床面上に4個の割石がみられる。

覆土中よりかなり土器が出土するが，直属するものは少ない。石器は25点あり，床面からは石礫2点が出土しているのみである。

時期はⅡ期（旧）に属する。

87　第87号住居址（第75・185図）

第84号住居址の西にあり，調査区域の南西端にあたる。西は畑で山林へ続いている。南側は山林となっている。

プランは円形を呈し4.4×4.6mとやや小形な住居址である。トレンチャーによる攪乱がしま状にみられる。炉は中央西に偏しており，掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれている。主軸方向はN－62°－Wである。

主柱穴は1，3，5，6，7，8の6本である。

土器は大形の破片はあるが図化できるものはない。石器は16点あり，すべて覆土中のもので直属するものはない。土製円板2点が床面より出土している。

時期はⅠ期に属する。

88　第88号住居址（第76・186図）

本址は第47号住居址と第49号住居址の中間に位置し，南東部は住居址の空白地帯となっている。

プランは東側が張り出た隅丸長方形で五角形に近い。規模は5.2×4.5mを測る。床面はやや東に傾斜している。

炉は中央やや北に位置し，円形の石組炉である。炉石はすべて横長に用いられている。主軸方向はN—12°—Eと思われる。

ピットが西側に多くみられることから建替が行われた可能性もある。主柱穴は1，3，4 (5)，8，10，12の6本である。

P_4の東壁ぎわに正位の埋甕（186図—1）がある。短頸の壺形土器で底は8×7cmの円形に打ち欠かれている。埋設土器としては珍しいものである。

遺物は少ない。石器は10点あり，床面からは凹石1点が出土するのみである。

時期はⅠ期である。

89　第89号住居址（第45・187図）

本址は第46号・57号住居址の東にあり，南東部にて第50号住居址を切っている。床面差は10cm弱である。第50号住居址の周溝を貼床している。貼床された炉・柱の移動がみられることから建替が行われたものである。

新住居址は隅丸方形を呈し，5.2×4.9mを測る。周溝は全周する。炉は中央北寄りに位置し，掘炬燵状石囲炉で南には貼床された旧炉が重複している。旧炉より掘り込みはやや浅い。炉石はすべて抜かれている。主軸方向はN—22°—Eである。

主柱穴は1・2・4・6の4本である。重複するP_3とP_5，P_7は，柱穴を結ぶ溝とともに貼床されている。P_2，P_4の中間東壁ぎわ入口部には，石をのせた正位の埋甕（186図—6）がある。胴下部を欠いている。

土器は少ない。直属するものは埋甕のみである。石器は20点出土するが，すべて覆土中のものである。

時期はⅡ期（旧）に属するであろう。

90　第90号住居址（第77・188図）

本址は第86号住居址の北東にあり調査区の西域に位置している。北側は住居址の空白地帯となっている。西側に住居址はつづくものと思われる。

トレンチャーによるしま状の撹乱がみられる。プランは隅丸長方形を呈し，5.5×6.1mを測るやや大型の住居址である。床面は南東にやや傾斜している。

炉は中央北西に偏しており，掘炬燵状石囲炉で石はすべて抜かれている。主軸方向はN—54°—Wである。主柱穴は1・2・5・6の4本でP_3，P_4は対をなし入口部施設である。

P_3・P_4の中間壁ぎわに正位の埋甕（188図—2）がある。古い埋甕（188図—1）を壊して埋

設している。古い埋甕は4分の1ほどを残す，炉には移動の痕跡はみられないが，柱痕が大きい所から建替したものと考えられる。

土器は埋甕以外は破片のみであまり多くない。石器は覆土中より5点出土するのみである。

時期はⅡ期（旧）に属する。

91　第91号住居址（第79・189図）

本址は第92号住居址の北にあり，東側は住宅が建てられている。住居址群は東に続くものと思われる。床面及び壁は東続する土壙群によって壊されている。南西部は第99号住居址を切っている。

プランは定かでないが不整ながら円形を呈すものと思われ，規模は5.0×5.2mを測るであろう。炉は北東寄りに偏し，炉石はすべて抜かれている。掘炬燵状石囲炉と思われる。炉の西側は土壙に壊されている。主軸方向はN―48°―Eである。

主柱穴は2・3・4・6の4本が認められ6本であったと考えられる。

P_4の南壁ぎわ入口部に正位の埋甕（189図―2）がある。底は接合部から打ち欠いている。口縁は半分ほど欠けるがもともとはあったものと思われる。

住居址奥北東P_1の手前にやや楕円形の花崗岩の丸石がある。

土器は少ない。石器は17点出土するがすべて覆土中のもので直属するものはない。

時期は埋甕からⅠ期に属する。

92　第92号住居址（第78図）

当址は第91号住居址の南に位置しており，南側は住居址の空白地帯となっている。

プランは円形を呈し，5.1×5.3mを測る。床面は中央がやや凹くなる。炉は中央北東寄りに位置しており，掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれている。

主柱穴は1，2，4，6，11，14の6本である。周溝は全周している。炉の北東わき床面上には花崗岩の丸石がおかれている。

遺物は極めて少ない。土器はⅡ期と思われる細片のみである。石器は7点あるも覆土中のもので直属するものはない。

時期はⅡ期に属するものと思われる。

93　第93号住居址（第80・190図）

本址は調査区の北西部に位置し，南側は住居址のない広い空白地帯となっている。西側は調査区域外となる。北東には第94号住居址が近接している。

プランは楕円形を呈し8.2×7.3mを測る大形住居址である。掘り込みは浅く南東部では一部壁がみられない。床面は壁ぎわはタタキが顕著でなく，わずかに南東に傾斜している。

炉は住居址の割に小さく床面を10cm掘りくぼめ，炉石は割石を用いている。南側は炉石が抜

かれている。掘炬燵状石囲炉の退化的なものと考えられる。中央やや東寄りに位置している。主軸方向はN—37°—Eと思われる。周溝はない。

主柱穴ははっきりしないが多柱穴である。南西部床面上には割石や自然石が多くみられる。

遺物は多い。190図—4は大形の壷形土器で有孔つば付土器の器形を有している。石器は26点あり，床面からは打製石斧4，乳棒状石斧1の5点が出土している。

時期はⅣ期に属する。

94　第94号住居址（第81・191図）

本址は第93号住居址の北東に位置している。プランは円形を呈し六角形ぎみとなる。規模は5.8×6.1mでやや大形のものである。

掘り込みは浅く周溝はない。東側は土壙2基が掘り込んでいる。炉は中央やや西寄りに位置している。床面をわずかに掘りくぼめ周囲に自然石が置かれるもので，炉石が抜かれるため定かでないが石組炉と思われる。主軸はN—26°—Wである。

主柱穴は1・2・4・6・8(9)，11の6本が確認されている。もとは8本と思われる。炉の北と南床面上には礫がみられる。

土器は多いが図化できたものは191図—1のみである。4は吊手土器の一部である。石器は9点出土するがすべて覆土中のものである。

時期はⅢ期に属するであろう。

95　第95号住居址（第82図）

当址は第97号住居址の北に位置し，東に第98号住居址がある。第98号住居址とともに調査区域の最北端となり，20mほど台地が続き辻沢川の段丘崖となっている。

掘り込みはみられず，炉と柱穴が確認されたものである。床面は炉の周囲にはタタキが良くみられるが，ピット周辺では顕著でない。

炉は小形のもので方形の石組炉である。主軸方向は不明である。

遺物はまったくみられない。

時期は不明であるが炉や住居址からして集落の末期を形成するものと思われる。

96　第96号住居址（第64・192図）

本址は第66号住居址の東に位置し，東側は第68号住居址に切られている。北西部は土壙があり壁ははっきりしない。

プランは楕円形を呈すと思われる。規模は南北4.7mを測るが東西は不明である。炉は掘り込みは浅いが，4個の石を用いて方形に造っており，掘炬燵状の類に入るものである。

主柱穴は12，14の2本が確認されている。本来4本と思われる。

P_{12}の覆土中より石皿が出土している。遺物は極めて少ない。土器は破片のみで図化できるもの

はなく新旧混在している。石器は石皿を含め3点が覆土中より出土しているのみである。

時期は遺物からでは決め難いが，第68号住居址居に切られており，I期に属するものであろう。

97　第97号住居址（第83・193図）

本址は第95号住居址の南に位置し，当址の南側は住居址の空白地帯となっている。

プランは楕円形を呈し，規模は4.3×4.9mである。周溝は北側のみみられる。炉は中央北に偏し，掘炬燵状石組炉で炉石はすべて抜かれている。主軸方向はN－5°－Eである。

主柱穴は1・3・5・7の4本である。P_2・P_3・P_6・P_7と柱穴の重複があり，埋甕も2例あるところから，炉には顕著な移動の跡はみられないが，建替の可能性が大きい。

P_4の東入口部に正位の埋甕が縦に並んである。壁ぎわ埋甕1（193図－1）は平盤な割石をのせたもので，大形のもので胴下部を欠いている。1より15cm内側に胴中央部のみの埋甕2（193図－2）がある。内部よりは特に検出物はない。

P_1の東壁ぎわに自然石大小3個がみられる。

遺物は極めて少ない。土器は埋甕以外は細片である。石器は覆土中より6点出土するのみである。

時期はI期でも後半に属するであろう。

98　第98号住居址（第84・194図）

本址は，第95号住居址の東にあり，ともに調査区域の北端に位置している。

プランは不整楕円形を呈し規模は4.5×4.0mを測る。北側には転石が露出している。炉はやや北東に偏しており炉石は一部残して抜かれている。掘り込みは浅く残された炉石から円形を呈し石組炉と思われる。主軸方向はN－5°－Eである。周溝はみられない。

主柱穴は6本である。P_4とP_5の中間入口部壁ぎわに正位の埋甕（194図－1）がある。胴下半部を欠いている。埋甕の北側に土器がまとまって出土しているが復元はできなかった。194図－2・3がその一部である。石器はまったく出土していない。

時期はI期に属する。

99　第99号住居址（第79図）

第91号住居址の西にあり切られている。西側は土壙をはさんで第71号住居址がある。土壙群の中に確認されたもので西壁はわからない。

プランは楕円形・規模は4.8×6.2mを測るものと思われる。炉は土壙298・272・336によって壊され，掘炬燵状石囲炉で炉石は抜かれている。主柱穴は定かでないが6本と考えられる。

遺物はまったく出土していない。

時期は不明である。

100　第100号住居址

本址は西の第69号・東の第70号住居址にはさまれた住居址で両者によって切られている。

プランは不整の楕円形で，規模は3.6×4.1mを測るものと思われる。掘り込みは浅く床面のタタキはあまり顕著でない。

炉はほぼ中央に焼土を伴う浅い地床炉的なものがみられる。炉石は抜かれたものであろう。主軸方向はN－10°－Eであろう。

主柱穴は現存する5本と考えられる。

遺物はまったく出土していない。時期であるが切り合いからするとⅡ期（旧）以前の所産と考えられる。

第2節　竪穴址

本遺跡より竪穴状遺構が2例検出されている。床面はみられるが炉や柱穴のみられないものを土壙と区別して呼ぶこととしたものである。

1　第1号竪穴址（第85図）

調査区の南東，第22号・24号・26号住居址の中間に位置し，南東部覆土上部には第25号住居址の炉が一部のっている。

プランは南が狭い隅丸長方形で南北2.9m，東西2.5（2.2）mを測る。壁高45cmを測り，床面はタタキが顕著に認められた。

中央北寄り床面上にU字状に自然石が置かれ，内部はわずかに凹くなっている。焼土などはまったく検出されていない。内部及び外側にも柱穴はみられない。

土器はⅡ期に属すると思われる破片が出土しているが図化できるものはない。石器は打製石斧4，定角石斧1，横刃形石器1の6点が床面より出土している。

2　第2号竪穴址（第85図）

第1号竪穴址の西2mの所に位置し，北側は第26号住居址と接している。内部には土壙が4基ある。プランは五角形に近く，3.5×3.4mを測る。壁は20cmと浅く，床面は中央がやや凹くなっている。南壁中央にピットが1個あるが，外にはみられない。

土器はⅡ期ないしⅢ期のものが混在して出土するが，図化できるものはない。石器は打製石斧4，蛤刃石斧1，特殊敲打器2，横刃形石器1の8点が出土している。

上屋の存在を示す明確なものはみられないが，簡単な覆屋を持った貯蔵用施設と考えたいと思う。

第３節　ロームマウンド（第85図）

113ーほグリッドを中心にロームマウンド１基が発見されている。南北に長い三角形のプランを持つ。規模は230×160ｍを測る。掘り込みは舟底状となり再堆積土は三角錐を呈し下部には炭化物を含んで，周囲には漸移層及び黒褐色土がドーナツ状にみられる。

第４節　土壙（第86・87・196・197図）

調査によって確認された土壙は332基である。土壙と認定したものの中には，住居址に伴う貯蔵穴的機能をもつものもあると思われる。

配置状態は集落群から離れた南域に間隔をおいて５基があり，集落群の中では南西部第４号・５号住居址から第42号住居址にかけて一群があり，さらに調査区域の南東部に集中する傾向がある。明らかに集落群の内部にまで掘り込まれている。遺物を伴なうものは，３分の１ほどで，細片のものが多い。４号土壙からは完形品に近い小形深鉢形土器（Ⅱ期），７号土器からは甕形土器の半完形品が出土するも，もろく復元できず図化できなかった。

プランは円形・楕円形を示すものが一般的で方形状となるものもある。断面形態からみると，タライ状・桶状・皿状，鉢状のものがあり，樋状・タライ状のものが多い。

以下特徴的な土壙をまとめてふれてみたい。

１　内部にピットを持つもの

内部にピットを穿たれる土壙が16例みられ，南側に多い。中でも２号・３号・５号は深さが１ｍを超すもので，断面Ｙ字形となるものである。ともに土層図を示してあるが，自然推積を示すが，何層にも分かれ複雑なものとなっている。２号例は中間層に焼土や灰を含むものがあり，注目される。この３例は明らかに落し穴的機能を持つものと考えられる。３基が集落群から離れてほぼ等間隔に北を向いて弧状に並ぶ点は注目される。

２　内部に石組みを持つもの

土壙中に石組みを有するものが15例みられる。覆土上部及び壁外に持つものは134号，198号203号の３例，底及び底に近い部分に持つものは59号，213号，234号の３例で他は覆土中にみられるものである。明らかな石組みと認められないもので，自然石がみられる例は多い。石の少ない台地を考えれば，石組みを持つものとその意識は変わりがないものであろう。95号例は石皿が用いられている。50号例は上部に小礫50個余りと土器破片が覆土中に多量にみられる。198号，234号からは石組みに伴って土偶が出土している。墓的性格を持つものと考えられる。

3　土器を伴うもの

破片を出土したものを除いてある程度図化できるものを出土した土壙は15例である。

4号土壙は230×200mの規模を持つ不整円形のタライ状を呈すもので，その南側部分床面上から横倒し状態で小形深鉢形土器が出土した。非常にもろく復元できず図化できなかった。

7号よりは覆土上部に半完形がつぶれてその上に石がのせられていた。これももろく図化できなかった。

8号土壙よりは底から横倒し状態で出土する（196図―1）。同様な出土状態を示したものには129号（196図―5），191号（196図―8・9），202号（197図―11）例がある。

覆土中にほぼ完形の形で出土したものには337号（197図―15）例がみられる。他は覆土中に破片状態で出土したものである。

4　人偽的埋戻しが明らかなもの

第91号住居址の南側と北側部分再堆積土がロームブロックと黒色バンドが互層状となる土壙が南側で5基（291，329～332），北側で7基（288，289，290，326，327，328，335）ありそれらの土壙は明瞭な壁を持たず連結している。柱痕は認められなかった。土層状態から人偽的に埋戻されたことは明らかで，建物を伴うものであろう。なお同様な堆積状態を示したものとして135号，150号，189号例がある。

以上特徴的な土壙について概略ふれてきた。集落構造を考える上で，土壙のもつ意味は大きいものがあるが，不十分な報告となってしまった。土壙一覧表を付してあるので参考にされたい。

第5節　単独埋甕遺構（第195図）

住居址に伴わない遺構外から単独の埋甕が7例検出されている。いわゆる屋外埋甕と同様のものである。

第17号と32号住居址の中間部に3基（1～3）あり，ほぼ正三角形状となっている。黒色土層中から掘り込みはローム上面に達している。1は下部に円礫がみられたが他の2例は特に施設的なものはない。埋設は正位の状態で，2・3は口頸部を欠いているが，耕作土中にみられる所から壊された可能性もある。

第56号・55号住居址覆土中からも4基確認されている。第56号住居址の北壁ぎわに2基（4・5）あり，4と5の間隔は40cmである。第55号住居址覆土中からはやはり6・7の2基がある。6は炉石を抜いて埋め込んでいる。5は深鉢形土器の底のみでボロボロしており図化できなかった。この4例もすべて正位の埋設で上部は破壊された可能性がある。

遺物の時期は1・4例はⅡ期，2・3・7例はⅠ期であろう。5・6例ははっきりしない。

この遺構の持つ性格は集落全体の中で位置づけられるものであろう。

第Ⅴ章　遺物

第１節　土器及び土製品

1　土器

出土土器の量はぼう大なものである。遺構に伴うものをでき得る限り復元し，図化できたものは272個体にのぼる。これらと共伴する土器について，文様構成・器形などに応じて拓影を載せることに努めた。遺存度の高い埋設土器のみでこの時期の土器形態を論ずることの危険性を感じるからである。事実埋設土器しか残されない住居址が当遺跡においても幾つかみられている。埋設土器とともに日常使用された土器を含めてこそ，当時の実態が浮かび上がってくるものであろう。

このことについては，すでに先学により指摘されてきている所であり，筆者も含め，地域の研究者は耳を傾ける必要があろう。

各々の土器について説明を加えるべきであるが紙数も限られておるので，まとめの項において土器の変遷と概略を述べることにしたい。

今回出土した土器は，グリット出土の後期に属すると思われるわずかのものを除けば，すべて縄文中期後葉のごく限定された時期のものである。縄文時代中期の土器がみられないことは，当集落の成立を考える上で興味あるところである。

2　土製品

土製品として，三角壔土製品・土偶・土製円板・耳栓がある。特殊な埋設方法をされたものは一例もない。

三角壔土製品（198図）

三角壔土製品１点(1)が第８号住居址床面より出土している。上部が欠落してが側面形は正三角形を呈し一辺７cmを測るものである。正面形は長方形７×10.5cmである。全体に丸味を持ち稜は明確でない。底面は丸くふくらみ測面はわずかに内湾している。

文様は底面にはみられず，側面と正面の４面である。ともに反対面も同様な施文である。正面は三条の押引きを持つ沈線が周囲を巡り，その内部に連結の渦巻沈線文が施され，短い沈線が充填している。測面は二条の押引沈線文が周辺にみられるものである。

貫通孔は中心にあり径４mmである。胎土は長石粒を多く含むが土器の胎土と特に異ることはない。焼成は普通で，赤褐色ないし黒褐色を呈している。

当土製品は上伊那地方では非常に珍しく，伊那市御殿場遺跡表採品が今まで知られるのみで２例目となり，発掘調査によるものは本例が最初である。三角壔土製品考（小林康男　長野県考古

学会誌 37　1980・6）の集成によれば，県下における南限となる。

土偶（第 198, 199図）

土偶が18点出土している。すべて破損品である。当地域通有のハート形に張り出した臀部を持つものが一般的である。すべて図示できなかったので，以下一覧表に示す。

出土地	残存部位	出土地	残存部位	出土地	残存部位	出土地	残存部位
27号住床	胸　部	33号住床	左　足	34号住床	腰　部	35号住覆	下身部欠
49号住床	右　足	57号住床	下身部欠	58号住床	頭　部	60号住覆	腰　部
76号住床	右　足	76号住床	腰　部	81号住床	腰　部	85号住床	腰　部
85号住床	頭　部	24号住床	右　足	198号土壙	腰　部	234号土壙	胸　部
57－SG	右　足	59－PG	胸　部				

土製円板（第 200図）

土製円板が48点出土している。2例の方形を除けば円形・楕円形を呈すものである。以下計測表を示す。

出土地	大きさ（cm）平面厚さ	重量 g	出土地	大きさ（cm）平面厚さ	重量 g	出土地	大きさ（cm）平面厚さ	重量 g
3号住覆	3.8×3.6×0.9	15	15号住覆	2.8×2.7×0.7	7	45号住覆	4.4×3.9×0.7	16
6号住覆	4.7×3.9×0.8	20	〃	3.3×3.3×0.9	13	64号住覆	3.3×3.3×1.1	16
〃	4.2×3.6×1.1	19	18号住床	3.8×3.5×0.9	14	69号住覆	4.1×3.8×0.7	14
〃	3.3×3.2×0.8	11	20号住床	3.5×3.3×0.7	11	〃	4.3×(3.5)×0.7	16
〃	2.9×2.9×0.8	12	〃	3.3×3.3×0.6	11	70号住床	4.4×(3.3)×0.7	15
〃	2.8×2.7×0.8	10	21号住覆	3.0×2.8×0.8	9	71号住覆	2.1×2.1×1.1	6
7号住床	5.3×5.1×1.3	38	〃	2.2×2.2×0.9	6	74号住覆	3.6×3.4×0.9	16
〃	3.4×3.1×0.8	13	22号住覆	4.7×4.7×0.7	20	87号住床	4.0×3.8×0.9	16
8号住床	4.5×4.4×0.9	25	27号住床	3.4×3.3×0.9	13	〃	4.9×4.8×1.1	33
〃	2.9×2.9×0.8	11	28号住床	3.3×3.3×0.8	14	小竪穴1	2.1×2.1×1.1	6
〃	4.8×4.8×0.9	21	32号住床	3.3×3.3×0.8	14	232号土壙	4.3×3.8×1.1	21
〃	2.3×2.1×0.8	5	33号住床	4.6×4.6×0.8	23	260号土壙	4.3×3.8×0.7	18
〃	2.6×2.4×0.8	6	36号住床	3.7×3.2×0.7	13	〃	3.3×3.4×0.8	13
〃	3.4×3.3×1.0	16	39号住床	2.9×2.8×0.8	11	60－G_G	3.7×3.7×0.9	18
〃	3.9×3.9×0.8	18	45号住覆	4.3×4.1×1.0	22	74－$ウ_G$	3.6×3.6×0.8	14
12号住床	4.1×3.3×1.0	19	〃	4.4×3.9×1.0	19	25－B_G	3.3×3.2×0.6	8

耳栓（第200図）

51－Z(1)，47－Z(2)グリットより耳栓2点が出土している。

第2節　石器及び石製品

石器

遺構に伴う石器は，全部で1,978点出土している。石器は中期通有のものであるためと紙数の関係上，図示は省略し遺構伴出のものの一覧表を載せるにとどめた。

住居址からは1,814点出土している。内訳は打製石斧976，定角石斧79，蛤刃石斧30，乳棒状石斧27，大形粗製石匙29，小形石匙3，石錘34，敲打器126，磨石24，特殊磨石19，凹石29，蜂のす石2，石皿11，石棒3，横刃形石器178，石礫25，石錘10，削器及び掻器39，ピエスエキーユ8，不定形石器97，やす状石器1，砥石1，環状石斧2である。

打製石斧が卓越し54％弱を占め，横刃形石器，特殊敲打器，不定形石器，定角石斧とつづいている。石材は大形石器は硬砂岩・緑色岩が一般的である。小形石器は黒礫石が90％以上を占め，チャート，頁岩は少ない。

破損品が多く打製石斧では70％，磨製石斧では73％，敲打器57％，特殊敲打器46％となっている。

石棒は小破片，環状石斧は半折のものである。以下特殊なものを説明することとする。

遺構外91－ログリット第Ⅲ層漸移層中より**有舌尖頭器**（201図－1）が単独出土している。頁岩製で風化がひどく鋭利さが感じられない。舌部を一部欠損する。出土地点周囲10m四方をローム層を50cm掘り下げたがまったく何も検出できなかった。

201図－2は第89号住居址の覆土出土の大形の石礫である。黒耀石製で裏面は自然面を残し，調整は縁辺のみにみられる。

201図－3・4はやす状に磨き上げた石器である。3は57－Sグリット，4は第1号住居址出土のもので，ともに緑色岩である。両端を尖頭状に磨きいく条もの研磨面がみられる。

石製品として飾り玉3点（201図－5～7）がある。5は第60号住居址，6は第14号住居址，7は第79号住居址の床面より出土したものである。5・6はヒスイ製の有孔大珠で6は穿孔部より欠損する。7は滑石製のペンダント形である。

5は裏面U字状の溝がみられ大割段階の痕跡を示すものと思われる。穿孔は片面より行われ，きれいに磨き上げられる。6は両面から穿孔され，研磨の陵が残っている。7も両面から穿孔されるものである。

第Ⅵ章　まとめ

資料整理中には，土器の編年も，埋甕も，集落論もと，さまざまな問題について，論じてみたいと考えた訳であるが，いざ最後の段階ともなるとまったく浅学と時間の前になす術もない状態である。

考察にはほど遠いが，若干の問題点を提起し，責を果たすこととしたい。

第１節　土器の変遷について

前章で述べたとおり，当遺跡より出土した土器は，縄文時代中期後葉のごく限られた短期間のものである。

伊那谷における該期の土器をめぐっては，先学の精力的な研究[※1]によって，次第にその様相が明らかなものとなってきている。

米田明訓氏は，八木光則氏・末木健氏・神村透氏の研究成果を再価価し，その後の資料を加えて，伊那谷の土器を上伊那タイプと下伊那タイプに分け，各５段階に編年している[※2]。型式毎の変遷については筆者も同意する所であるが，型式間の共伴関係については，問題を残すものとなっている。上伊那第Ⅱ段階から第Ⅲ段階の唐草文土器の変化はその施文方法からして筆者には同一系統の変化とは考えにくく，異系統文化の想違と考えるからである。このことについて若干意見を異とするが同様な観点から田中清文氏[※3]が問題提起をなしている。

さらに近年山形村殿村遺跡において，上伊那第Ⅲ段階と同様の唐草文土器が多く発見され，細区分が行われている[※4]。その細分は別として，注目すべきことは，上伊那第Ⅱ段階とされる沈線による渦巻文の条線文からなる土器がみられないことである。

両系統の唐草文土器自体の細分は今後なされるべきであろうが，二系統の土器として同時期に共存したものであると考えたい。各地域・各遺跡において共伴する土器をとらえ，各地域の実態を明確にすることが急務と思われる。

さて当遺跡の土器の変遷はどのようなものかふれることとする。細分は可能と思われるが土器型式の組合わせにより大略４期にわけてみた。

第Ⅰ期は地文に縄文と条線文を持ち，沈線による横位の入組文と入組懸垂文の併用される一群と加曽利Ｅ式に類似する土器いわゆる下伊那第Ⅱ段階（米村編年以下同じ）を主体とし唐草文土器（Ⅱ・Ⅲ段階）が客体としてみられる時期である。

第Ⅰ期を代表するものとして第１号・４号・６号・７号・14号・19号・22号・27号住・32号33号・38号・40号・41号・43号・45号・56号・58号・59号・61号・68号・91号・97号をあげることができる。第７号住居址の１・２（第97図）は米田編年では一時期後に考えているが，前段階

（上伊那第Ⅰ）からの流れとすれば当期の一型式と考える方が妥当と思われる。

第14号・第19号住居址はこの中でもやや先行するものであろう。第31号住居址出土の有孔つば付土器は該期のものとして貴重なものである。

炉の形態は石組炉と掘炬燵状石囲炉のものがみられるが，炉による新旧は土器の面からは明白でない。

第Ⅱ期は隆帯による渦巻文を持つ唐草文土器（第Ⅲ段階）が主体となる時期で，それとともに前期にみられた，縄文地に入組文を施すものは少なくなり加曽利Ｅ式類似土器が多く共伴する。口縁部文様帯の渦巻文は幅広な半肉彫状となり胴部は沈線による懸垂文である。この時期後半に結節縄文がみられてくる。この結節縄文土器の共伴の有無により，当期を新・旧の２区分とする。

Ⅱ旧期としては，第３号・８号・12号・16号・21号・24号・29号・30号・34号・42号・49号・57号・60号・69号・76号・80号・81号・89号・90号住居址があり，埋甕が多い。

Ⅱ新期としては第２号・28号・39号・72号住居址などがある。

第Ⅲ期とⅣ期は唐草文土器が消失し結節縄文が主体を占める時期で，従来からの区分に従い縄文を伴うものを第Ⅲ期・結節のみのものを第Ⅳ期とした。これに属する住居址は少なく，第Ⅲ期は第48号・94号住居址，第Ⅳ期は第26号・93号住居址のみである。

以上当遺跡の各住居址の土器を４期にわけてみたが，唐草文土器の内，隆帯によって渦巻文を描くものが主体となり，沈線と条線によるものが極めて少ないことが注目される。さらにもう一点は，結節縄文が唐草文土器の後半の時期に共伴することである。このことは，縄文地の蛇行懸垂文から結節縄文が発生することの神村氏[※5]の指摘を裏付けるものであろう。

当遺跡の時期区分を米田氏の五段階に対応させるとⅠ期―Ⅱ段階（米田編年），Ⅱ期－Ⅲ段階Ⅲ期―Ⅳ段階，Ⅳ期―Ⅴ段階となる。Ⅰ期の内第14号住，19号住居址資料は第Ⅰ段階の後半に位置するものと思われる。

当遺跡のある駒ケ根市は行政区は上伊那に属するが，土器の面からすれば下伊那系に属するもので接点に位置している。この下伊那系土器は，結節縄文の存在からしてあくまで縄文を基調とするものであったと考えられ，唐草文土器圏とは異なるものと考えたい。

縄文中期中葉の井戸尻文化圏から脱却し後葉になると当地域は，東海系土器や加曽利Ｅ式土器の影響を受け独自な文化を形成し，やがて結節縄文土器を生み中期終末を迎えることとなる。この間Ⅱ・Ⅲ段階には，唐草文土器文化の侵入を受けるがその影響は後には継続していない。

この唐草文土器の侵入が当地域の土器の地域差を生み，一層複雑にしたものである。隆帯によって描かれる唐草文土器は大木式の影響を受け発生したものと考えるが，主体がどこにあるかは今後の課題である。当遺跡より出土したヒスイの有孔大珠・三角壔土製品はこれと密接するもので，シンボル的なものとしての意味があったものと考えたい。

第２節　住居址の形態について

住居址の平面形としては，円形のもの21軒，楕円形のもの22軒，隅丸方形のもの21軒，隅丸長方形のもの16軒，五角形のもの７軒，六角形のもの４軒，八角形のもの１軒，不明のもの９軒である。

炉の形態は，石組炉，掘炬燵状石囲炉・地床炉に３大別できる。石組炉とは自然石を加工せずに円形・矩形などの形に並べるもので，掘り込みは概して浅いものである。掘炬燵状石囲炉とは４枚石を基本とし，４枚ともすべてはないが，割石を用いるもので，そこに石を割るという大きな変化がみられる。掘炬燵状石囲炉は概して大形のものが多く，掘り込みの深いものが通例である。中に小形で掘り込みの浅いものがみられるが，技法的に同手法を用いているものは，本例としてある。両者とも入口に当たる面は横長に石を据え焚口を作るものが一般的である。

時期別住居址平面形と炉形態一覧表

平面形	炉形態	Ⅰ	Ⅱ旧	Ⅱ新	Ⅱ(新旧不明)	Ⅱ計	Ⅲ	Ⅳ	不明	計
円形	石組炉	10					1	1		11
	掘炬燵状石囲炉	6	2		1	3	1			10
楕円形	石組炉	7								9
	掘炬燵状石囲炉	5	3	3		6		1	1	13
隅丸方形	石組炉	1						1	1	1
	掘炬燵状石囲炉	7	8	5		13				20
隅丸長方形	石組炉	1								1
	掘炬燵状石囲炉	2	8	1		9				11
	地床炉		1	1		2				2
五角形	石組炉	2								2
	掘炬燵状石囲炉	1	2	1	1	4				5
六角形	石組炉	4								4
	掘炬燵状石囲炉									
八角形	石組炉									
	掘炬燵状石囲炉			1		1				1
不明	石組炉	3		1		1			2	6
	掘炬燵状石囲炉		1		1	2				2
	不明			1		1			1	2
計		49	25	14	3	42	2	2	5	100

時期別住居址の平面形と炉形態の一覧表をみると，Ⅰ期では49例中石組炉28例，掘炬燵状石囲炉21例と石組炉がやや多いが，Ⅱ期になると石組炉は42例中１例，地床炉２例，不明１，掘炬燵状石囲炉38例で，掘炬燵状石囲炉が９割強を占め卓越している。Ⅲ・Ⅳ期とも石組炉と掘炬燵状石囲炉がともに１例ずつである。

住居址の平面形ではⅠ期49例中円形のもの16例，楕円形のもの12例，隅丸方形のもの８例，隅丸長方形のもの３例，五角形のもの３例，六角形のもの４例，不明３例と矩形ものより丸形のものが多い。Ⅱ期では42例中円形のもの３例，楕円形のもの６例，隅丸方形のもの13例，隅丸長方形のもの11例，五角形（一面が張り出すホームベース状のもので元来矩形に類するものである。）のもの４例，八角形のもの１例，不明４例と矩形が７割弱となっている。

Ⅲ期では，円形２例，Ⅳ期では楕円形２例と矩形のものはみられない。

このようにみてくると，住居址の平面形は丸(Ⅰ)→ 矩(Ⅱ)→ 丸（Ⅲ，Ⅳ），炉形態では，石組炉（Ⅰ）→ 掘炬燵状石囲炉(Ⅱ)→ 石組炉（Ⅲ，Ⅳ）という変化が想定できる。またⅡ期では矩形で掘炬燵状石囲炉を持つものが一般的となるとともに，掘炬燵状石囲炉にほぼ規格化されており炉形態に対する強い意識を伺うことができる。他地域との比較さらには前時期からの変遷を考えねばならぬが，この炉形態の特質は前節で述べた，唐草文文化の侵入と決して無関係のものでないと考えられる。

またⅠ期の細分も住居址プラン，炉形態から可能となってくることも考えられる。今後の方向としたい。

埋設土器の在り方にもふれねばならないが，今回は省略することとする。

第３節　集落について

すでに述べてきたように当遺跡は縄文時代中期後葉というごく限定された時期の大集落である。遺跡は北東部のかなり広い範囲が，未調査のまま破壊され，東側と西側に未調査区域を持っている。北東部から多くの遺物が出たときいており，集落は段丘突端まで続いていたものと思われる。

西側は今回の調査からして，住居址が希薄となっているので，広い範囲の拡がりはないものと考えられる。今回の 100 軒の住居址に加えて 200 軒近い住居址があったものと推定される。

今回の調査でも，今までの出土品からしても，集落の発生は縄文時代中期中葉にまで，逆のぼるとは考えられない。このように限定された時期の大集落の存在は，伊那谷ではもちろん，県内においても珍しいものといえる。

住居址群は北西部が希薄となり二つの大きな環状の連結した８の字形といえ北東部への集落の拡がりを感じさせている。

今回，検出された 100 基の住居址の時期別の数は，Ⅰ期--49，Ⅱ期―42，Ⅲ期―２，Ⅳ期―２，

不明5でⅠ期・Ⅱ期に集中している。Ⅰ期の土器はさらに細分が可能と思われ，また直前の時期の存在をも感じさせている。

各時期毎の集落形態の変遷など多くの問題があるが，土器の再細分とともに後日の機会にゆだねたい。

※1－1　八木光則「「縄文中期集落の素描」長野県考古学会誌25・26，1976

－2　末木　健　「伊那谷中部縄文中期後半の土器群とその性格」信濃30－4，1978

－3　神村　透　「結節縄文をつけた一群の土器」中部高地の考古学，1978

－4　米田明訓　「南信天竜川沿岸における縄文時代中期後半の土器編年」甲斐考古17－1　1980

－5　田中清文　「伊那谷縄文中期後半土器編年への展開」中部高地の考古学

※2　※1－4と同じ

※3　※1－5と同じ

※4　百瀬忠幸外「殿村遺跡」　山形村教育委員会　1987

※5　※1－3と同じ

辻沢南遺跡住居址一覧表

住居	群別	平面形	主軸	規模	炉	柱穴	埋甕	時期	備考
1		円形	S−72°−E	4.2×3.9	楕円形石組炉	4		Ⅰ	
2		隅丸長方形（五角形に近い）	N−79°−W	4.6×5.3	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4		Ⅱ（新）	6住に貼床する
3		五角形	N−75°−W	4.5×5.4	〃	4		Ⅱ（旧）	入口施設あり(柱穴) 円板1
4		楕円形	S−53°−W	5.2×(4.6)	石組炉？（炉石全て抜かれる）	5	正位(石なし) 入口左	Ⅰ	5住に切られる
5		五角形	N−90°−W	3.7×3.8	掘炬燵状石囲炉	4（現況3）		Ⅱ（旧）	4住を切っている
6		隅丸長方形	N−89°−W	4.2×4.6	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4		Ⅰ	2号柱に貼り床される 円板5
7		楕円形	N−86°−W	3.9×4.8	五角形石組炉	5		Ⅰ	円板2
8		隅丸方形	N−89°−W	5.1×(5.2)	掘炬燵状石囲炉（炉石一部残るのみ）	4	正位(石なし) 入口	Ⅱ（旧）	円板7・三角壔土製品 10号に切られる
9		隅丸方形	N−24°−E	4.2×(4.3)	五角形石組炉	4？		Ⅰ	
10		八角形に近い	S−88°−W	5.7×5.9	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4		Ⅱ（新）	8号住を切っている 入口施設(柱穴)あり
11		円形	S−70°−W	5.4×5.7	方形石組炉	5		Ⅰ	入口施設(柱穴)あり
12		隅丸長方形	S−55°−W	4.7×5.2	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4		Ⅱ（旧）	入口施設(柱穴)あり 円板1，丸石あり
13		隅丸方形	S−26°−W	4.5×4.6	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4		Ⅰ	入口施設(柱穴)あり
14		円形	S−34°−E	4.8×4.8	長方形石組炉（炉石一部抜かれる）	4		Ⅰ	入口施設(柱穴)あり 飾り玉
15		六角形に近い	S−70°−E	4.7×4.9	変五角形石組炉	5		Ⅰ	入口施設(柱穴)あり 円板2
16		隅丸方形	S−62°−W	5.3×5.3	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4	正位(石なし) 入口やや右寄	Ⅱ（旧）	入口施設(柱穴)あり
17		円形	N−89°−E	5.6×5.8	掘炬燵状石囲炉（炉石一部残して抜かれる）	6	逆位(石なし) 主軸線2／3南壁との中間	Ⅰ	入口施設(柱穴)あり 18住を切っている
18		？	？	？	変五角形石組炉	？	？	Ⅰ	17住に切られている 円板1
19		変五角形	N−17°−E	6.1×5.4	長方形(？)石組炉（炉石一部残し抜かれる）	7		Ⅰ	炉土壙に壊される
20		六角形	N−48°−E	4.9×4.1	？ 石組炉	4		Ⅰ	炉土壙に壊される 丸石あり円板2 入口施設(柱穴)あり
21		隅丸方形	N−70°−W	4.8×5.0	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4	正位(石あり) 入口	Ⅱ（旧）	入口施設(柱穴)あり 円板2，20号を切る
22		円形	S−50°−W	4.9×4.9	コ字状石組炉	4	正位(石なし) 入口左（配石持つ）	Ⅰ	覆土中に配石遺構あり 円板1
23		六角形（くずれている）	S−61°−E	5.0×5.4	L字状石組炉	8		Ⅰ	
24		隅丸方形	S−61°−W	5.1×5.3	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4	正位(石なし) 入口左	Ⅱ（旧）	入口施設(柱穴)あり 土偶1
25		？	？	？	コ字状石組炉	？		？	1号竪穴の上部にあり 貼り床等不明 配石遺構の可能性あり
26		楕円形	S−48°−W	4.1×4.6(?)	方形石組炉	？（現存2）		Ⅳ	

住居	群別	平面形	主軸	規模	炉	柱穴	埋甕	時期	備考
27		楕円形	S−87°−E	(?)×5.3	六角形石組炉 (一部石二重となる)	?		I	30住に切られる 炉石内に磨製石斧埋め込んである土偶1,円板1
28		隅丸方形	N−50°−W	4.9×4.8	掘炬燵状石囲炉 (炉石全て抜かれる)	4 (現存3)		II (新)	30号を切っている 円板1
29		隅丸方形	N−78°−W	4.5×4.3	掘炬燵状石囲炉	4		II (旧)	
30		?	?	?	掘炬燵状石囲炉?	?	正石2(石なし) 南東壁ぎわ(2m間隔)入口左右	II (旧)	東にて27住を切り北西にて28住に切られる
31		?	?	?	長方形石組炉 (土壙によって一部壊される)	?		I	
32		円形	N−28°−E	4.2×4.4	掘炬燵状石囲炉 (炉石2壁抜かれる)	4		I	円板1
33		円形	N−58°−E	6.1×6.0	コ字形石組炉? (一部抜かれたもの可もある)	6		I	土偶1 円板1
34		隅丸方形	N−84°−W	5.2×5.4	掘炬燵状石囲炉 (炉石半分抜かれる)	4	正位(石なし) 入口	II (旧)	入口(柱穴)あり 丸石あり、土偶1
35		隅丸方形 (五角形に近い)	N−19°−W	5.6×5.5	掘炬燵状石囲炉 (炉石全て抜かれる)	6 (現存5)	正位(石なし) 入口	II (新)	入口施設(柱穴)あり 埋甕半分欠(黒燿石あり),土偶1
36		隅丸長方形	N−70°−W	5.0×5.4	掘炬燵状石囲炉 (炉石全て抜かれる)	4 (現存3)		II (新)	入口施設(柱穴)あり 円板1
37		隅丸方形	N−45°−E	3.2×3.3	掘炬燵状石囲炉	4		I	立石(?)
38		楕円形	S−79°−E	5.9×5.4	六角形石組炉 埋甕炉 炉石半分抜かれる	7 (旧5)		I	拡張の建替
39		隅丸方形	N−60°−E	6.1×6.2	掘炬燵状石囲炉 (炉石全て抜かれる)	4?	正位(石なし) 入口左	II (新)	44住を切っている 円板1
40		円形	N−54°−W	4.6×4.8	掘炬燵状石囲炉	4		I	入口施設(柱穴)あり 43住を切っている? 44住を切っている
41		隅丸方形	N−24°−E	4.6×5.3	掘炬燵状石囲炉 (炉石一部残し抜かれる 底に石を敷く)		正位(石なし) 入口左 逆位(石なし) 炉と西壁中間	I	
42		隅丸長方形	N−8°−E	4.8×5.5	掘炬燵状石囲炉 (炉石全て抜かれる)	4	正位(石なし) 入口	II (旧)	入口施設(柱穴)あり
43		隅丸方形	N−57°−E	4.3(?)×4.5	掘炬燵状石囲炉	5		I	40号住に切られる?
44		?	?	?	五角形石組炉 (一部炉石抜かれる)	?		I	東を39住,西を40住に切られ炉のみ残す
45		六角形	N−12°−W	6.1×6.0	コ字状石組炉	6	逆位(石なし) 炉と入口やや入口寄り	I	2回以上建替あり 円板3
46		円形	N−60°−W	6.0×6.3	掘炬燵状石囲炉 (炉石全て抜かれる)	6	正(石なし) 入口	II (旧)	入口施設(柱穴)あり
47		楕円形?	N−75°−W	5.5×5.0(?)	掘炬燵状石囲炉 (炉石一部残して抜かれる)	6 (現存5)		I	北東部壊される
48		円形	N−89°−W	5.2×5.1	掘炬燵状石囲炉? (炉石全て抜かれる)	6		III	50住と重複し、切っている。
49		隅丸長方形	N−46°−W	4.8×5.2	掘炬燵状石囲炉 (炉石一部残して抜かれる)	4	正位(石なし) 入口	II (旧)	入口施設(柱穴)あり 土偶1
50		五角形	N−63°−W	6.2×5.6	掘炬燵状石囲炉 (炉石一部残して抜かれる)	4		II (?)	建替1回あり、 48住を切られ89柱に切られる
51		不整円形	N−15°−E	3.4×3.3	掘炬燵状石囲炉	4	正位(石なし) 入口右,	I	

住居	群別	平面形	主軸	規模	炉	柱穴	埋甕	時期	備考
52		円形（六角形に近い）	N−53°−W	3.7×4.0	掘炬燵状石囲炉	4		Ⅱ（旧）	
53		楕円形	N−64°−W	4.8（?）×5.6	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	6（現存4）		Ⅱ（新）	北東部撹乱
54		隅丸長方形	N−57°−W	5.3×5.9	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4		Ⅱ（旧）	建替可大 入口施設（柱穴）あり
55		五角形？	N−15°−W	5.2（?）×5.0	方形石組炉（炉石抜かれる）	5（？）（現存3）		Ⅰ	炉の北東部(6)とP_1の上部(7)覆土中に単独埋甕あり，56住に切られる
56		隅丸方形	N−77°−W	3.9×4.0	掘炬燵状石囲炉（一部炉石残して抜かれる）	4	正位（石なし）入口	Ⅰ	P_2の覆土中に集石址及び北壁覆土中に単独埋甕（4.5）があり。55住を切る
57		楕円形（隅丸方形）	N−75°−W	4.5×5.3（4.5×4.6）	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4	正位（石なし）入口	Ⅱ（旧）	拡張の可あり 土偶1
58		不整円形	N−32°−W	4.7×4.8	掘炬燵状石囲炉（炉石一部残して抜かれる）	6		Ⅰ	土偶1
59		五角形（隅丸方形）	N−43°−W	4.4×4.2（3.8×4.2）	掘炬燵状石囲炉（炉石一部抜かれる）	5（5）	逆位2（石なし）北東壁中央	Ⅰ	建替
60		隅丸方形	N−73°−W	5.0×5.0	掘炬燵状石囲炉（炉石全部抜かれる）	4	正位2（石あり）入口，入口左	Ⅱ（旧）	84住を切っている 埋2は現存しないが状況からしてあった可大 土偶1有孔大珠1
61		楕円形？	？	？	コ字状石組炉	6	正位2（石なし）炉の東とその北50 cmの所	Ⅰ	壁不明
62		円形	N−68°−E	4.9×4.7	方形石組炉（炉石一部抜かれる）	4？		Ⅰ	
63		変五角形	N−74°−W	5.1×5.3	掘炬燵状石囲炉（炉石一部残して抜かれる）	5		Ⅱ（旧）	
64		楕円形	N−48°−W	(4.1)×(4.7)	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4（現存3）		Ⅱ（旧）	円板1
65		楕円形	N−35°−E	5.1×(5.7)	掘炬燵状石囲炉（炉石一部抜かれる）	4？		Ⅱ（新）	
66		隅丸方形	N−11°−W	4.3×4.3	掘炬燵状石囲炉（炉石一部抜かれる）	4		Ⅰ	
67		隅丸方形	S−84°−E	3.8×4.0	掘炬燵状石囲炉（炉石一部抜かれる）	4		Ⅰ	
68		楕円形	N−72°−W	5.6×4.7（?）	掘炬燵状石囲炉	4（旧5）	逆位（石なし）（奥壁ぎわ）	Ⅰ	建替あり 96住切り，72住に切られる
69		隅丸長方形（五角形に近い）	N−65°−W	6.0×6.5	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4		Ⅱ（旧）	100住を切る 円板2
70		楕円形	N−63°−W	5.3×5.8	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4（現存3）		Ⅱ（新）	円板1
71		不整隅丸長方形	？	3.7×2.7？	地床炉	4（現3）		Ⅱ（新）	円板1 土錘1
72		隅丸方形	N−52°−W	4.8×5.1	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4	正位（石なし）入口	Ⅱ（新）	68住を切る
73		隅丸長方形	N−15°−W	4.4×4.9	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4		Ⅰ	
74		不整隅丸長方形？	？	6.0×4.2（?）	地床炉（？）	？		Ⅱ（旧）	83住に切られる 円板1
75		円形？	N−15°−E	4.3×？	円形石組炉	？（多柱穴）		Ⅰ	81住，79住に切られる
76		隅丸方形	N−50°−W	6.3×6.5	掘炬燵状石囲炉	4？	正位（石なし）入口右	Ⅱ（旧）	80住の周溝に貼床する 80住より新しい。土偶2

住居	群別	平面形	主軸	規模	炉	柱穴	埋甕	時期	備考
77		楕円形（六角形に近い）	N−41°−W	5.5×5.9	掘炬燵状石囲炉（炉石一部残して抜かれる）	6		Ⅰ	
78		楕円形	N−60°−E	5.1×4.5	長方形石組炉？（炉石一部残して抜かれる）	5		Ⅰ	北側土壙 261 に切られる
79		？	？	？	L字状石組炉？			Ⅱ（新）	75住を切る？ 80，81，82住に貼り床
80		隅丸長方形	N−65°−W	4.3×4.7	掘炬燵状石囲炉（土壙に壊される）	4		Ⅱ（旧）	79住に貼り床される？ 76住より古い
81		隅丸長方形	N−67°−W	4.6×5.4	掘炬燵状石囲炉（炉石抜かれ，土壙が壊る）	4	逆位（石あり）入口と炉2／3の南中央	Ⅱ（旧）	75住を切り79住に貼り床される。土偶1，丸石
82		？	？	？	掘炬燵状石囲炉	？		Ⅱ	79号に貼り床にされる
83		？	？	5.8×？	？	？	正位（石あり）南東壁ぎわ	Ⅱ（新）	74住を切る，北側は壊されている
84		円形（？）	N−17°−W	4.8×4.9（?）	方形石組炉	6		Ⅰ	60住に切られる
85		不整円形	N−2°−E	4.8×4.8	掘炬燵状石囲炉（炉石半分抜かれる）	6		Ⅰ	入口施設（柱穴）あり 土偶2
86		楕円形	N−75°−W	5.2×6.1	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	6	正位（石あり）入口（1／3のみ）	Ⅱ（旧）	柱穴を結ぶ周溝あり
87		円形	N−62°−W	4.4×4.6	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	6		Ⅰ	円板2
88		隅丸長方形（東張り出す）	N−12°−E	5.2×4.5	円形石組炉	6	正位（石なし）入口右	Ⅰ	
89		隅丸方形	N−22°−E	5.2×4.9	掘炬燵状石囲炉（炉石抜かれる）	4	正位（石あり）入口右	Ⅱ（旧）	建替あり 50住を切っている
90		隅丸長方形	N−54°−W	5.5×6.1	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4	正位2（石なし）入口	Ⅱ（旧）	埋1つを壊している（旧住居址か）
91		円形	N−48°−E	5.0×5.2（?）	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	6？（現存4）	正位（石なし）入口右	Ⅰ	土壙によって切られる 99住を切る。丸石
92		円形	S−60°−E	5.1×5.3	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	6		Ⅱ	丸石
93		楕円形	N−37°−E	8.2×7.3	掘炬燵状石囲炉（炉石一部抜かれる）	8以上（多柱穴）		Ⅳ	大型住居址
94		円形（六角形に近い）	N−26°−W	5.8×6.1	？ 石組炉（炉石一部残して抜かれる）	8（現6）		Ⅲ	
95		？	？	？	方形石組炉	6？		？	
96		楕円形？	N−75°−W	？	掘炬燵状石囲炉	4（現2）		Ⅰ	68住に切られる
97		楕円形	N−5°−E	4.3×4.9	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	4	正位2（1は石あり）入口縦並び	Ⅰ	建替可
98		不整楕円形	N−5°−E	4.5×4.0	円形（?）石組炉（炉石一部残して抜かれる）	6	正位（石なし）入口	Ⅰ	
99		楕円形	？	4.8（?）×6.2	掘炬燵状石囲炉（炉石全て抜かれる）	6？		？	多くの土壙に切られる 91住に切られる
100		不整楕円形	N−10°−E	3.6×4.1（?）	石組炉（？）（炉石抜かれたか？）	5		？	69住に切られ，70住に接する

土 壙 一 覧 表

番号	位　置	平面形	断面形	口 径 (cm)	底 径 (cm)	深 さ (cm)	備　考
1	113 ―トG	不整楕円形	鉢　形	90 × 64	44 × 46	56	
2	113 ―ルG	楕 円 形	Y 字 形	208 × 174	96 × 76	167	底は方形となる。小ピットあり。
3	109 ―NG	不整楕円形	Y 字 形	210 × 186	94 × 88	108	底は方形となる。ピットあり。
4	106 ―RG	不 整 円 形	タライ状	230 × 200	208 × 180	30	土器埋設されるも，もろく復元できず。
5	106 ―ウG	楕 円 形	Y 字 形	220 × 200	80 × 100	181	小ピット4個あり。
6	11号住北西	円　形	桶　状	142 × 130	70 × 74	92	
7	1号住北東	円　形	タライ状	118 × 116	74 × 82	38	上部に石をのせた土器あり，もろく復元できず。
8	1 号 住 北	楕 円 形	桶　状	118 × 102	110 × 92	65	
9	1号住北東	楕 円 形	皿　状	132 × 112	96 × 68	28	中央部にピット持つ。
10	1号住北西	隅丸長方形	タライ状	146 × 128	132 × 106	36	ピットと覆土中に配石あり。
11	6 号 住 南	楕 円 形	桶　状	138 × 72	102 × 66	62	
12	5号住炉東脇	楕 円 形	桶　状	136 × 98	98 × 78	64	
13	5号住北東壁	円　形	桶　状	138 × 132	112 × 102	88	
14	9 号 住 北	円　形	タライ状	100 × 98	86 × 76	28	底に2個石あり。
15	9 号 住 北	隅 丸 方 形	桶　状	82 × 64	50 × 46	50	21号を切る。
16	5 号 住 北	隅丸方形？	皿　状	？ × 80	？ × 62	30	40号に切られる。
17	4号・5号住の北東	円 形 ？	桶　状	？	48 × 38	94	覆土中に自然石あり。
18	4号・5号住北東	楕 円 形	桶　状	96 × 72	78 × 66	72	
19	4 号住北東	楕円形？	皿　状	112 × ？	98 × ？	26	28号に切られる。
20	4号・5号住北東	円　形	タライ状	112 × 106	86 × 78	32	
21	9 号 住 北	不 整 円 形	皿　状	142 × 128	138 × 108	28	中央部ピットあり。15号に切られる。
22	5 号 住 北	隅 丸 方 形	桶　状	125 × 106	84 × 86	82	覆土中に自然石あり。
23	5 号 住 北	楕 円 形	桶　状	106 × 80	86 × 64	64	
24	4号・5号住北東	方 形 ？	桶　状	80 × ？	40 × ？	46	42号に切られる。
25	4号・5号住北東	隅 丸 方 形	桶　状	144 × 104	116 × 80	96	68号・69号を切る。

番号	位　置	平面形	断面形	口　径 (cm)	底　径 (cm)	深　さ (cm)	備　考
26	4号・5号住北東	円　形　?	桶　状	80 × ?	48 × ?	(18)	27号に切られる。
27	4号・5号住北東	円　形	桶　状	130 × 120	110 × 98	(32)	26号を切る。
28	4号住北東	楕　円　形	桶　状	130 × 100	112 × 72	94	19号を切る。
29	4号住北東	楕　円　形	皿　状	112 × 86	92 × 62	22	。
30	4号住北東	円　形	桶　状	98 × 92	86 × 82	82	41号を切る。覆土中に自然石あり。
31	4号住北東	楕　円　形	桶　状	92 × 72	92 × 64	56	
32	4号住東	楕　円　形	桶　状	130 × 108	124 × 76	86	
33	6号住北壁	楕　円　形	桶　状	128 × 80	120 × 46	46	6号住柱穴と重複
34	2号住北	楕　円　形	タライ状	116 × 86	106 × 46	44	底に石3個あり。
35	2号住北	楕　円　形	桶　状	140 × 106	122 × 84	84	36号を切る。
36	2号住北	楕円形?	桶　状	? × 120	? × 70	70	35号に切られる。
37	4号住北域	円　形	桶　状	66 × 60	66 × 54	68	
38	5号住北東	円　形	桶　状	88 × 86	44 × 42	66	
39	9号住西域	円　形	桶　状	104 × 98	68 × 58	104	
40	5号住北	楕円形?	皿　状	120?× 82	86?× 64	38	16号を切る。
41	4号住北東	隅丸長方形	皿　状	170?× 104	160?× 86	25	中央部石を持つピットあり。
42	4号・5号住北東	楕　円　形	鉢　状	132 × 94	68 × 38	74	中央部にピットあり。24号を切る。
43	4号・5号住北東	円　形	桶　状	70 × 58	45 × 36	52	
44	2号住北	不整楕円形	タライ状	92 × 82	56 × 38	43	
45	4号住北東	楕　円　形	皿　状	108 × 88	80 × 58	32	
46	2号住北	楕　円　形	桶　状	138 × 84	106 × 54	54	中央部にピット持つ。
47	2号住北東	円　形	桶　状	68 × 64	48 × 46	76	
48	2号住北東	円　形	桶　状	64 × 60	56 × 48	48	
49	6号住北	不整楕円形	タライ状	158 × 128	122 × 104	42	
50	9号住西	楕　円　形	タライ状	96 × 72	84 × 60	30	小礫と土器片多量
51	8号住北西	円　形	桶　状	90 × 82	52 × 54	81	

番号	位　置	平面形	断面形	口　径 (cm)	底　径 (cm)	深さ (cm)	備　考
52	6号・8号住中間	円　形	桶　状	104 × 102	50 × 49	108	
53	8号住南	楕円形	桶　状	136 × 96	96 × 58	82	中央にピット持つ。
54	7号住北西	隅丸長方形	皿　状	122 × 106	108 × 92	16	中央にピット持つ。
55	6号住南東	円　形	タライ状	64 × 64	50 × 46	28	
56	6号住南東	楕円形	鉢　状	96 × 78	34 × 38	38	
57	6号住東壁	楕円形	鉢　状	190 × 72	150 × 56	66	
58	2号住南西	円　形	タライ状	94 × 84	80 × 65	26	
59	2号住南西	楕円形	皿　状	68 × 52	58 × 46	15	底に配石持つ。
60	2号住南	円　形	タライ状	92 × 88	80 × 78	30	
61	1号住北	不整円形	皿　状	110 × 96	64 × 60	28	
62	9号住西	円　形	皿　状	88 × 82	44 × 44	9	
63	9号住北	楕円形	タライ状	104 × 86	82 × 40	50	
64	4号住北東	円　形	タライ状	108 × 98	84 × 82	32	
65	4号・5号北東	円　形	タライ状	112 × 112	85 × 90	48	
66	5号住北東	楕円形	タライ状	150 × 114	130 × 88	36	
67	6号住北	円　形	桶　状	100 × 92	90 × 84	50	
68	4号・5号住の北東	円形？	皿　状	74 × ？	58 × ？	18	25号に切られる
69	4号・5号住北東	円形？	皿　状	82 × ？	60 × ？	16	25号に切られる
70	9号住北東	円　形	桶　状	104 × 100	56 × 50	74	
71	5号住北	楕円形	タライ状	122 × 96	94 × 70	44	
72	5号住北	楕円形	桶　状	72 × 52	60 × 40	55	
73	9号住南域	円　形	桶　状	100 × 94	78 × 70	50	
74	4号・5号住北東	円　形	タライ状	124 × 118	96 × 88	58	
75	8号住北西	円　形	タライ状	112 × 106	80 × 76	38	
76	10号住北西	円　形	桶　状	160 × 148	110 × 106	72	
77	8号住北西	楕円形	タライ状	138 × 88	110 × 68	38	

番号	位　置	平面形	断面形	口　径 (cm)	底　径 (cm)	深さ (cm)	備　考
78	10号住東壁	隅丸方形	桶　状	128 × 106	86 × 58	104	
79	10号住と12号住の中間	円　形	桶　状	80 × 78	46 × 46	68	
80	12号住南西	円　形	桶　状	96 × 92	60 × 48	76	
81	12号住南	楕円形	タライ状	144 × 86	74 × 66	28	覆土中に自然あり。
82	10号住南東	楕円形	桶　状	88 × 64	50 × 44	68	
83	11号住北東	楕円形	鉢　状	148 × 102	86 × 36	38	
84	10号住北	楕円形	皿　状	98 × 82	76 × 56	27	
85	13号住北	円　形	タライ状	86 × 84	58 × 58	40	
86	13号住北東	楕円形	桶　状	94 × 74	60 × 34	66	
87	14号住南東	不整円形	タライ状	124 × 112	94 × 88	26	覆土中に配石あり。
88	8号住南東	楕円形	桶　状	124 × 92	94 × 68	92	段を持つ
89	16号住北	円　形	皿　状	92 × 84	26 × 68	24	
90	11号住北西	円　形	鉢　状	86 × 82	50 × 56	66	
91	12号住南	楕円形	タライ状	112 × 84	82 × 64	46	
92	11号住と14号住の中間	楕円形	タライ状	108 × 75	95 × 62	16	南側に小ピット3つあり。
93	11号住東	円　形	タライ状	122 × 118	83 × 79	42	
94	14号住南	円　形	桶　状	84 × 82	64 × 60	46	
95	19住北東壁	楕円形	桶　状	105 × 90	80 × 60	78	覆土中に配石持つ。石皿あり
96	14号住北東	円　形	タライ状	82 × 82	68 × 64	24	南にピットあり。
97	10号住北	楕円形	鉢　状	142 × 128	116 × 60	58	
98	10号住北	円　形	タライ状	124 × 116	72 × 70	55	
99	10号住北	円　形	タライ状	96 × 90	76 × 66	38	
100	12号住北	円　形	鉢　状	106 × 102	74 × 66	34	底に配石あり
101	12号住北	楕円形	鉢　状	128 × 106	102 × 70	43	
102	13号住西	楕円形	鉢　状	162 × 124	130 × 78	54	
103	42号住西	隅丸方形	皿　状	76 × 74	62 × 54	26	

番号	位　置	平面形	断面形	口　径 (cm)	底　径 (cm)	深さ (cm)	備　考
104	42号住南西	隅丸方形	鉢　状	124 × 116	72 × 64	80	
105	42 号 住 南	楕　円　形	鉢　状	118 × 102	66 × 56	78	
106	42 号 住 南	楕　円　形	鉢　状	122 × 108	78 × 64	29	
107	15号住南西	楕　円　形	鉢　状	124 × 84	88 × 52	34	
108	15号住南東	楕　円　形	皿　状	108 × 92	78 × 62	26	
109	15号住北東	不整楕円形	皿　状	184 × 142	80 × 36	46	
110	17号住南東	楕　円　形	桶　状	118 × 104	64 × 65	48	
111	6 号 住 北	楕　円　形	タライ状	72 × 52	66 × 40	33	
112	14 号 住 北	楕　円　形	桶　状	116 × 92	100 × 80	60	
114	27号住南東	円　形　？	桶　状	200 ×　？	146 ×　？	70	115号に切られる。覆 覆土中に自然石あり。
115	27号住南東	円　　形	桶　状	116 × 110	98 × 92	76	114号を切る。
116	2 号竪穴南	円　　形	桶　状	130 × 120	78 × 90	100	覆土中に配石あり。
117	19号住炉脇	円　　形	桶　状	80 × 78	48 × 28	(52)	炉を壊している。
118	34 号 住 西	円　　形	タライ状	146 × 126	130 × 120	26	中央にピットあり。
119	34 号 住 北	楕　円　形	タライ状	104 × 92	90 × 70	28	ピットあり。
120	21 号 住 南	楕　円　形	鉢　状	204 ×132	94 × 42	96	
121	31号住南域	円　　形	タライ状	96 × 94	68 × 50	43	
122	23 号 住 北	楕　円　形	鉢　状	216 × 198	176 × 154	22	
123	22 号 住 東	円　　形	桶　状	84 × 84	66 × 62	47	
124	26 号 住 東	円　　形	タライ状	144 × 134	108 × 100	53	
125	26 号 住 東	楕　円　形	タライ状	146 × 130	112 × 92	34	
126	26 号 住 東	楕　円　形	鉢　状	240 × 166	160 × 104	73	
127	26住北西域	円　　形	タライ状	130 × 115	96 × 94	74	140号を切る。
128	26住北東域	楕　円　形	タライ状	145 × 118	110？× 60	42	西壁にピットあり。
129	2 号竪穴内	円　形　？	タライ状	128 ×　？	112 ×？	28	覆土中に配石持つ。 130号に切られる。
130	2 号竪穴内	円　　形	タライ状	160 × 145	138 × 135	60	覆土中に配石持つ。 129号を切る。

番号	位　置	平面形	断面図	口　径 (cm)	底　径 (cm)	深さ (cm)	備　考
131	27住炉北東脇	円　形	桶　状	148 × 147	132 × 130	100 (60)	
133	24 住 南 壁	円　形	桶　状	105 × 108	80 × 73	82	
134	27 号 住 化	隅丸方形	桶　状	182 × 170	142 × 124	102	南壁上に配石あり。 覆土中に自然石あり。
135	27 号 住 北	円　形	桶　状	94 × 82	68 × 56	72	
136	27 号 住 北	楕 円 形	桶　状	96 × 78	56 × 54	64	
137	26 号 住 東	楕 円 形	タライ状	150 × 122	140 × 110	30	
138	27住北東壁	円　形	桶　状	92 × 88	66 × 64	62	
139	27 号 住 北	楕 円 形	桶　状	142 × 114	102 × 94	106	
140	26号住北西	方 形 ?	鉢　状	110 × ?	?	34	127号と重複切られる。
141	26号住北西	円　形		78 × 75	46 × 38	(62)	142号と重複
142	26号住北西	?	鉢　状	?	?	58	159号・141号と重複
143	31 号 住 東	円　形	桶　状	80 × 76	70 × 62	60	
144	31 号 住 東	楕 円 形	桶　状	120 × 110	102 × 92	84	
145	27 号 住 北	楕 円 形	タライ状	222 × 168	148 × 148	108	168号を切る。 底面は円形。
146	27号住西域	楕 円 形	桶　状	116 × 88	102 × 72	62	
147	32 号 住 北	楕 円 形	桶　状	202 × 168	132 × 120	69	
148	28号住北域	円　形	桶　状	104 × 96	86 × 80	(82)	
149	24 号 住 北	楕 円 形	桶　状	202 × 174	180 × 150	72	
150	31号住南東域	円　形	桶　状	160 × 150	130 × 110	93	
151	27号住西域	不整円形	桶　状	80 × 78	76 × 62	52	
152	24 号 住 南	円　形	桶　状	148 × 132	130 × 120	60	
153	31号住西域	不整楕円形	タライ状	? × 66	? ×50	33	167号に切られる。
154	24 号 住 北	楕 円 形	桶　状	132 × 102	120 × 88	60	
155	28 号 住 南	不整円形	桶　状	95 × 108	82 × 84	118	
156	20号と30号住の 接 点	不整円形	タライ状	106 × 108	90 × 78	54	
157	30住南東域	円　形	桶 状?	120 × 110	96 × 98	70? (30)	158号に切られる。

番号	位　置	平面形	断面形	口　径 (cm)	底　径 (cm)	深さ (cm)	備　考
158	27住南西域	円　形	桶　状	104 × 104	78 × 74	127？ (105)	157号を切る。
159	26号住北西	不整円形	桶　状	104 × 98	68 × 55	68	142号と重複。
160	31号住炉西脇	楕円形	桶　状	72 × 60	42 × 42	98	
161	26号住北西	隅丸長方形	桶　状	158 × 138	158 × 96	78	覆土中に配石持つ。
162	31号住東域	楕円形	皿　状	100 × 82	90 × 52	18	
163	31号住南域	楕円形	鉢　状	100 × 76	70 × 52	36	
164	31号住東域	楕円形	鉢　状	122 × 102	44 × 38	76	
165	31号住北東域	楕円形	タライ状	96 × 80	66 × 56	26	
166	31号住北域	隅丸方形	桶　状	96 × 68	62 × 46	102	
167	31号住北域	楕円形	桶　状	112 × 70	112 × 38	43	153号を切る。
168	27号住北	円形？	桶　状	138 × ？	120 × ？	72	145号に切られる。
169	31号住西域	楕円形	タライ状	124 × 100	88 × 76	26	
170	33号住東	円　形	桶　状	190 × 180	154 × 150	62	
171	31号住北域	楕円形	タライ状	200 × 168	150 × 140	26	
172	31号住北西域	円　形	タライ状	80 × 78	68 × 56	31	
173	20号住炉脇	円　形	桶　状	120 × 110	82 × 74	90	炉を壊している。
174	28住北東域	円　形	桶　状	110 × 104	72 × 66	(93)	
175	33号住北東域	円　形	鉢　状	110 × 106	70 × 80	118	
176	33号住北域	楕円形	桶　状	160 × 140	138 × 118	60	
177	35号住南	円　形	タライ状	168 × 166	140 × 140	44	
178	35号住西	円　形	タライ状	198 × 182	154 × 132	36	
179	35号住西	隅丸方形	タライ状	110 × 104	80 × 60	32	
180	39号住南	円　形	桶　状	100 × 90	64 × 56	63	
181	39号住南	隅丸長方形	桶　状	160 × 82	128 × 62	61	
182	39号住南	楕円形	鉢　状	270 × ？	180 × ？	36	184号・186号に切られる。
183	39号住南	円　形	桶　状	76 × 70	56 × 44	86	

番号	位　置	平面形	断面形	口　径 (cm)	底　径 (cm)	深さ (cm)	備　考
184	39 号 住 南	楕 円 形	桶　状	76 × 60	44 × 36	74	182 号を切る。
185	35 号 住 北	円　形	桶　状	106 ×100	86 × 82	100	
186	39 号 住 南	円　形	桶　状	100 × 96	78 × 64	58	182 号を切る。
187	51 号 住 東	円　形	桶　状	216 × 210	162 × 160	66	
191	35 号 住 北	楕 円 形	タライ状	188 × 124	160 × 84	37	
192	36 号 住 東	不 整 円 形	桶　状	138 × 134	108 × 104	99	
193	44 号 住 南	隅丸方形？	タライ状	130 × ？	96 × ？	45	306 号に切られる。
194	44 号 住 南	円　形	タライ状	130 × 128	100 × 98	59	
195	38 号 住 東	円　形	桶　状	192 × 190	130 × 126	71	
196	38 号住南西	円　形	タライ状	200 × 190	170 × 170	47	覆土中小石あり。 38号に切られる。
197	38 号住北東	楕 円 形	皿　状	？ × 100	？ × 70	15	底に配石あり。 38号住に切られる。
198	39 号住東域	楕 円 形	タライ状	210 × 140	180 × 110	44	覆土上部に配石持つ。 土偶 1
199	39 号住西域	円 形 ？	桶　状	128 × ？	110 × ？	(61) 40	303 号と重複
200	39 号住西域	楕円形？	桶　状	232 × ？	182 × ？	74 (25)	202 号と重複・炉が掘り込まれる。
201	40号住北西壁	円　形	桶　状	158 × 154	108 × 106	73	覆土下層に自然石多数あり。
202	39 号住北壁	隅丸方形？	桶　状	158 × ？	148 × ？	60	200 号と重複
203	43 号 住 北	円　形	桶　状	140 × 130	90 × 80	63	覆土上部に配石あり。
204	43号住南東壁	円　形	桶　状	162 × 158	108 × 112	78	
205	42 号住南壁	隅 丸 方 形	桶　状	124 × 116	84 × 70	76	
206	42 号住東壁	隅丸長方形	鉢　状	156 × 126	100 × 74	52	
207	35号住北東壁	楕 円 形	鉢　状	130 × 110	62 × 56	73	208 号を切る
208	35号住炉北脇	円　形	タライ状	128 × ？	112 × ？	(25) 20	207 号に切られる
209	51号住と41号住の中間	円　形	桶　状	130 × 122	92 × 88	88	
210	39 号 住 南	楕 円 形	桶　状	154 × 138	110 × 100	88	
211	41 号住北西	楕 円 形	鉢　状	194 × 160	132 × 70	66	
212	34 号 西 壁	円　形	桶　状	130 × 120	82 × 72	89	

番号	位　置	平面形	断面形	口　径 (cm)	底　径 (cm)	深さ (cm)	備　考
213	39号住北域	楕　円　形	桶　状	190 × 150	176 × 80	88	覆土下層に配石持つ。
215	46号住北域	円　形	桶　状	98 × 88	76 × 66	60	
216	46号住北壁	円　形	桶　状	106 × 104	78 × 54	107	
217	88 号 住 東	不整円形	桶　状	96 × 94	64 × 66	44	
218	88 号 住 東	楕　円　形	皿　状	178 × 138	162 × 104	12	
219	88 号 住 東	楕　円　形	桶　状	74 × 74	62 × 48	40	
220	88 号 住 東	楕　円　形	桶　状	60 × 36	52 × 36	42	
221	88 号 住 東	円　形	タライ状	88 × 80	52 × 54	27	
222	88 号 住 東	楕　円　形	鉢　状	82 × 62	38 × 36	59	
223	88 号 住 東	不整楕円形	皿　状	222 × 134	202 × 96	24	
224	88 号 住 東	長　方　形	鉢　状	100 × 56	54 × 36	39	
225	88 号 住 東	方　形	タライ状	64 × 60	54 × 44	29	
226	47号住北域	楕　円　形	桶　状	138 × 118	92 × 72	(85) 63	
227	47号住北壁	楕　円　形	タライ状	82 × 66	60 × 52	46	
228	43号住北西	楕　円　形	桶　状	122 × 108	98 × 78	78	
229	51 号 住 東	円　形	皿　状	88 × 84	72 × 70	20	
230	35 号 住 北	円　形	タライ状	90 × 90	72 × 66	24	
231	35号住北東	円　形	タライ状	98 × 96	70 × 72	35	
232	38号住北東	円　形	桶　状	118 × 110	90 × 82	64	土製円板 1
234	71 号 住 北	隅丸方形？	皿　状	128 × ？	106 × ？	22	268号に切られる。 底に配石持つ。土偶 1
235	57 号 住 南	楕　円　形	皿　状	96 × 48	62 × 48	34	
236	58号住北東	楕　円　形	桶　状	152 × 132	122 × 102	88	
237	62号住と67号住の中間	円　形	タライ状	174 × 174	155 × 156	22	
238	63号住南西	円　形	タライ状	96 × 96	76 × 72	26	
239	64号と67号住の中間	円　形	皿　状	98 × 96	80 × 74	24	
240	67号住と73号住の中間	円　形　？	皿　状	96 × 92	78 × 70	18	

番号	位　置	平面形	断面形	口　径 (cm)	底　径 (cm)	深さ (cm)	備　考
241	70号住南西壁	円　形　？	皿　状	124 × ？	92 × ？	26	70号住に切られる。
242	71 号 住 南	楕　円　形	皿　状	132 × 118	130 × 106	30	
243	99 号 住 西 域	不整楕円形	桶　状	110 × 82	80 × 70	(95) 30	273 号を切る。覆土中に自然石 2 ケもつ。
244	36 号 住 東	楕　円　形	桶　状	92 × 88	68 × 60	52	
245	36 号 炉 北 脇	円　形	桶　状	76 × 72	44 × 40	(93) 76	
246	36 号 住 西 壁	楕　円　形	桶　状	148 × 116	80 × 78	88	
247	43 号 炉 北 脇	楕　円　形	タライ状	140 × 120	110 × 102	59	土壙覆土に炉をつくっている。
248	36号住南西壁	楕　円　形	桶　状	142 × 110	98 × 64	70	
249	36 号 住 東 壁	円　形	桶　状	92 × 86	64 × 60	70	
250	71 号 住 西 壁	隅丸長方形	桶　状	218 × 162	196 × 152	108	礫層となる。
251	70 号 住 北	楕　円　形	桶　状	168 × 132	116 × 114	94	252 号を切る。
252	70 号 住 北	円　形　？	桶　状	168 × ？	124 × ？	67	308 を切り，251 号に切られる。
253	70 号 住 北 壁	円　形	桶　状	148 × 140	136 × 118	69	
254	70号住南東域	不整楕円形	桶　状	218 × 184	180 × 152	96	底は礫層となる。
255	70 号 住 南 壁	円　形	桶　状	90 × 84	68 × 62	52	
256	69 号 住 西 域	長　方　形	桶　状	116 × 78	86 × 58	(109) 42	住居址に伴うものか？
257	63 号 住 東	楕　円　形	桶　状	178 × 132	166 × 120	52	
258	69 号 住 北	円　形	タライ状	104 × 100	84 × 86	44	
259	35 号 住 南	円　形	皿　状	88 × 82	70 × 66	22	
260	81 号 住 東	楕　円　形	桶　状	272 × 178	232 × 128	85	土製円板 2
261	78 号 住 北 壁	楕　円　形	鉢　状	242 × 202	130 × 112	93	一部78号住を切っている。
262	74 号 住 炉 東	円　形	鉢　状	120 × 118	86 × 76	51	
263	81号住炉西脇	円　形	桶　状	164 × 152	122 × 118	(124) 71	
264	81号住北東壁	円　形	桶　状	164 × 162	120 × 106	99	
265	76 号 住 東 壁	円　形	桶　状	172 × 166	128 × 124	89	
266	76号住南西域	円　形	桶　状	182 × 170	154 × 138	100	

番号	位　置	平面形	断面形	口　径 (cm)	底　径 (cm)	深さ (cm)	備　考
267	71 号 住 南	楕　円　形	桶　状	142 × 104	120 × 88	(132) 83	
268	71 号 住 北	円　形	桶　状	168 × 158	132 × 128	61	234 号を切る。
269	80号住炉東脇	不整楕円形	鉢　状	150 × 122	100 × 75	(75) 58	80号住炉を壊している。
270	99号住北東壁	方　形　?	桶　状	?	?	96	335 号と連結。 人為的埋戻。
271	99 号 住 東 域	楕　円　形	皿　状	108 × 90	82 × 76	20	覆土中に配石あり。
272	99号住炉北脇	楕　円　形	桶　状	164 × 110	150 × 86	110	炉を壊している。
273	99 号 住 西	楕　円　形	桶　状	152 × 116	134 × 96	60	
274	99 号 住 西	円　形	タライ状	130 × 126	90 × 106	40	覆土中に 3 個自然石あり。
275	99 号 住 西	楕　円　形	桶　状	138 × 102	100 × 90	(85) 67	
276	71 号 住 南	?	鉢　状	?	?	32	277 号に切られる。
277	71 号 住 南	楕　円　形	桶　状	100 × 82	90 × 64	(63) 39	276 号を切る。
278	71 号 住 南	円　形	桶　状	68 × 60	36 × 36	(62) 42	
279	71 号 住 南	円　形	桶　状	88 × 70?	70 × 62	(50) 27	297 号に切られる。
280	71 号 住 南	長　方　形	桶　状	80 × 66	52 × 38	(68) 43	
281	39 号住南東	円　形	桶　状	58 × 52	38 × 32	45	
282	39 号住南東	楕　円　形	鉢　状	132 × 88	92 × 42	92	
283	39 号住南東	方　形	鉢　状	84 × 82	58 × 44	56	
284	39 号住南東	円　形	桶　状	80 × ?	64 × ?	79	285 号に切られる。
285	39 号住南東	円　形	桶　状	88 × 82	68 × 64	99	284 号を切る。
286	39 号住南東	楕　円　形	鉢　状	72 × 56	50 × 32	53	
287	39 号住南東	不整楕円形	鉢　状	98 × 72	62 × 48	34	
288	91 号住北域	長方形 ?	桶　状	? × 116	? × 78	(134) 94	289 号・326号と連結。 人為的埋戻。
289	91 号住北域	方　形　?	桶　状	? × 98	? × 72	(134) 95	288 号と連結。 人為的埋戻。
290	91 号住北域	方　形　?	桶　状	? × 100	68 × 68	114	328 号と連結。 人為的埋戻。
291	91 号住南域	方　形	桶　状	? × 112	? × 70	124	330 号・331 号と連結。 人為的埋戻。
292	46 号住北東	円　形	皿　状	64 × 60	52 × 46	14	

番号	位　置	平面形	断面形	口　径 (cm)	底　径 (cm)	深さ (cm)	備　考
293	46 号 住 西	楕　円　形	桶　状	282 × 226	262 × 172	84	
294	49 号 住 東	円　形	桶　状	268 × 258	192 × 186	107	覆土中に自然石あり。
295	40 号住北域	円　形	桶　状	118 × 108	96 × 88	(59) 29	覆土中に自然石あり。
296	99 号住南西	円　形	桶　状	138 × 136	100 × 96	(110) 94	297 号を切る。覆土中に自然石あり。
297	99 号住南西	楕　円　形	鉢　状	118？× 110	100？× 60	(66) 42	296号に切られる。覆土中に自然石あり。279号を切る。
298	99号住炉南脇	円　形	桶　状	130 × 120	106 × 100	(80) 53	炉を壊している。覆土中に 4 個自然石あり。
299	47 号住東域	不整円形	桶　状	150 × 140	126 × 112	(62) 30	
300	81 号 住 東	円　形	桶　状	132 × 126	116 × 108	50	覆土中に自然石あり。
301	39号住炉東脇	隅丸方形	タライ状	110 × 106	88 × 96	(51) 29	
302	39 号住南壁	円　形	鉢　状	138 × 136	86 × 80	44	
303	39 号住南域	円　形　？	桶　状	170 ×　？	144 ×　？	68	199 号と重複。
304	76号住北西域	円　形	桶　状	110 × 108	94 × 86	96	
305	44 号 住 南	隅丸長方形	タライ状	130 ×　？	115 ×　？	54	303 号に切られる。
306	44 号 住 南	円　形	鉢　状	158 × 150	140 × 122	63	193 号を切る。
307	51 号 住 東	円　形	鉢　状	100 × 92	62 × 64	36	
308	70 号 住 北	円　形　？	タライ状	148 ×　？	126 ×　？	44	252 号に切られる。小ピット 4 個持つ。
309	71 号住南域	不整円形	鉢　状	86 × 72	30 × 32	50	
310	71 号住南域	円　形	タライ状	100 × 94	82 × 78	40	
311	34 号 住 西	円　形	桶　状	82 × 78	70 × 66	48	
312	34 号 住 西	円　形	桶　状	80 × 70	68 × 60	53	
313	50 号 住 南	楕　円　形	鉢　状	172 × 74	162 × 66	54	
314	99 号住南域	不整楕円形	桶　状	128 × 88	102 × 52	78	覆土中に自然石あり。
315	94 住北東壁	楕　円　形	桶　状	148 × 130	84 × 76	88	
316	94 号住東壁	楕　円　形	鉢　状	88 × 64	58 × 44	38	
317	94 号 住 東	円　形	タライ状	104 × 96	92 × 84	24	覆土中に自然石あり。
318	94 号 住 東	円　形	桶　状	152 × 138	110 × 96	86	覆土上部に自然石 3 ケあり。

番号	位　置	平面形	断面形	口　径 (cm)	底　径 (cm)	深さ (cm)	備　考
319	96 号 住 北	隅丸長方形	桶　状	116 × 88	90 × 68	69	
320	96号住北域	隅 丸 方 形	桶　状	98 × 92	68 × 62	(106) 87	
321	93 号 住 北	円　形	桶　状	128 × 124	94 × 84	77	
322	94号住北西	円　形	桶　状	112 × 104	74 × 68	47	
323	97 号 住 西	不整楕円形	鉢　状	196 × 168	132 × 118	71	
324	80 号 住 東	楕 円 形	桶　状	182 × 138	120 × 94	59	
325	81 号 住 南	楕 円 形	桶　状	186 × 158	126 × 116	77	
326	91号住北域	方 形 ?	桶　状	? × 106	? × 90	(122) 89	327号・288号と連結。 人為的埋戻。
327	91号住北域	方 形 ?	桶　状	? × 110	? × 90	(124) 91	326号・328号と連結。 人為的埋戻。
328	91号住北域	方 形 ?	桶　状	? × 92	? × 84	(108) 69	290号・327号と連結。 人為的埋戻。
329	91号住南域	方 形 ?	桶　状	? × 138	? × 88	115	330号と連結。 人為的埋戻。
330	91号住南域	方 形 ?	桶　状	? × 144	? × 82	120	291号・329号と連結。 人為的埋戻。
331	91号住南域	方 形 ?	桶　状	? × 128	? × 82	132	291号・332号と連結。 人為的埋戻。
332	91号住南域	方 形 ?	桶　状	? × 116	? × 88	129	331号と連結。 人為的埋戻。
333	76号住北東壁	円　形	桶　状	110 × 108	88 × 82	94	覆土上部に自然2個あり。
334	78号住炉脇	円　形	タライ状	88 × 86	52 × 58	48	
335	91号住北西域	長 方 形 ?	桶　状	? × 110	? × 78	(131) 77	270号と連結。 人為的埋戻。
336	99号住西域	隅 丸 方 形	桶　状	108 × 100	88 × 72	120	272号を切っている。
337	74号住南西域	不 整 円 形	タライ状	150 × 110	105 × 85	30	74号住を切る 吊手土器
338	2号竪穴西域	不 整 円 形	桶　状	100 × 100	88 × 78	142 (20)	
339	2号竪穴西域	不整長方形	桶　状	70 × 56	68 × 38	(46) 26	

遺構別石器一覧表

住居址	種別	打製石斧	磨裂石斧 定角	磨裂石斧 蛤刃	磨裂石斧 乳棒	磨裂石斧 計	大形粗製石斧	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石礫	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
1住	床面																		3		1			やす 1	5		
	フク土	15 (14)	1 (1)			1 (1)					1		1					1 (1)							18 (16)	2	
	小計	15 (14)	1 (1)			(1)					1		1					1 (1)	3		1			1	23 (16)		
2住	床面	3 (3)		1 (1)		1 (1)										1									5 (4)	3	
	フク土	8 (4)		1 (1)		1 (1)	1 (1)			2 (2)	1 (1)							2 (2)			1		3		19 (11)	6	
	小計	11 (7)		2 (2)		2 (2)	1 (1)			2 (2)	1 (1)					1		2 (2)			1		3		24 (15)		
3住	床面	1																							1		
	フク土	33 (28)	5 (4)	1 (1)	4 (4)	10 (9)				2 (1)	1	1	1	1		2		2 (1)	1	2	10		3		69 (39)	2	
	小計	34 (28)	5 (4)	1 (1)	4 (4)	10 (9)				2 (1)	1	1	1	1		2		2 (1)	1	2	10		3		70 (39)		
4住	床面	12 (10)	4 (2)			4 (2)					1			1		1		4 (1)							23 (13)	12	
	フク土																		2		1		2		5		
	小計	12 (10)	4 (2)			4 (2)					1			1		1		4 (1)	2		1		2		28 (13)		
5住	床面	4 (4)	1 (1)			1 (1)				1 (1)				1				1							8 (6)	16	
	フク土	2 (2)																2 (2)							4 (4)		
	小計	6 (6)	1 (1)			1 (1)				1 (1)				1				3 (2)							12 (10)		
6住	床面	5 (5)	2 (2)			2 (2)														1					8 (7)	5	
	フク土	16 (11)	3 (2)	2 (2)	1 (1)	6 (5)					2	1	1					6	1	1		1	1		36 (10)	14	
	小計	21 (16)	5 (4)	2 (2)	1 (1)	8 (7)					2	1	1					6	1	2		1	1		44 (23)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石斧	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石礫	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
7住	床面	9 (1)	1 (1)		1	2 (1)				3										1	1				16 (2)	5	
	フク土	18 (13)	1 (1)			1 (1)					4 (2)		2	1				8					4		38 (16)	34	
	小計	27 (14)	2 (2)		1	3 (1)				3	4 (2)		2	1				8		1	1		4		54 (18)		
8住	床面	27 (21)	1		1 (1)	2 (1)	1			1 (1)	2	1	1	1				7	1		2				46 (23)	34	
	フク土	12 (10)	4 (1)			4 (1)					2 (1)	1						2					1		22 (12)	12	
	小計	39	5		1	6	1			1	4	2	1	1				9	1		2		1		68 (35)		
9住	床面																										
	フク土	2 (1)																							2 (1)		
	小計	2 (1)																							2 (1)		
10住	床面	6 (4)									1 (1)					1									8 (5)	6	
	フク土	6 (6)	1 (1)			1 (1)					1							4							12 (7)	3	
	小計	12 (10)	1 (1)			1 (1)					2 (1)					1		4							20 (12)		
11住	床面	24 (12)	3 (2)	1	1 (1)	5 (3)				2 (1)	1	1	2 (2)	3				5	3		1				47 (18)	57	
	フク土	11 (7)									1 (1)								1						13 (8)	10	
	小計	35 (19)	3 (2)	1	1 (1)	5 (3)				2 (1)	2 (1)	1	2 (2)	3				5	4		1				60 (26)		
12住	床面	7 (4)	2 (2)			2 (2)					4			1		1		3							18 (6)	13	
	フク土	12 (9)	1 (1)		1 (1)	2 (2)					1 (1)							2							17 (12)	6	
	小計	19 (13)	3 (3)		1 (1)	4 (4)					5 (1)			1		1		5							35 (18)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石磯	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
13	床面	14 (10)	1			1					2							2			1		1		21 (10)	6	
	フク土	2 (2)											1					1							4 (2)	2	
住	小計	16 (12)	1			1					2		1					3			1		1		25 (12)		
14	床面	17 (14)	1 (1)			1 (1)	1 (1)				2 (1)	1	1					3			1				27 (17)	20	
	フク土	1 (1)			1 (1)	1 (1)					1 (1)							2				1	1		7 (3)	1	
住	小計	18 (15)	1 (1)		1 (1)	2 (2)	1 (1)				3 (2)	1	1					5			1	1	1		34 (20)		
15	床面	2 (1)	2	1 (1)		3 (1)			1			1						1							8 (2)	2	
	フク土	2 (1)																2					4		8 (1)		
住	小計	4 (2)	2	1 (1)		3 (1)			1			1						3					4		16 (3)		
16	床面																										
	フク土	17 (9)		1 (1)	1 (1)	2 (2)					2 (2)	1	1	1				5					1		30 (13)	12	
住	小計	17 (9)		1 (1)	1 (1)	2 (2)					2 (2)	1	1	1				5					1		30 (13)		
17	床面													2											2	2	
	フク土	11 (10)					1 (1)			1	1 (1)							2				1			17 (12)	8	
住	小計	11 (10)					1 (1)			1	1 (1)			2				2				1			19 (12)		
18	床面	2 (2)																							2 (2)	3	
	フク土																										
住	小計	2 (2)																							2 (2)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石磯	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
19住	床面	32 (24)	6 (3)	1		7 (3)	2 (1)			2 (1)	2					1		6	2				2		56 (29)	30	
	フク土																										
	小計	32 (24)	6 (3)	1		7 (3)	2 (1)			2 (1)	2					1		6	2				2		56 (29)		
20住	床面	5 (4)		1	1	2	1											2		1					11 (4)	8	
	フク土																										
	小計	5 (4)		1	1	2	1											2		1					11 (4)		
21住	床面	2 (2)							1	2 (1)							1 (1)	1						と石 1	8 (4)	3	
	フク土	17 (11)	1 (1)			1 (1)					3	2	1 (1)					8			2				34 (13)	30	
	小計	19 (13)	1 (1)			1 (1)			1	2 (1)	3	2	1 (1)				1 (1)	9			2			1	42 (17)		
22住	床面																										
	フク土	16 (12)					2		1		2 (2)							5					2		28 (14)	21	
	小計	16 (12)					2		1		2 (2)							5					2		28 (14)		
23住	床面	2 (2)	1 (1)			1 (1)		1			3 (2)							3							10 (5)	7	
	フク土																										
	小計	2 (2)	1 (1)			1 (1)		1			3 (2)							3							10 (5)		
24住	床面	7 (5)						1 (1)			2							3							13 (6)	1	
	フク土	6 (5)	1	1						1 (1)	3 (2)	1						1					2		16 (8)	10	
	小計	13 (10)	1	1				1 (1)		1 (1)	5 (2)	1						4					2		29 (14)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石磯	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
25住	床面																										
	フク土																										
	小計																										
26住	床面	6 (5)	2 (2)			2 (2)				1 (1)	2 (2)							5							16 (10)	16	
	フク土																										
	小計	6 (5)	2 (2)			2 (2)				1 (1)	2 (2)							5							16 (10)		
27住	床面	11 (10)		3 (3)	1 (1)	4 (4)												5						環状石斧 2(2)	22 (14)	22	
	フク土																						1		1		
	小計	11 (10)		3 (3)	1 (1)	4 (4)												5					1		23 (14)		
28住	床面	8 (5)			1 (1)	1 (1)			2 (1)		1	1		1				1					3		18 (7)	14	
	フク土	10 (7)								1 (1)	3	1						1							16 (8)	9	
	小計	18 (12)			1 (1)	1 (1)			2 (1)	1 (1)	4	2		1				2					3		34 (15)		
29住	床面	4 (1)	1 (1)	1 (1)		2 (2)				1 (1)	1		2					3							13 (4)	3	
	フク土	8 (6)					1 (1)				1 (1)							1 (1)					2		13 (8)	1	
	小計	12 (7)	1 (1)	1 (1)		2 (2)	1 (1)			1 (1)	2 (1)		2					4 (1)					2		26 (13)		
30住	床面		1 (1)			1 (1)																			1 (1)		
	フク土	13 (12)		1 (1)	1 (1)	2 (2)				1 (1)	3 (1)		1				1 (1)	3							24 (17)	13	
	小計	13 (12)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (3)				1 (1)	3 (1)		1				1 (1)	3							25 (18)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石磯	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
31 住	床面																										
	フク土	6 (3)	2 (2)			2 (2)	1 (1)				3 (3)							3					3		18 (9)	5	
	小計	6 (3)	2 (2)			2 (2)	1 (1)				3 (3)							3					3		18 (9)		
32 住	床面	2 (2)					1											1							4 (2)	2	
	フク土	1																1			1				3	5	
	小計	3 (2)					1											2			1				7 (2)		
33 住	床面	7 (4)					1				1							4	1	1			3		18 (4)	9	
	フク土																										
	小計	7 (4)					1				1							4	1	1			3		18 (4)		
34 住	床面	4 (3)								1 (1)	1 (1)					1									7 (5)	8	
	フク土	12 (6)	1 (1)			1 (1)	1			1	1 (1)							6							22 (8)	20	
	小計	16 (9)	1 (1)			1 (1)	1			2 (1)	2 (2)					1		6							29 (13)		
35 住	床面	8 (1)	1 (1)	1			1 (1)				1 (1)													と石 1	13 (4)	1	
	フク土	6 (4)								1 (1)				1 (1)				2							10 (6)	3	
	小計	14 (5)	1 (1)	1		2 (1)	1 (1)			1 (1)	1 (1)			1 (1)				2						1	23 (10)		
36 住	床面	11 (8)	1 (1)	2 (2)		3 (3)																			14 (11)	23	
	フク土																										
	小計	11 (8)	1 (1)	2 (2)		3 (3)																			14 (11)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石磯	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
37	床面	2			1 (1)	1 (1)				1	2 (2)							2							8 (3)	2	
	フク土																										
住	小計	2			1 (1)	1 (1)				1	2 (2)							2							8 (3)		
38	床面	1							1 (1)	1 (1)									1						4 (2)		
	フク土	2 (2)																	1		2				8 (2)		
住	小計	3 (2)							1 (1)	1 (1)									2		2				12 (4)		
39	床面	7 (5)	1 (1)			1 (1)				1 (1)	2 (2)	1 (1)													12 (10)	8	
	フク土	29 (22)	1 (1)			1 (1)				1 (1)	3 (1)			1				1		1			2		39 (25)	45	
住	小計	36 (27)	2 (2)			2 (2)				2 (2)	5 (3)	1 (1)		1				1		1			2		51 (35)		
40	床面		1	2	1 (1)	4 (1)					1							1					2		8 (1)		
	フク土	9 (4)			1 (1)	1 (1)	1 (1)			1	1			1 (1)			1 (1)	2							17 (8)	9	
住	小計	9 (4)	1	2	2 (2)	5 (2)	1 (1)			1	2			1 (1)			1 (1)	3					2		25 (9)		
41	床面	3 (3)									1 (1)							1							5 (4)	1	
	フク土	18 (13)	2 (2)	1 (1)							1														22 (16)	15	
住	小計	21 (16)	2 (2)	1 (1)							2 (1)							1							27 (20)		
42	床面	7 (5)	1 (1)						1	1 (1)	2 (2)			1											13 (9)	4	
	フク土																										
住	小計	7 (5)	1 (1)						1	1 (1)	2 (2)			1											13 (9)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石礫	石錐	削器及び掻器	P・S	不定石器		計	剥片	備考
43	床面																										
	フク土																										
住	小計																										
44	床面																										
	フク土																										
住	小計																										
45	床面	3 (3)	1 (1)			1 (1)					1 (1)													5 (5)	3	
	フク土	14 (10)	1 (1)			1 (1)					1 (1)							2			1			19 (12)	11	
住	小計	17 (13)	2 (2)			2 (2)					2 (2)							2			1			24 (17)		
46	床面																										
	フク土	21 (16)	2 (2)			2 (2)				2 (1)	2 (2)							2			3		7	39 (21)	30	
住	小計	21 (16)	2 (2)			2 (2)				2 (1)	2 (2)							2			3		7	39 (21)		
47	床面	5 (5)								1 (1)	4	1						1							15	
	フク土																										
住	小計	5 (5)								1 (1)	4	1						1						12 (6)		
48	床面	1 (1)																						1 (1)	2	
	フク土										2 (1)			1				1						4 (1)		
住	小計	1 (1)									2 (1)			1				1						5 (2)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石磯	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
49	床面	3 (1)								1	2 (1)			1				1			1				9 (2)	10	
	フク土	13 (8)									1 (1)										1				15 (9)	4	
住	小計	16 (9)								1	3 (2)			1				1			2				24 (11)		
50	床面																	1							1	2	
	フク土																										
住	小計																	1							1		
51	床面																									2	
	フク土																	1							1	1	
住	小計																	1							1		
52	床面																										
	フク土	3 (3)			1 (1)	1 (1)					1			1				1							7 (3)	8	
住	小計	3 (3)			1 (1)	1 (1)					1			1				1							7 (3)		
53	床面																										
	フク土	7 (6)	1 (1)	1 (1)		2 (2)					1										2				12 (8)	11	
住	小計	7 (6)	1 (1)	1 (1)		2 (2)					1										2				12 (8)		
54	床面	5 (3)																1							6 (3)	5	
	フク土	6 (6)	1 (1)			1 (1)				1 (1)		1 (1)											1		10 (9)	5	
住	小計	11 (9)	1 (1)			1 (1)				1 (1)		1 (1)						1					1		16 (12)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石礫	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
55 住	床面	2 (2)						1	19																22 (2)	1	
	フク土																										
	小計	2 (2)						1	19																22 (2)		
56 住	床面									2	1			1											4	1	
	フク土	2 (1)									2 (1)			1						1					6 (2)		
	小計	2 (1)								2	3 (1)			2						1					10 (2)		
57 住	床面	3 (2)		1		1					1														5 (2)	2	
	フク土																										
	小計	3 (2)		1		1					1														5 (2)		
58 住	床面																										
	フク土	12 (5)																	1		1	2	10		26 (5)	15	
	小計	12 (5)																	1		1	2	10		26 (5)		
59 住	床面	2 (1)									1 (1)							1							4 (2)	5	
	フク土	7 (4)	1 (1)			1 (1)					2 (2)										1				11 (7)	13	
	小計	9 (5)	1 (1)			1 (1)					3 (3)							1			1				15 (9)		
60 住	床面	1																							1	1	
	フク土	2			1 (1)	1 (1)					1												2		6 (1)	1	
	小計	3			1 (1)	1 (1)					1												2		7 (1)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石磯	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
61	床面	4 (2)		1		1						1		1											7 (2)	4	
	フク土																										
住	小計	4 (2)		1		1						1		1											7 (2)		
62	床面	4 (4)							1 (1)																5 (5)	3	
	フク土																										
住	小計	4 (4)							1 (1)																5 (5)		
63	床面	26 (19)	2 (1)			2 (1)												1					1		30 (20)	29	
	フク土	3 (3)									1										1				5 (3)	2	
住	小計	29 (2)	2 (1)			2 (1)					1							1			1		1		35 (28)		
64	床面																										
	フク土	3 (1)																							3 (1)	1	
住	小計	3 (1)																							3 (1)		
65	床面																										
	フク土	4 (4)							1									1	1				1		8 (4)	9	
住	小計	4 (4)							1									1	1				1		8 (4)		
66	床面	2 (2)																1							3 (2)	2	
	フク土	5 (5)											1												6 (5)	5	
住	小計	7 (7)											1					1							9 (7)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石礫	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
67 住	床面																										
	フク土	7 (3)					1 (1)											2							10 (4)	2	
	小計	7 (3)					1 (1)											2							10 (4)		
68 住	床面																										
	フク土	3 (2)										1						1							5 (2)	8	
	小計	3 (2)										1						1							5 (2)		
69 住	床面	6 (4)	1 (1)		1 (1)		2 (2)			1 (1)	1 (1)							4							14 (8)	13	
	フク土	12 (10)							1 (1)	1 (1)	2 (2)												2		18 (14)	12	
	小計	18 (14)	1 (1)		1 (1)		2 (2)		1 (1)	2 (2)	3 (3)							4					2		32 (22)		
70 住	床面	2 (2)			1 (1)		1 (1)			2 (1)		2											2		9 (4)	13	
	フク土	11 (8)									1														12 (8)	11	
	小計	13 (10)			1 (1)		1 (1)			2 (1)	1	2											2		21 (12)		
71 住	床面																										
	フク土	3 (3)																					2		5 (3)	6	
	小計	3 (3)																					2		5 (3)		
72 住	床面																										
	フク土	17 (14)	2 (2)		1 (1)		1				1		2					4							28 (17)	14	
	小計	17 (14)	2 (2)		1 (1)		1				1		2					4							28 (17)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石磯	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
73	床面	1																							1	2	
	フク土	4 (4)	1 (1)			1 (1)						1		1				1							8 (5)	4	
住	小計	5 (4)	1 (1)			1 (1)						1		1				1							9 (5)		
74	床面	2 (2)									1			1	1	1									6 (2)		
	フク土	11 (6)	3			3	1		1 (1)	2 (2)	4 (1)	1		2						1	1		7		34 (10)	27	
住	小計	13 (8)	3			3	1		1 (1)	2 (2)	5 (1)	1		3	1	1				1	1		7		40 (12)		
75	床面			1		1																			1		
	フク土	9 (7)	1			1	1				1	1						1					2		16 (7)	6	
住	小計	9 (7)	1	1		2	1				1	1						1					2		17 (7)		
76	床面	5 (3)											1					1							7 (4)	1	
	フク土	3 (3)								2 (2)	1							1					4		11 (5)	11	
住	小計	8 (6)								2 (2)	1		1					2					4		18 (9)		
77	床面	7 (5)			1													1							9 (5)	14	
	フク土																										
住	小計	7 (5)			1													1							9 (5)		
78	床面																									2	
	フク土	4 (1)					1 (1)				1								1		1		1		9 (2)	8	
住	小計	4 (1)					1 (1)				1								1		1		1		9 (2)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石磯	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
79住	床面			1 (1)		1 (1)																			1 (1)		
	フク土	2									2 (1)											1	3		8 (1)	4	
	小計	2		1 (1)		1 (1)					2 (1)											1	3		9 (2)		
80住	床面	2 (1)	1			1																		石核 6	3 (1)	1	
	フク土	1									1 (1)														2 (1)	3	
	小計	3 (1)	1			1					1 (1)														5 (2)		
81住	床面			1 (1)		1 (1)																			1 (1)		
	フク土	8 (2)								1	2 (1)			1											12 (3)	3	
	小計	8 (2)		1 (1)		1 (1)				1	2 (1)			1											13 (4)		
82住	床面	1 (1)																							1 (1)	4	
	フク土																										
	小計	1 (1)																							1 (1)		
83住	床面														1	1									2		
	フク土																										
	小計														1	1									2		
84住	床面																		1		1				2		
	フク土	10 (5)					1																1		12 (5)	12	
	小計	10 (5)					1												1		1		1		14 (5)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石礫	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
85	床面	5 (3)		1 (1)		1 (1)				2 (1)	2 (1)														10 (6)	5	
	フク土	9 (8)																1							10 (8)	12	
住	小計	14 (11)		1 (1)		1 (1)				2 (1)	2 (1)							1							20 (14)		
86	床面																		2						2		
	フク土	14 (9)						1		1	2 (1)							3			1		1		23 (10)	25	
住	小計	14 (9)						1		1	2 (1)							3	2		1		1		25 (10)		
87	床面																										
	フク土	9 (9)		1 (1)						2								2					2		16 (10)	12	
住	小計	9 (9)		1 (1)						2								2					2		16 (10)		
88	床面													1											1	1	
	フク土	8 (5)		1 (1)																					9 (6)	12	
住	小計	8 (5)		1 (1)										1											10 (6)		
89	床面																										
	フク土	13 (8)	2 (2)						1	2	1 (1)							1							20 (11)	20	
住	小計	13 (8)	2 (2)						1	2	1 (1)							1							20 (11)		
90	床面																										
	フク土	2 (1)					1							1				1							5 (1)	1	
住	小計	2 (1)					1							1				1							5 (1)		

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石磯	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
91	床面																										
	フク土	9 (9)	1 (1)			1 (1)	1 (1)			3 (2)	2 (2)								1						17 (15)	2	
住	小計	9 (9)	1 (1)			1 (1)	1 (1)			3 (2)	2 (2)								1						17 (15)		
92	床面																										
	フク土	3 (1)					1		1	2 (2)															7 (3)	2	
住	小計	3 (1)					1		1	2 (2)															7 (3)		
93	床面	4 (3)			1 (1)	1 (1)																			5 (4)	2	
	フク土	15 (11)					2		1	2 (2)			1												21 (13)	28	
住	小計	19 (14)			1 (1)	1 (1)	2		1	2 (2)			1												26 (17)		
94	床面																										
	フク土	5 (4)								1 (1)									1				2		9 (5)	9	
住	小計	5 (4)								1 (1)									1				2		9 (5)		
95	床面																										
	フク土																										
住	小計																										
96	床面																										
	フク土				1 (1)	1 (1)			1 (1)					1											3 (2)	2	
住	小計				1 (1)	1 (1)			1 (1)					1											3 (2)		

住居址 ＼ 種別		打製石斧	磨製石斧				大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊製打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石礫	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
			定角	蛤刃	乳棒	計																					
97 住	床面																										
	フク土	3 (2)								1 (1)	2 (1)														6 (4)		
	小計	3 (2)								1 (1)	2 (1)														6 (4)		
98 住	床面																										
	フク土																										
	小計																										
99 住	床面																										
	フク土																										
	小計																										
100 住	床面																										
	フク土																										
	小計																										

堅　穴

種別 / 堅穴		打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石礫	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
1号	床面	4 (4)	1 (1)															1								2	
	フク土																										
	小計																										
2号	床面	4 (3)		1 (1)							2 (2)							1								8	
	フク土																										
	小計																										

土　壙

種別 / 土壙		打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石磯	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
14		1 (1)																							1 (1)		
50		1 (1)																							1 (1)	5	
52		1 (1)																							1 (1)	2	
63			1			1																			1		
79				1 (1)		1 (1)																			1 (1)		
88		2 (1)																							2 (1)		
95		1 (1)														1									2 (1)	2	
115		1 (1)																							1 (1)	2	
116		2 (2)																1							3 (2)	4	
127												1												砥石 1	2	1	
131		1																							1	2	
134		3 (3)																							3 (3)	1	
139		3 (2)	1 (1)			1 (1)	1 (1)																		5 (4)		
140		2 (2)																							2 (2)		
142														1											1		
147		2																							2	5	
151		1 (1)									1														2 (1)		
158		1																							1	1	

種別 / 土壙		打製石斧	磨製石斧 定角	磨製石斧 蛤刃	磨製石斧 乳棒	磨製石斧 計	大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石磯	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
161		1 (1)																							1 (1)	3	
162		1 (1)															1 (1)								2 (2)	2	
170		2 (2)																							2 (2)	9	
173				1 (1)		1 (1)																			1 (1)	2	
174		21 (17)	1 (1)			1 (1)	2 (2)				4 (4)		1					2							31 (24)	26	
182		3 (1)											1												4 (1)	1	
184		1																							1	2	
186		1																							1	1	
193		11 (8)	1 (1)			1 (1)	1 (1)			1		1 (1)	2					1							18 (11)	12	
196					1 (1)						2 (2)													砥石 1	4 (3)	3	
201		2 (1)																							2 (1)		
203		1 (1)						1 (1)																	2 (2)	1	
209																		1							1	2	
210		5 (3)			1 (1)	1 (1)								1					1						8 (4)	5	
213		2 (1)																							2 (1)	1	
234		1 (1)																							1 (1)	2	
248		1	1 (1)			1 (1)																			2 (1)	1	
260		2 (2)								1											2		1		6 (2)		

種別 / 土壙		打製石斧	磨製石斧				大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊製打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石礫	石錐	削器及び掻器	P・S	不定形石器		計	剥片	備考
			定角	蛤刃	乳棒	計																					
261										1 (1)															1 (1)	6	
267		1	1			1					1		1												4	3	
268		1 (1)																							1 (1)		
269		3 (2)																1							4 (2)	5	
271		1 (1)																							1 (1)		
273		1																							1		
276		1 (1)									2 (1)														3 (2)		
277		5 (4)								1 (1)	1 (1)		1 (1)												8 (7)	8	
284		2 (2)																							2 (2)		

挿 図 目 次

第１図　辻沢南遺跡位置図……1
第２図　辻沢南遺跡地形図……2
第３図　辻沢南遺跡と周辺の遺跡……3
第４図　辻沢南遺跡遺構概略図……5
第５図　辻沢南遺跡遺構全測図　（折りたたみ図）
第６図　第１号住居址実測図……7
第７図　第２号住居址実測図……7
第８図　第３号住居址実測図……8
第９図　第４号・５号住居址実測図……8
第10図　第６号住居址実測図……9
第11図　第７号住居址実測図……9
第12図　第８号・10号住居址実測図……10
第13図　第９号住居址実測図……11
第14図　第11号住居址実測図……11
第15図　第12号住居址実測図……12
第16図　第13号住居址実測図……12
第17図　第14号住居址実測図……13
第18図　第15号住居址実測図……13
第19図　第16号住居址実測図……14
第20図　第17号・18号住居址実測図……14
第21図　第19号住居址実測図……15
第22図　第20号・21号住居址実測図……15
第23図　第22号住居址実測図……16
第24図　第23号住居址実測図……16
第25図　第24号住居址実測図……17
第26図　第25号住居址実測図……17
第27図　第26号住居址実測図……17
第28図　第27号・28号・30号住居址実測図……18
第29図　第29号住居址実測図……19
第30図　第31号住居址実測図……19
第31図　第32号住居址実測図……20
第32図　第33号住居址実測図……20

第33図　第34号住居址実測図…… 21
第34図　第35号住居址実測図…… 21
第35図　第36号住居址実測図…… 22
第36図　第37号住居址実測図…… 22
第37図　第38号住居址実測図…… 23
第38図　第41号住居址実測図…… 23
第39図　第39号・40号・43号・44号住居址実測図…… 24
第40図　第39号・40号・43号・44号住居址断面図…… 25
第41図　第42号住居址実測図…… 26
第42図　第45号住居址実測図…… 26
第43図　第46号住居址実測図…… 27
第44図　第47号住居址実測図…… 27
第45図　第48号・50号・89号住居址実測図…… 28
第46図　第48号・50号・89号住居址断面図…… 29
第47図　第49号住居址実測図…… 30
第48図　第51号住居址実測図…… 30
第49図　第52号住居址実測図…… 30
第50図　第53号住居址実測図…… 31
第51図　第54号住居址実測図…… 31
第52図　第55号・56号住居址実測図…… 32
第53図　第57号住居址実測図…… 32
第54図　第58号住居址実測図…… 33
第55図　第59号住居址実測図…… 33
第56図　第60号・84号住居址実測図…… 34
第57図　第61号住居址実測図…… 34
第58図　第62号住居址実測図…… 35
第59図　第63号住居址実測図…… 35
第60図　第64号住居址実測図…… 36
第61図　第65号住居址実測図…… 36
第62図　第66号住居址実測図…… 37
第63図　第67号住居址実測図…… 37
第64図　第68号・72号・96号住居址実測図…… 38
第65図　第69号・100号住居址実測図…… 39
第66図　第70号・71号住居址実測図…… 40
第67図　第73号住居址実測図…… 41

第68図　第74号・83号住居址実測図……41
第69図　第75号・76号・79号・80号・81号・82号住居址実測図……42
第70図　第75号・76号・79号・80号・81号・82号住居址断面図……43
第71図　第77号住居址実測図……44
第72図　第78号住居址実測図……44
第73図　第85号住居址実測図……45
第74図　第86号住居址実測図……45
第75図　第87号住居址実測図……46
第76図　第88号住居址実測図……46
第77図　第90号住居址実測図……47
第78図　第92号住居址実測図……47
第79図　第91号・99号住居址実測図……48
第80図　第93号住居址実測図……49
第81図　第94号住居址実測図……50
第82図　第95号住居址実測図……50
第83図　第97号住居址実測図……51
第84図　第98号住居址実測図……51
第85図　小竪穴・ロームマウンド実測図……52
第86図　土壙実測図……53
第87図　土壙実測図……54
第88図　第1号住居址床面出土土器……55
第89図　第1号住居址床面出土土器……56
第90図　第2号住居址出土土器……57
第91図　第3号住居址覆土出土土器……58
第92図　第3号住居址出土土器……59
第93図　第4号住居址出土土器……60
第94図　第5号住居址床面出土土器……61
第95図　第6号住居址覆土出土土器……61
第96図　第6号住居址床面出土土器……62
第97図　第7号住居址床面出土土器……63
第98図　第7号住居址床面出土土器……64
第99図　第8号住居址出土土器……65
第100図　第8号住居址床面出土土器……66
第101図　第8号住居址床面出土土器……67
第102図　第9号住居址床面出土土器……67

第103図　第10号住居址出土土器…… 68
第104図　第11号住居址覆土出土土器…… 68
第105図　第11号住居址床面出土土器…… 69
第106図　第12号住居址覆土出土土器…… 70
第107図　第12号住居址床面出土土器…… 71
第108図　第13号住居址床面出土土器…… 72
第109図　第14号住居址床面出土土器…… 73
第110図　第15号住居址床面出土土器…… 74
第111図　第16号住居址床面出土土器…… 75
第112図　第17号住居址床面出土土器…… 76
第113図　第18号住居址床面出土土器…… 76
第114図　第19号住居址出土土器…… 77
第115図　第19号住居址床面出土土器…… 78
第116図　第20号住居址床面出土土器…… 78
第117図　第21号住居址覆土出土器…… 79
第118図　第21号住居址床面出土土器…… 80
第119図　第22号住居址床面出土土器…… 81
第120図　第23号住居址床面出土土器…… 81
第121図　第24号住居址出土土器…… 82
第122図　第26号住居址床面出土土器…… 83
第123図　第27号住居址床面出土土器…… 83
第124図　第27号住居址床面出土土器…… 84
第125図　第28号住居址出土土器…… 85
第126図　第29号住居址出土土器…… 86
第127図　第30号住居址出土土器…… 87
第128図　第31号住居址床面出土土器…… 87
第129図　第32号住居址出土土器…… 88
第130図　第33号住居址床面出土土器…… 89
第131図　第34号住居址出土土器…… 90
第132図　第35号住居址覆土出土土器…… 91
第133図　第35号住居址出土土器…… 92
第134図　第36号住居址出土土器…… 93
第135図　第38号住居址床面出土土器…… 94
第136図　第38号住居址床面出土土器…… 95
第137図　第39号住居址覆土出土土器…… 96

第138図　第39号住居址床面出土土器…… 97
第139図　第40号住居址床面出土土器…… 98
第140図　第41号住居址出土土器…… 99
第141図　第42号住居址床面出土土器…… 100
第142図　第43号住居址床面出土土器…… 100
第143図　第45号住居址出土土器…… 101
第144図　第46号住居址出土土器…… 102
第145図　第47号住居址床面出土土器…… 103
第146図　第48号住居址出土土器…… 103
第147図　第49号住居址出土土器…… 104
第148図　第51号住居址床面出土土器…… 105
第149図　第52号住居址床面出土土器…… 106
第150図　第53号住居址出土土器…… 106
第151図　第54号住居址床面出土土器…… 107
第152図　第55号住居址床面出土土器…… 107
第153図　第56号住居址埋甕…… 108
第154図　第57号住居址埋甕…… 108
第155図　第58号住居址出土土器…… 108
第156図　第59号住居址出土土器…… 109
第157図　第60号住居址覆土出土土器…… 110
第158図　第60号住居址出土土器…… 111
第159図　第61号住居址床面出土土器…… 112
第160図　第62号住居址床面出土土器…… 113
第161図　第63号住居址出土土器…… 113
第162図　第64号住居址覆土出土土器…… 114
第163図　第65号住居址覆土出土土器…… 114
第164図　第66号住居址床面出土土器…… 115
第165図　第67号住居址覆土出土土器…… 115
第166図　第68号住居址覆土出土土器…… 115
第167図　第68号住居址出土土器…… 116
第168図　第69号住居址出土土器…… 117
第169図　第70号住居址床面出土土器…… 118
第170図　第71号住居址覆土出土土器…… 118
第171図　第72号住居址出土土器…… 119
第172図　第73号住居址床面出土土器…… 119

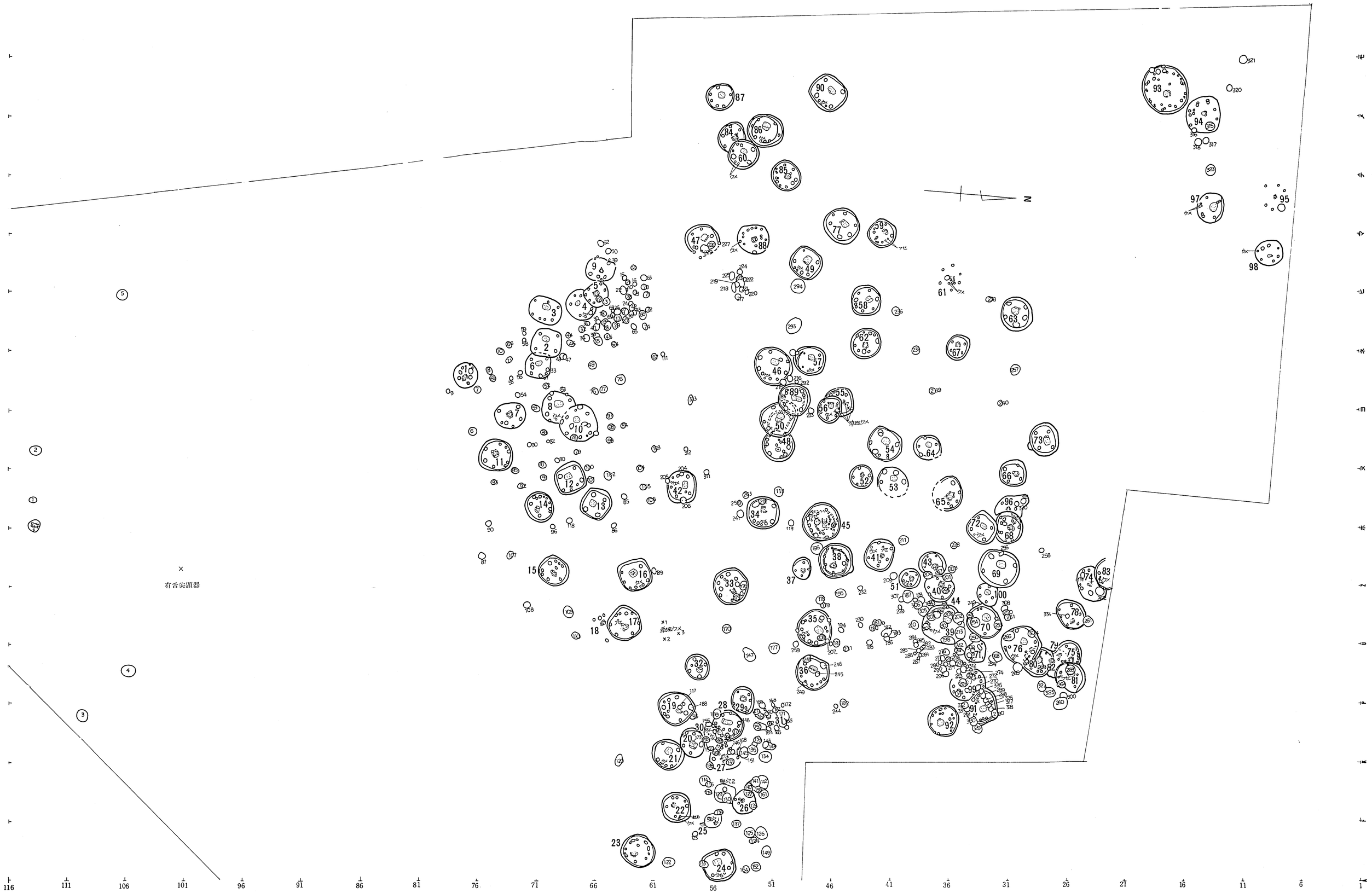
第173図　第74号住居址床面出土土器…… 120
第174図　第75号住居址床面出土土器…… 120
第175図　第76号住居址出土土器…… 121
第176図　第77号住居址床面出土土器…… 122
第177図　第78号住居址覆土出土土器…… 122
第178図　第79号住居址床面出土土器…… 123
第179図　第80号住居址床面出土土器…… 124
第180図　第81号住居址床面出土土器…… 124
第181図　第83号住居址埋甕…… 125
第182図　第84号住居址床面出土土器…… 125
第183図　第85号住居址出土土器…… 126
第184図　第86号住居址出土土器…… 127
第185図　第87号住居址床面出土土器…… 128
第186図　第88号住居址床面出土土器…… 129
第187図　第89号住居址出土土器…… 129
第188図　第90号住居址床面出土土器…… 130
第189図　第91号住居址出土土器…… 130
第190図　第93号住居址床面出土土器…… 131
第191図　第94号住居址床面出土土器…… 132
第192図　第96号住居址床面出土土器…… 132
第193図　第97号住居址埋甕…… 133
第194図　第98号住居址床面出土土器…… 133
第195図　単独埋甕出土土器…… 134
第196図　土壙出土土器…… 135
第197図　土壙出土土器…… 136
第198図　三角壔土製品・土偶実測図…… 137
第199図　土偶実測図…… 138
第200図　耳栓・土製円板…… 139
第201図　石器・飾玉・実測図…… 139

図 版 目 次

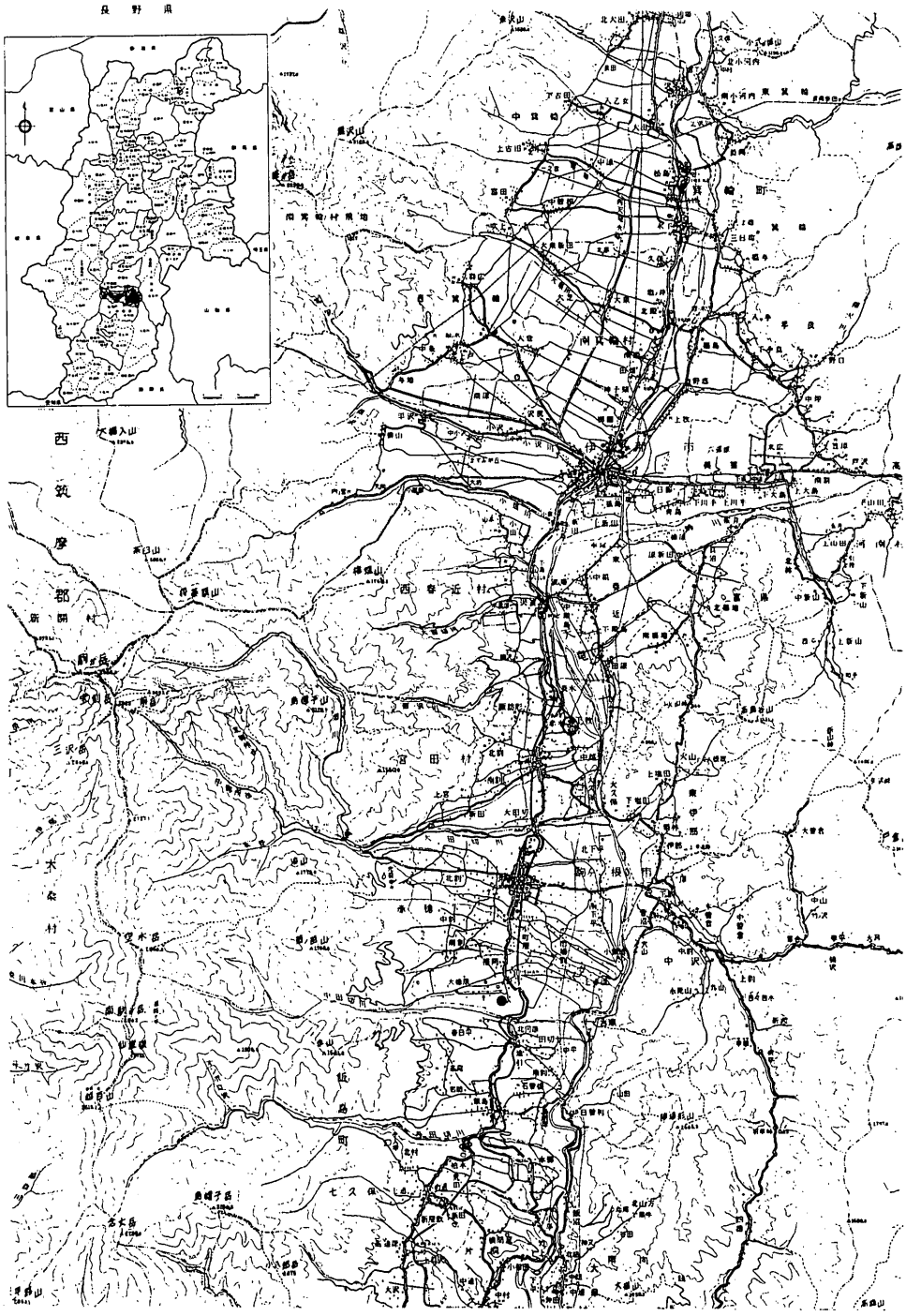
図版１　住居址群遠影
図版２　遺跡遠影・グリット調査・第４号土壙
図版３　第１号住居址
図版４　第２号・６号住居址
図版５　第３号住居址
図版６　第４号住居址
図版７　第５号住居址
図版８　第７号住居址
図版９　第８号住居址遺物出土状況
図版10　第８号住居址
図版11　第９号・10号住居址
図版12　第11号住居址
図版13　第12号住居址
図版14　第13号住居址
図版15　第14号住居址
図版16　第15号住居址
図版17　第16号住居址
図版18　第17号住居址
図版19　第17号・18号住居址
図版20　第19号住居址
図版21　第20号・25号住居址・第１号竪穴
図版22　第21号住居址
図版23　第22号住居址
図版24　第23号・24号住居址
図版25　第27号・28号・29号・30号住居址
図版26　第29号住居址
図版27　第31号・32号住居址
図版28　第33号住居址
図版29　第34号住居址
図版30　第35号住居址　（家焼）
図版31　第36号・49号住居址
図版32　第37号住居址

図版33　第38号住居址
図版34　第38号住居址
図版35　第37号・38号・45号住居址・第196号土壙
図版36　第40号・43号・44号住居址
図版37　第40号住居址
図版38　第41号住居址
図版39　第42号・43号住居址
図版40　第45号住居址
図版41　第46号・47号住居址
図版42　第48号・50号住居址
図版43　第51号住居址
図版44　第52号・53号・54号住居址
図版45　第55号・56号住居址・単独埋甕
図版46　第57号住居址
図版47　第58号・59号住居址
図版48　第60号・84号住居址
図版49　第61号住居址
図版50　第63号・64号住居址
図版51　第65号・66号住居址
図版52　第68号住居址
図版53　第69号・70号住居址
図版54　第72号・73号住居址
図版55　第74号・83号住居址・土壙337
図版56　第39号・70号・71号・75号・76号・79～82号・91号・99号住居址
図版57　第75号・79号住居址
図版58　第76号住居址
図版59　第77号・78号住居址
図版60　第80号・82号住居址
図版61　第81号住居址
図版62　第81号・87号住居址
図版63　第86号住居址
図版64　第88号住居址
図版65　第85号・89号住居址
図版66　第90号住居址
図版67　第91号・92号住居址と第271号土壙

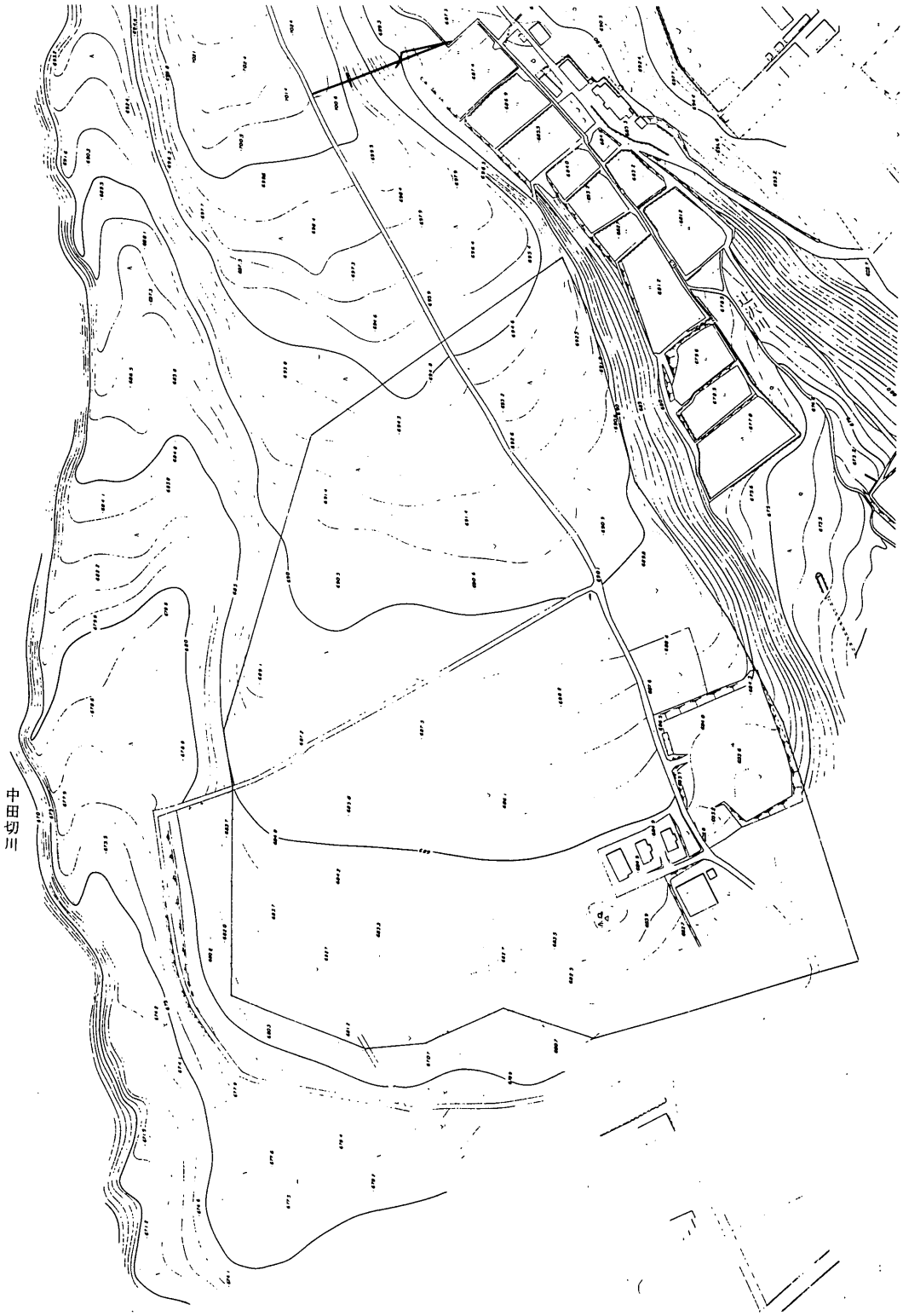
図版68　第93号・94号・95号住居址
図版69　第96号・97号住居址
図版70　第98号・100号住居址
図版71　第１号ロームマウンドと有舌尖頭器
図版72　第３号・５号・７号土壙
図版73　第８号・30号・50号・78号・129号・147号土壙
図版74　土壙群（見開き）
図版75　小形石器
図版76　香炉形土器（80号住）と有孔つば付土器（31号住）
図版77　飾り玉と吊手土器（第40号住）
図版78　土　偶
図版79　土製品と石錘
図版80　磨製石斧
図版81　第１号・第２号・第３号住居址出土土器
図版82　第５号・第６号住居址出土土器
図版83　第７号・第８号住居址出土土器
図版84　第８号住居址三角壔土製品と埋甕
図版85　第12号・第14号住居址出土土器
図版86　第16号・第17号・第19号・第21号・第22号住居址出土土器
図版87　第27号住居址出土遺物
図版88　第29号・第30号・第32号・第33号住居址出土土器
図版89　第34号・第35号・第37号住居址出土遺物
図版90　第38号・第39号・第40号住居址出土土器
図版91　第40号・第41号住居址出土土器
図版92　第42号・第43号・第45号住居址出土土器
図版93　第46号・第49号・第57号・第58号住居址出土土器
図版94　第59号・第60号・第66号・第67号住居址出土土器
図版95　第68号・第72号・第76号・第81号住居址土壙337号(3)出土土器
図版96　第80号住居址香炉形土器
図版97　第83号・第88号・第89号・第90号住居址出土土器
図版98　第91号・第97号・第98号住居址出土土器
図版99　発掘スナップ



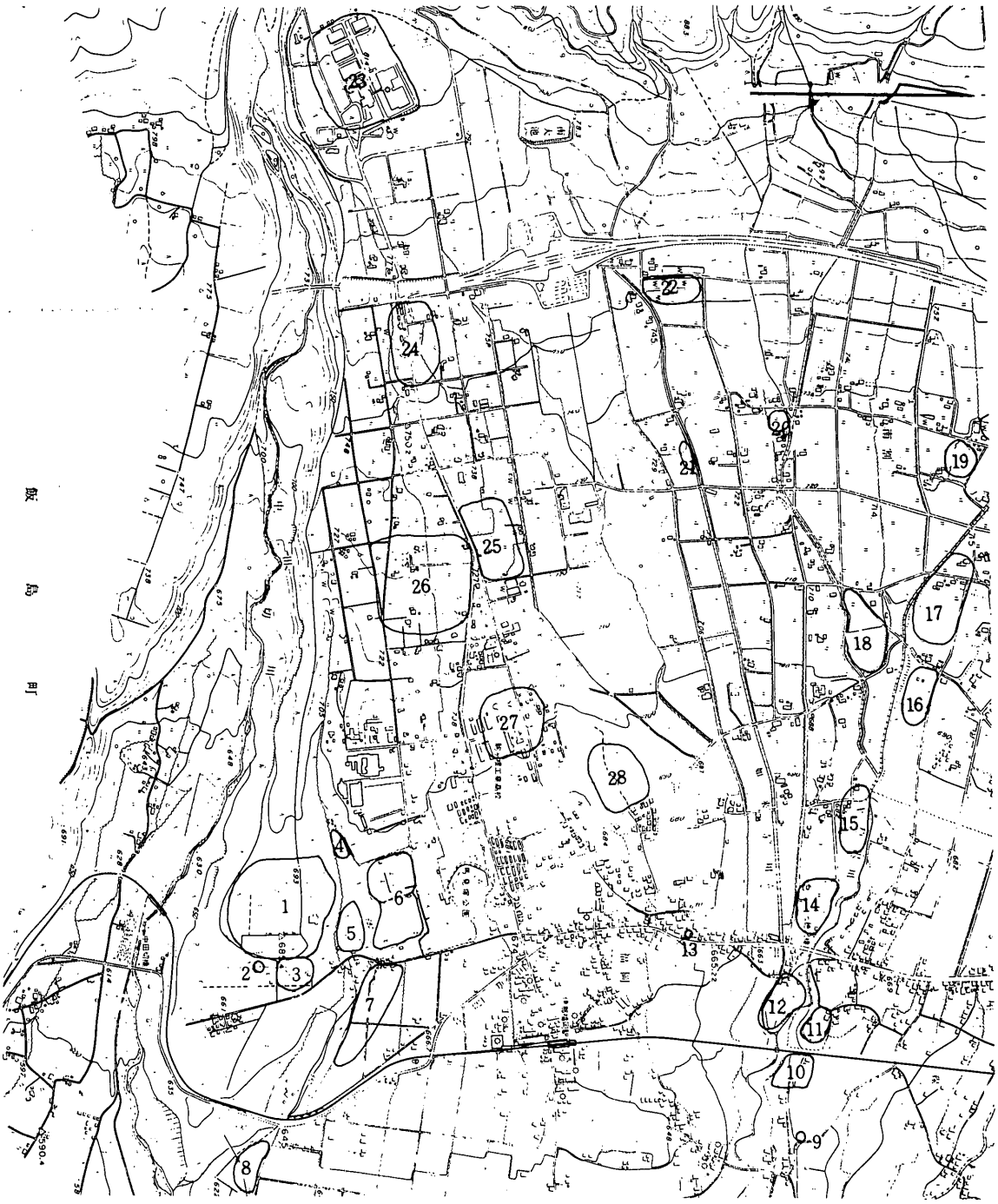
第５図　辻沢南遺跡全測図（Ｓ＝１：400）



第１図　　辻沢南遺跡位置図（Ｓ＝1：200,000）



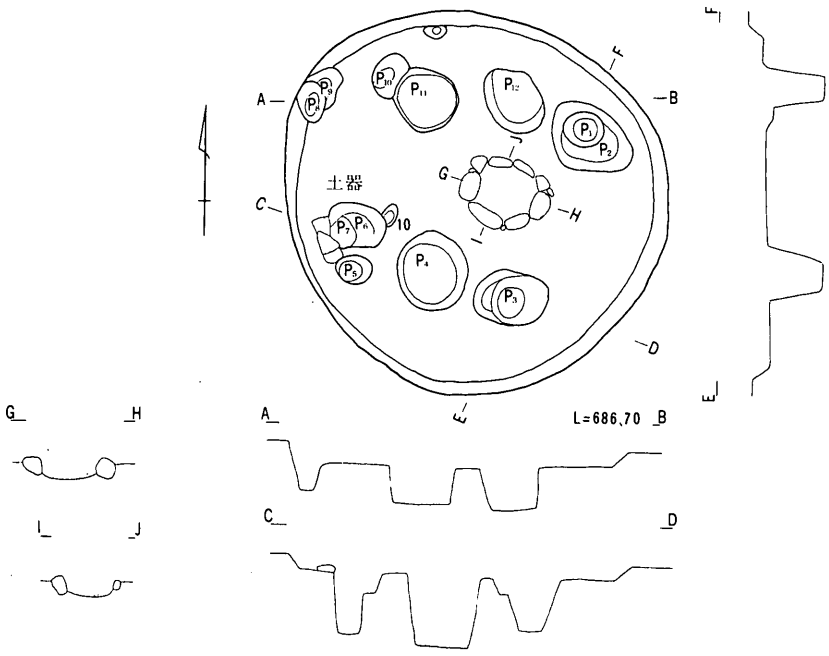
第２図　　辻沢南遺跡地形図（Ｓ＝１：３,０００）



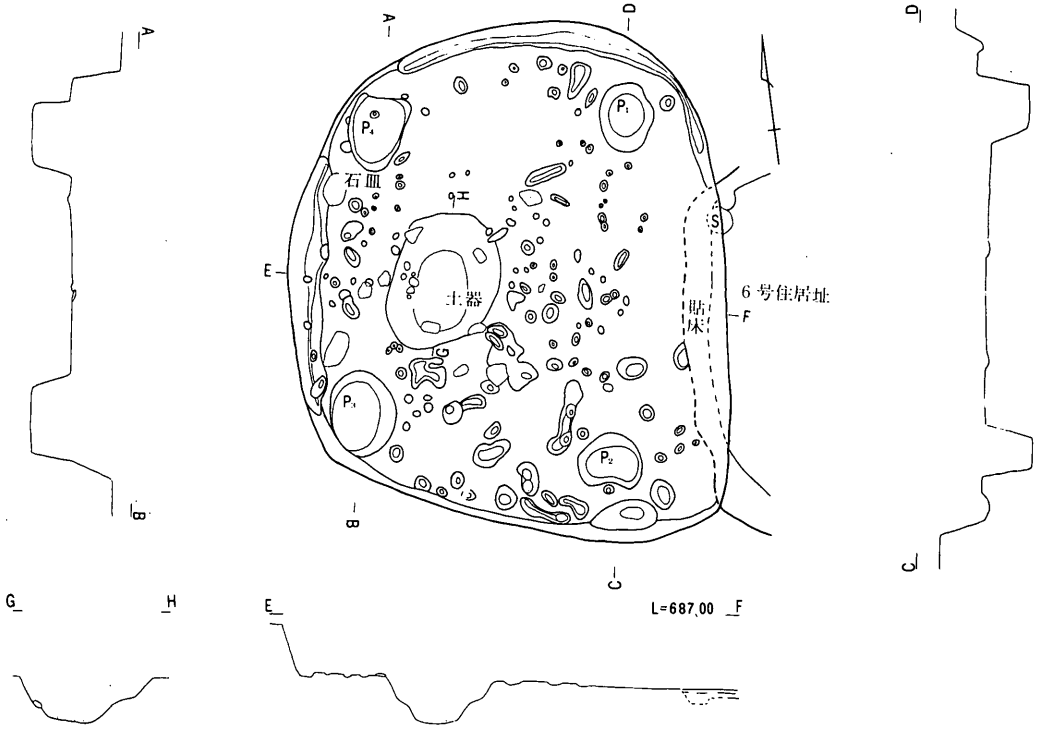
1．辻沢南　2．辻沢経塚　3．馬住の原　4．川頭　5．辻沢丸山　6．辻沢北　7．辻沢原　8．筒沢　9．丸塚　10．荒神沢　11．小町屋　12．如来寺　13．南酪経塚　14．舟山　15．羽場下　16．藤助畑　17．八幡原　18．大城林　19．北方　20．湯原　21．南原　22．横前新田　23．養命酒工場用地内遺跡　24．大徳原　25．大原北　26．大原南　27．駒ヶ根工業高校　28．十二天

第3図　辻沢南遺跡と周辺の遺跡（S＝1：20,000）

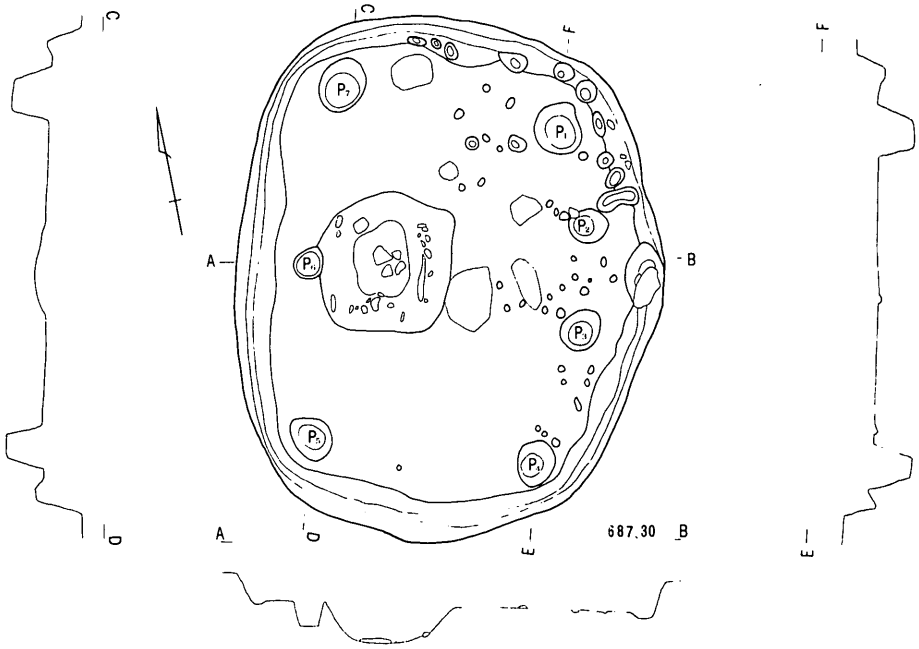
第４図　辻沢南遺跡遺構概略図　CS＝1：1000



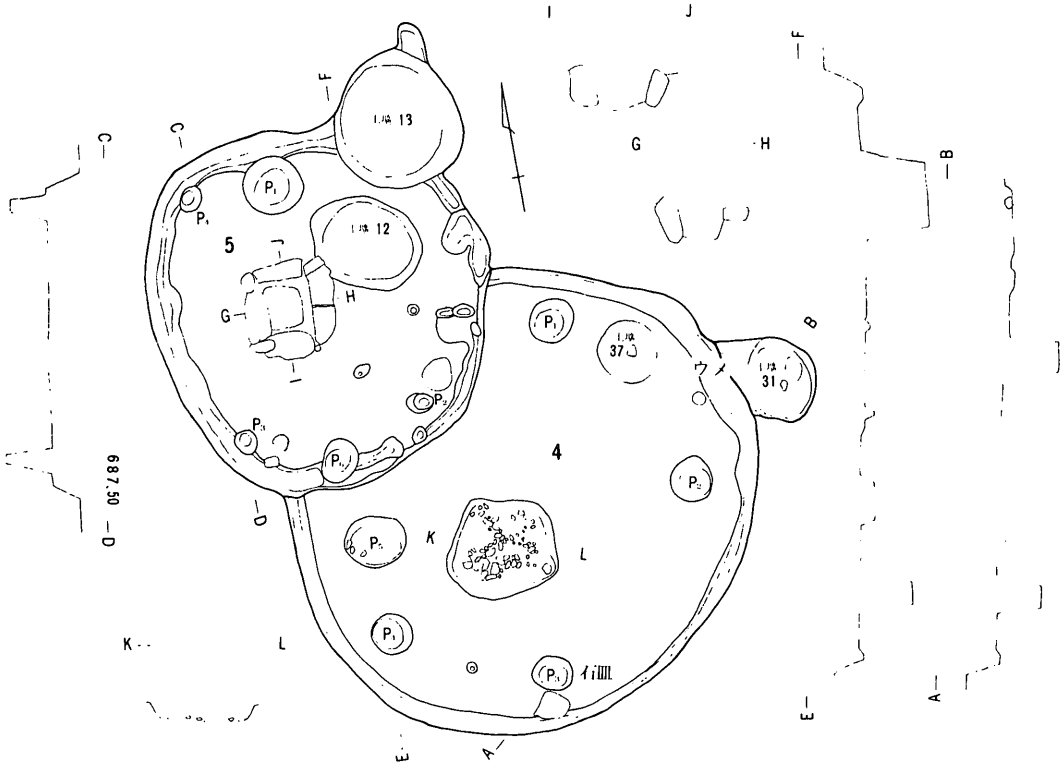
第6図　第1号住居址実測図(S＝1：80)



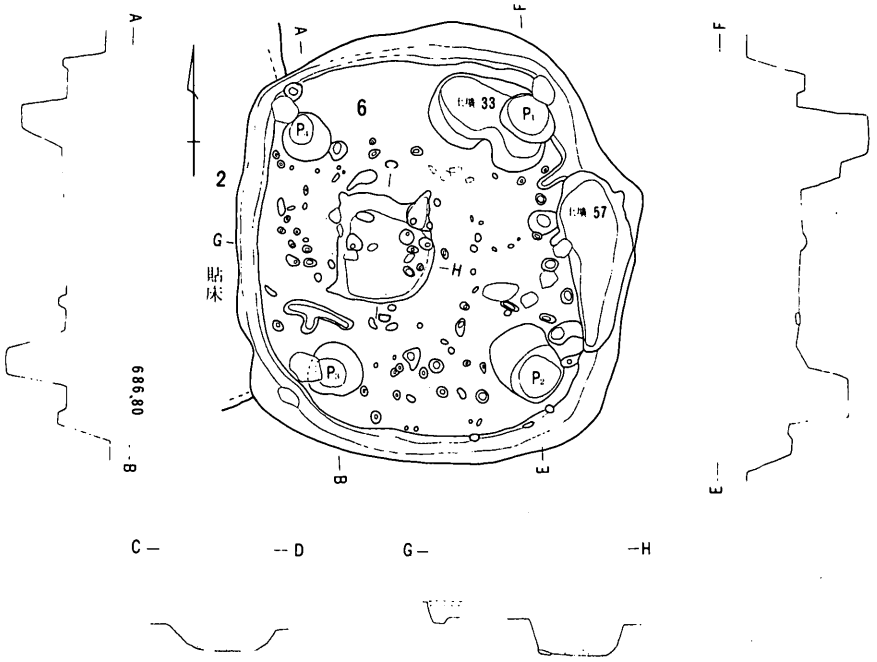
第7図　第2号住居址実測図(S＝1：80)



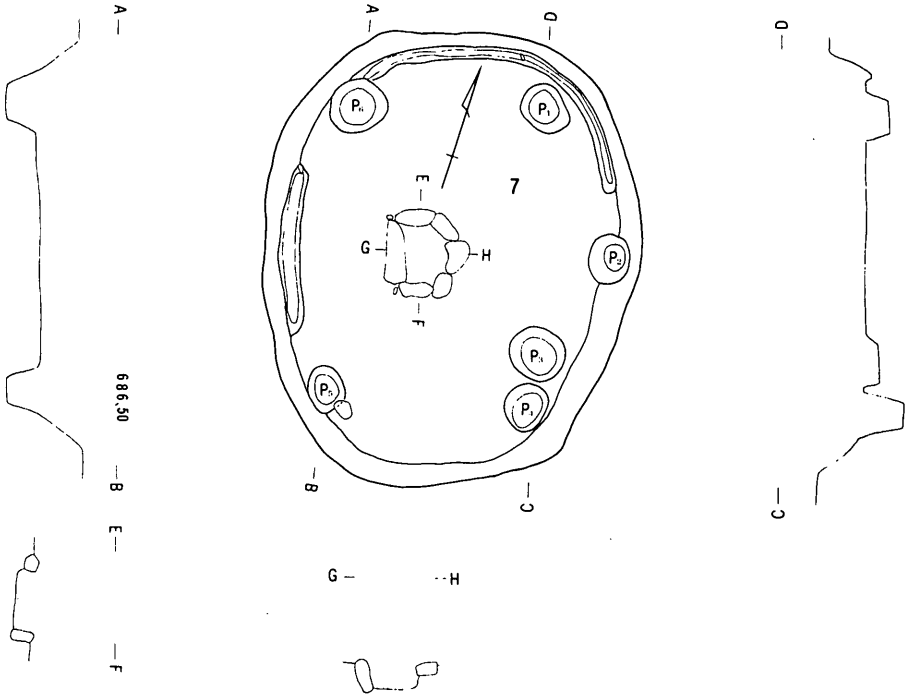
第 8 図　　第 3 号住居址実測図(S＝1：80)



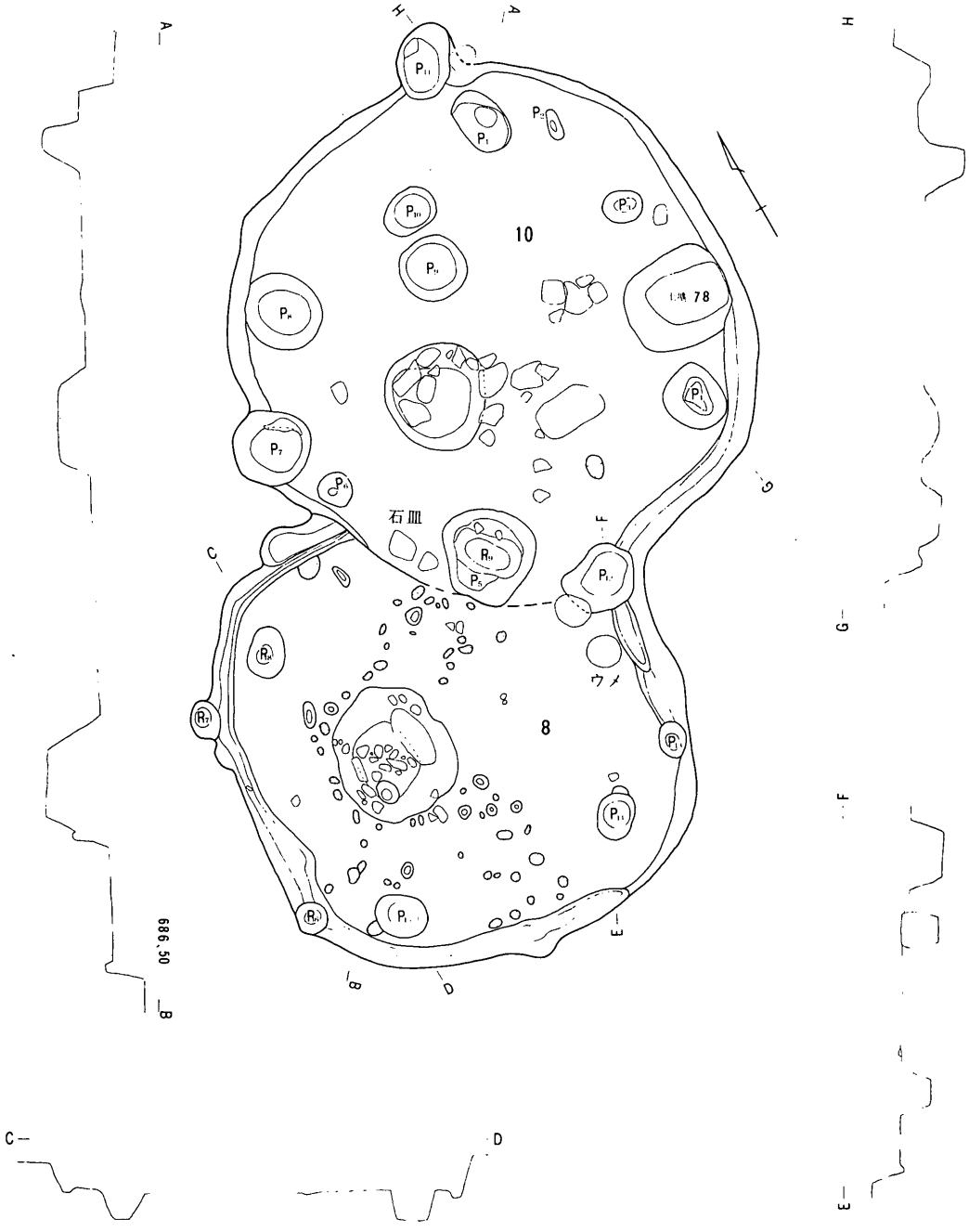
第 9 図　　第 4 号・第 5 号住居址実測図(S＝1：80)



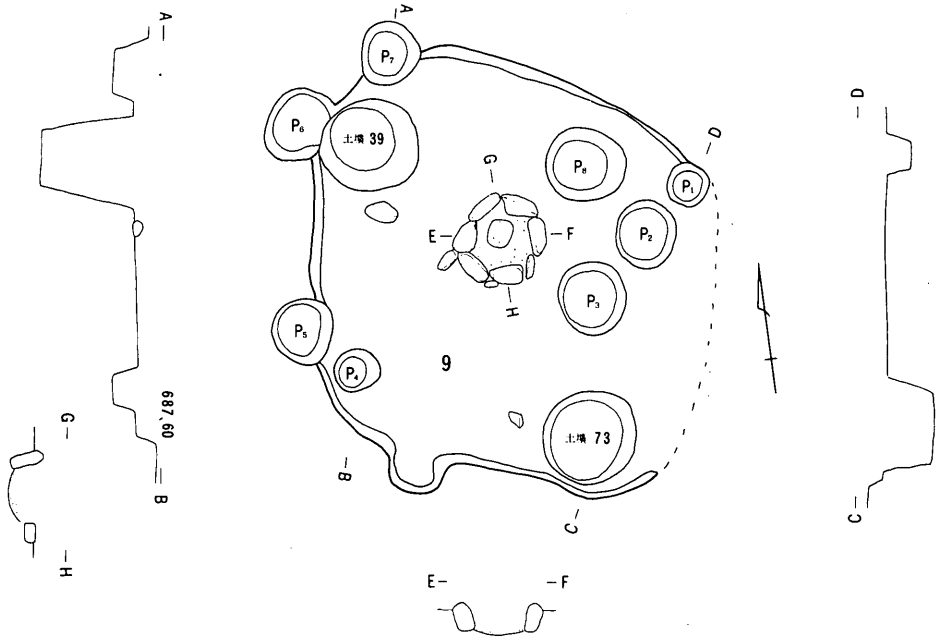
第10図　第 6 号住居址実測図(S＝1：80)



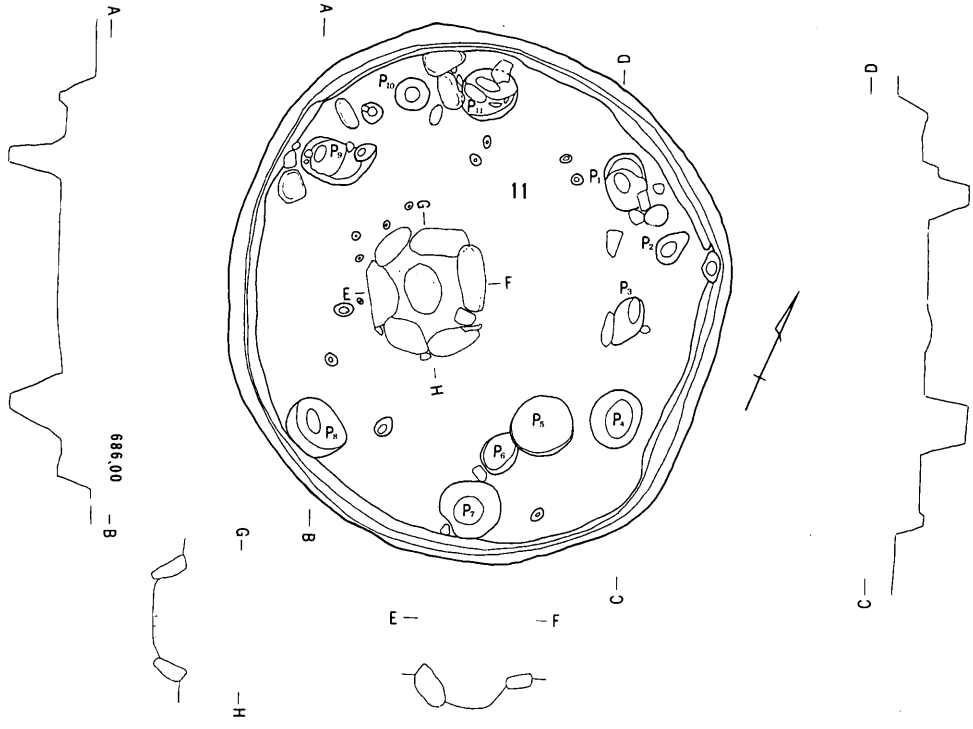
第11図　第 7 号住居址実測図(S＝1：80)



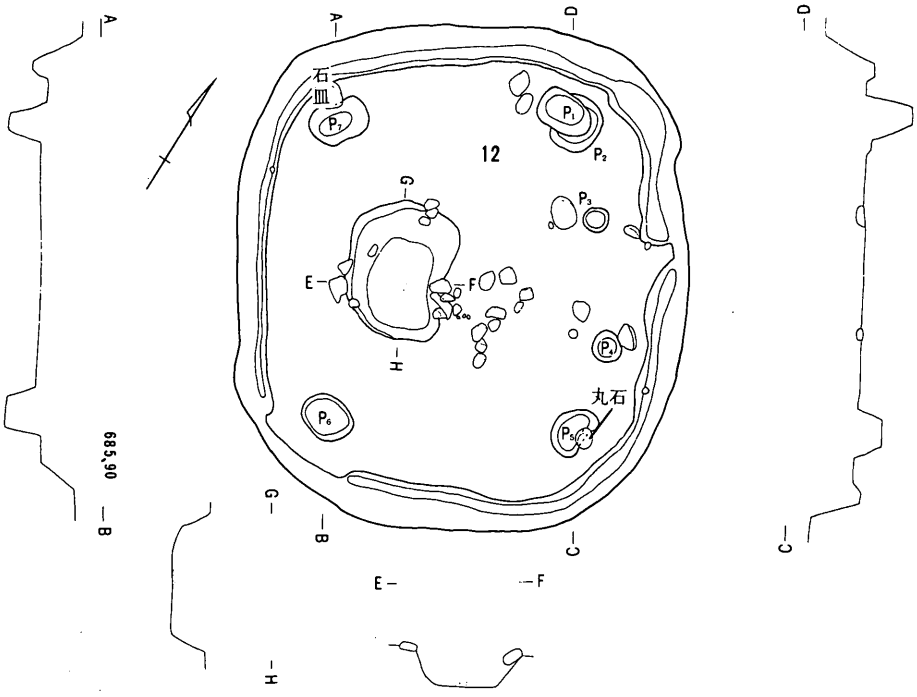
第12図　第８号・第10号住居址実測図（Ｓ＝１：80）



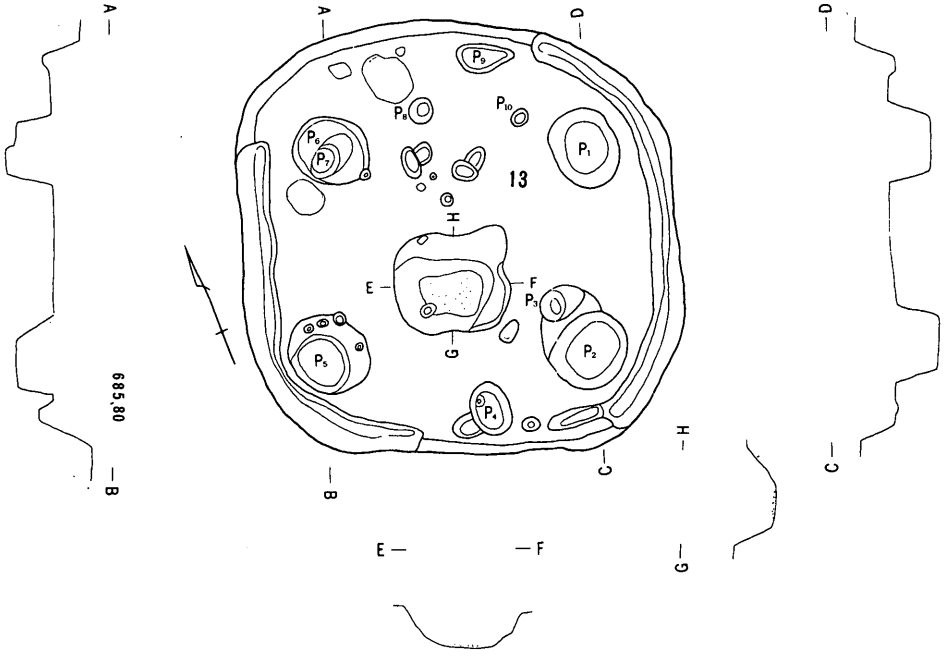
第13図　第９号住居址実測図(Ｓ＝1：80)



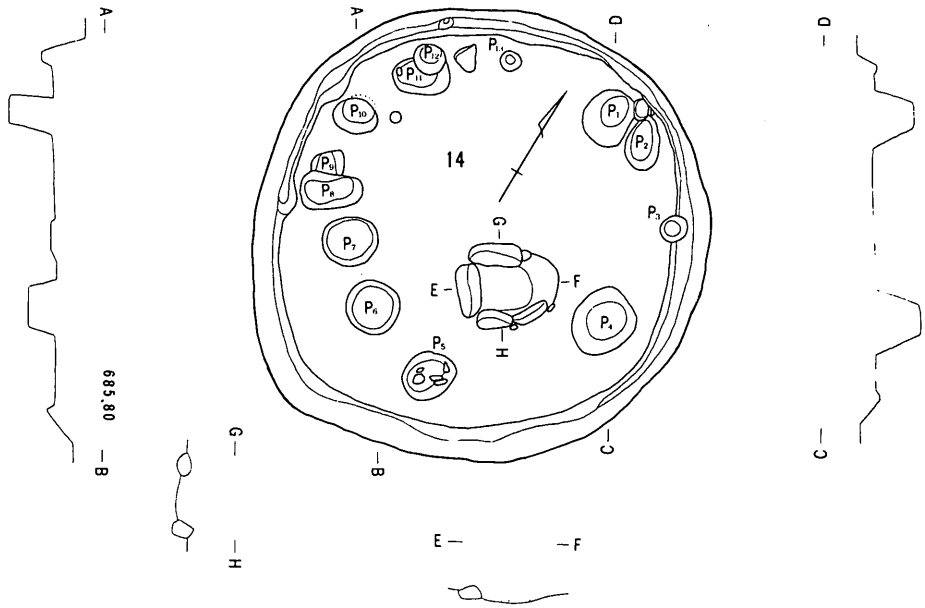
第14図　第11号住居址実測図(Ｓ＝1：80)



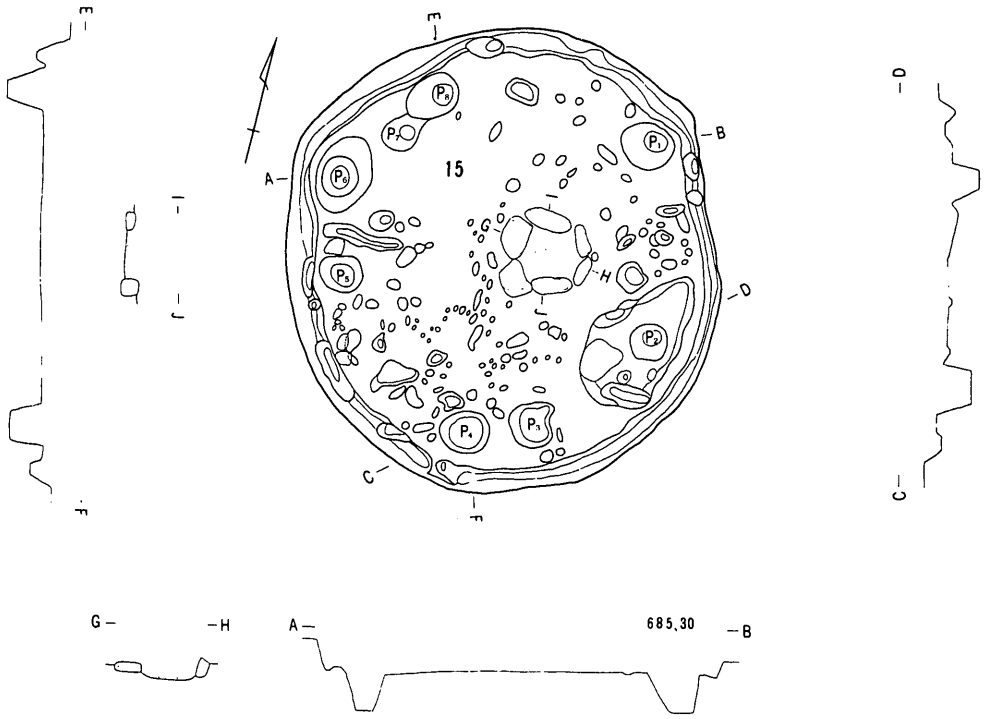
第15図　第12号住居址実測図(S＝1：80)



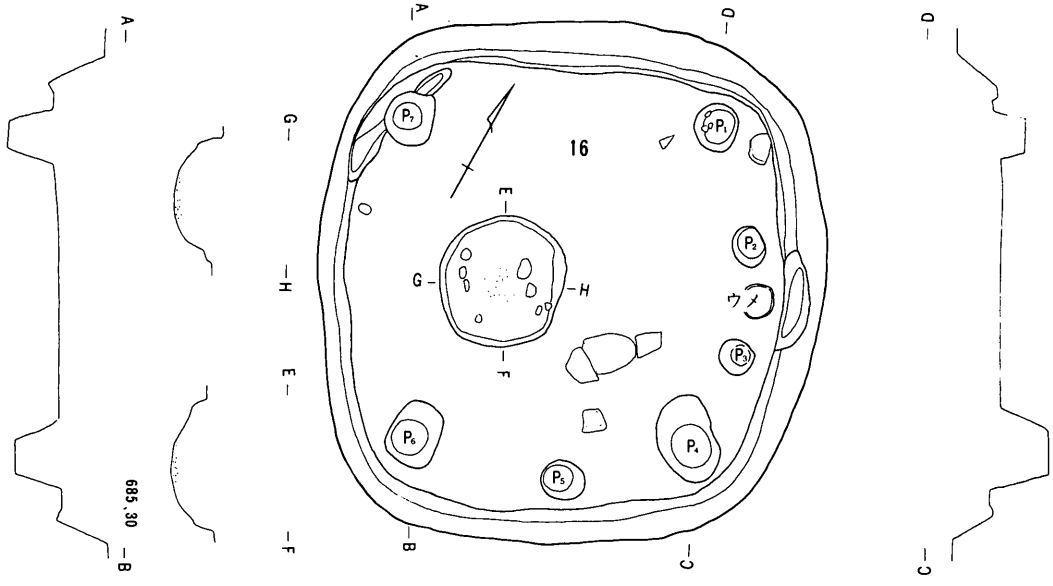
第16図　第13号住居址実測図(S＝1：80)



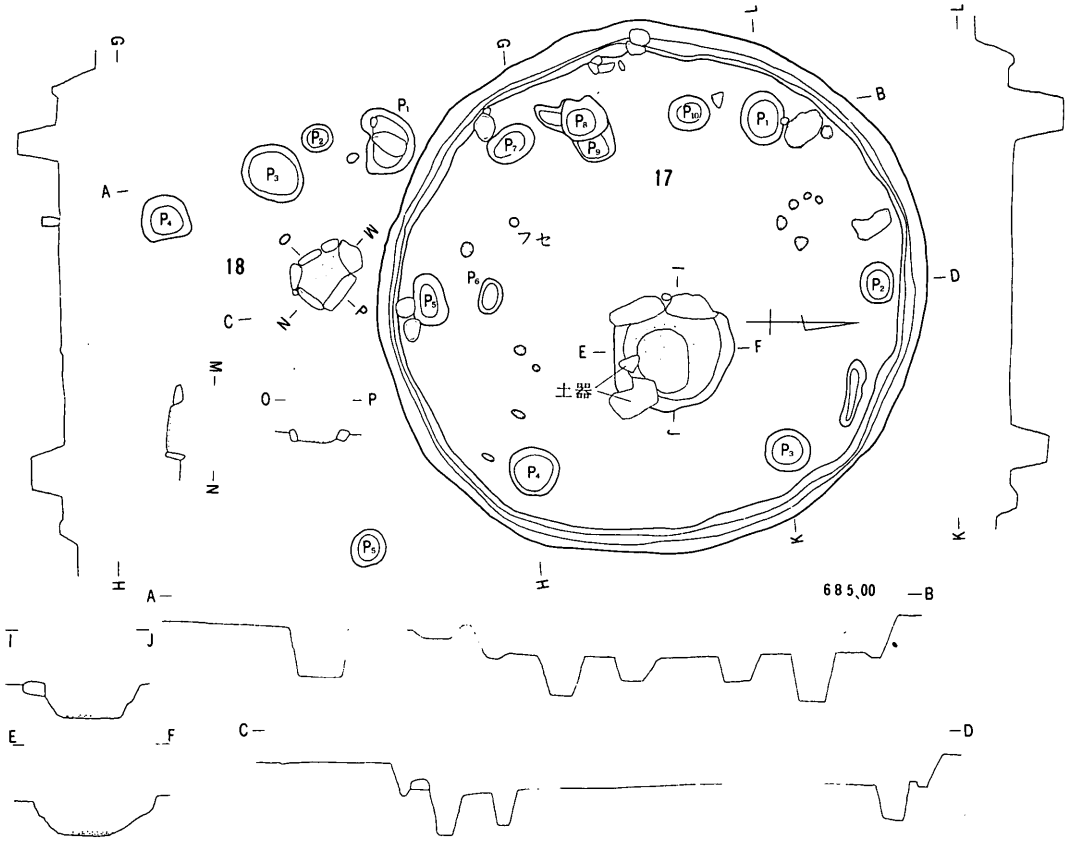
第17図　第14号住居址実測図(S＝1：80)



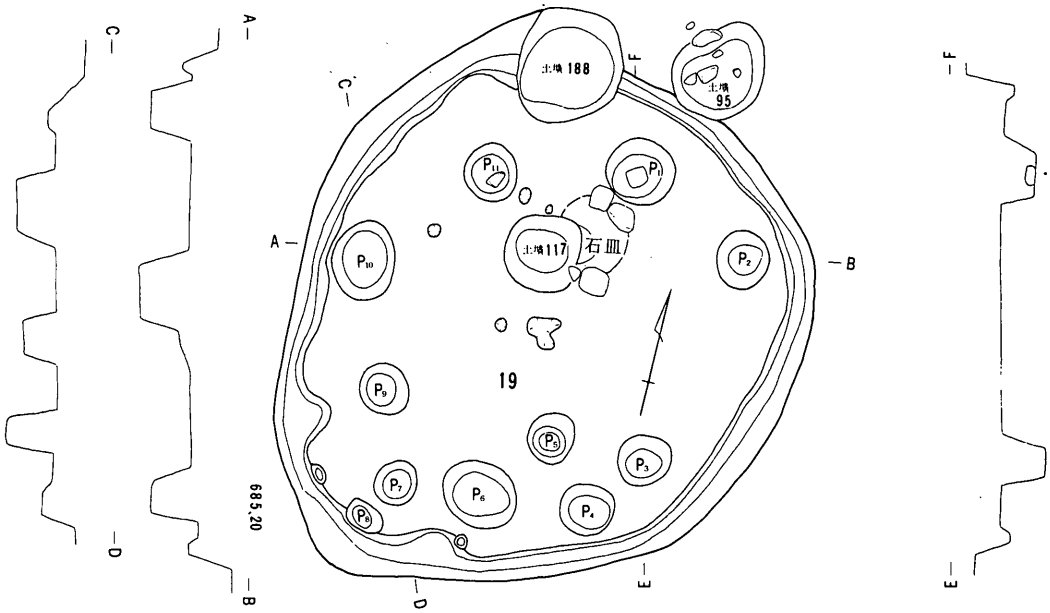
第18図　第15号住居址実測図(S＝1：80)



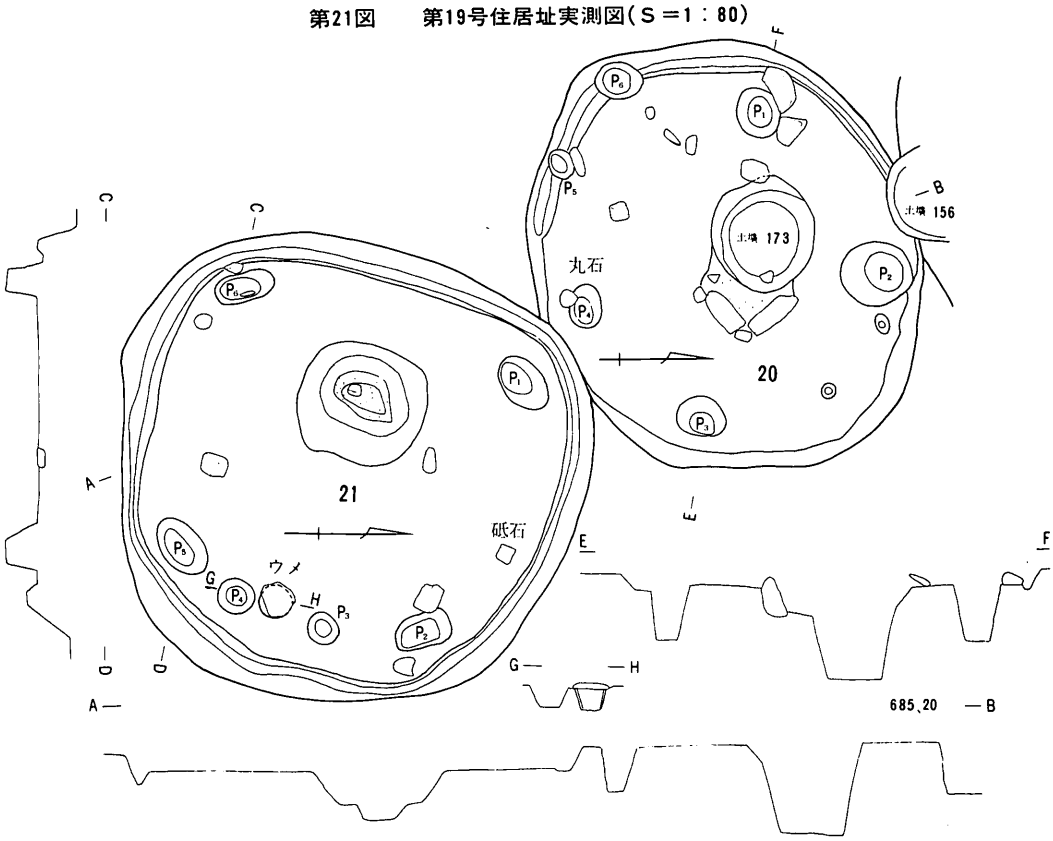
第19図　第16号住居址実測図(S＝1：80)



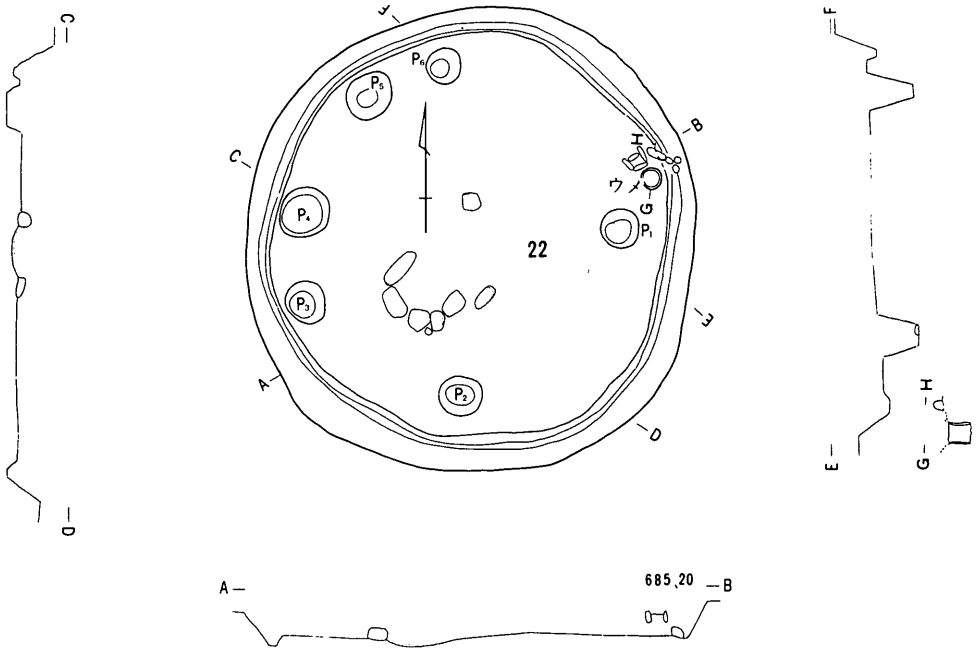
第20図　第17号・第18号住居址実測図(S＝1：80)



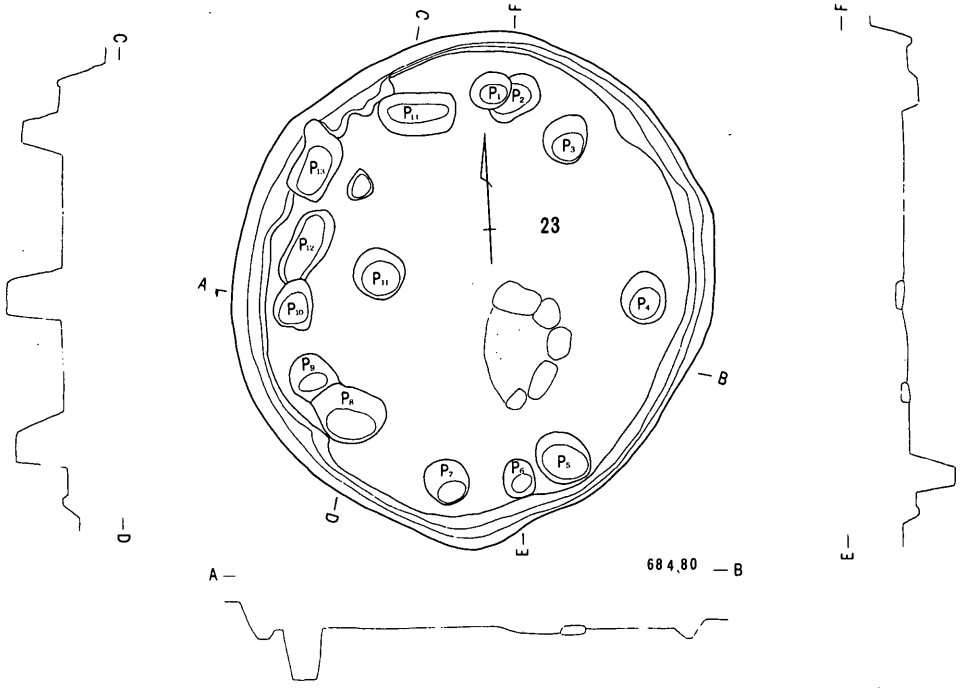
第21図　　第19号住居址実測図(S＝1：80)



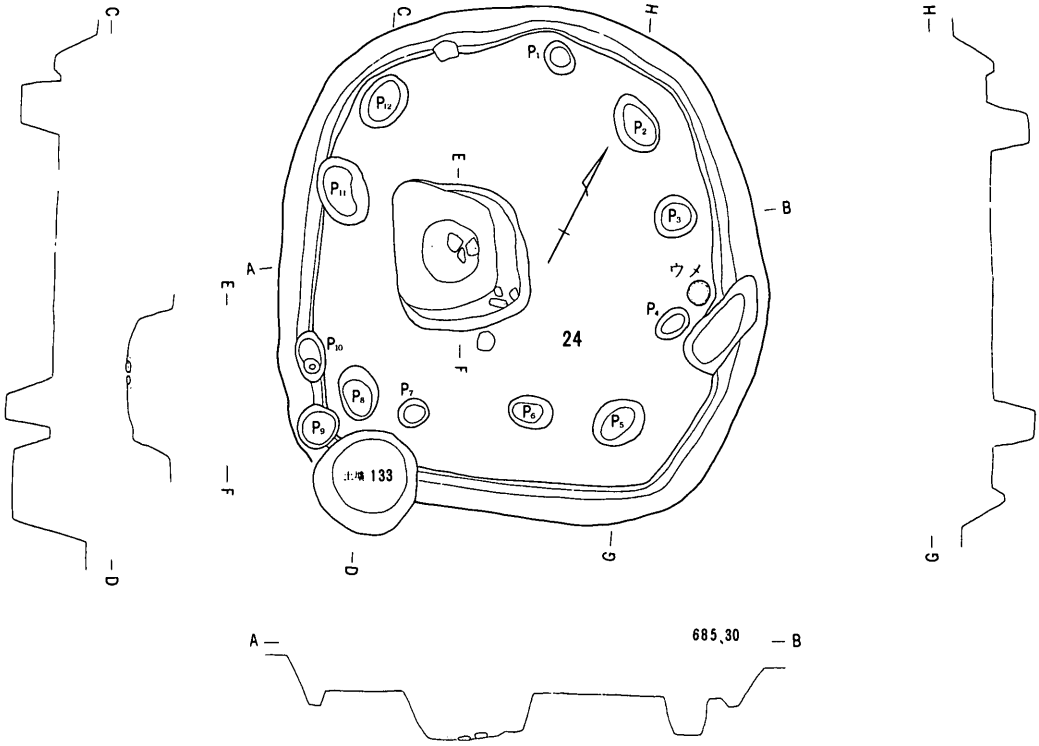
第22図　　第20号・第21号住居址実測図(S＝1：80)



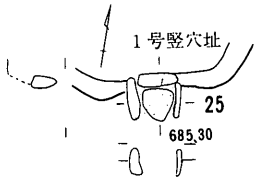
第23図　第22号住居址実測図(S＝1：80)

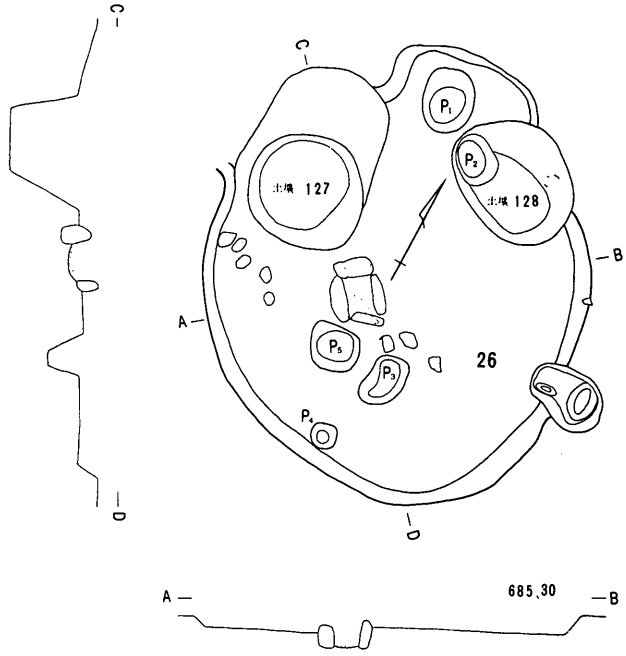


第24図　第23号住居址実測図(S＝1：80)



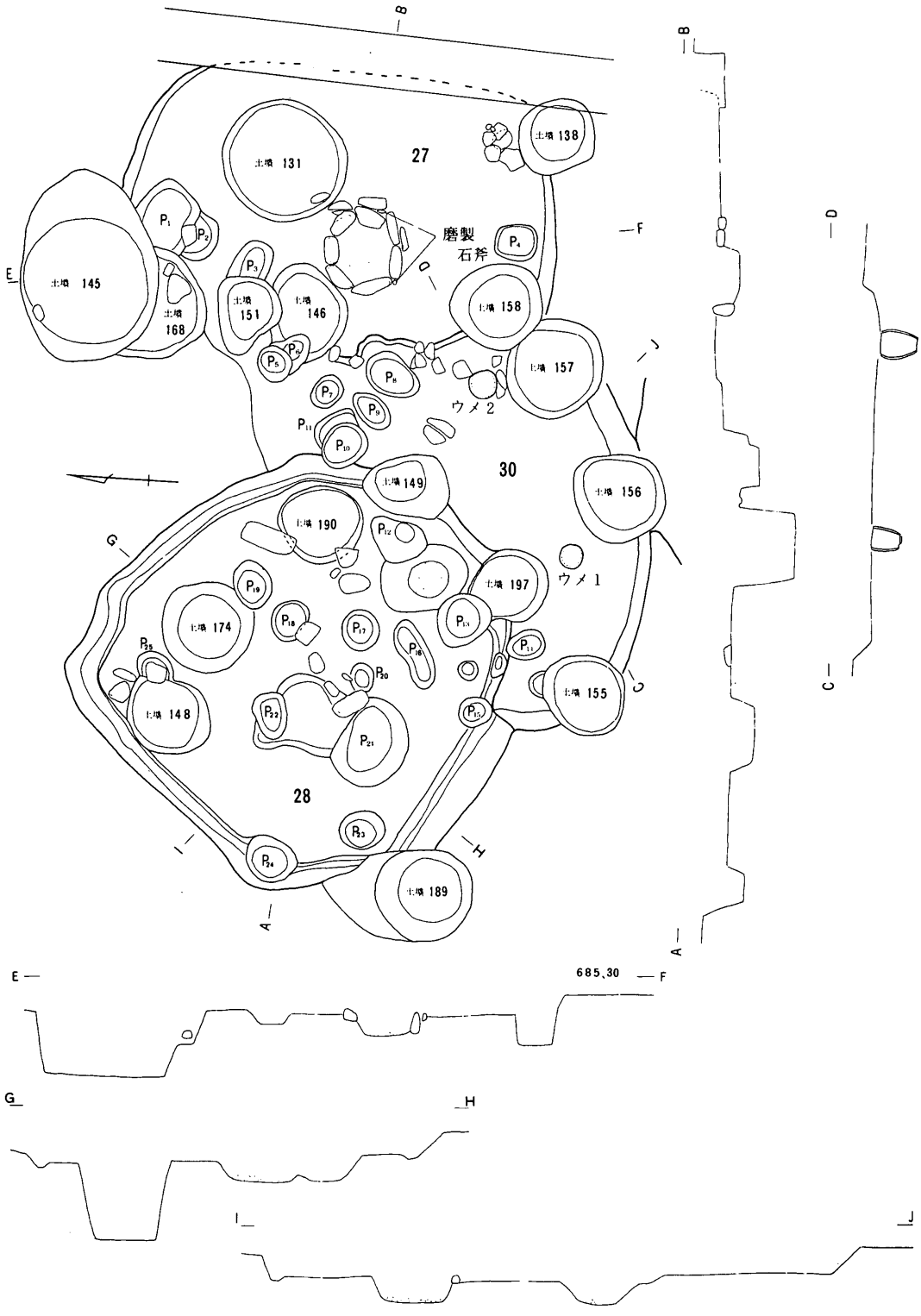
第25図　第24号住居址実測図(S＝1：80)



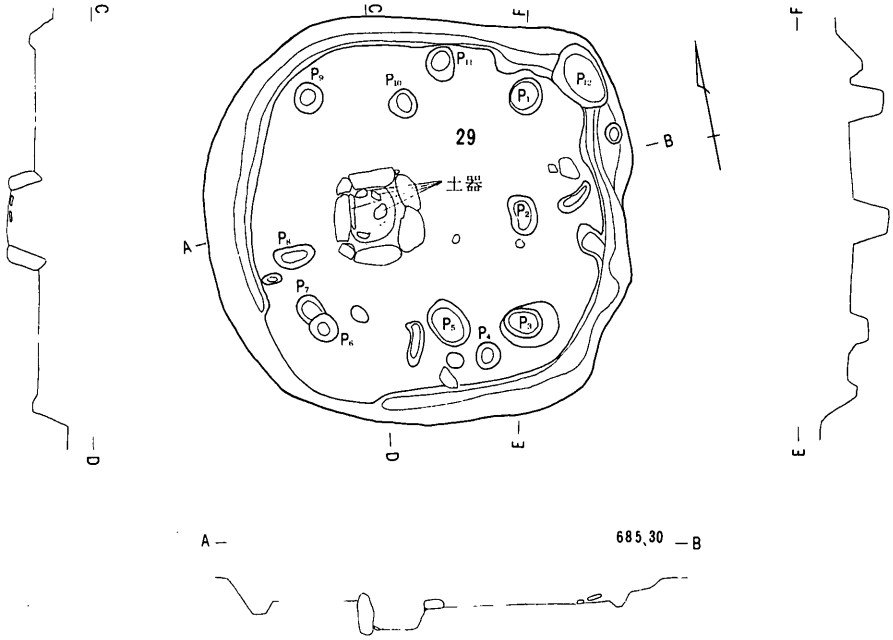


第26図　第25号住居址実測図(S＝1：80)

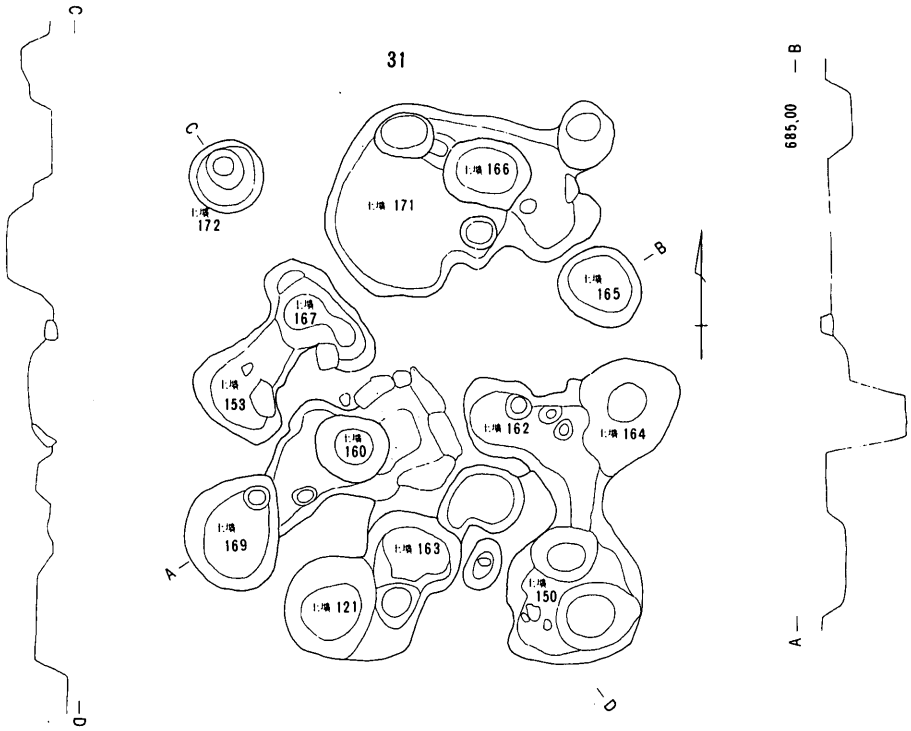
第27図　第26号住居址実測図(S＝1：80)



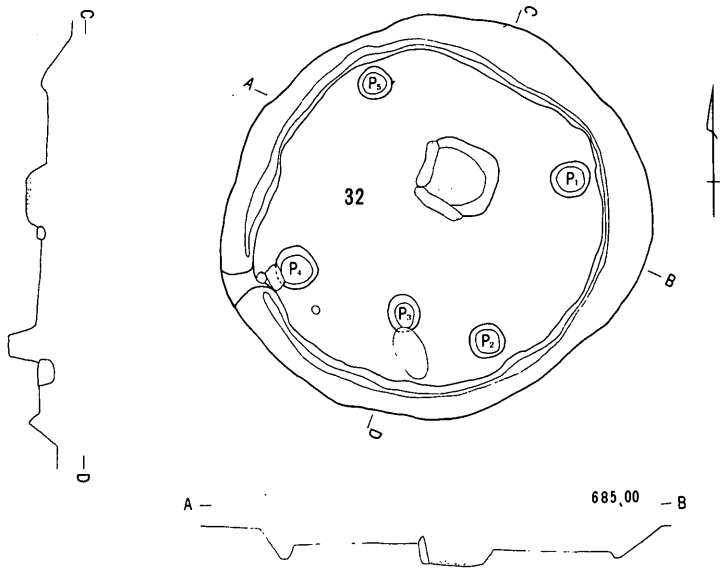
第28図　第27号・第28号・第30号住居址実測図（S＝1：80）



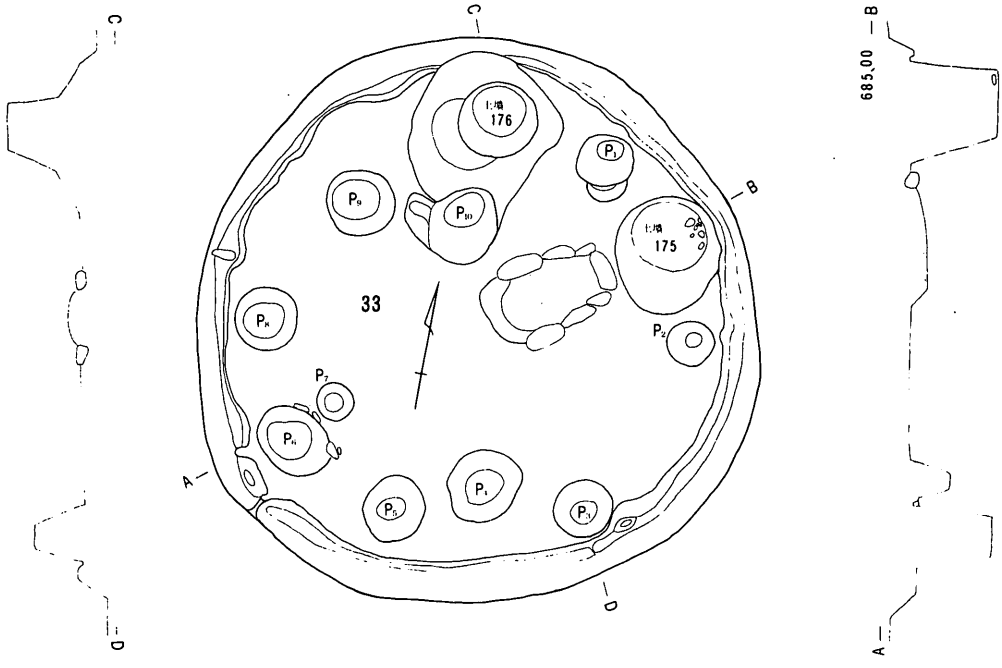
第29図　第29号住居址実測図(S＝1：80)



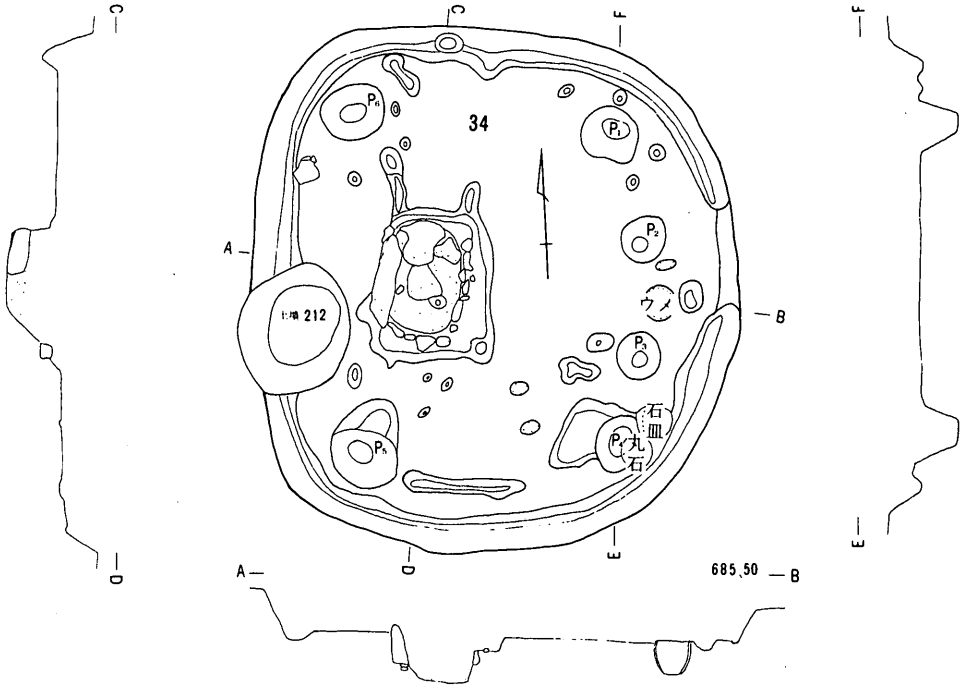
第30図　第31号住居址実測図(S＝1：80)



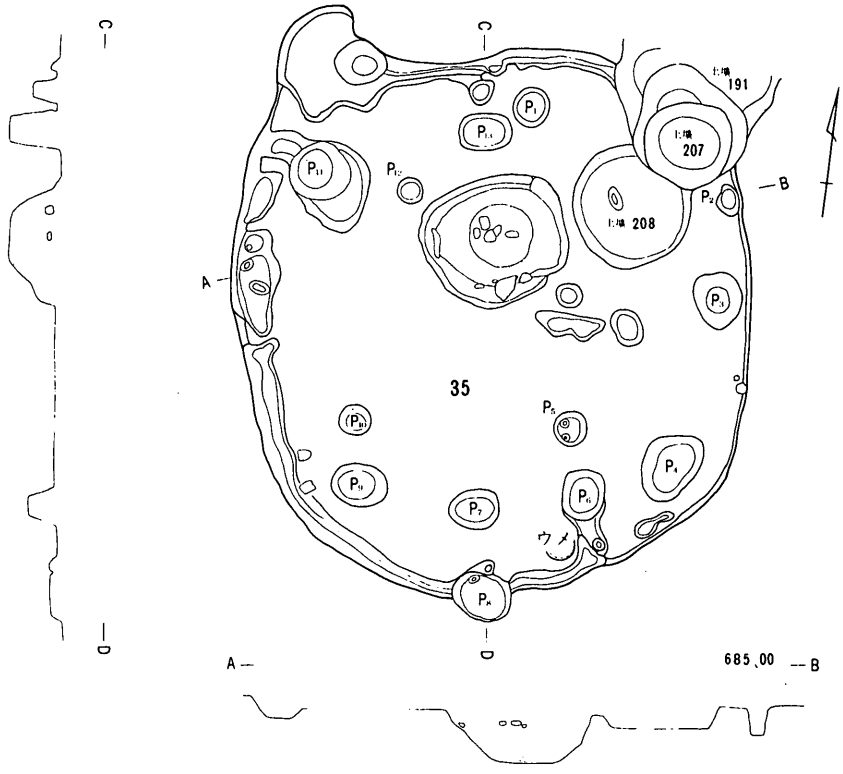
第31図　第32号住居址実測図(S＝1：80)



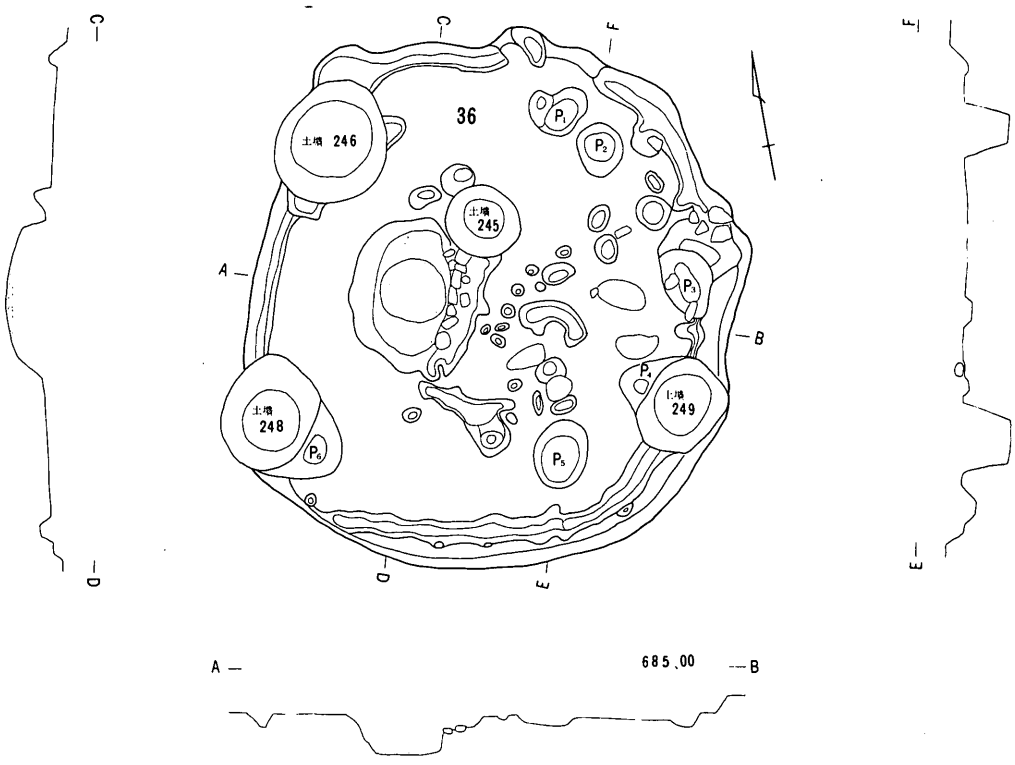
第32図　第33号住居址実測図(S＝1：80)



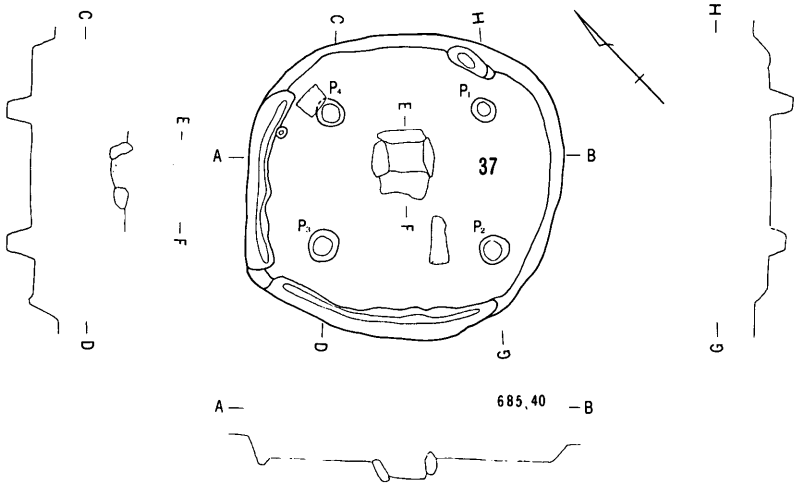
第33図　第34号住居址実測図(S＝1：80)



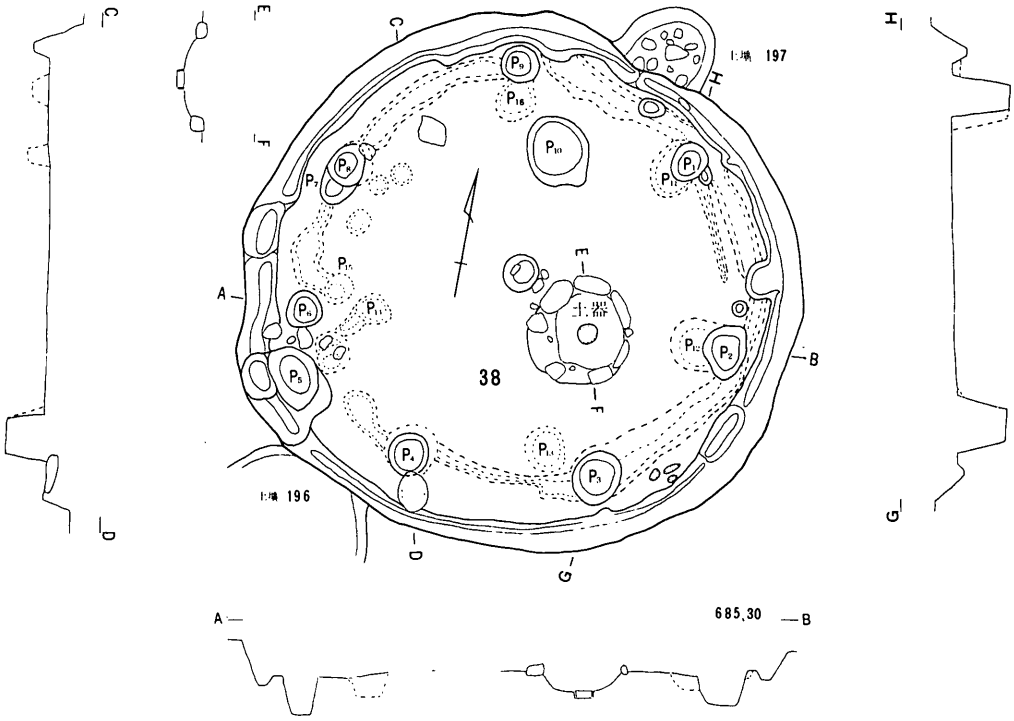
第34図　第35号住居址実測図(S＝1：80)



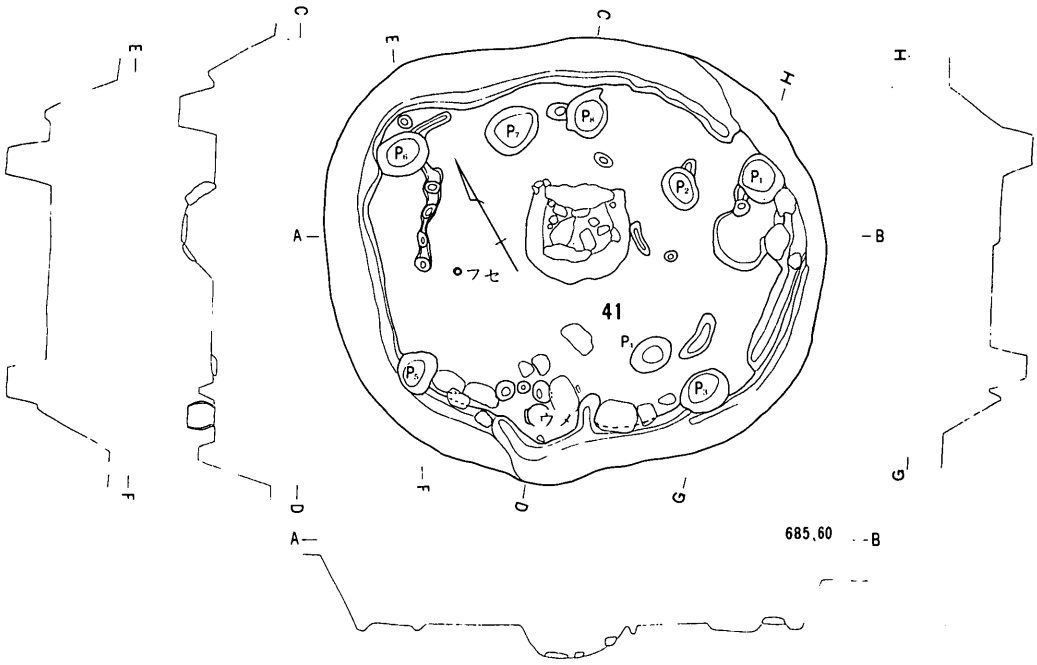
第35図　第36号住居址実測図(S＝1：80)



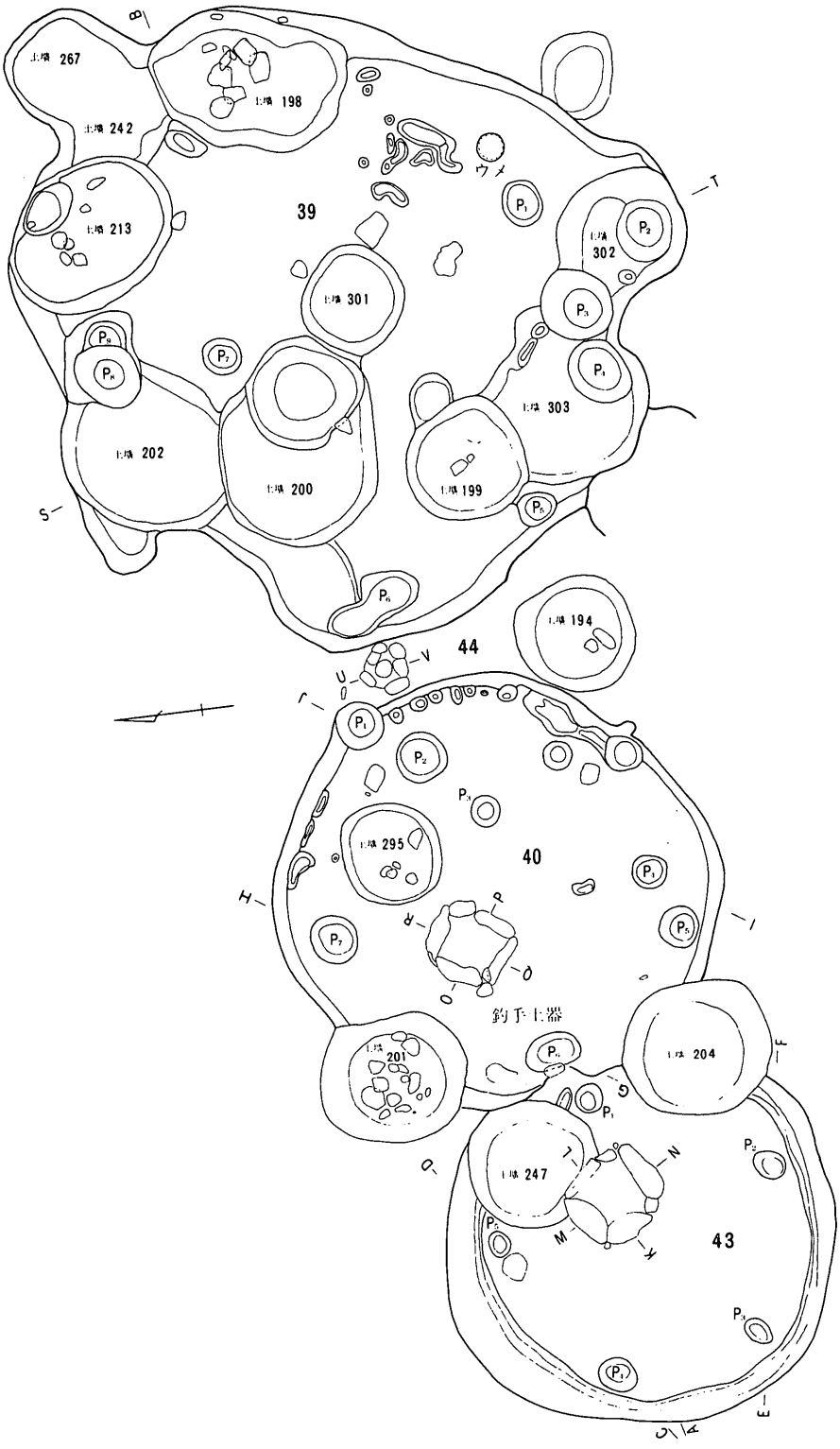
第36図　第37号住居址実測図(S＝1：80)



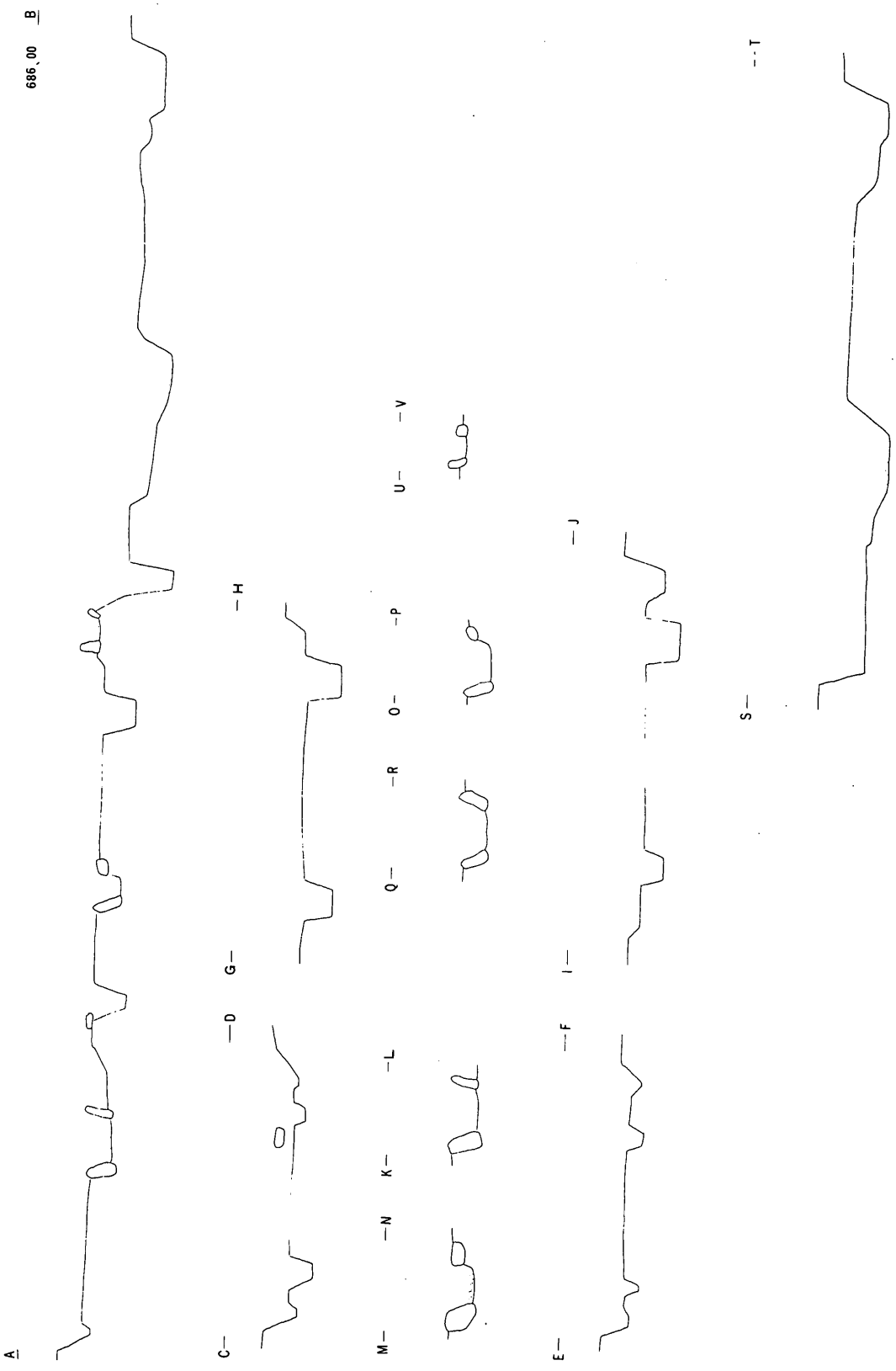
第37図　第38号住居址実測図(S＝1：80)



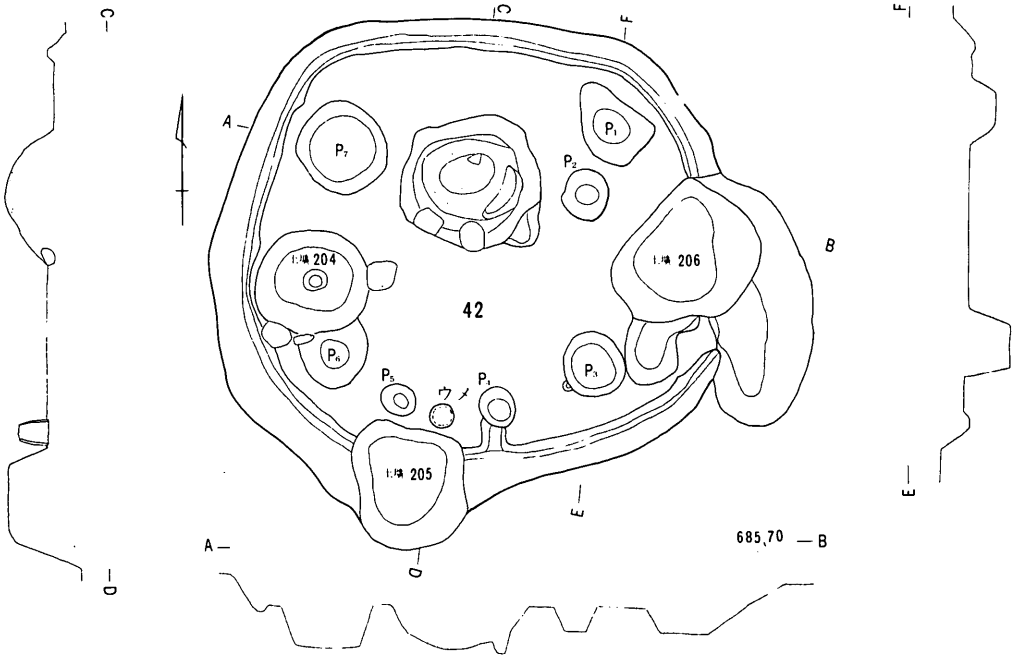
第38図　第41号住居址実測図(S＝1：80)



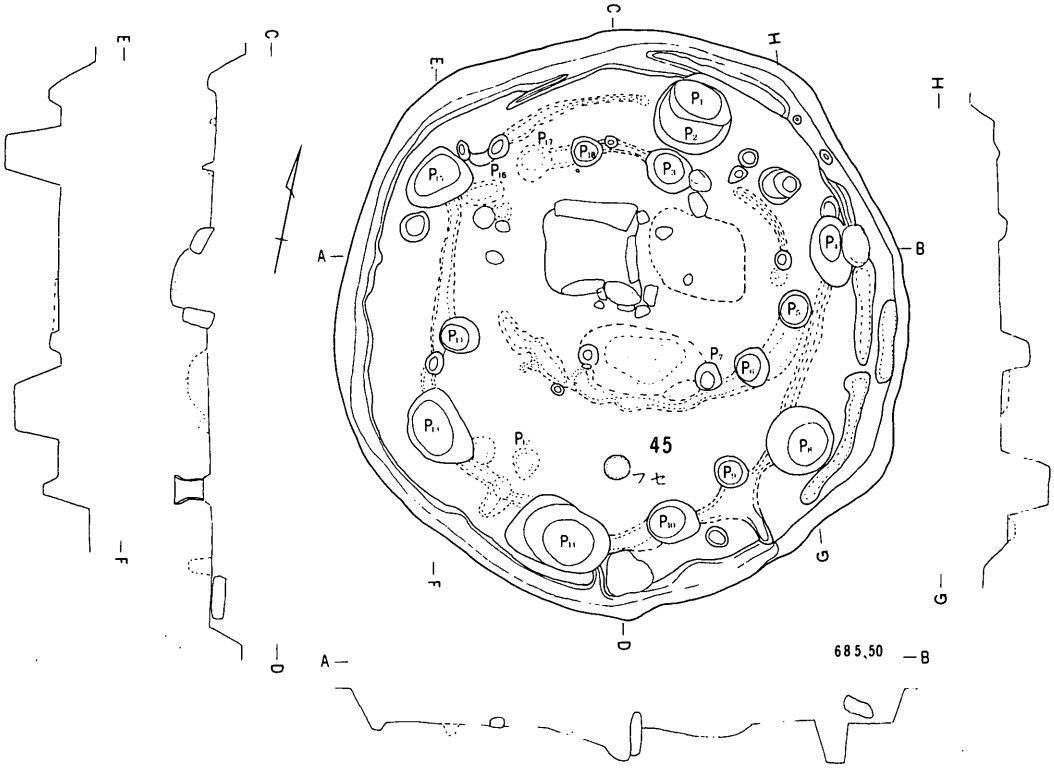
第39図　第39号・第40号・第43号・第44号住居址実測図(S＝1：80)



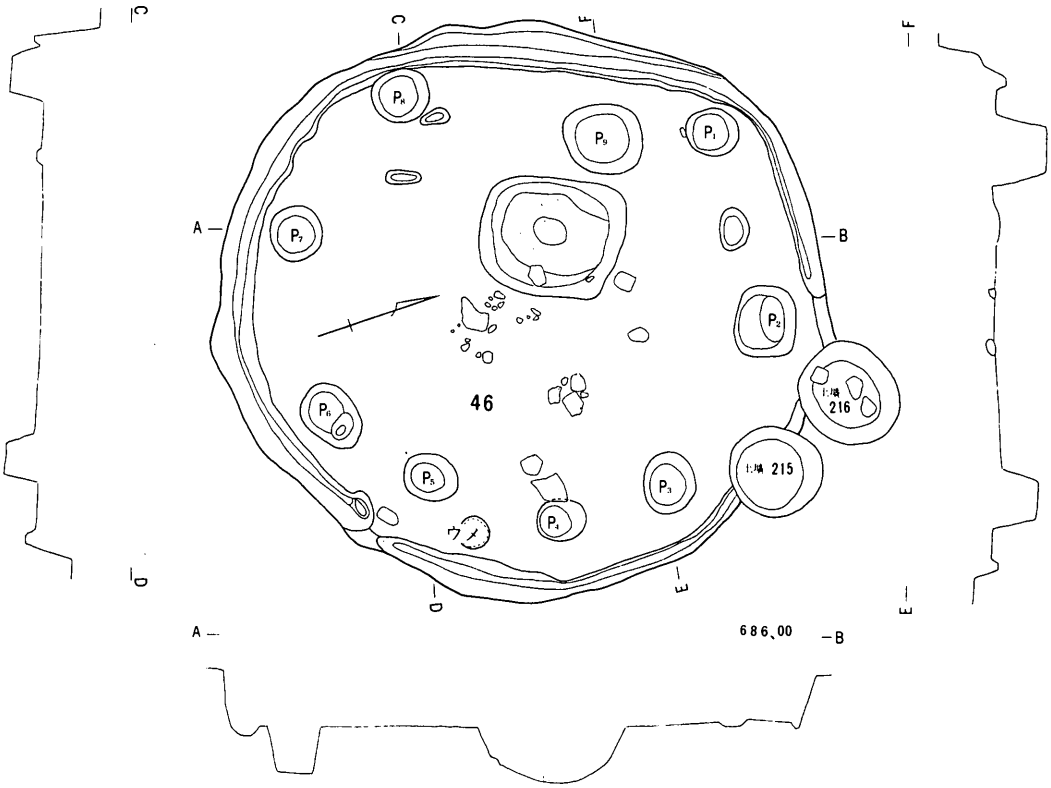
第40図　第39号・第40号・第43号・第44号住居址断面図（S＝1：80）



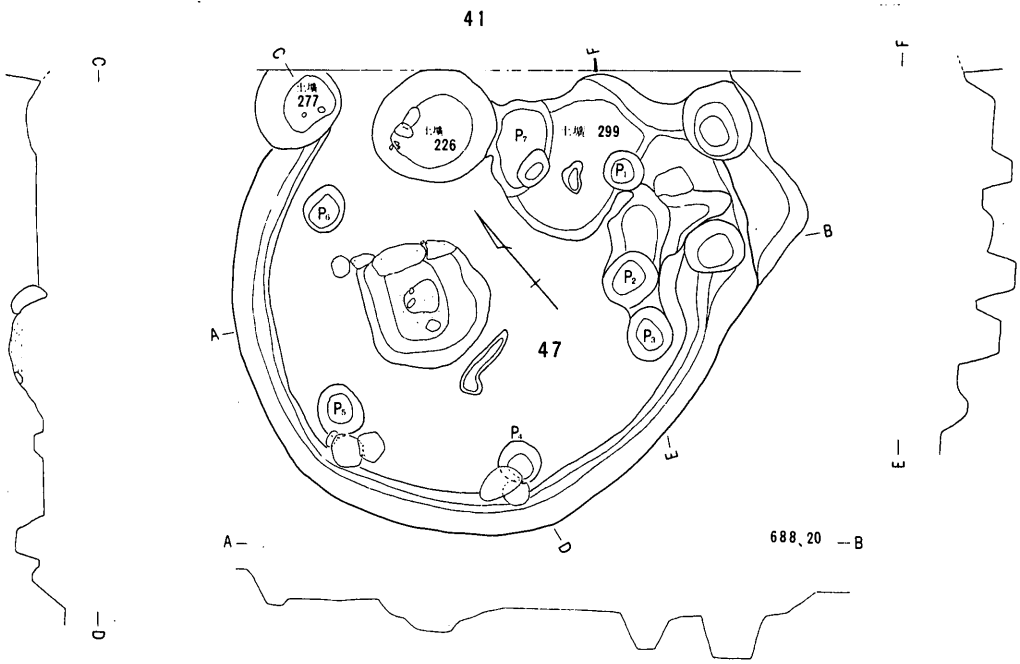
第41図　第42号住居址実測図(S＝1：80)



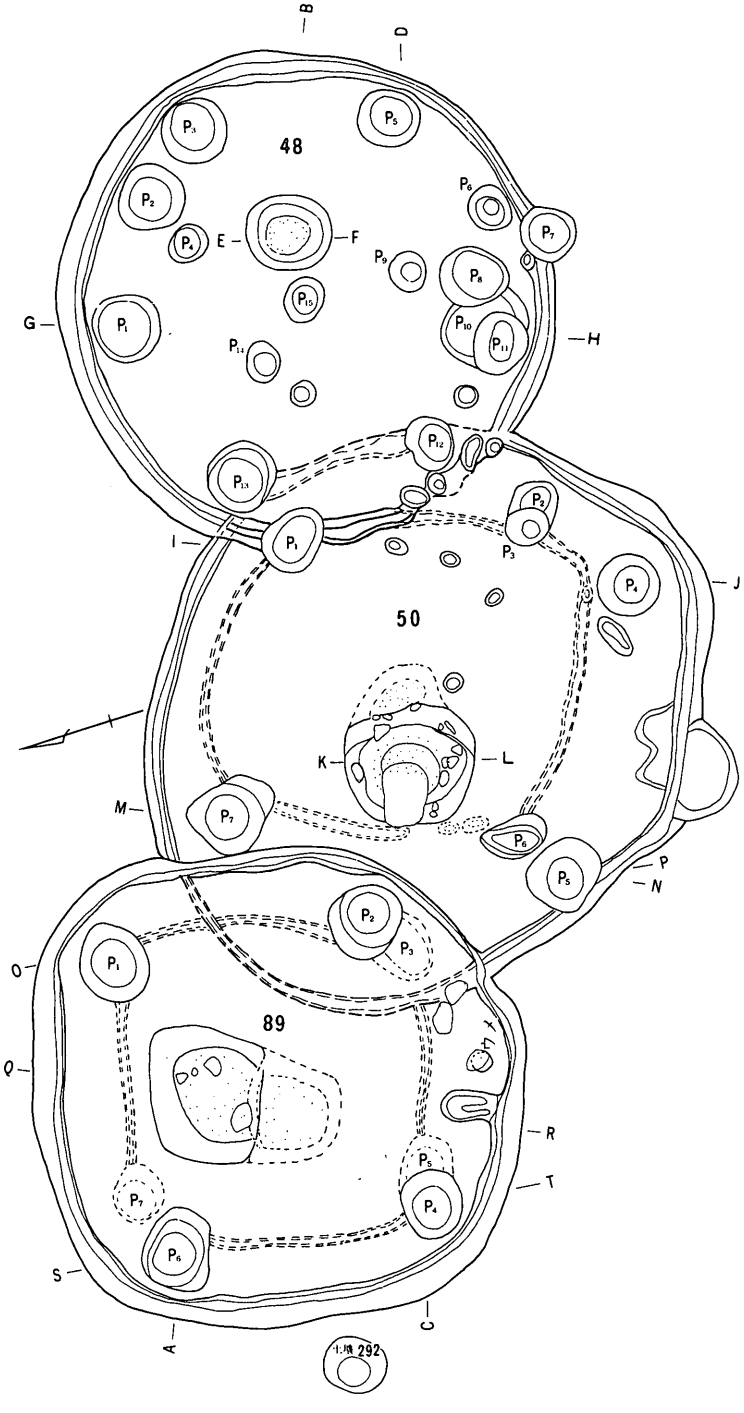
第42図　第45号住居址実測図(S＝1：80)



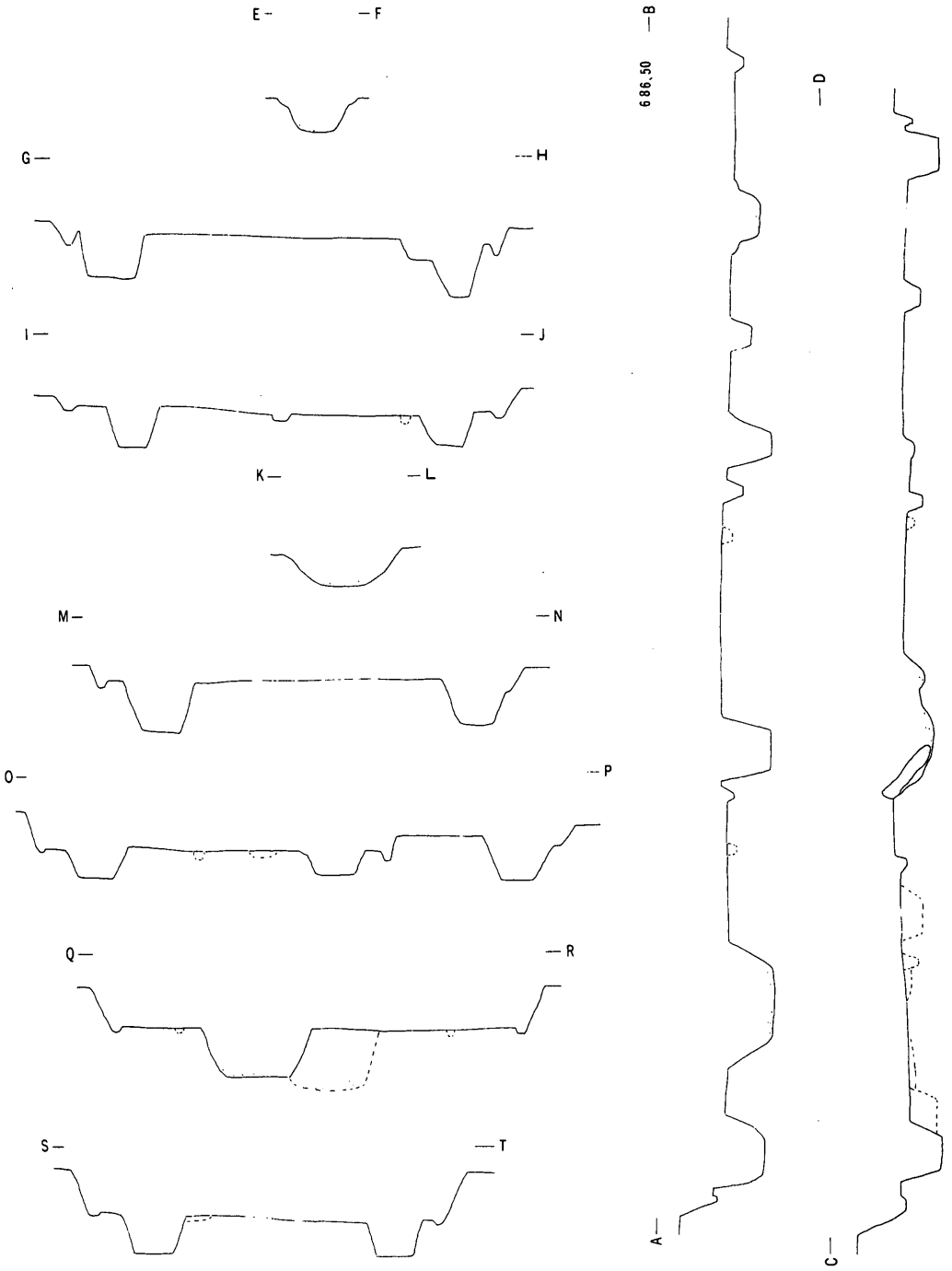
第43図　第46号住居址実測図(1：80)



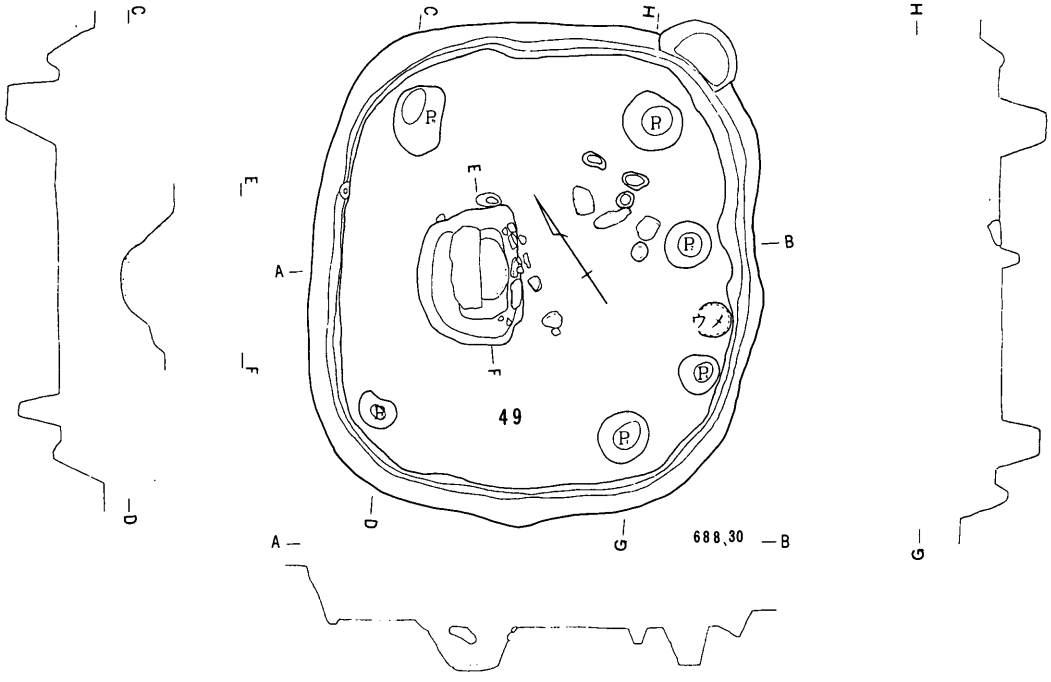
第44図　第47号住居址実測図(S＝1：80)



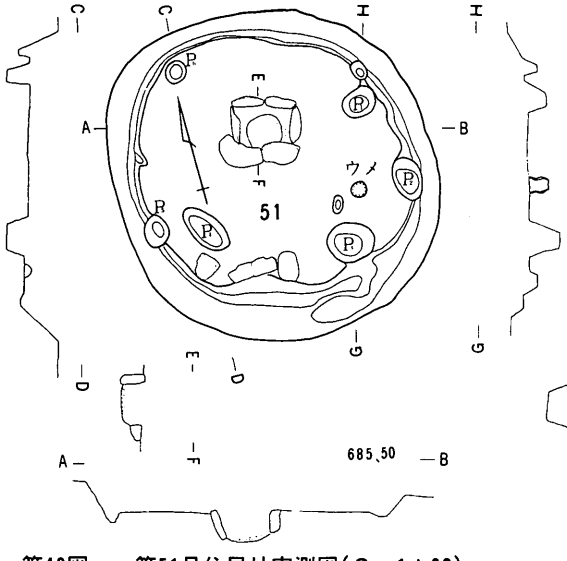
第45図　第48号・第50号・第89号住居址実測図（S＝1：80）



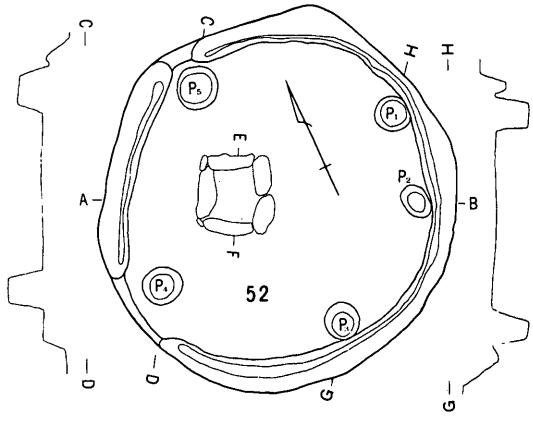
第46図　第48号・第50号・第89号住居址断面図(S＝1：80)



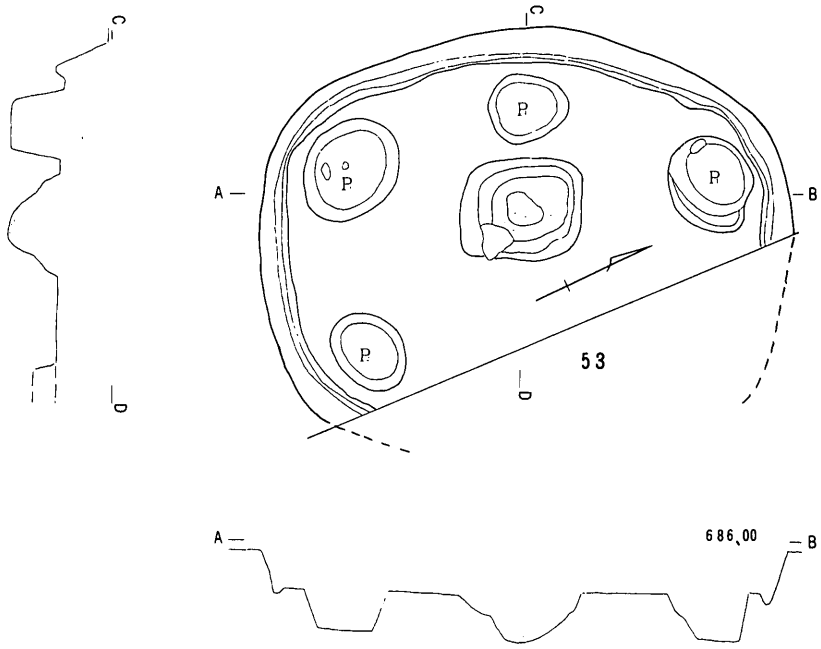
第47図　第49号住居址実測図(S＝1：80)



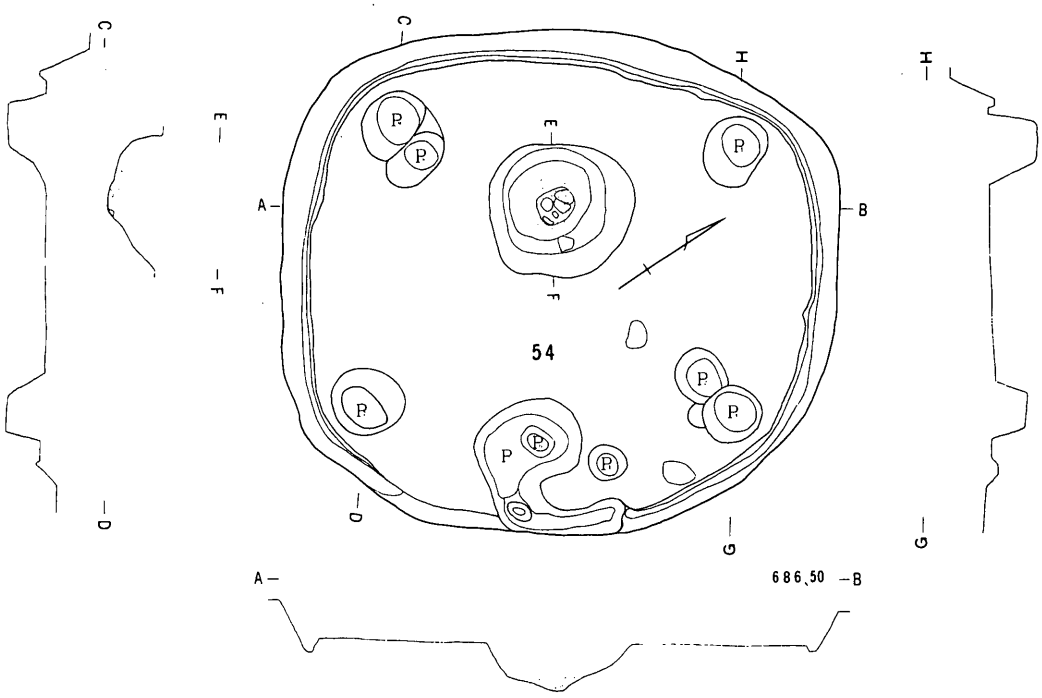
第48図　第51号住居址実測図(S＝1：80)



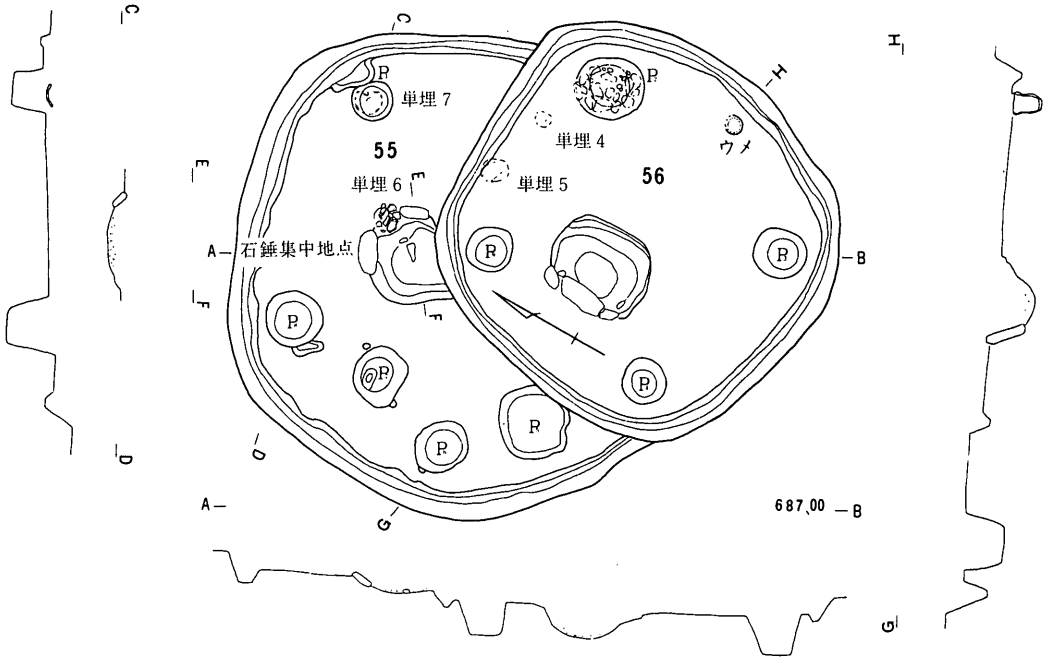
第49図　第52号住居址実測図(S＝1：80)



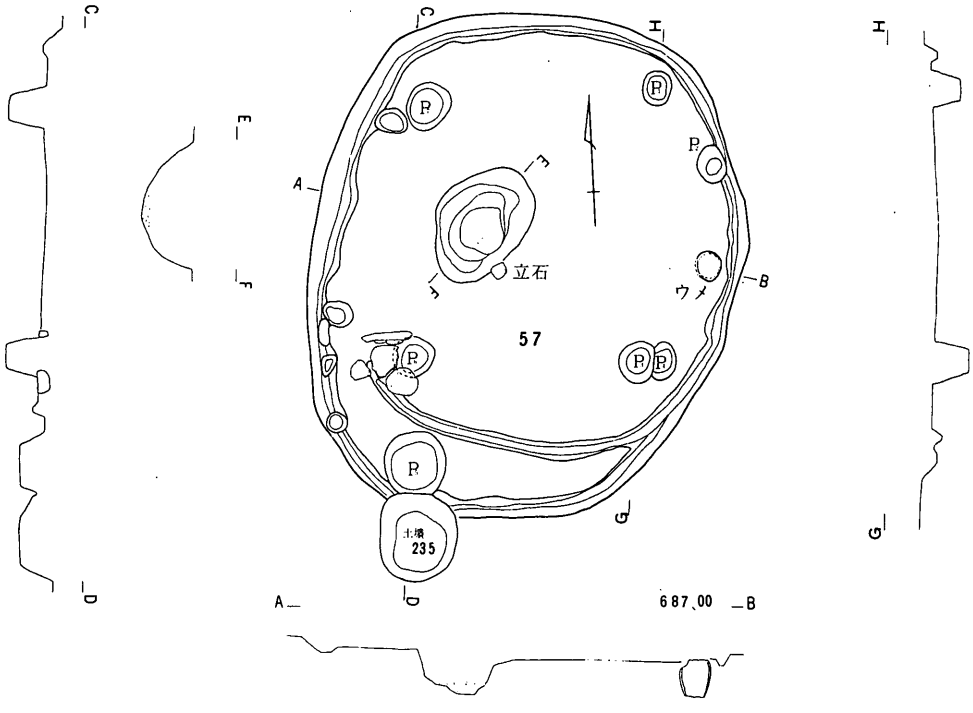
第50図　第53号住居址実測図(S＝1：80)



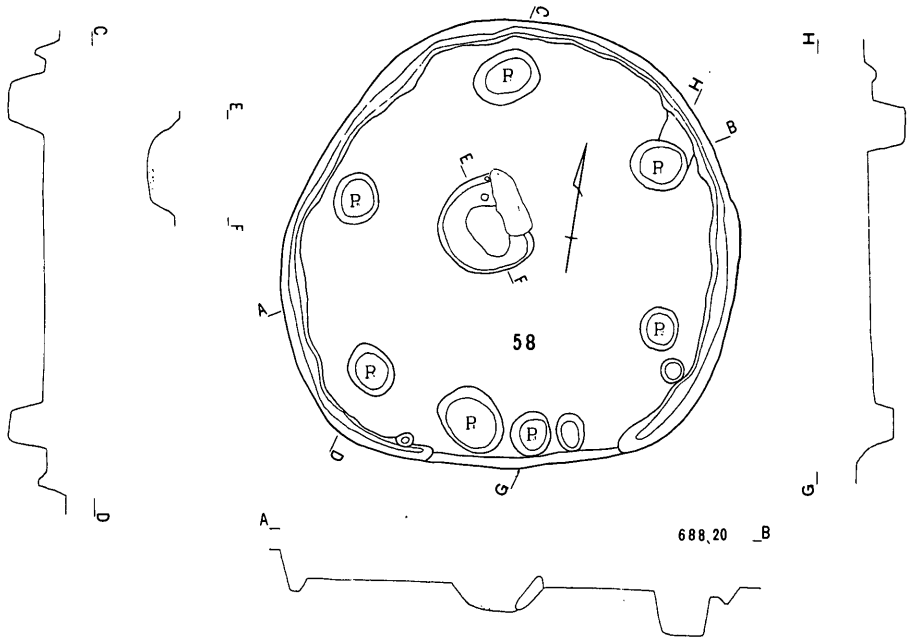
第51図　第54号住居址実測図(S＝1：80)



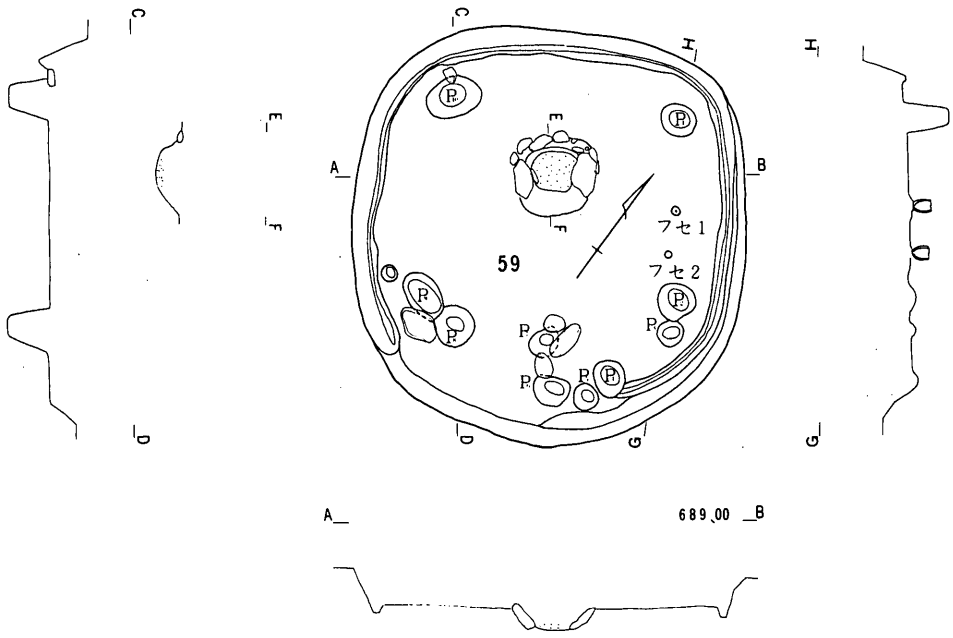
第52図　第55号・第56号住居址実測図(S＝1：80)



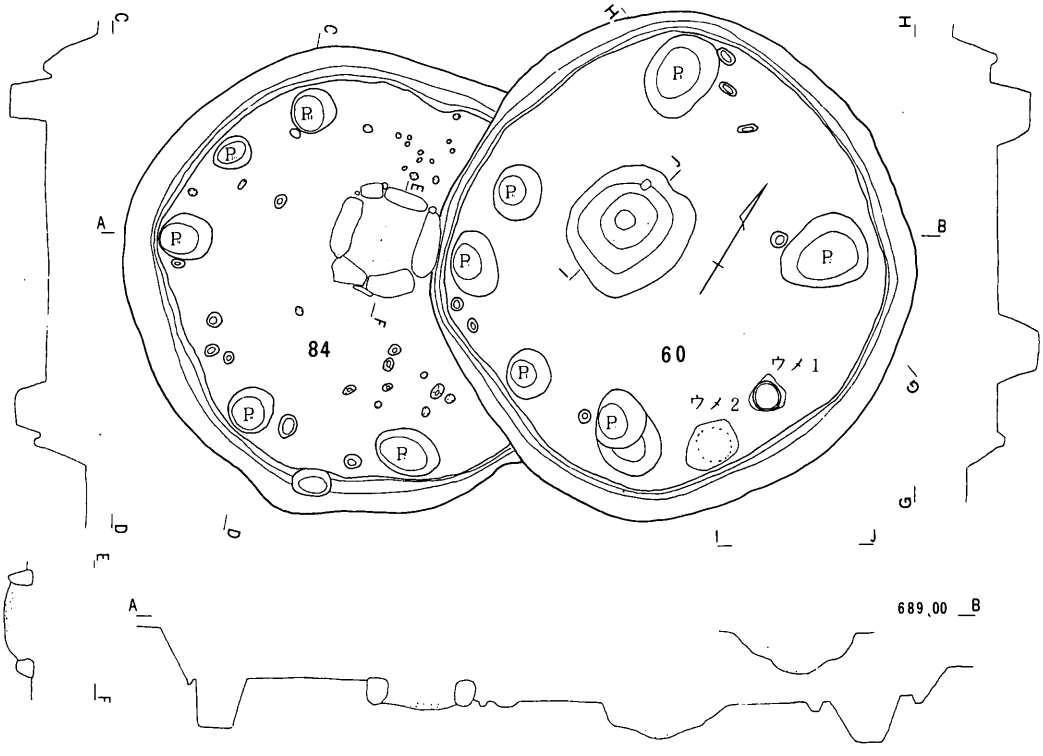
第53図　第57号住居址実測図(S＝1：80)



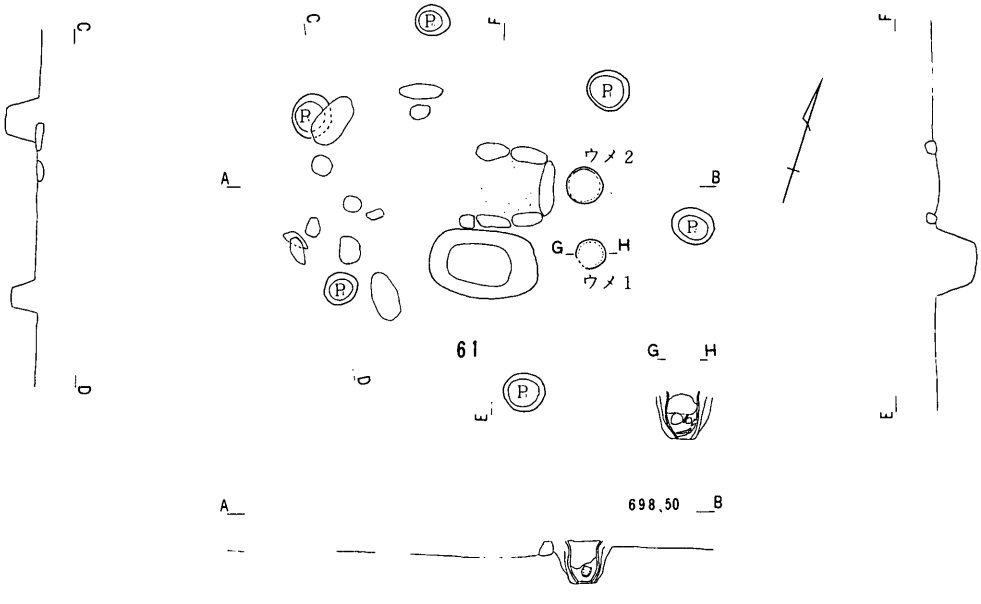
第54図　第58号住居址実測図(S＝1：80)



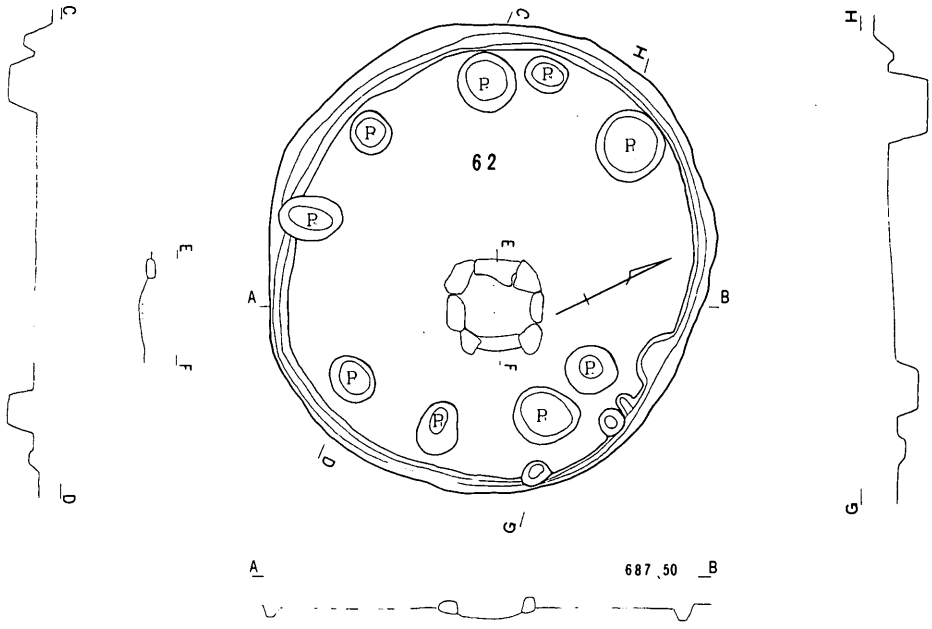
第55図　第59号住居址実測図(S＝1：80)



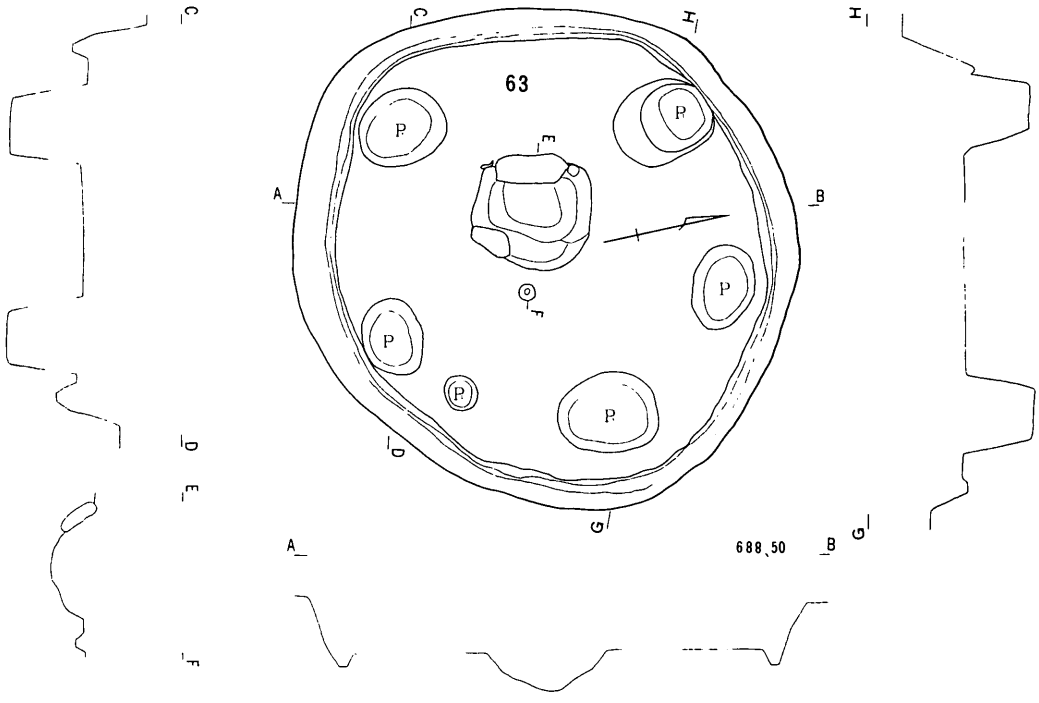
第56図　第60号・第84号住居址実測図(S＝1：80)



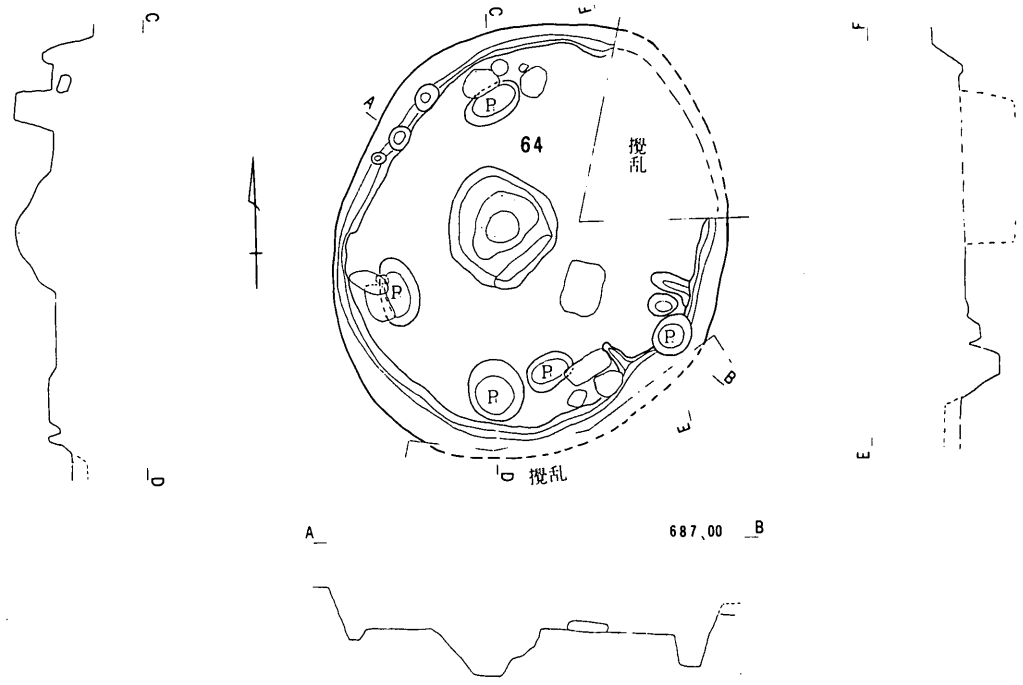
第57図　第61号住居址実測図(S＝1：80)



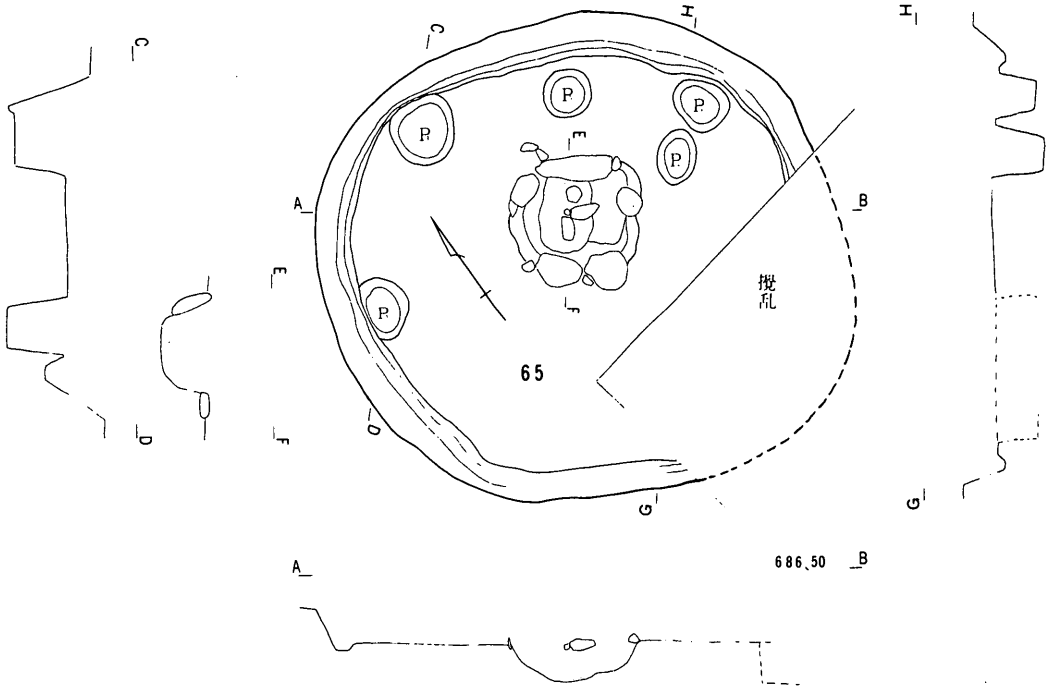
第58図　第62号住居址実測図(S＝1：80)



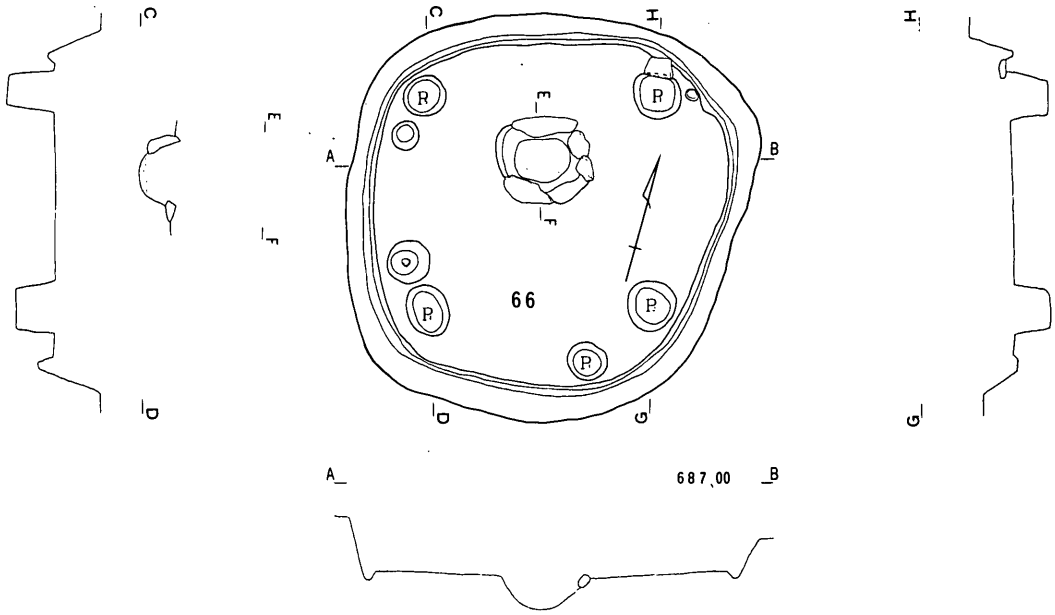
第59図　第63号住居址実測図(S＝1：80)



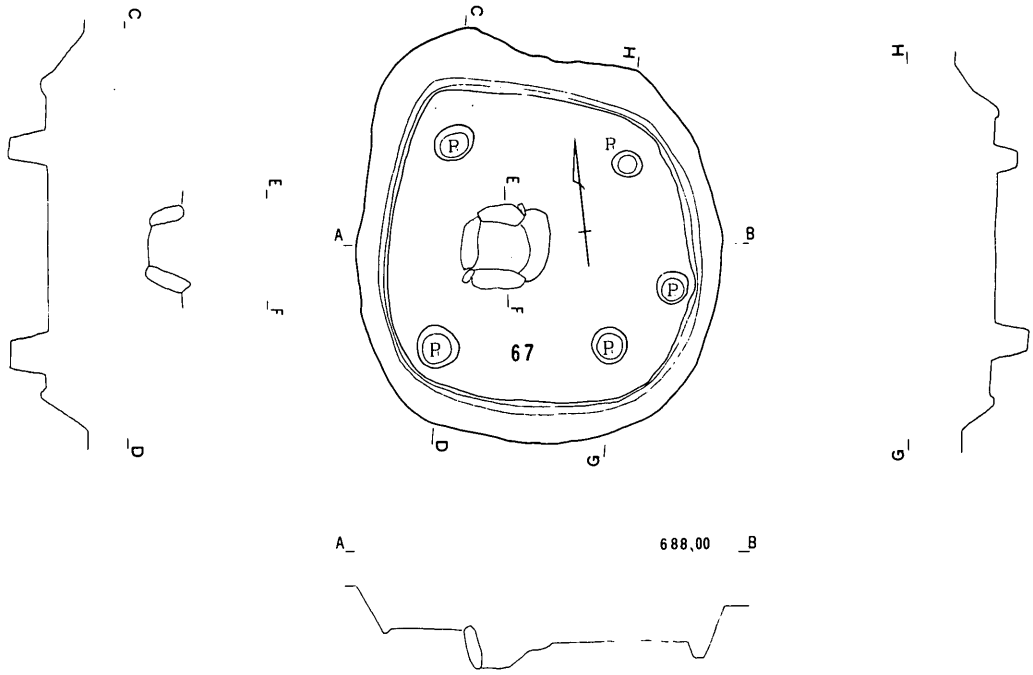
第60図　第64号住居址実測図(S＝1：80)



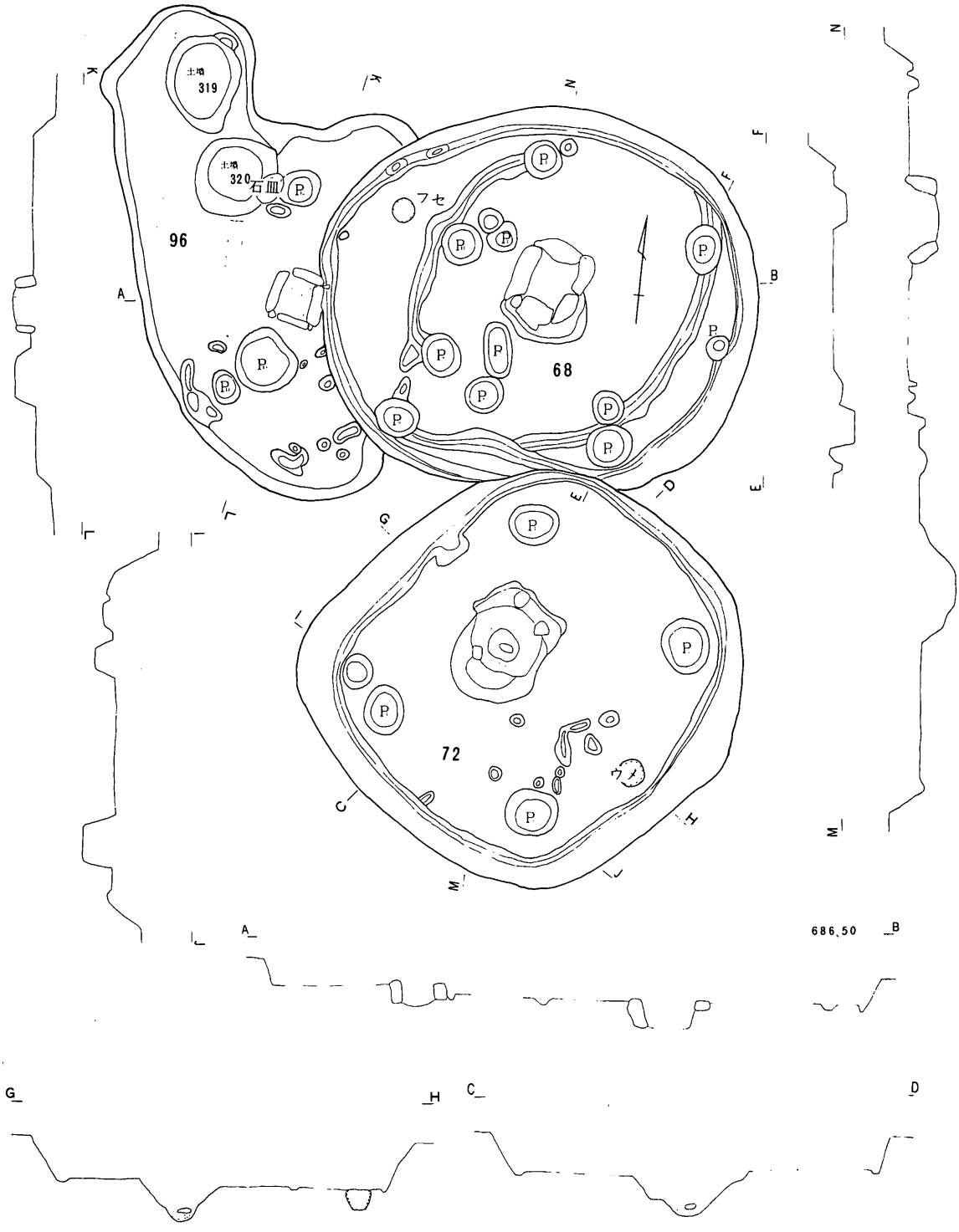
第61図　第65号住居址実測図(S＝1：80)



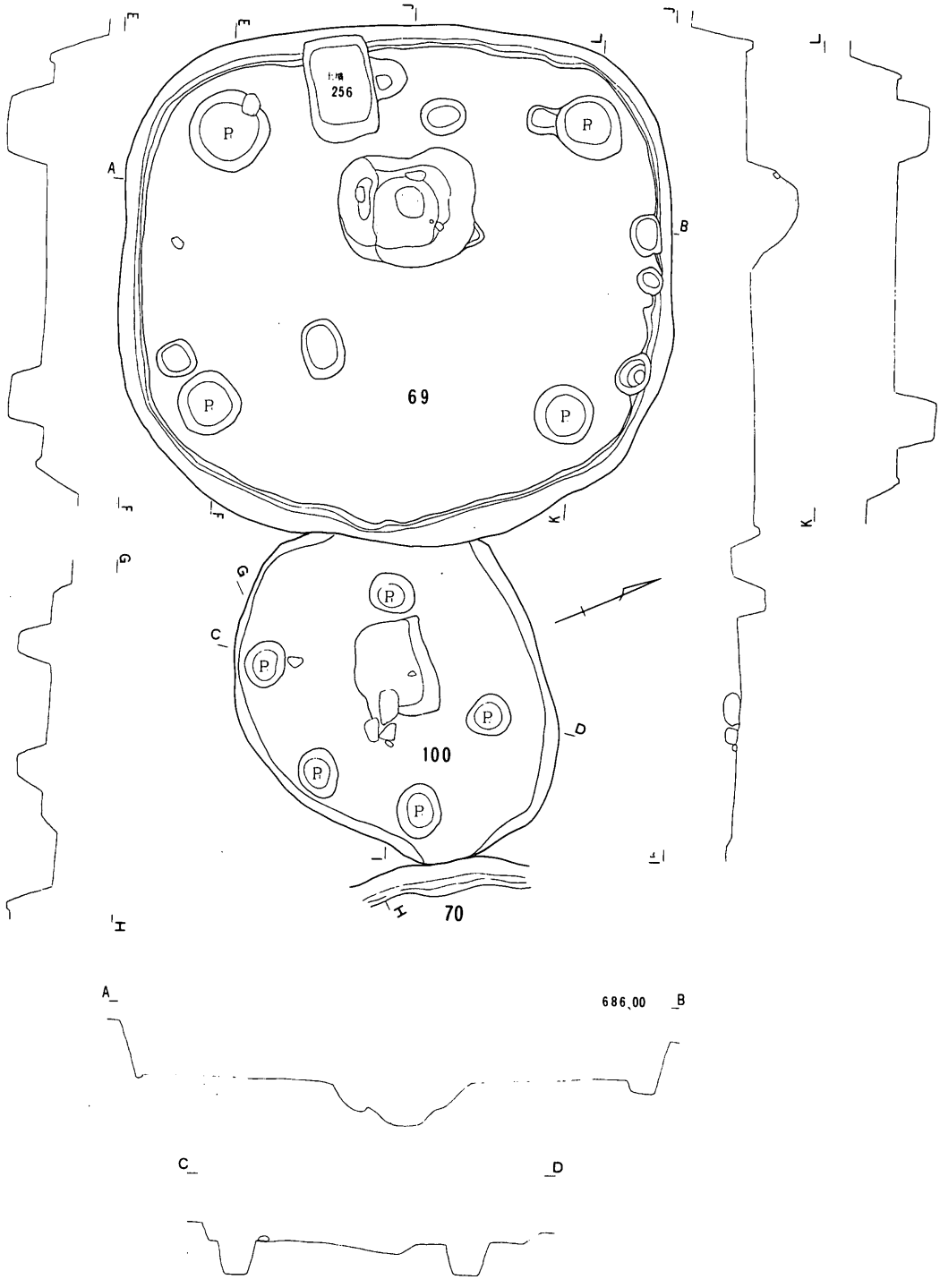
第62図　第66号住居址実測図(S＝1：80)



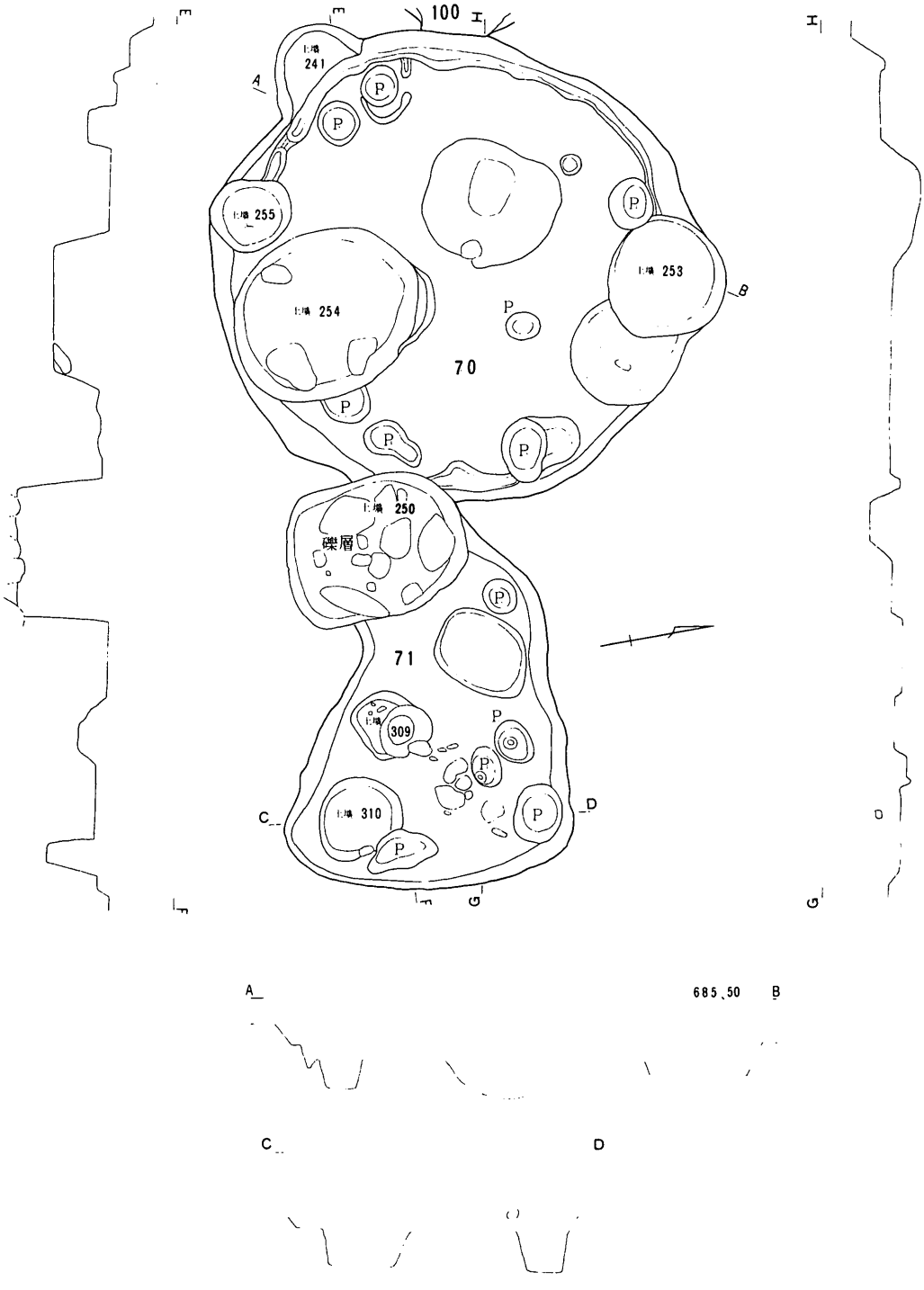
第63図　第67号住居址実測図(S＝1：80)



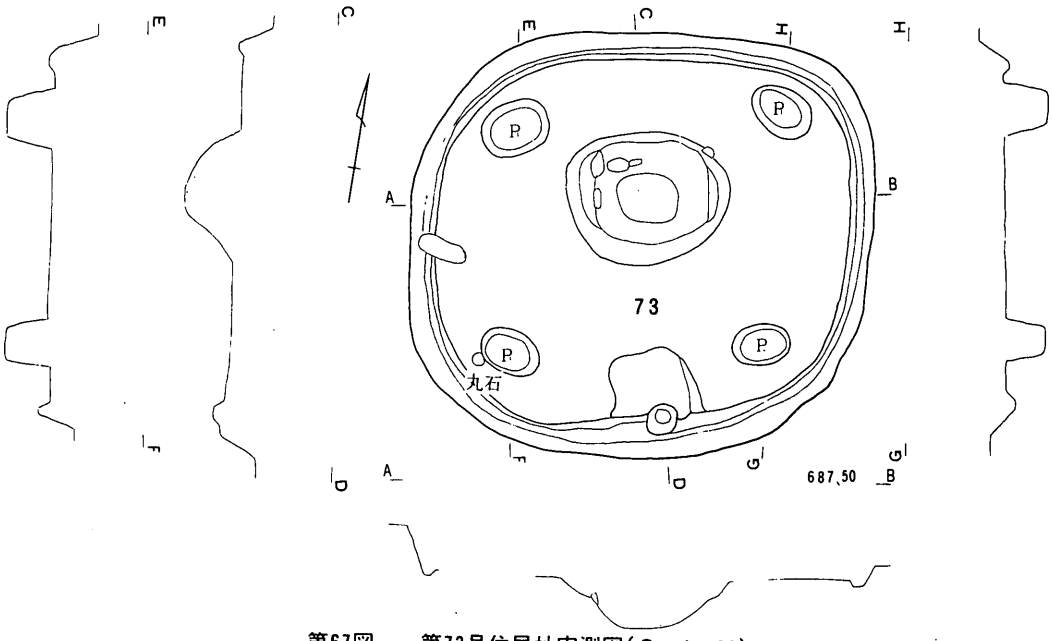
第64図　第68号・第72号・第96号住居址実測図（S＝1：80）



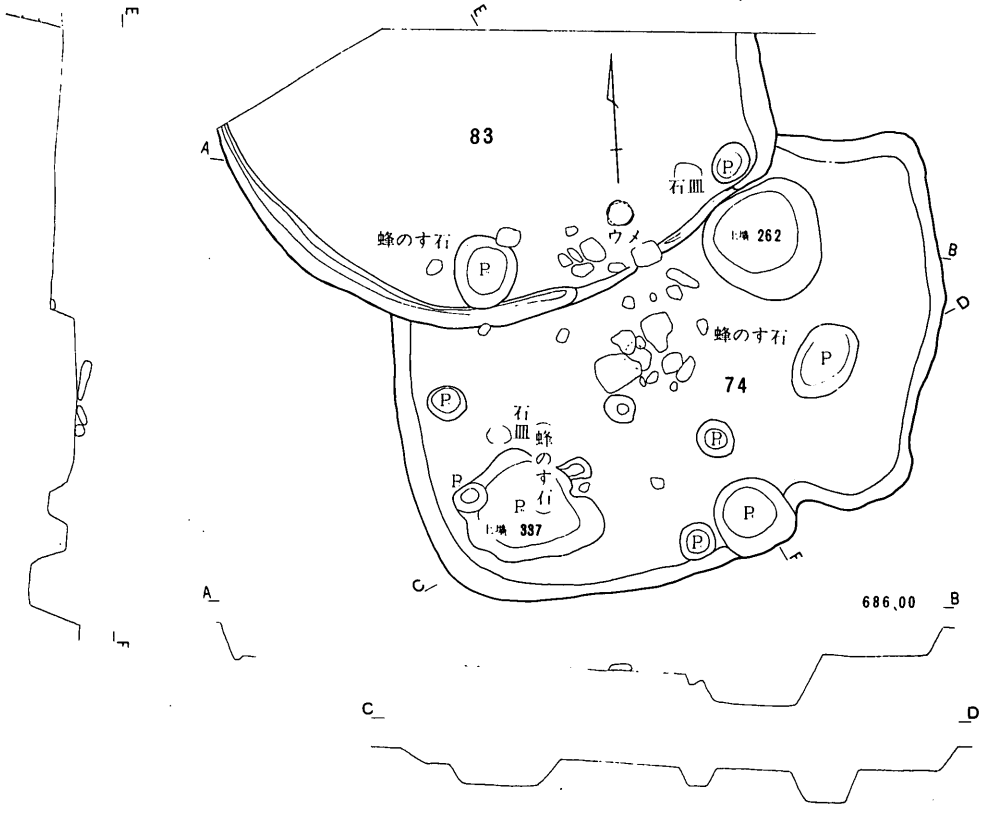
第65図　第69号・第100号住居址実測図(S＝1：80)



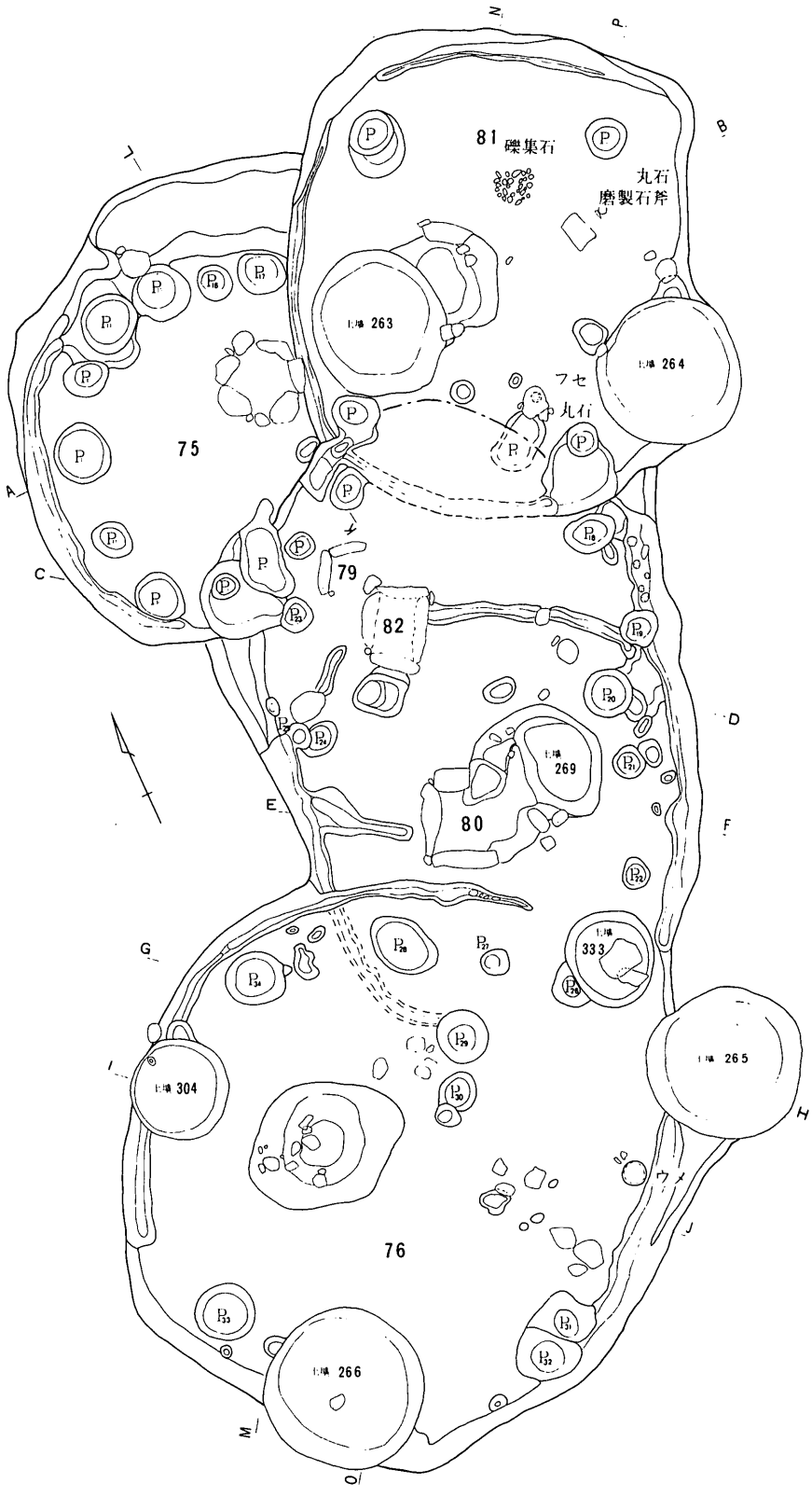
第66図　　第70号・第71号住居址実測図(S＝1：80)



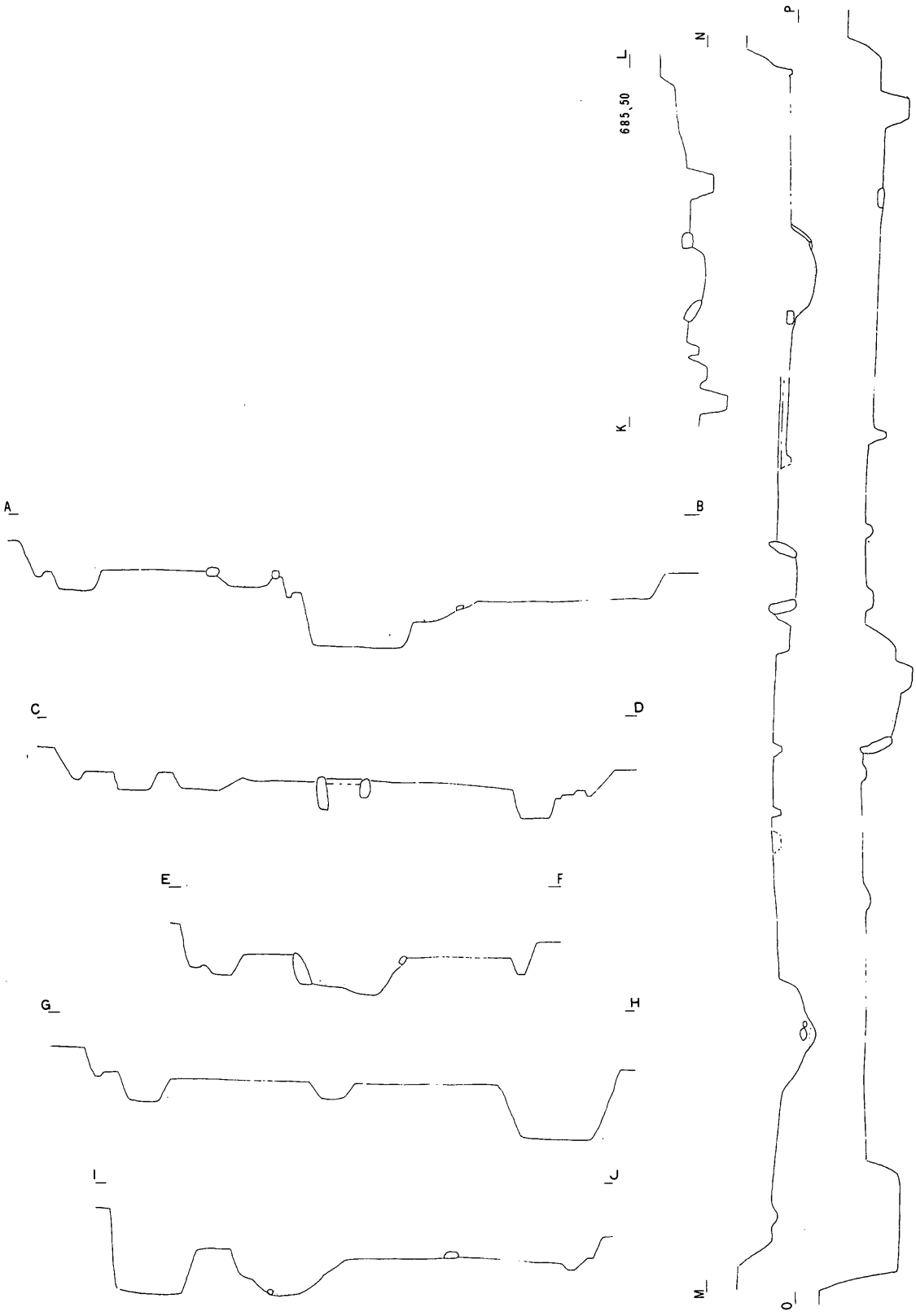
第67図　第73号住居址実測図(S＝1：80)



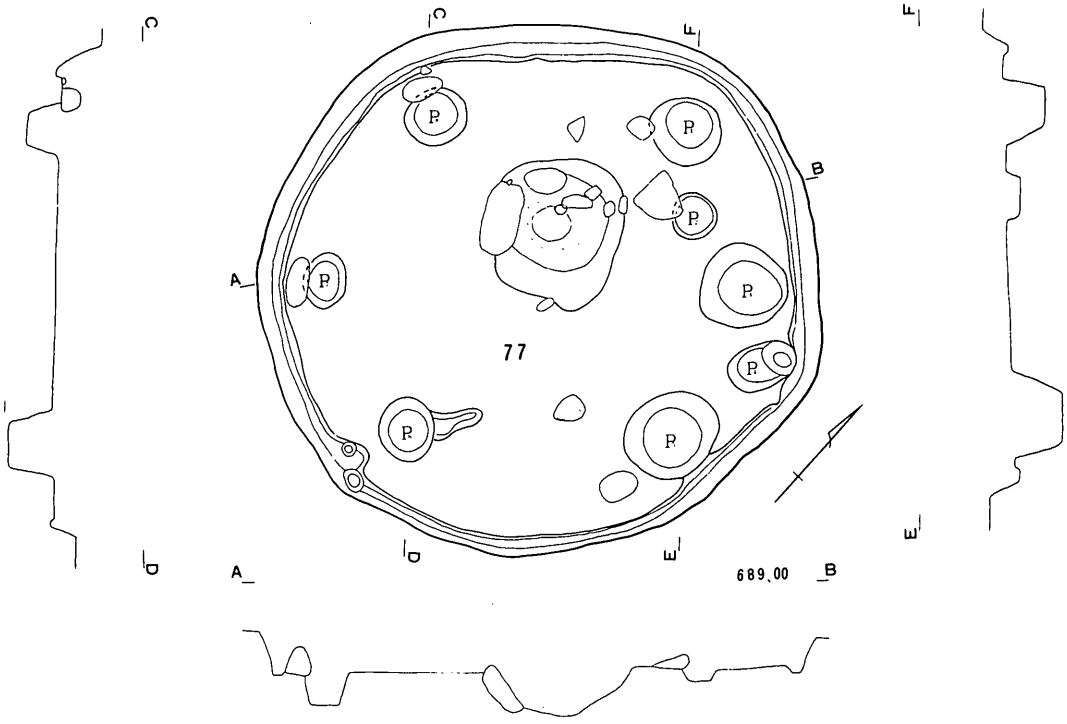
第68図　第74号・第83号住居址実測図(S＝1：80)



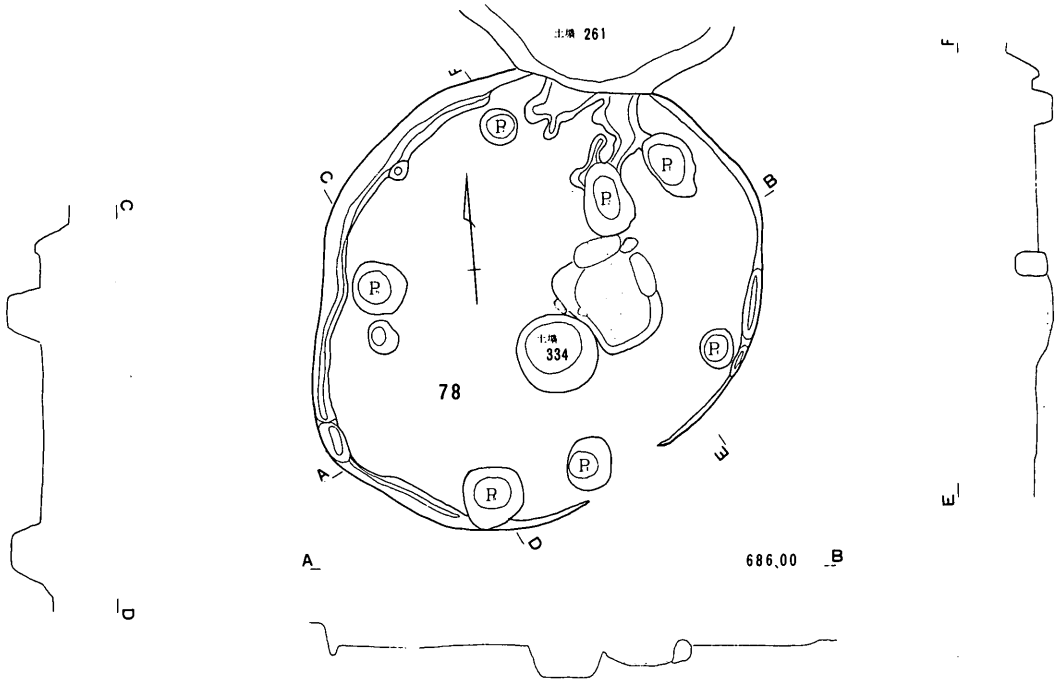
第69図　第75号・第76号・第79号・第80号・第81号・第82号住居址実測図（S＝1：80）



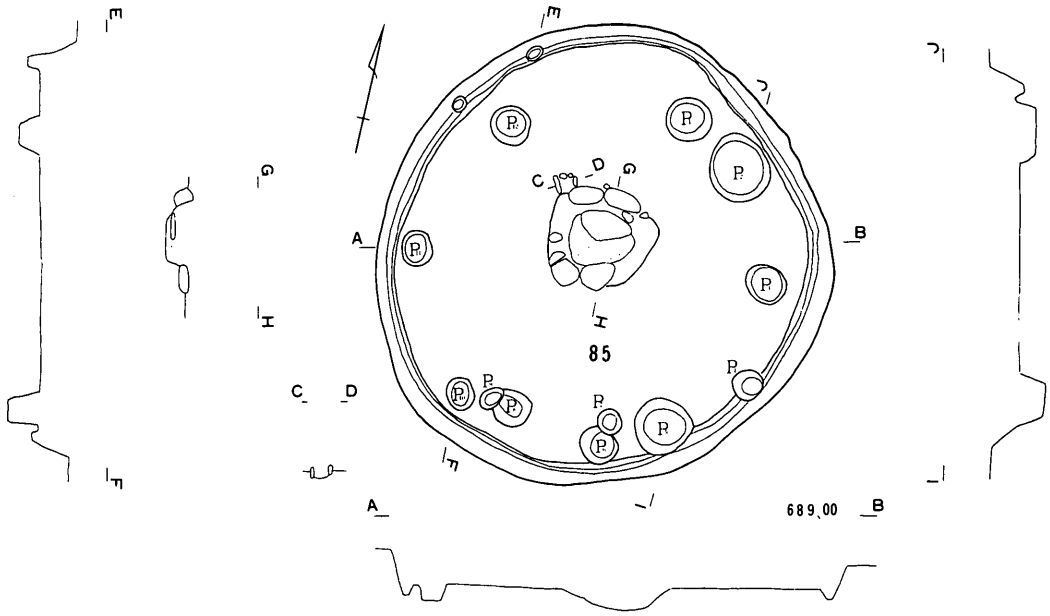
第70図　第75号・第76号・第79号・第80号・第81号・第82号住居址断面図(S＝1：80)



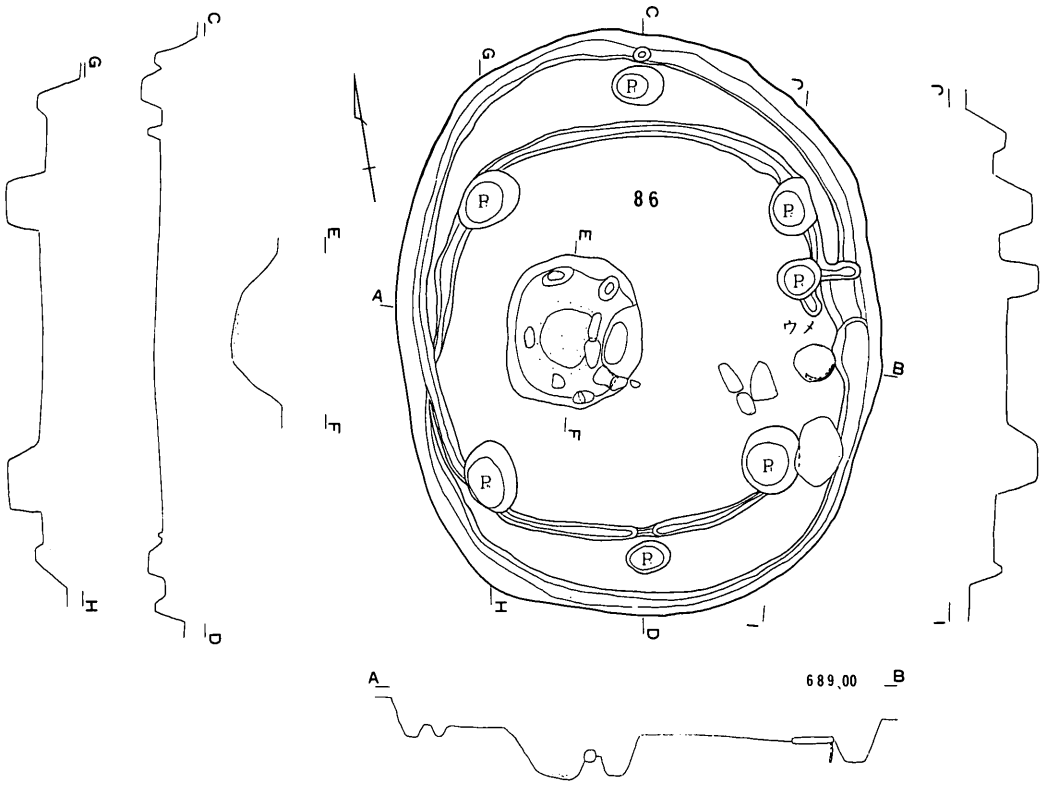
第71図　第77号住居址実測図(S＝1：80)



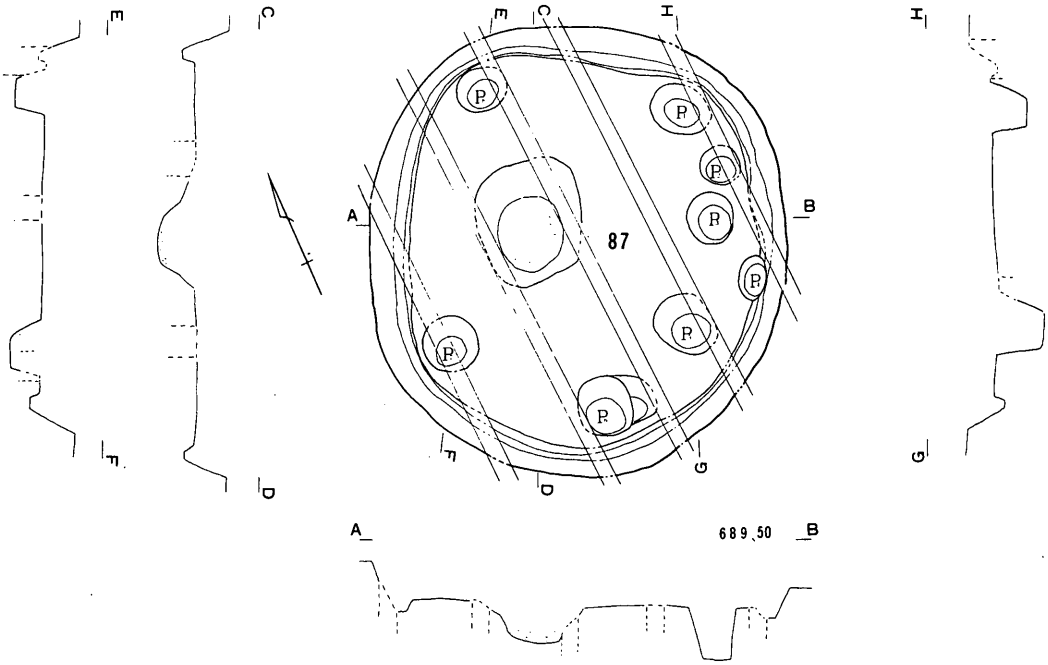
第72図　第78号住居址実測図(S＝1：80)



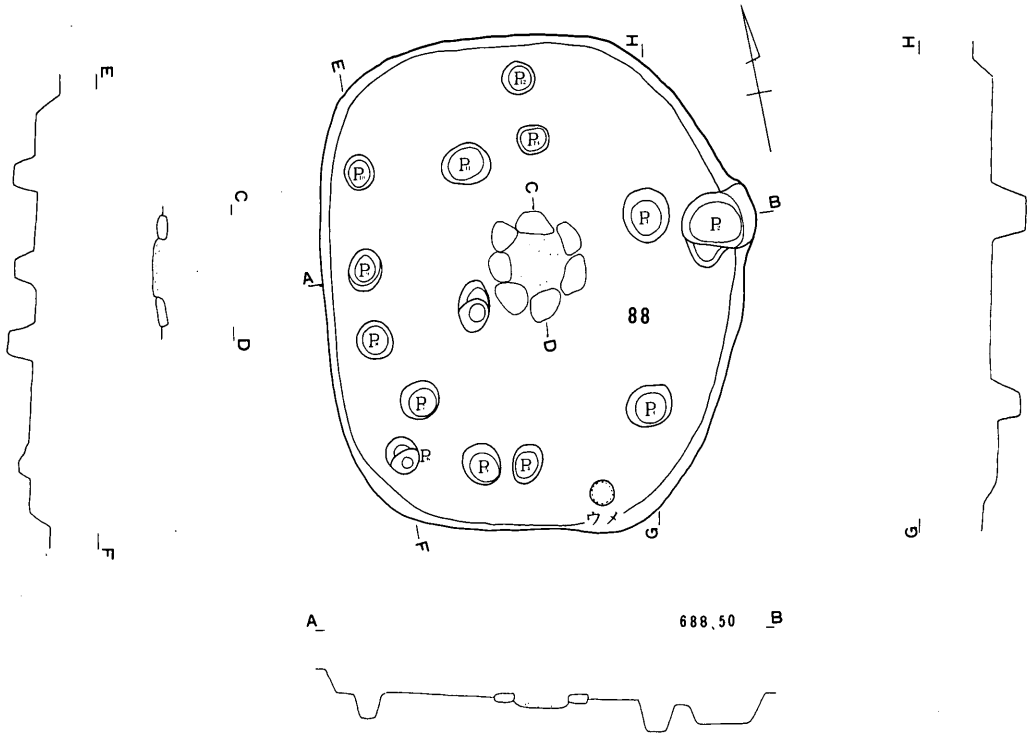
第73図　第85号住居址実測図(S＝1：80)



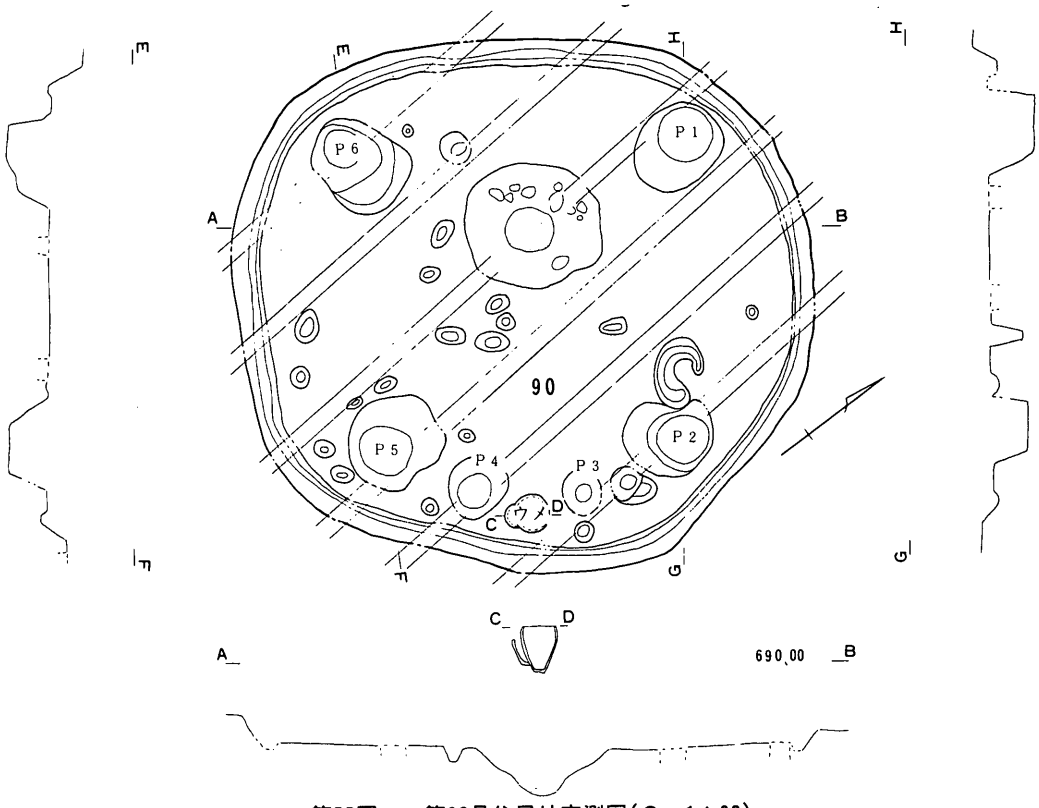
第74図　第86号住居址実測図(S＝1：80)



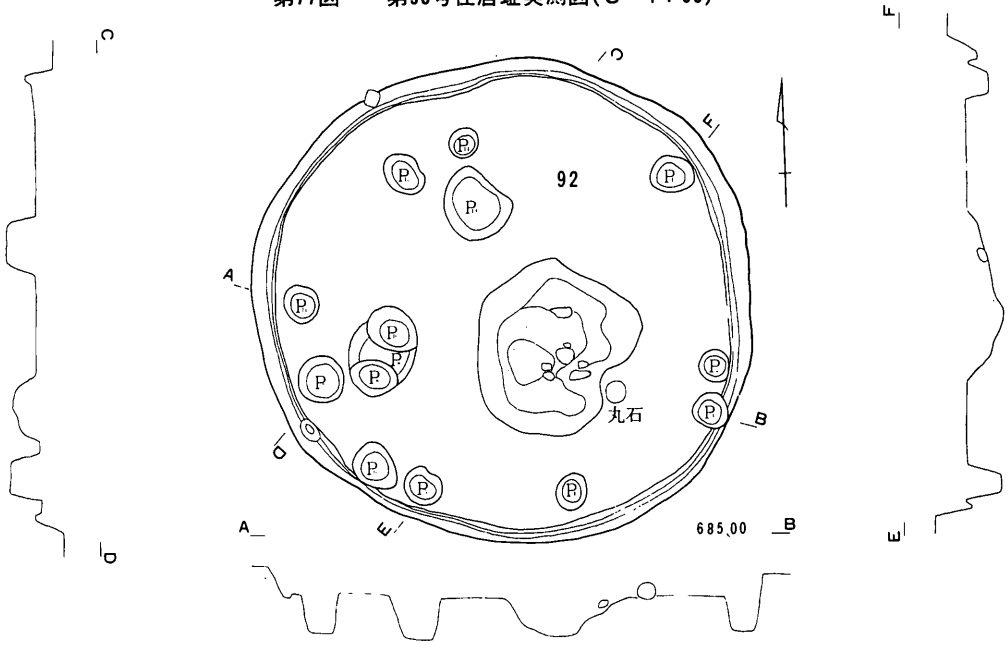
第75図　第87号住居址実測図(S＝1：80)



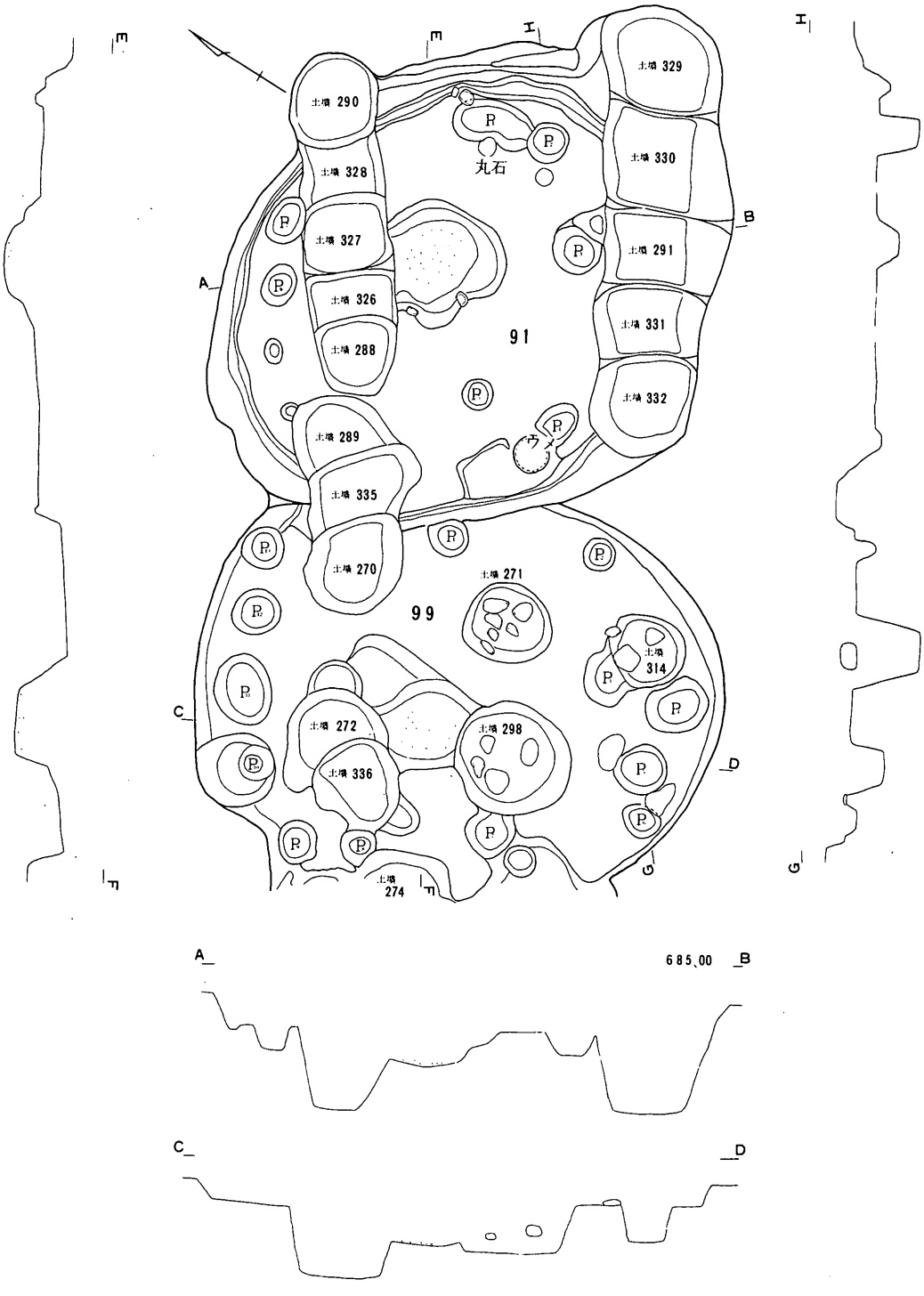
第76図　第88号住居址実測図(S＝1：80)



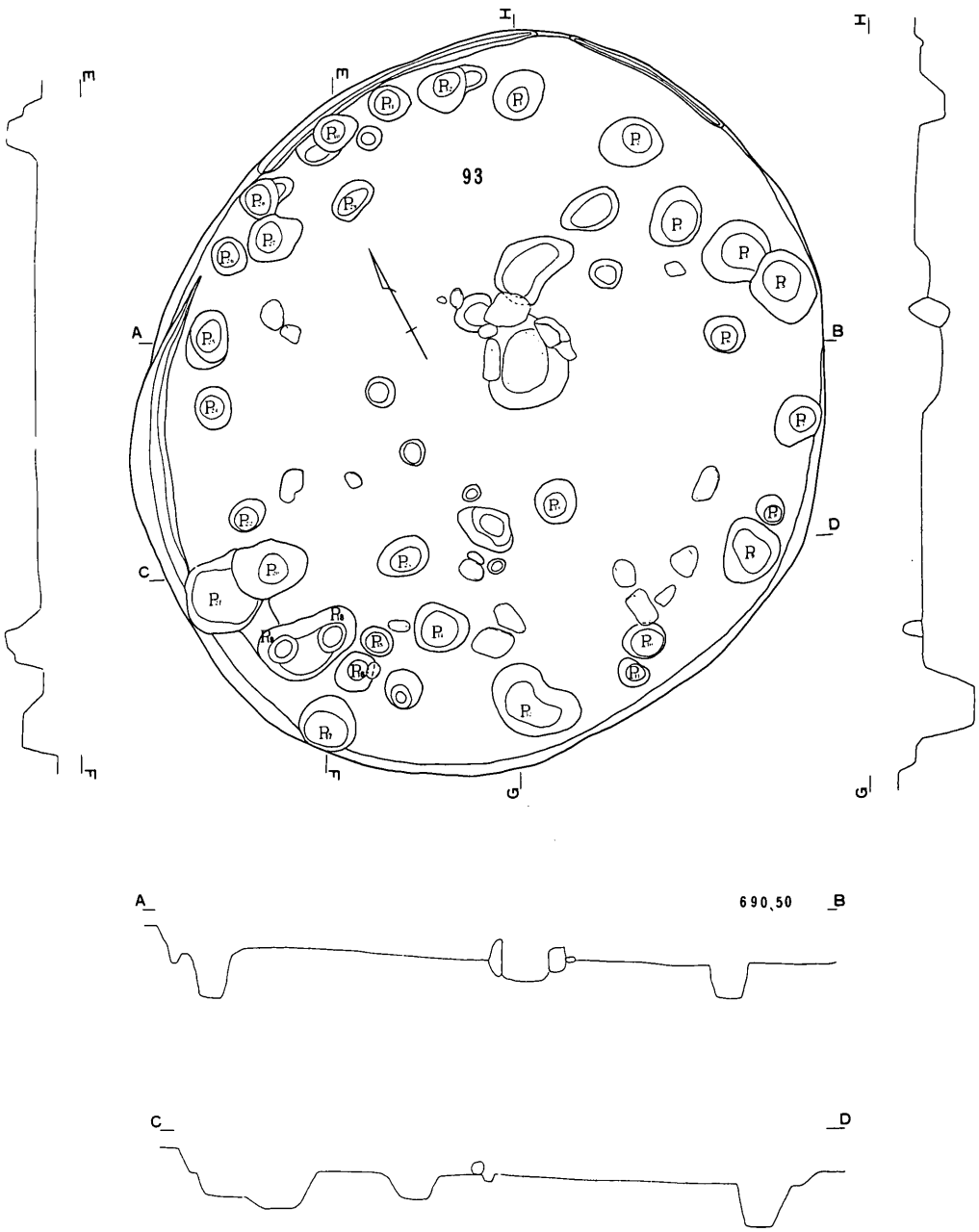
第77図　第90号住居址実測図(S＝1：80)



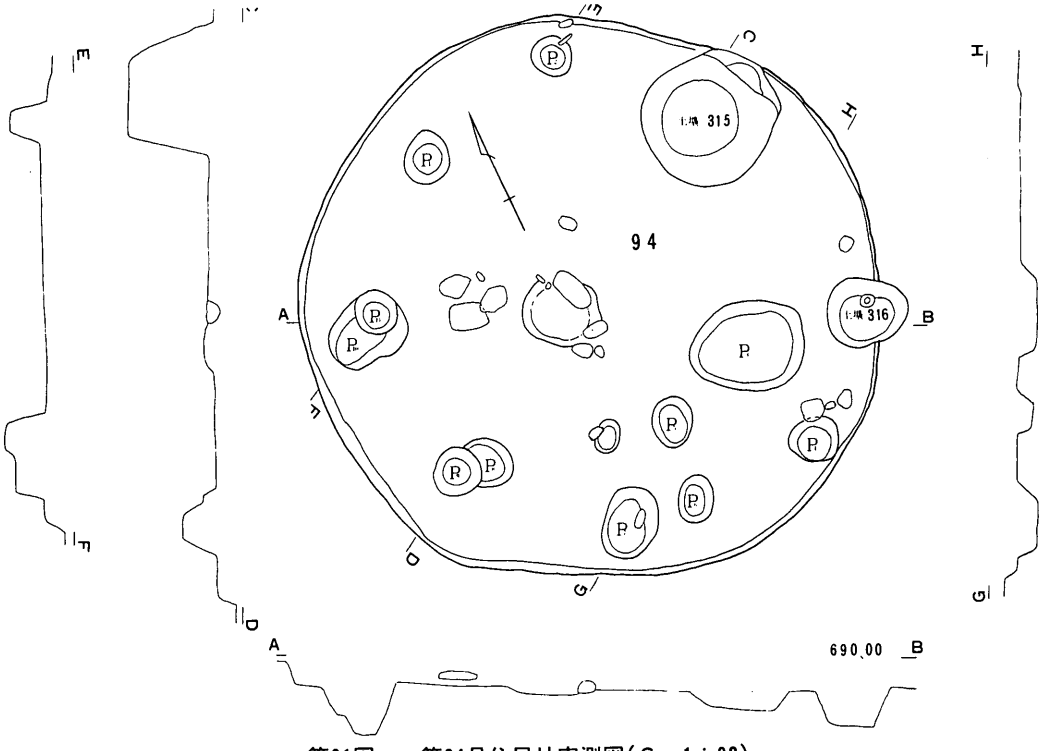
第78図　第92号住居址実測図(S＝1：80)



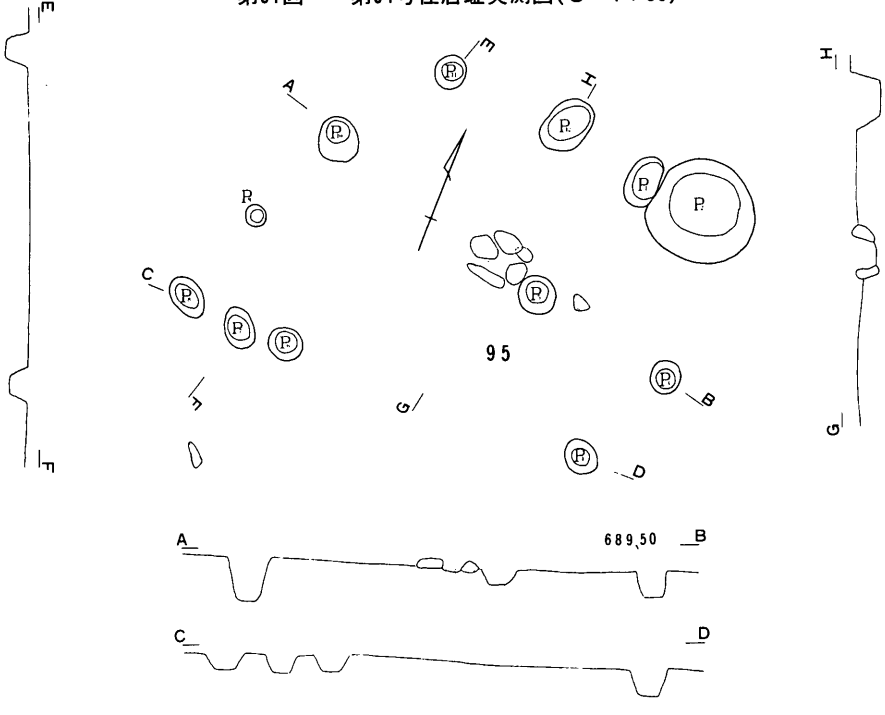
第79図　第91号・第99号住居址実測図(S＝1：80)



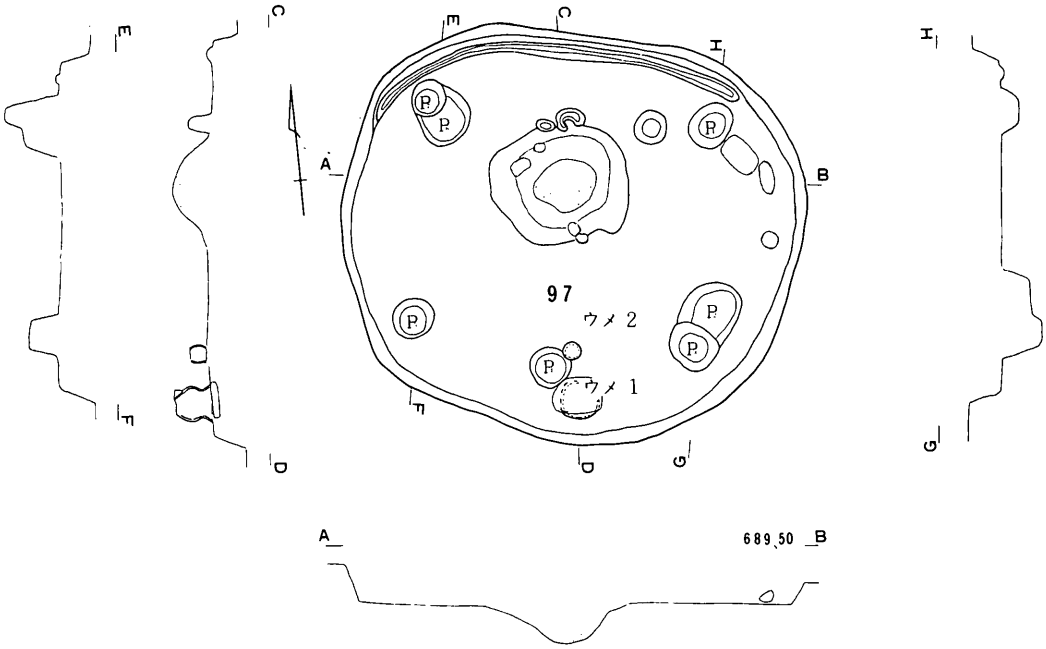
第80図　第93号住居址実測図(S＝1：80)



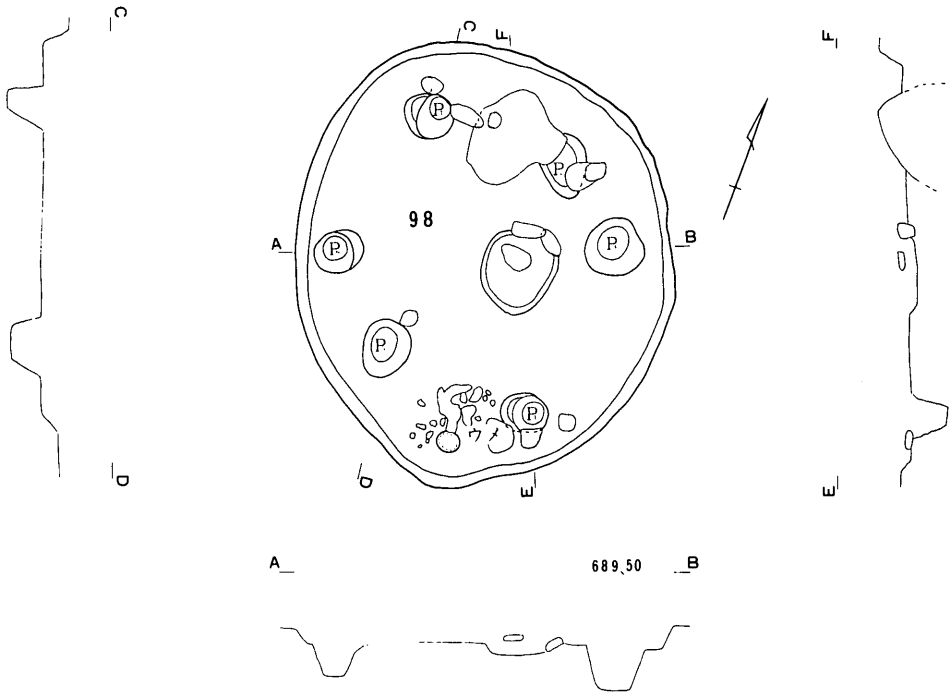
第81図　第94号住居址実測図(S＝1：80)



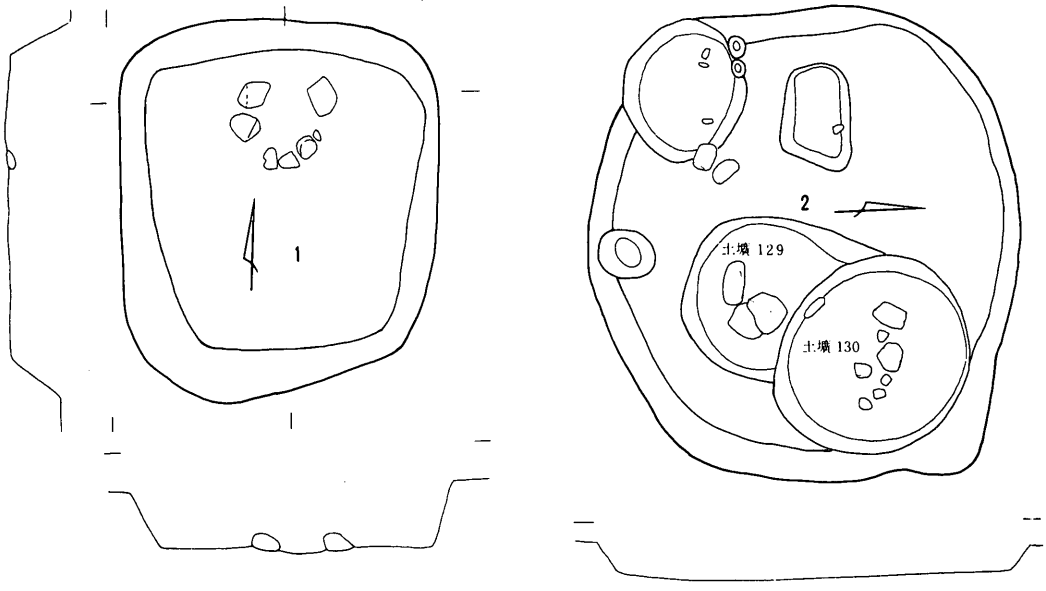
第82図　第95号住居址実測図(S＝1：80)

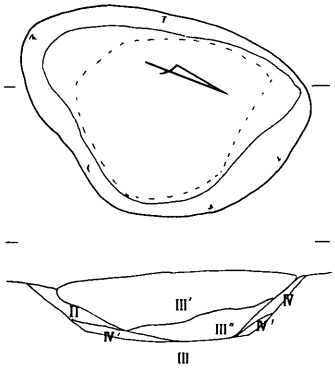


第83図　第97号住居址実測図(S＝1：80)



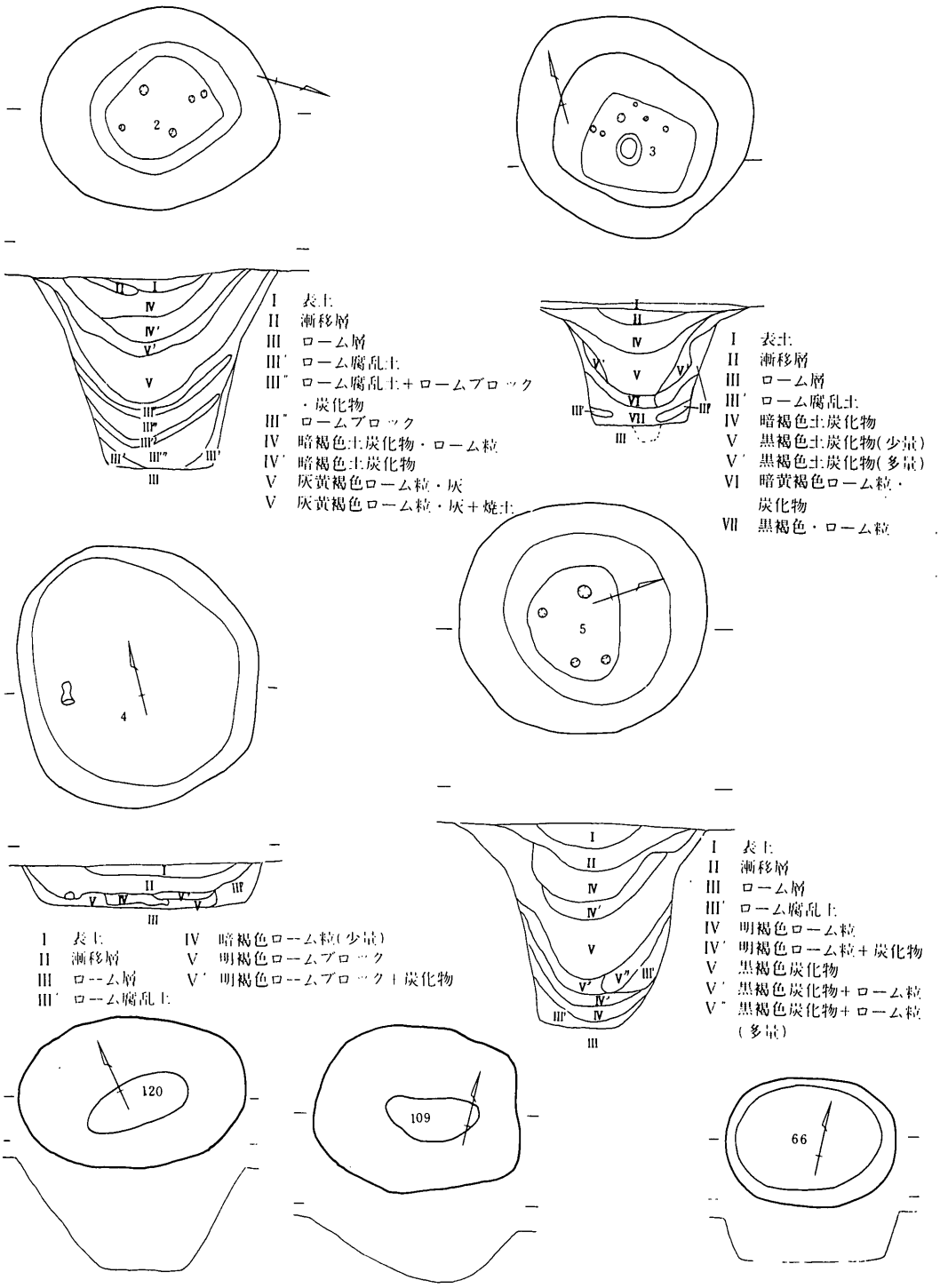
第84図　第98号住居址実測図(S＝1：80)



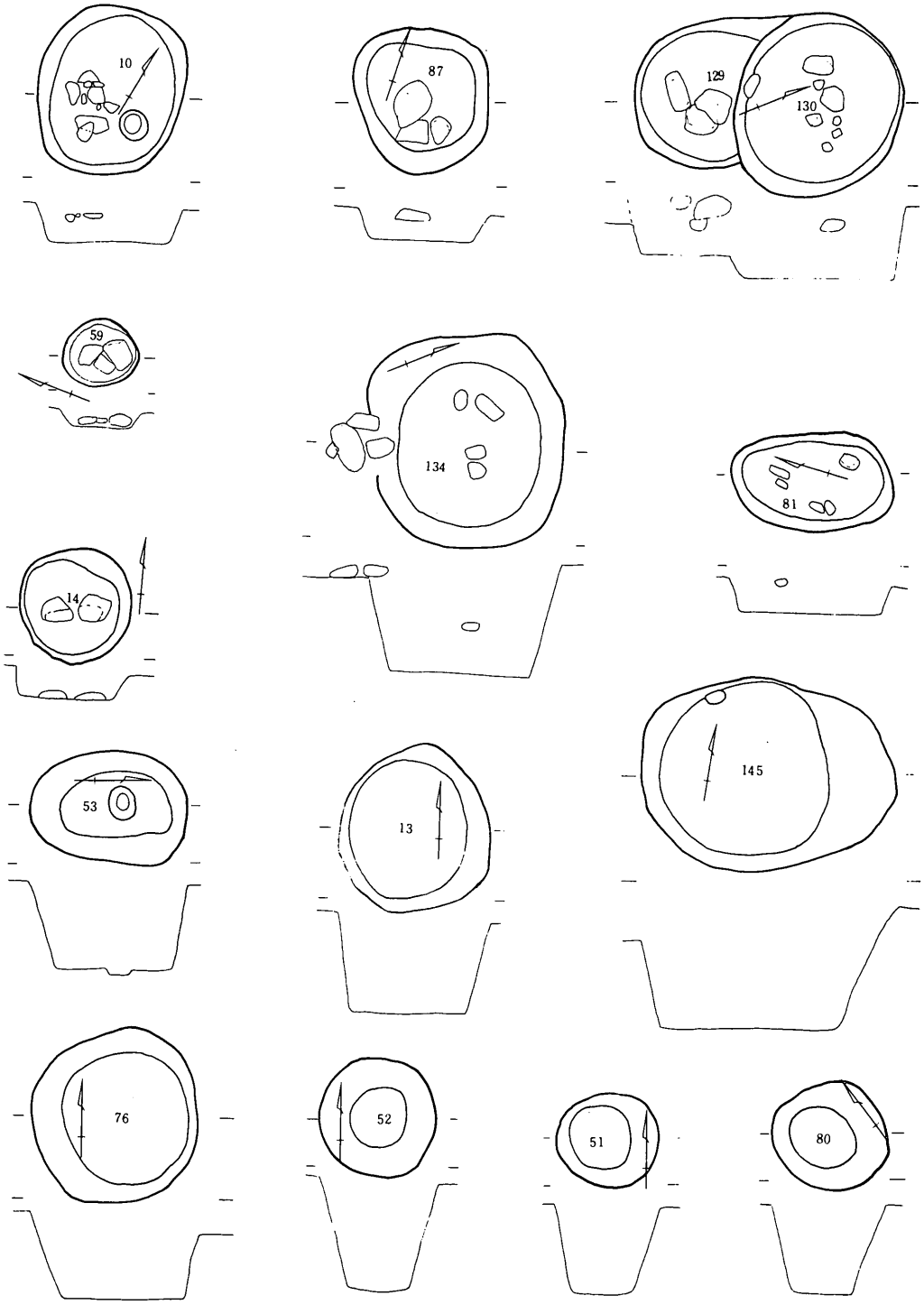


II　漸移層
III′　ローム層
III′　ロームブロック
III″　ロームブロック・炭化物含む
IV　黒■色土・炭化物含む
IV′　黒■色土・ローム粒含む

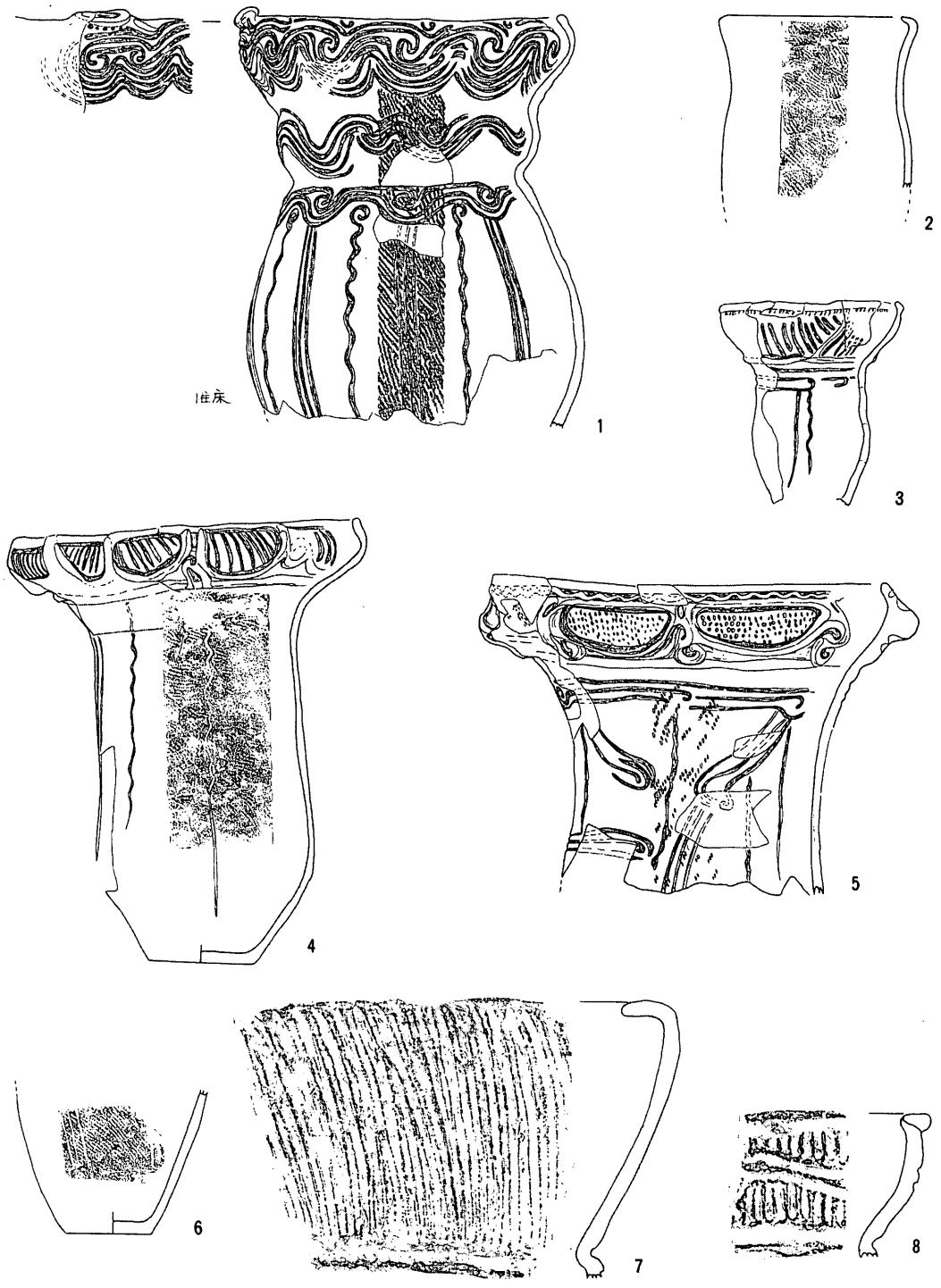
第85図　小竪穴(上段)・ロームマウンド実測図(S＝1：60)



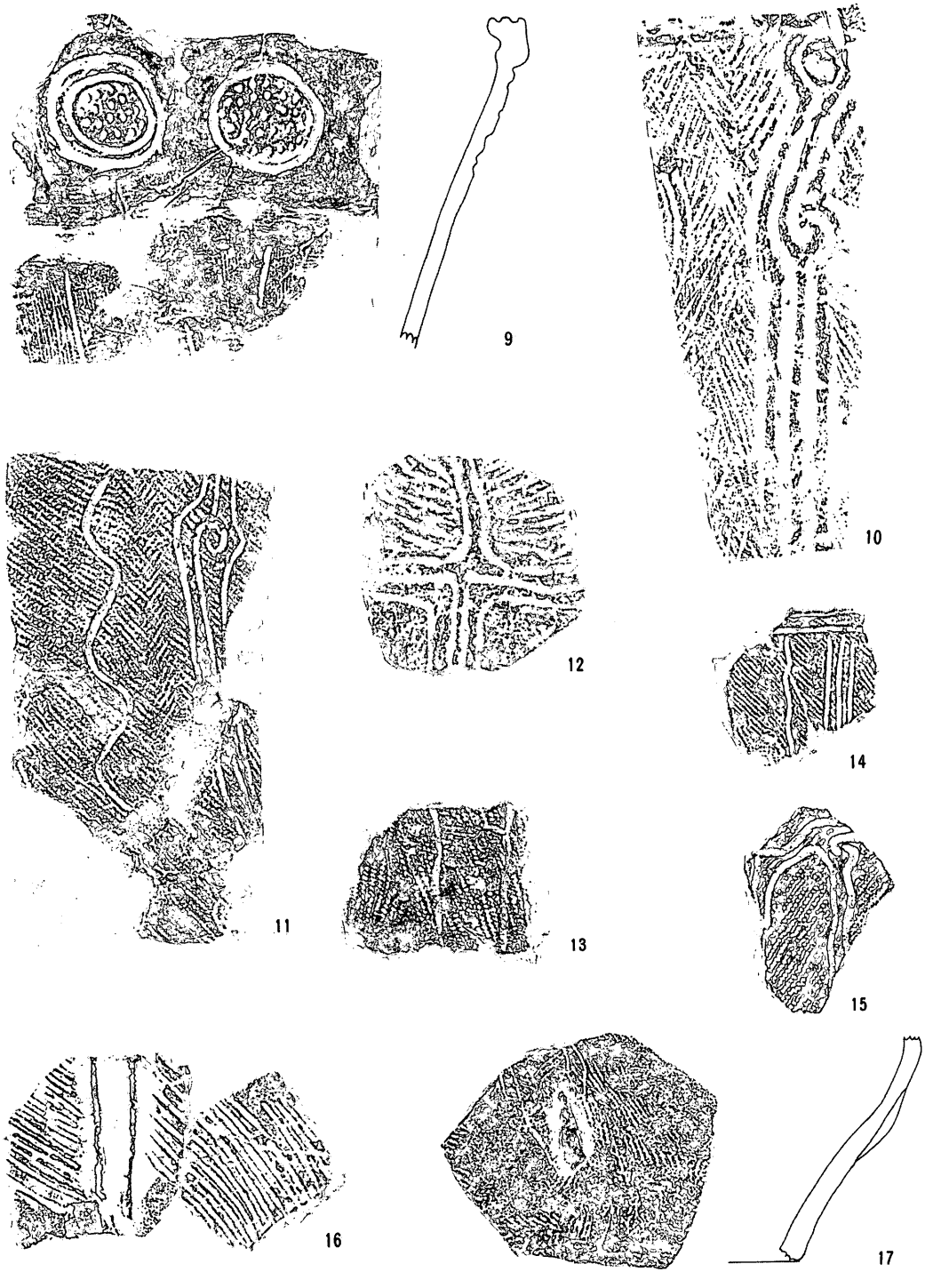
第86図　土壙実測図(S＝1：60)



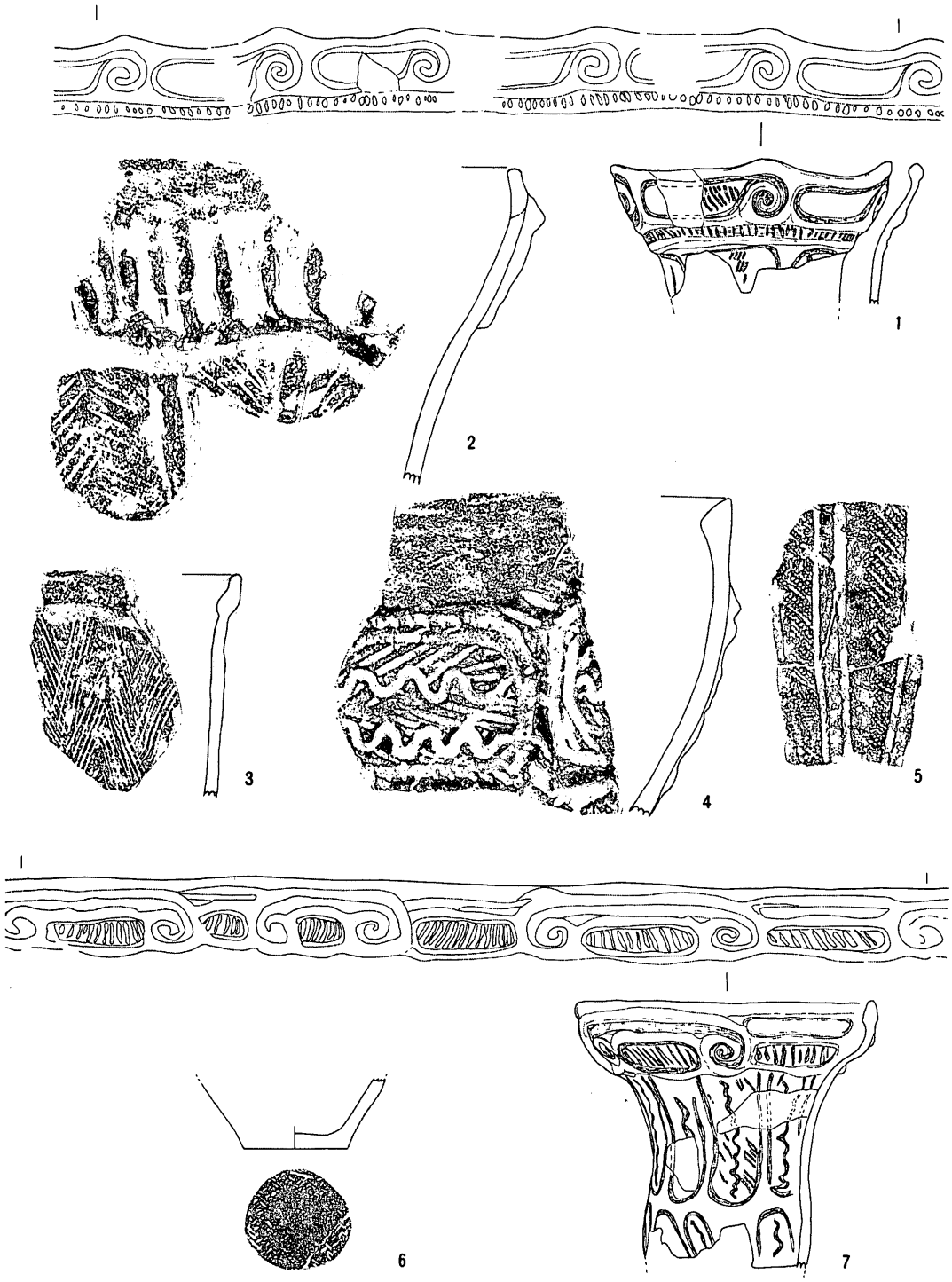
第87図　土壙実測図(S＝1：60)



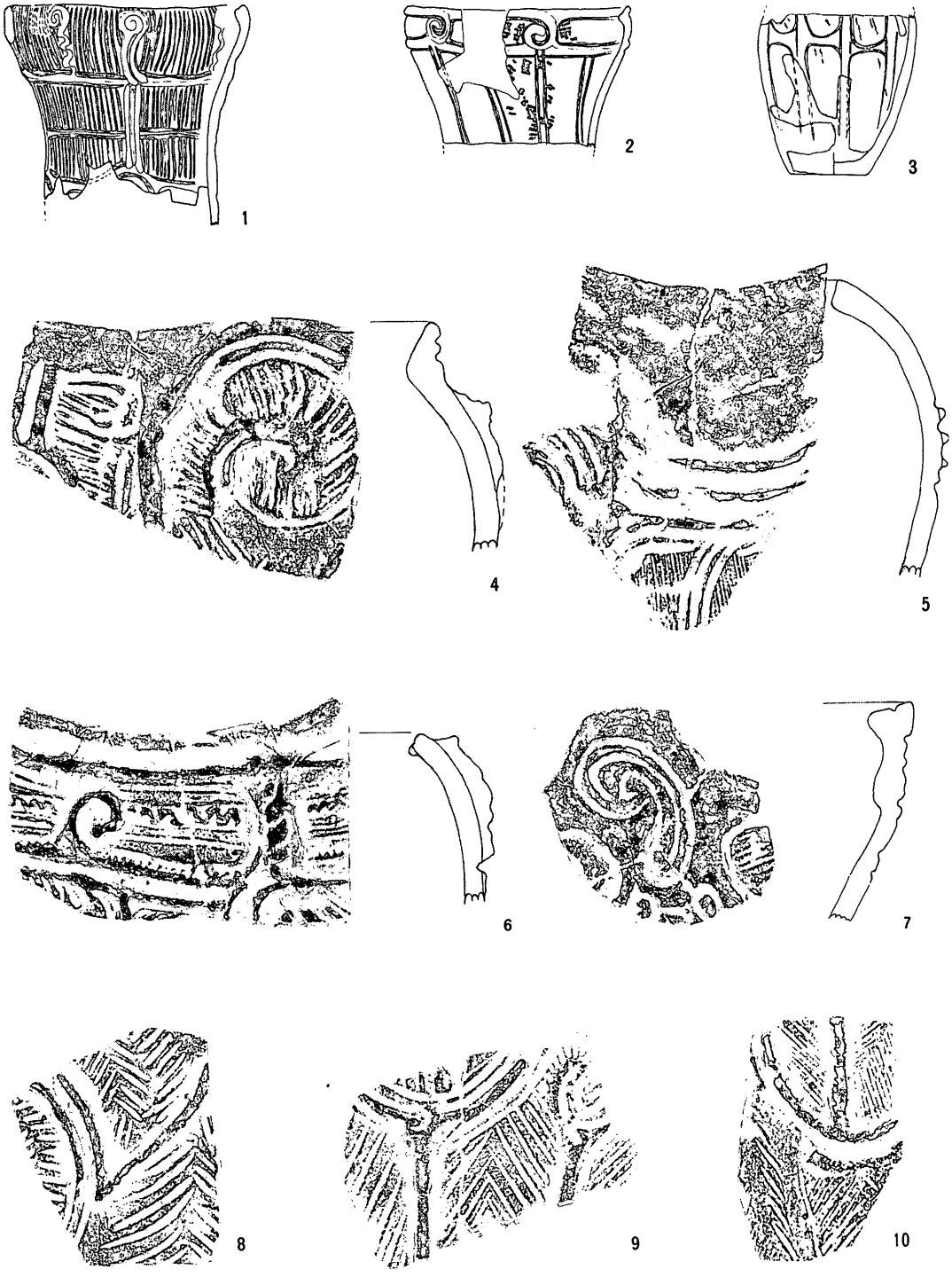
第88図　第１号住居址床面出土土器（１～６は1/6，７・８は1/3）



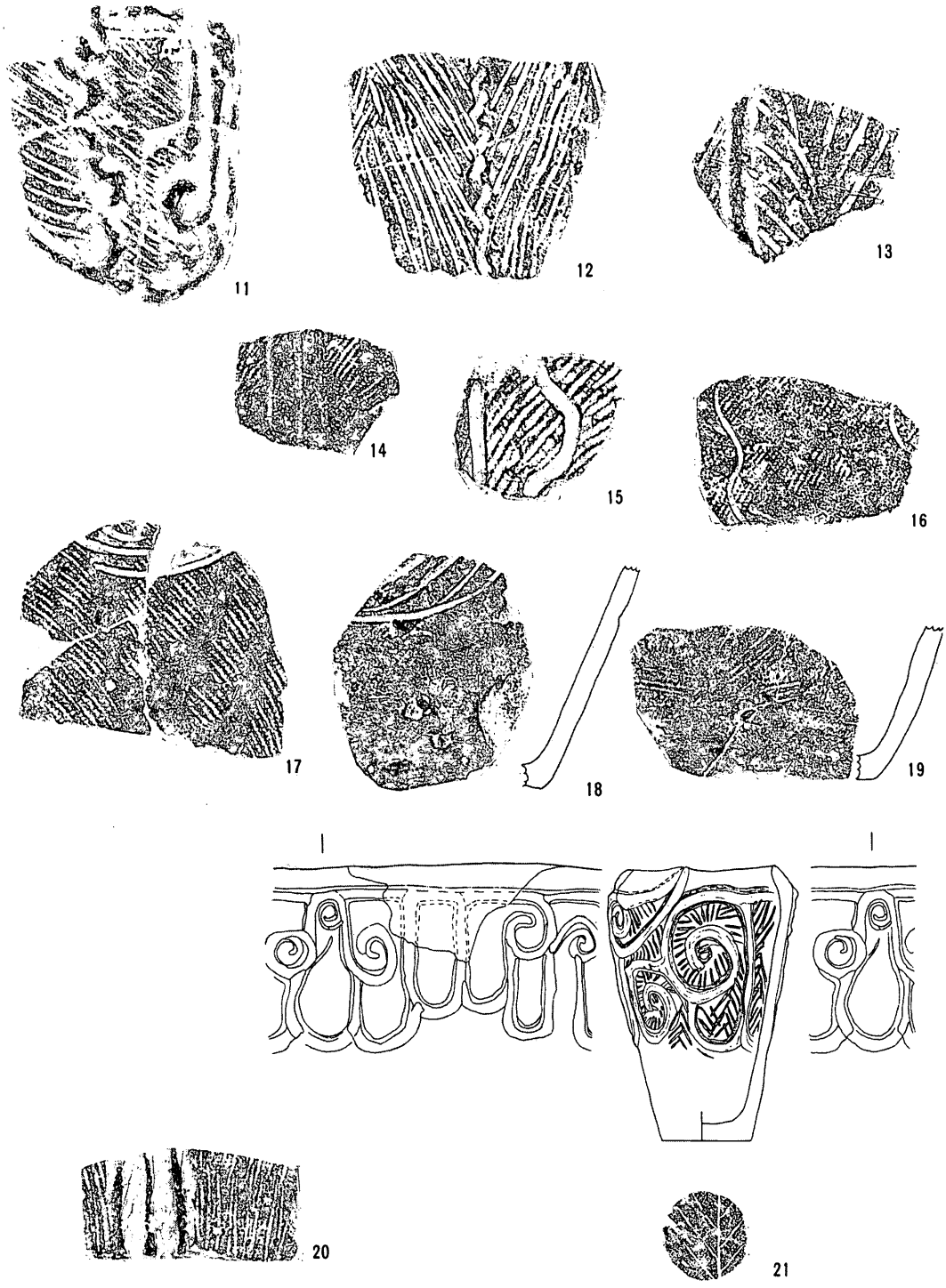
第89図　第１号住居址床面出土土器(1/3)



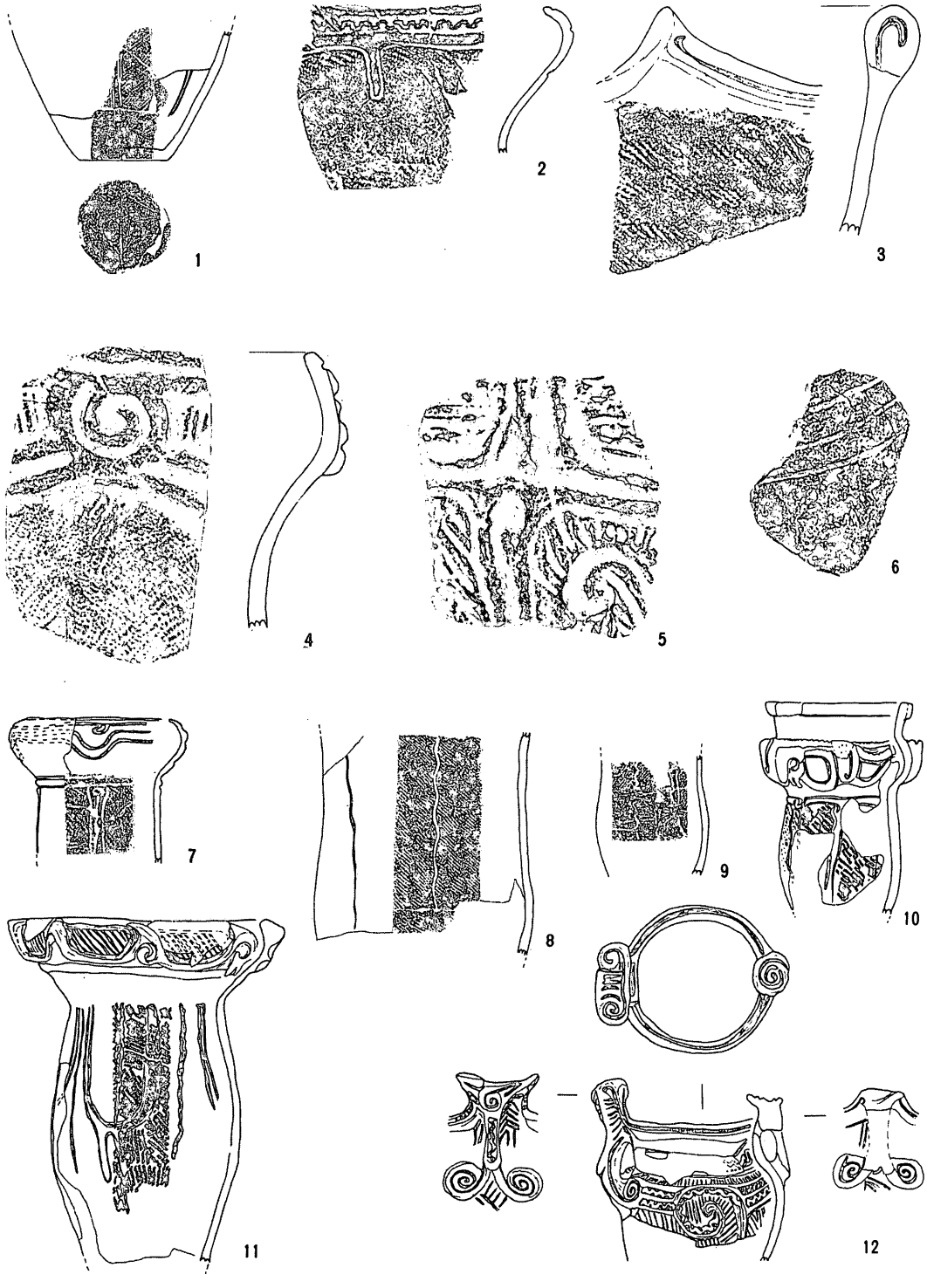
第90図　第２号住居址出土土器（１～５は覆土．６・７は床面，１・６・７は１/６，他は１/３）



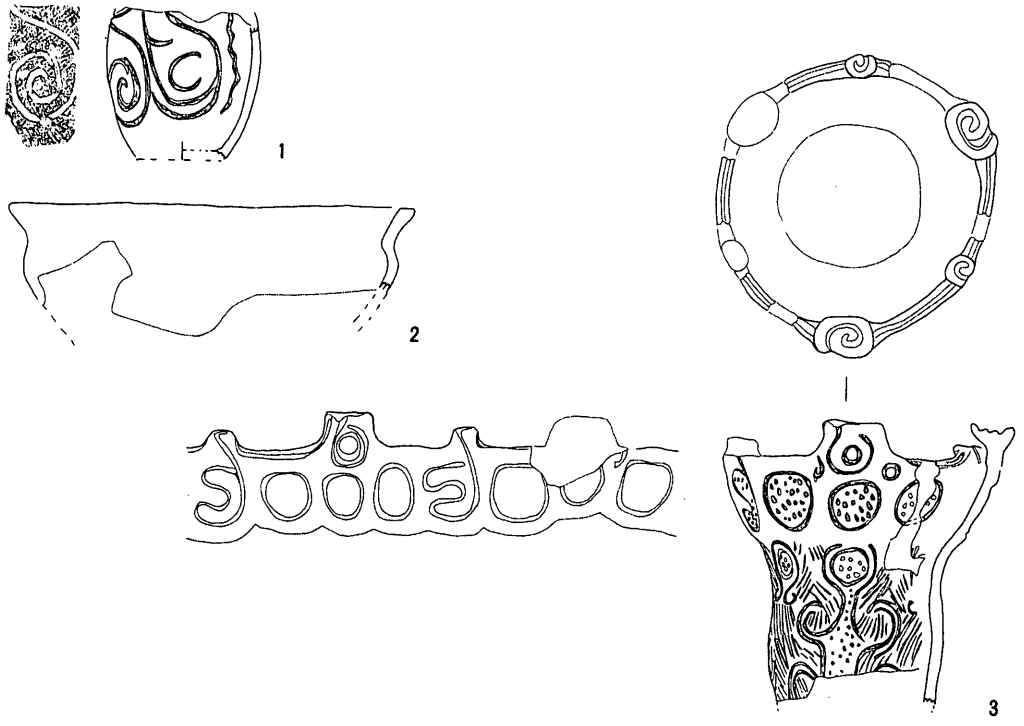
第91図　第３号住居址覆土出土土器（１～３は1/6，他は1/3）



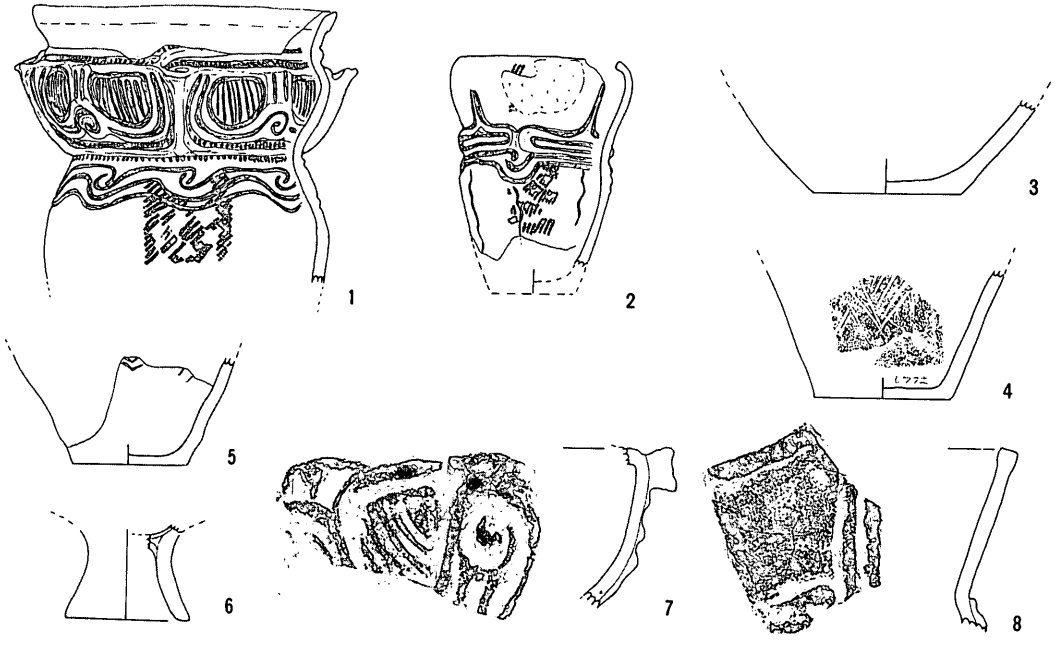
第92図　第3号住居址出土土器(11～19は覆土，20・21は床面，21は1/6，他は1/3)



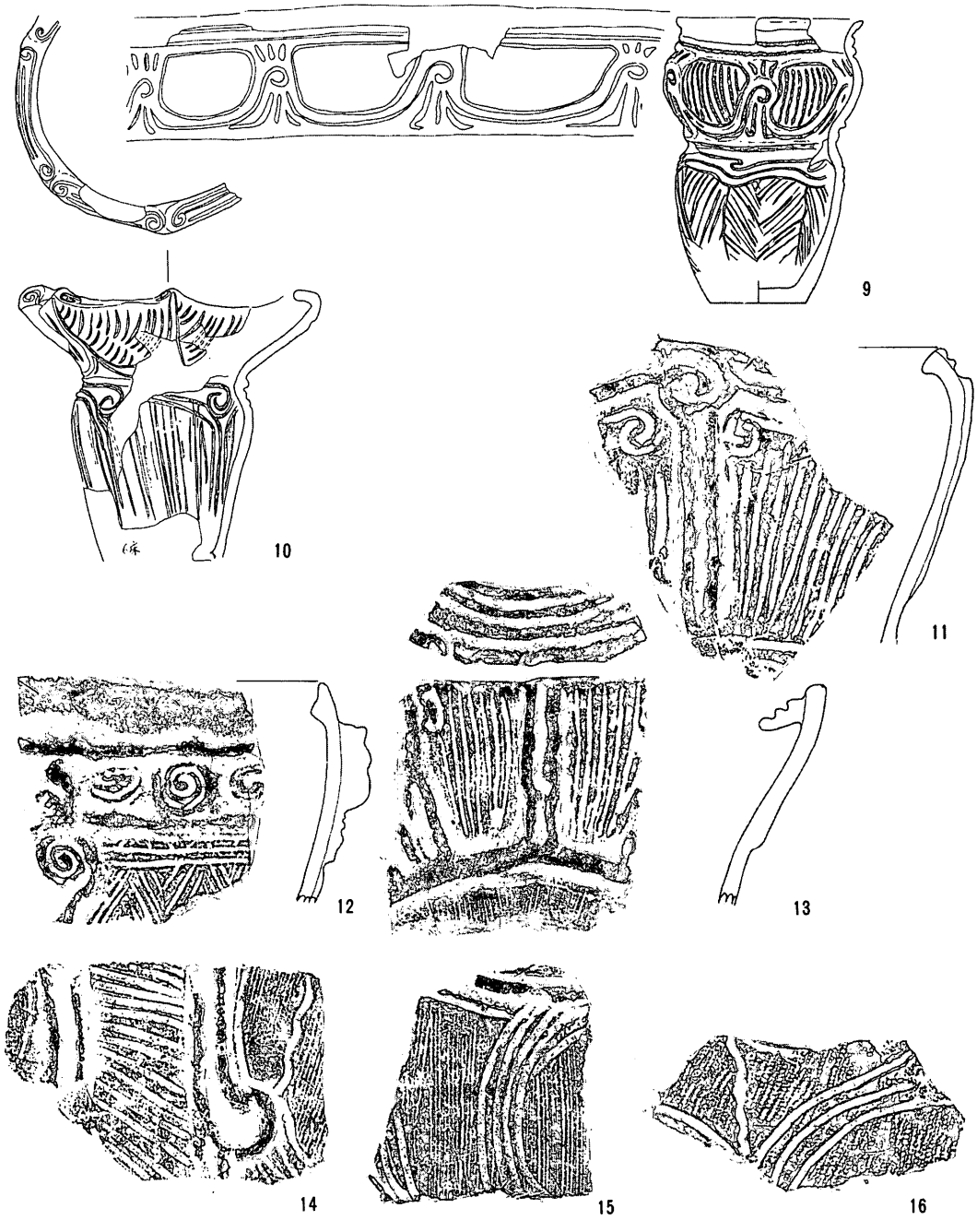
第93図　第4号住居址出土土器(1～6は覆土，8は埋甕，他は床面，1・7～12は1/6，他は1/3)



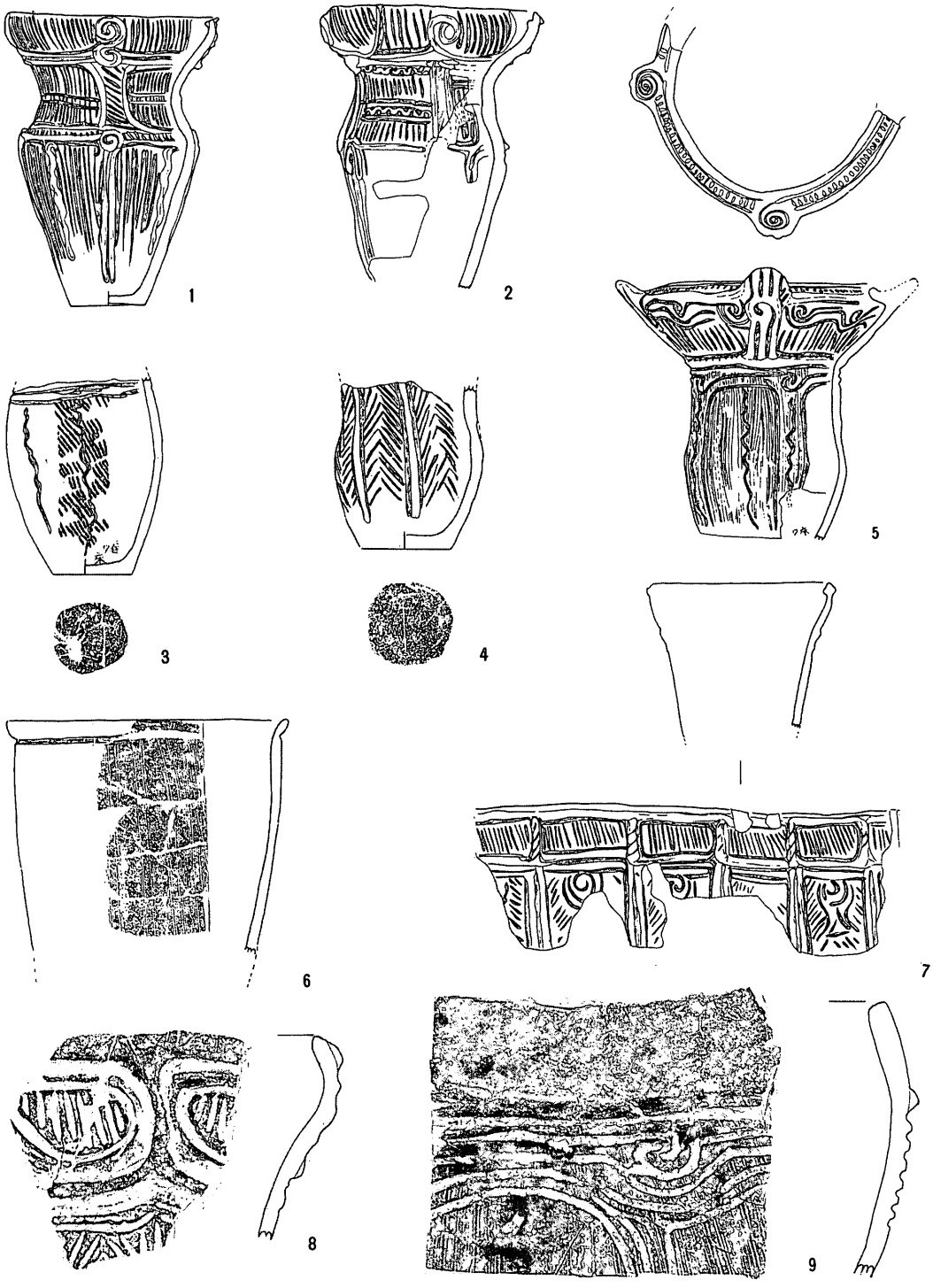
第94図　第５号住居址床面出土土器（１／６）



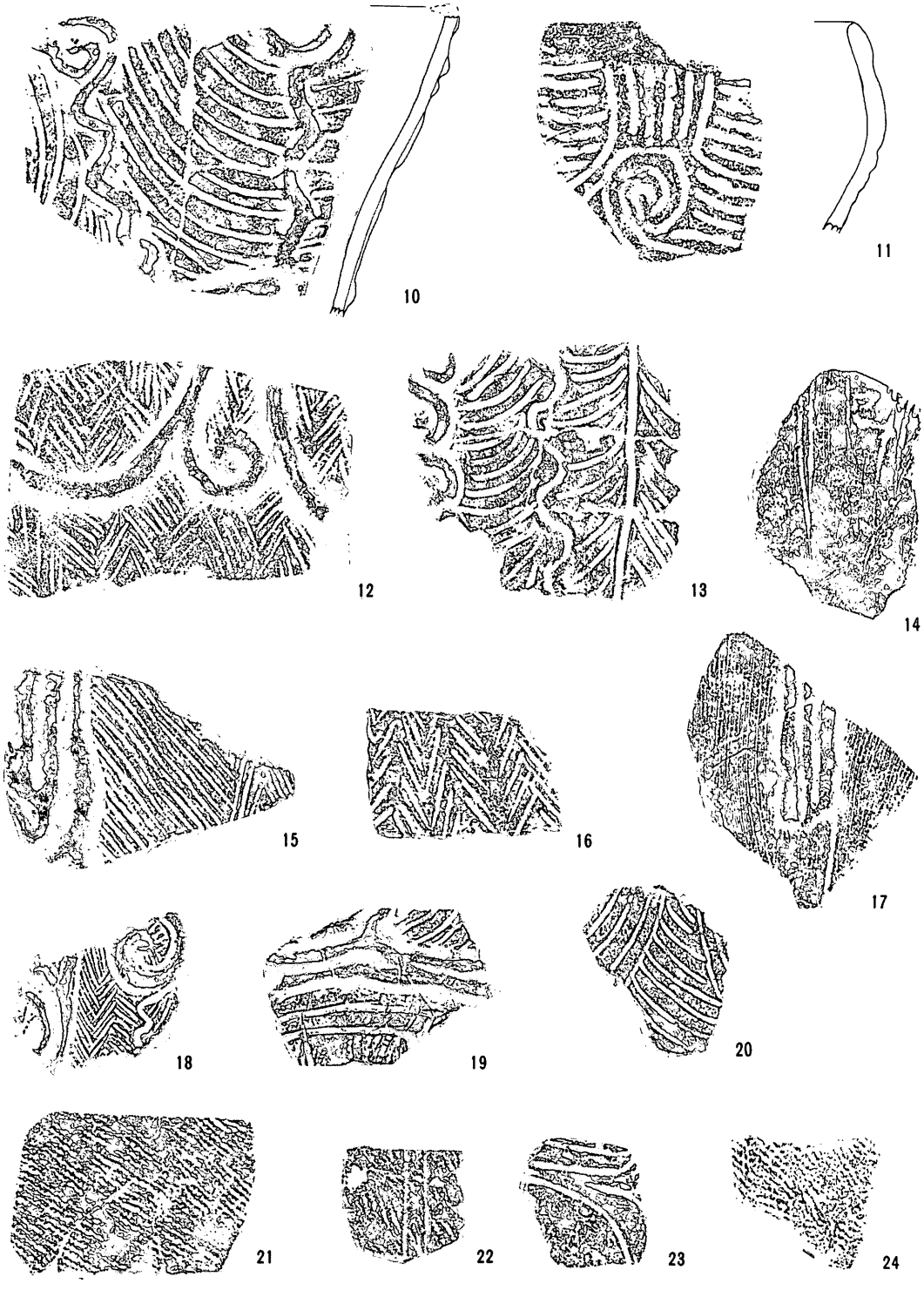
第95図　第６号住居址覆土出土土器（１～６は1/6，他は1/3）



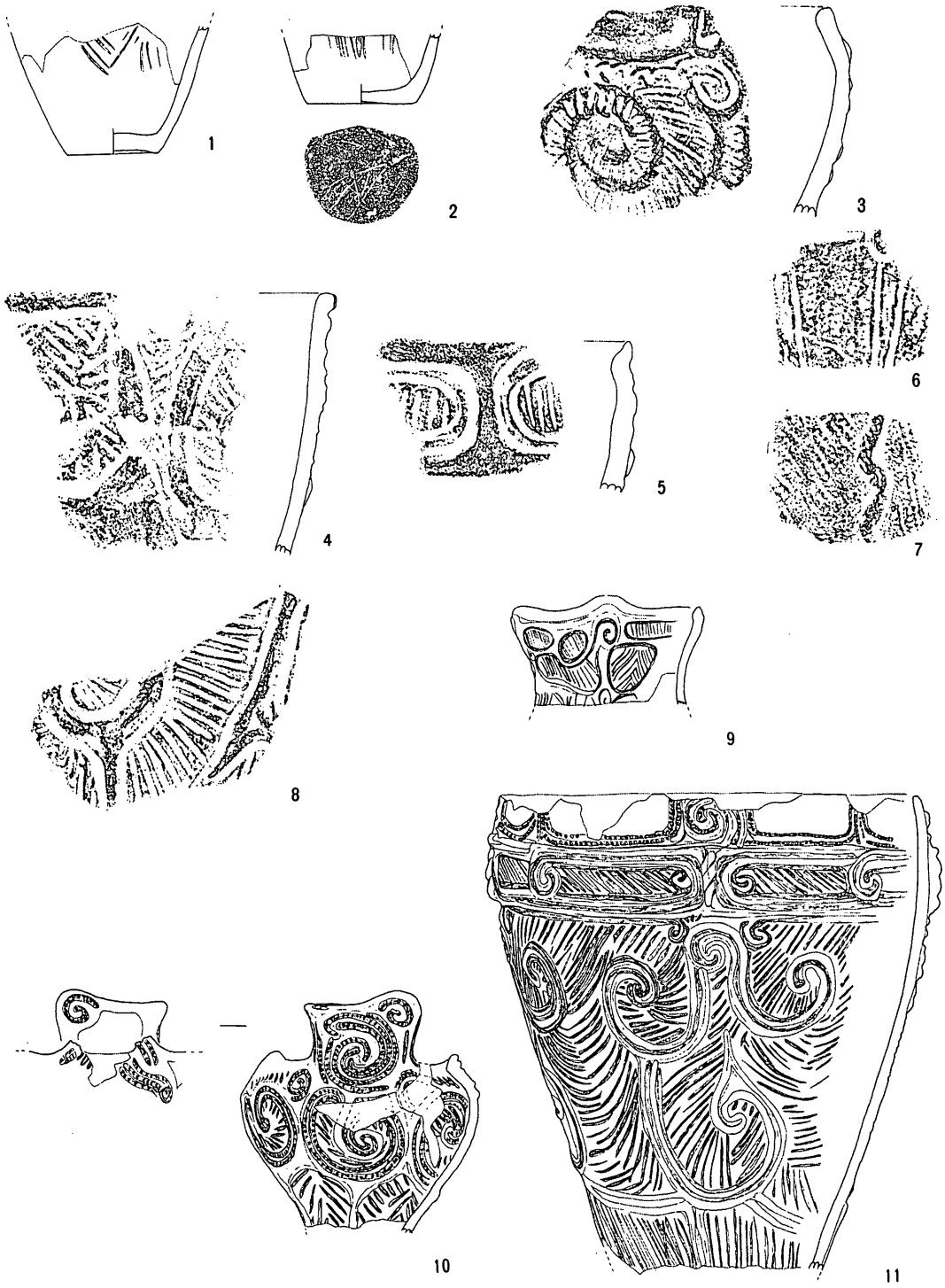
第96図　第６号住居址床面出土土器（９・10は1/6，他は1/3）



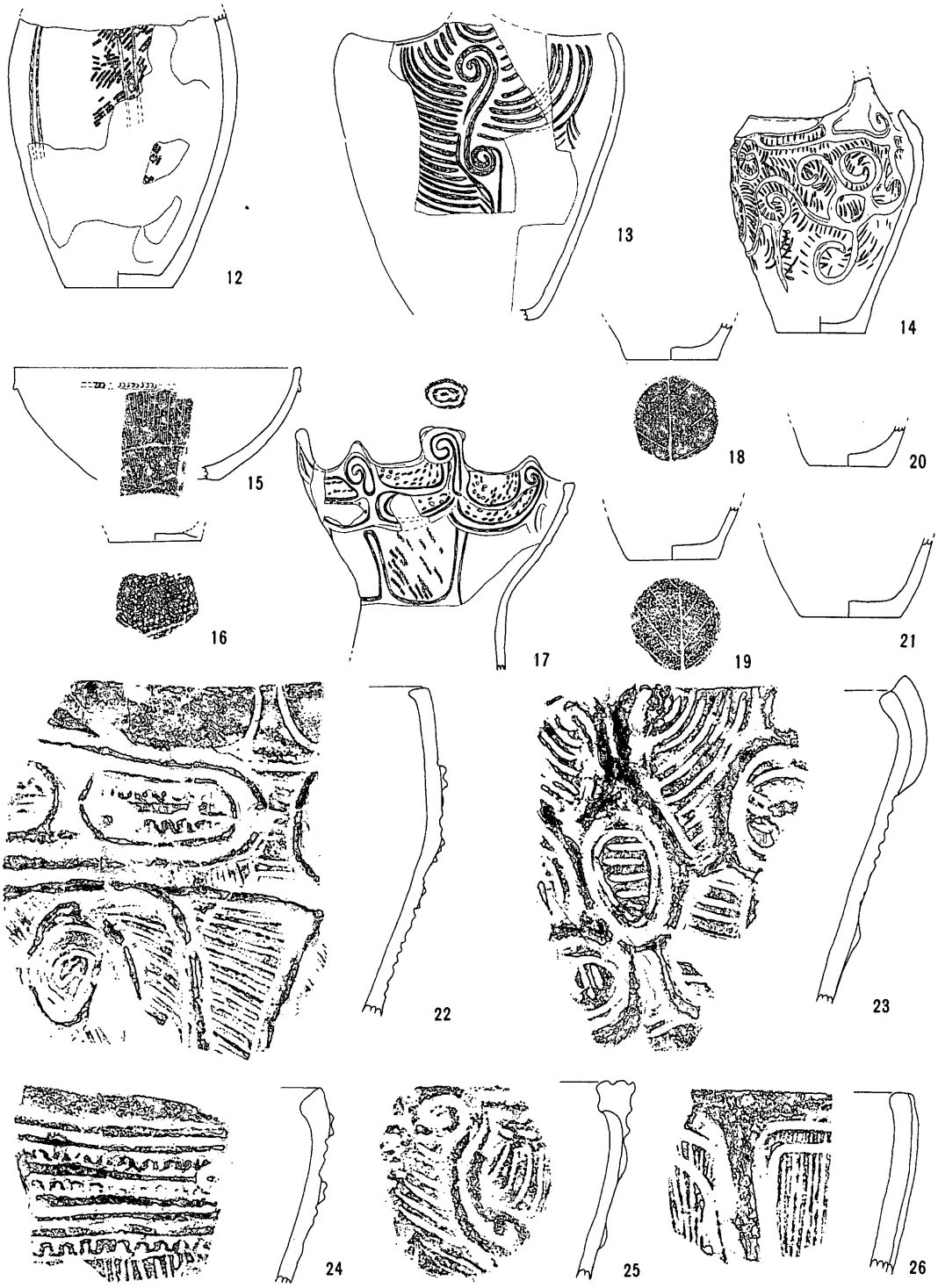
第97図　第７号住居址床面出土土器（１～６は1/6，他は1/3）



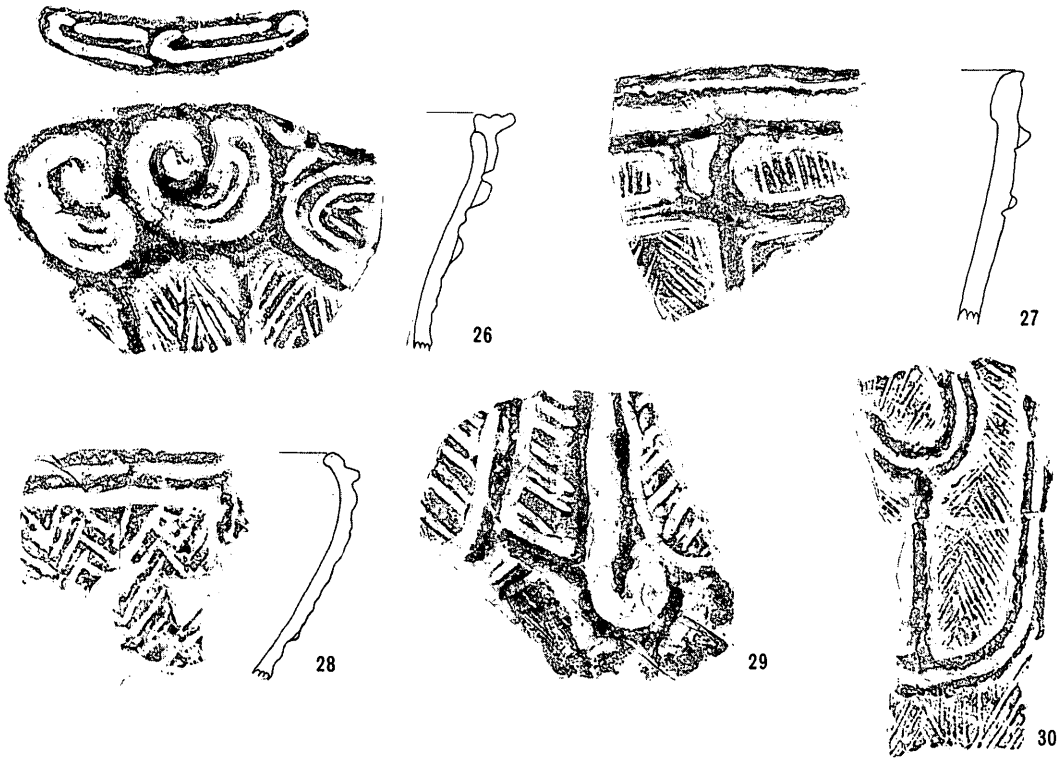
第98図　第７号住居址床面出土土器(1/3)



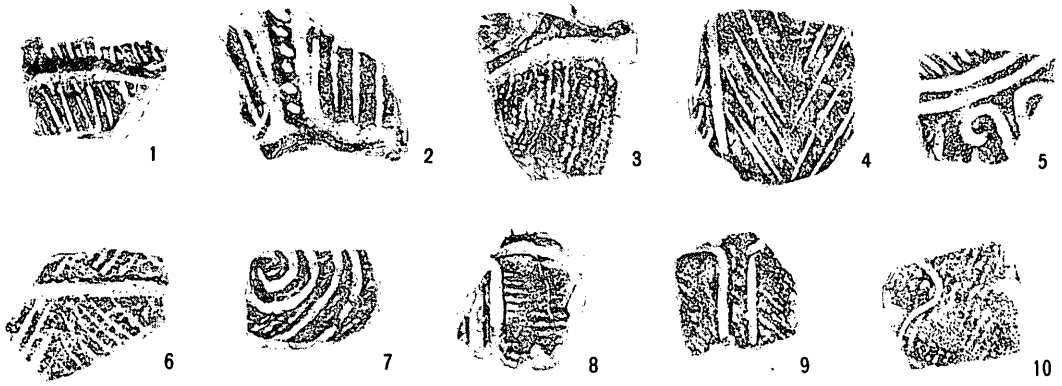
第99図　第8号住居址出土土器（1～8は覆土，9・10は床面，11は埋甕，1・2・9～11は1/6，他は1/3）



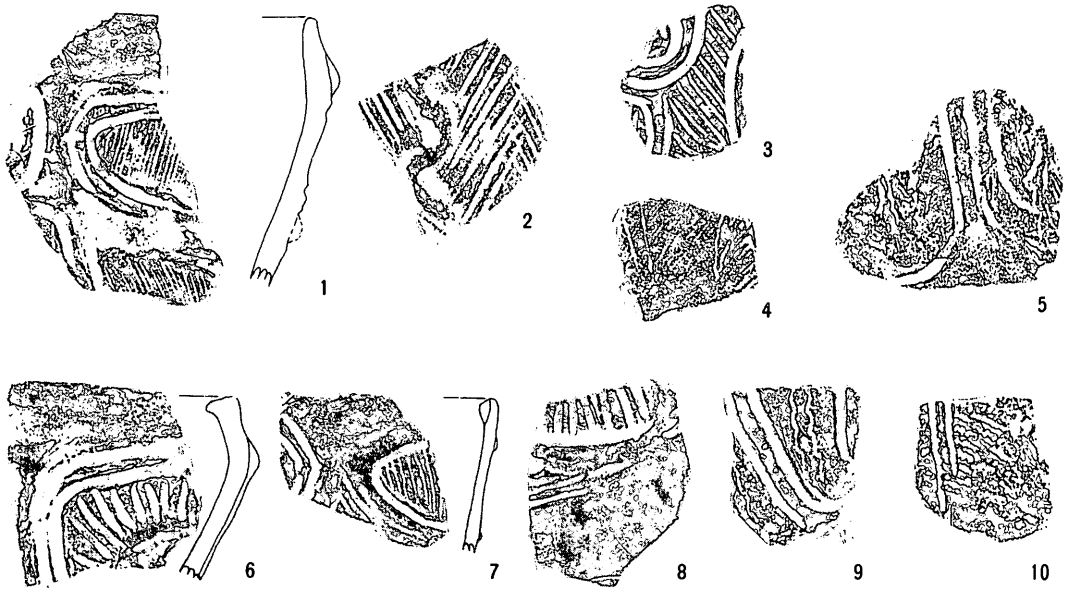
第100図　第８号住居址床面出土土器(12～21は1/6，他は1/3)



第101図　第８号住居址床面出土土器（１／３）

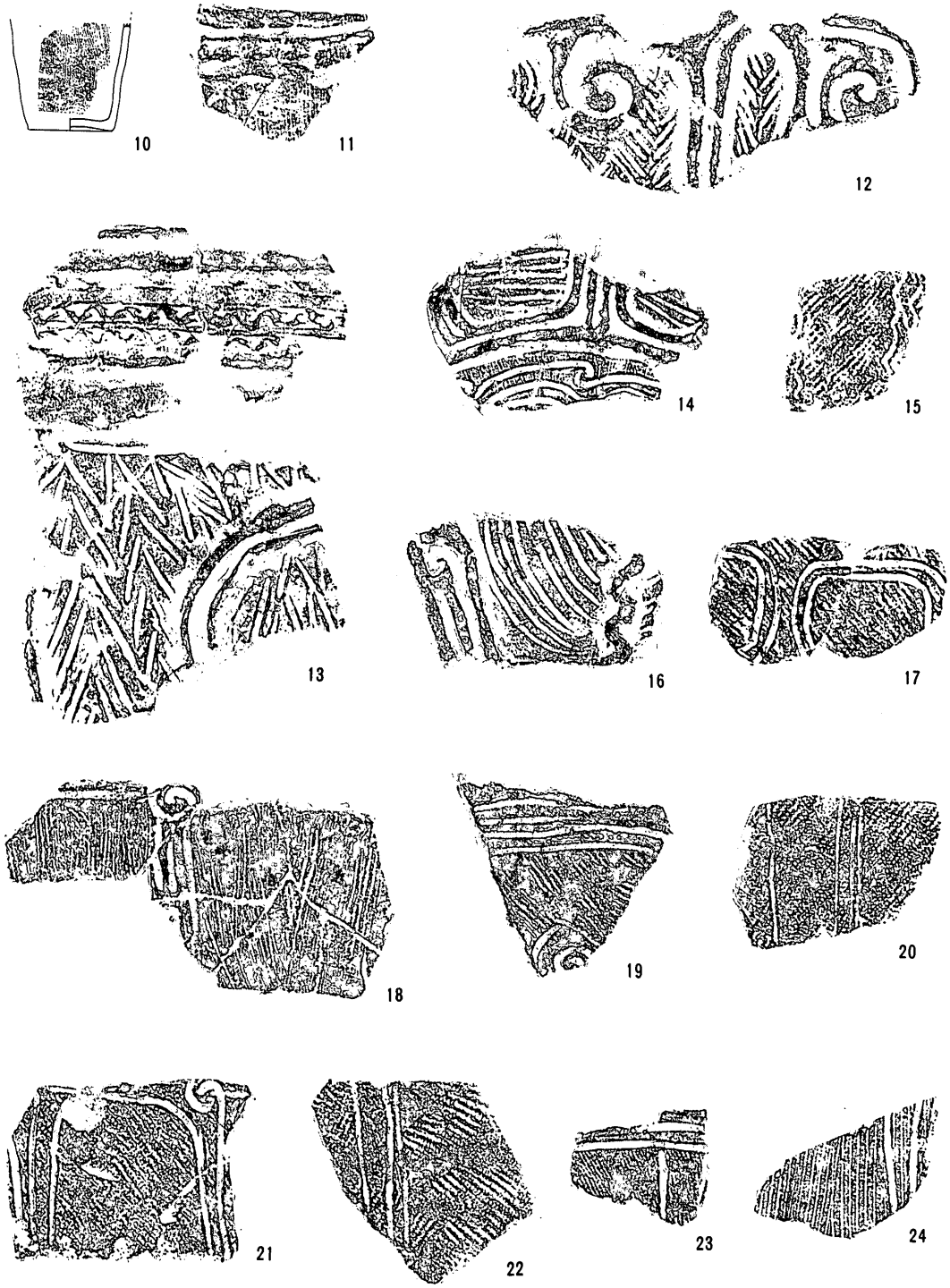


第102図　第９号住居址床面出土土器（１／３）

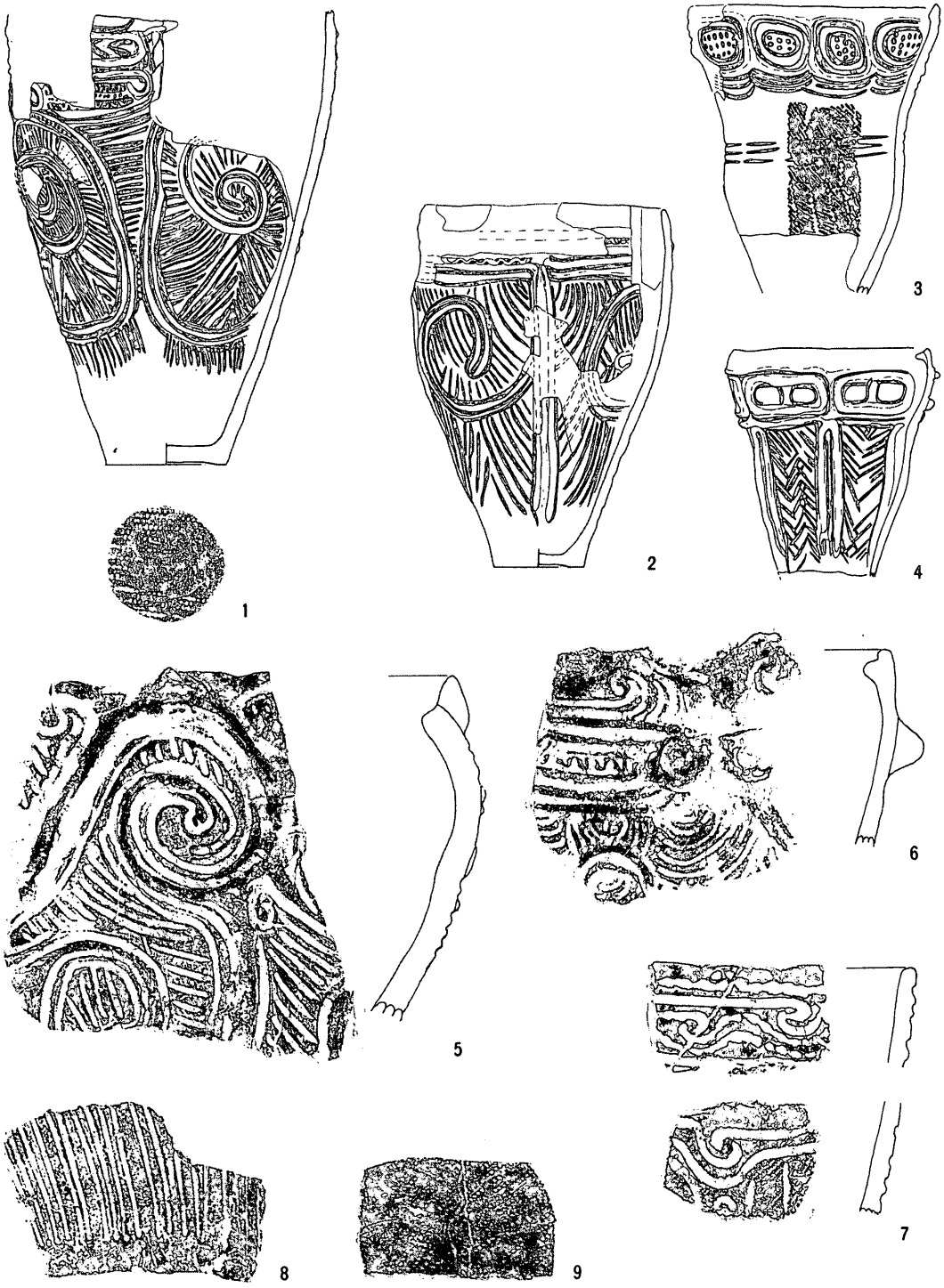


第103図　第10号住居址出土土器（１～５は覆土，６～10床面，１／３）

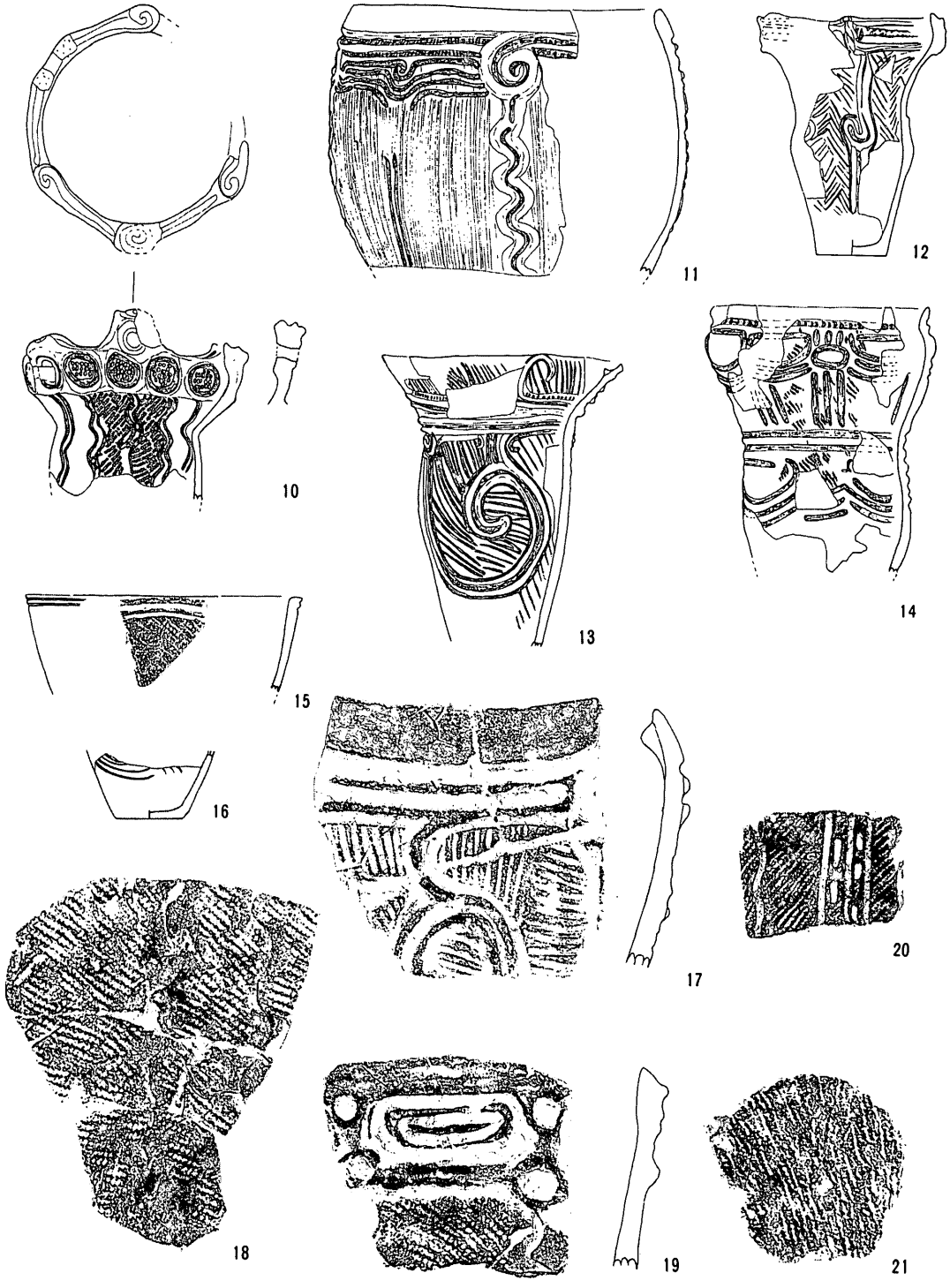
第104図　第11号住居址覆土出土土器(1/3)



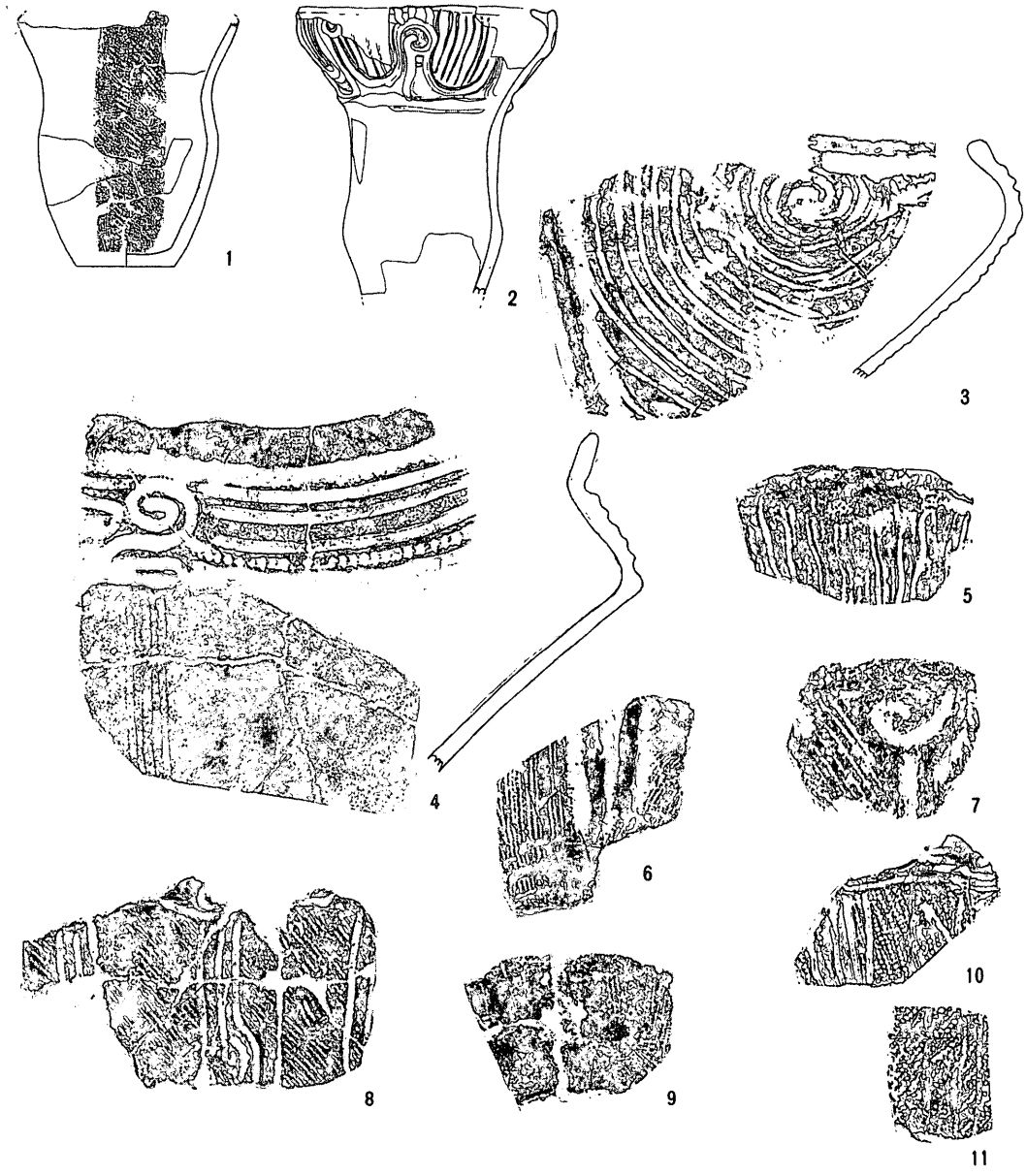
第105図　第11号住居址床面出土土器(10は1/6，他は1/3)



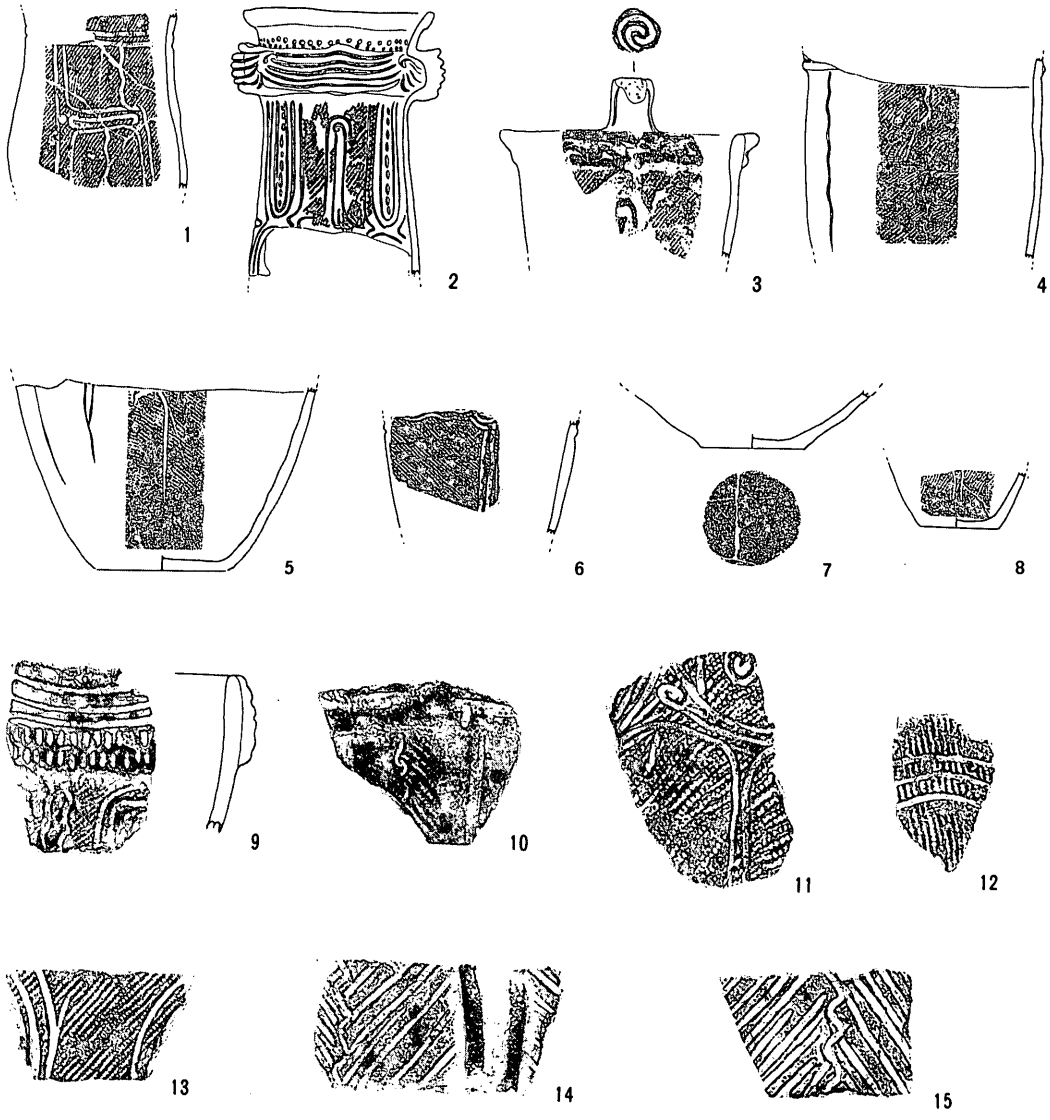
第106図　第12号住居址覆土出土土器（１～４は1/6，他は1/3）



第107図　第12号住居址床面出土土器(10～16は1/6，他は1/3)

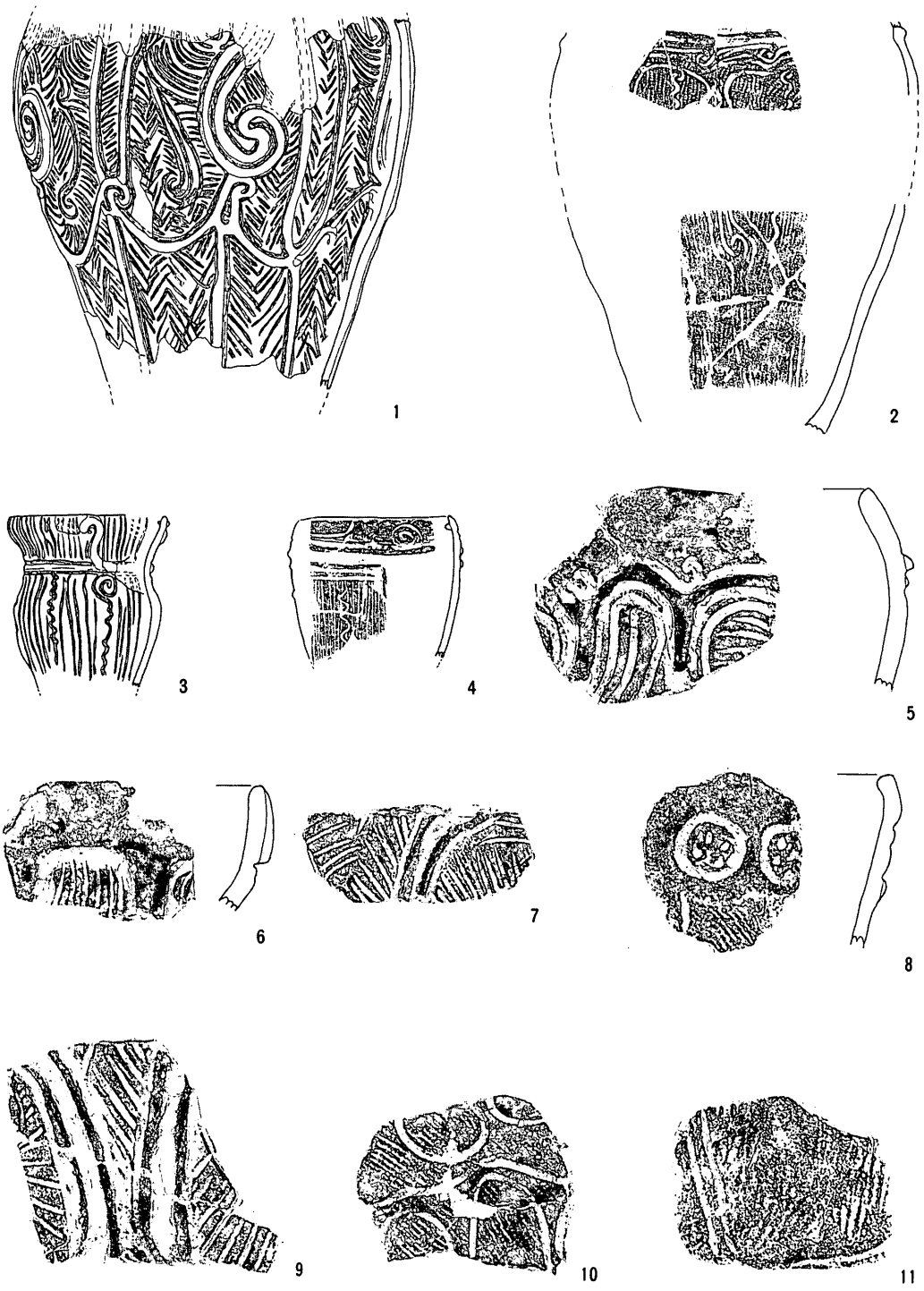


第108図　第13号住居址床面出土土器(12は1/6，他は1/3)

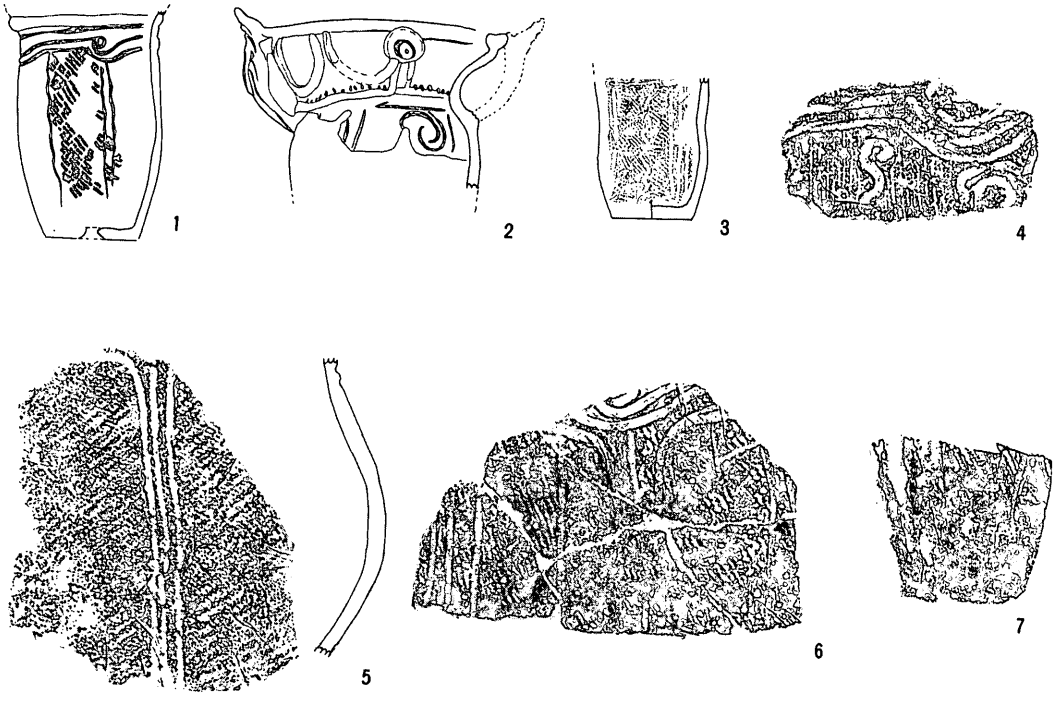


第109図　第14号住居址床面出土土器(1～8は1/6，他は1/3，5は炉内出土)

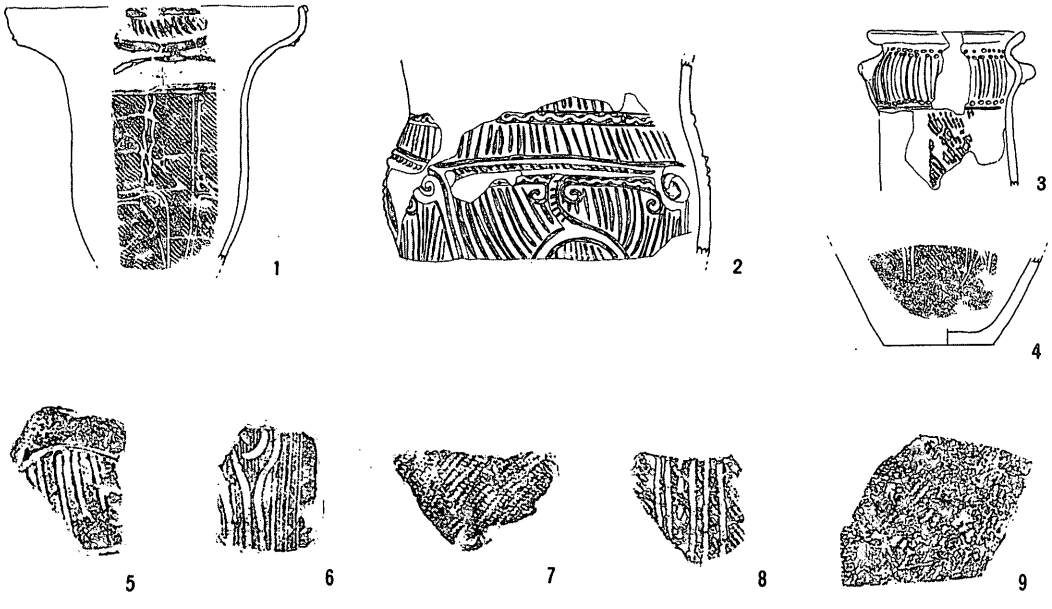
第110図　第15号住居址床面出土土器（1～3は1/6，他は1/3）



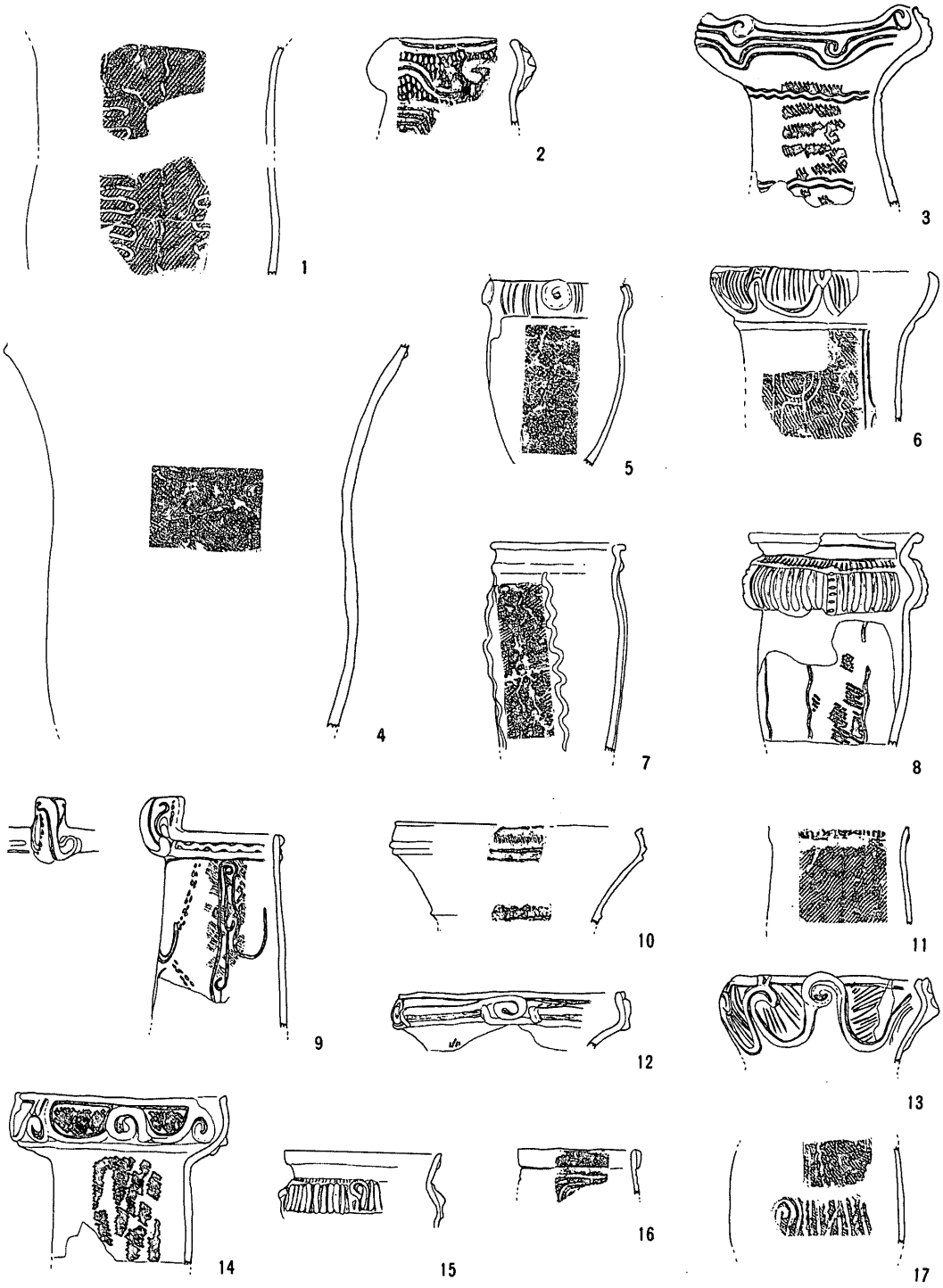
第111図　第16号住居址床面出土土器(1～4は1/6，他は1/3，1は埋甕)



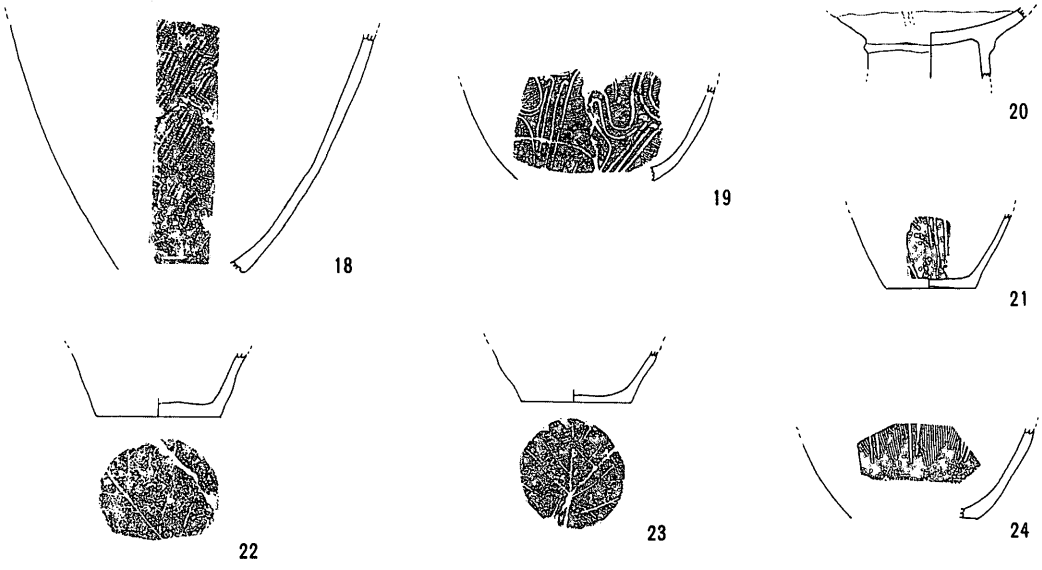
第112図　第17号住居址床面出土土器(1は伏甕，1～3は1/6他は床面)



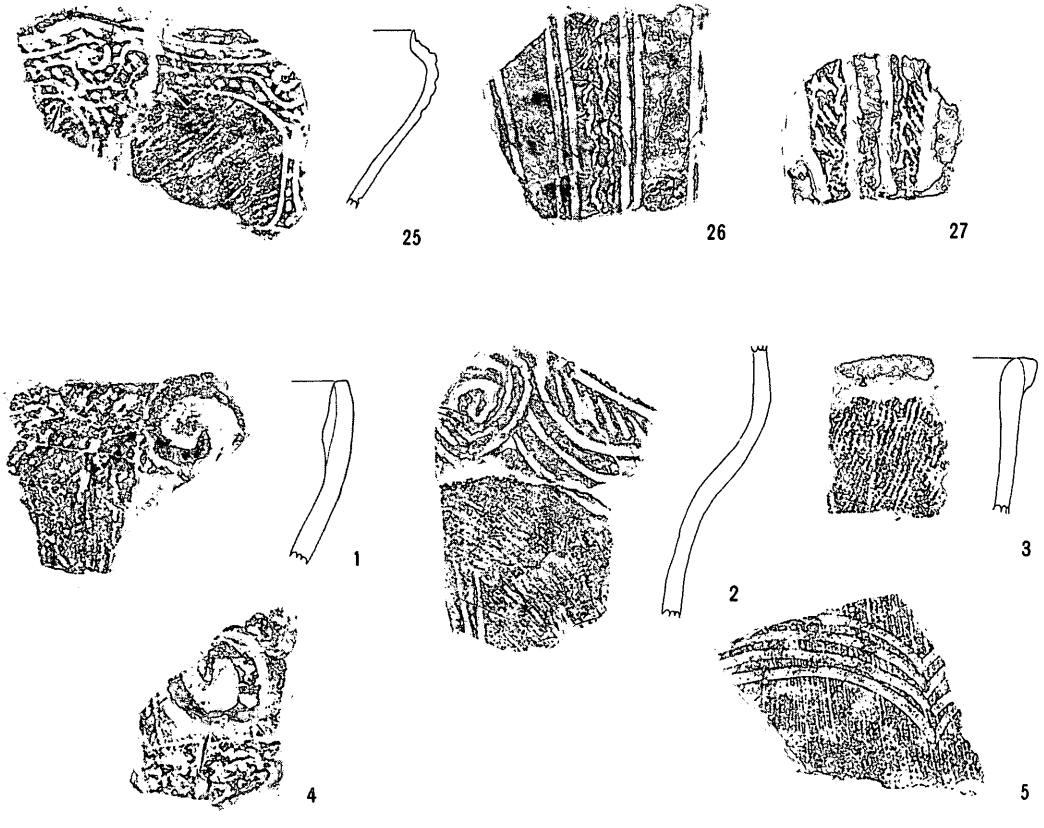
第113図　第18号住居址床面出土土器(1～4は1/6，他は1/3)



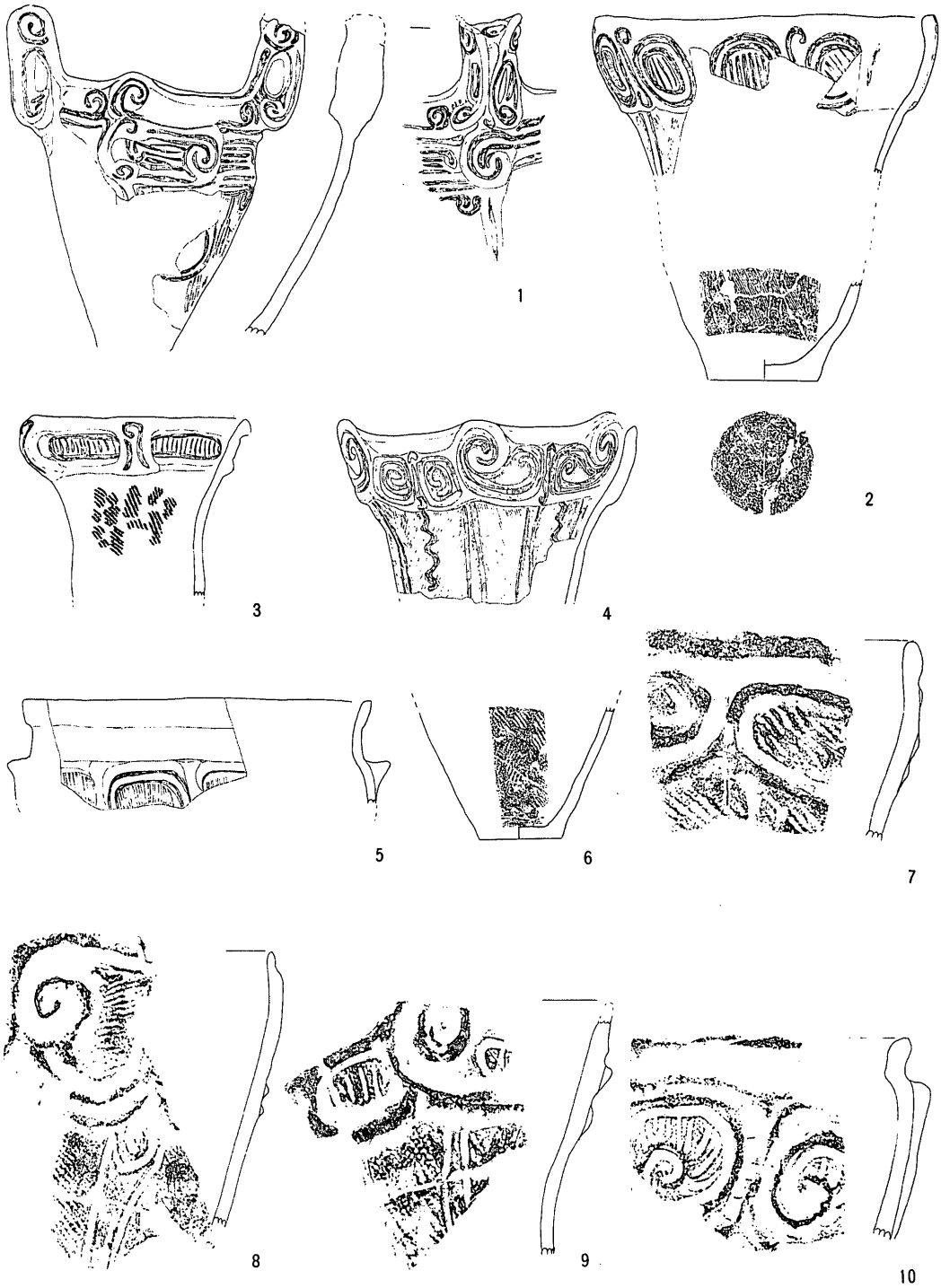
第114図　第19号住居址出土土器(1・2は覆土，他は床面，1/6)



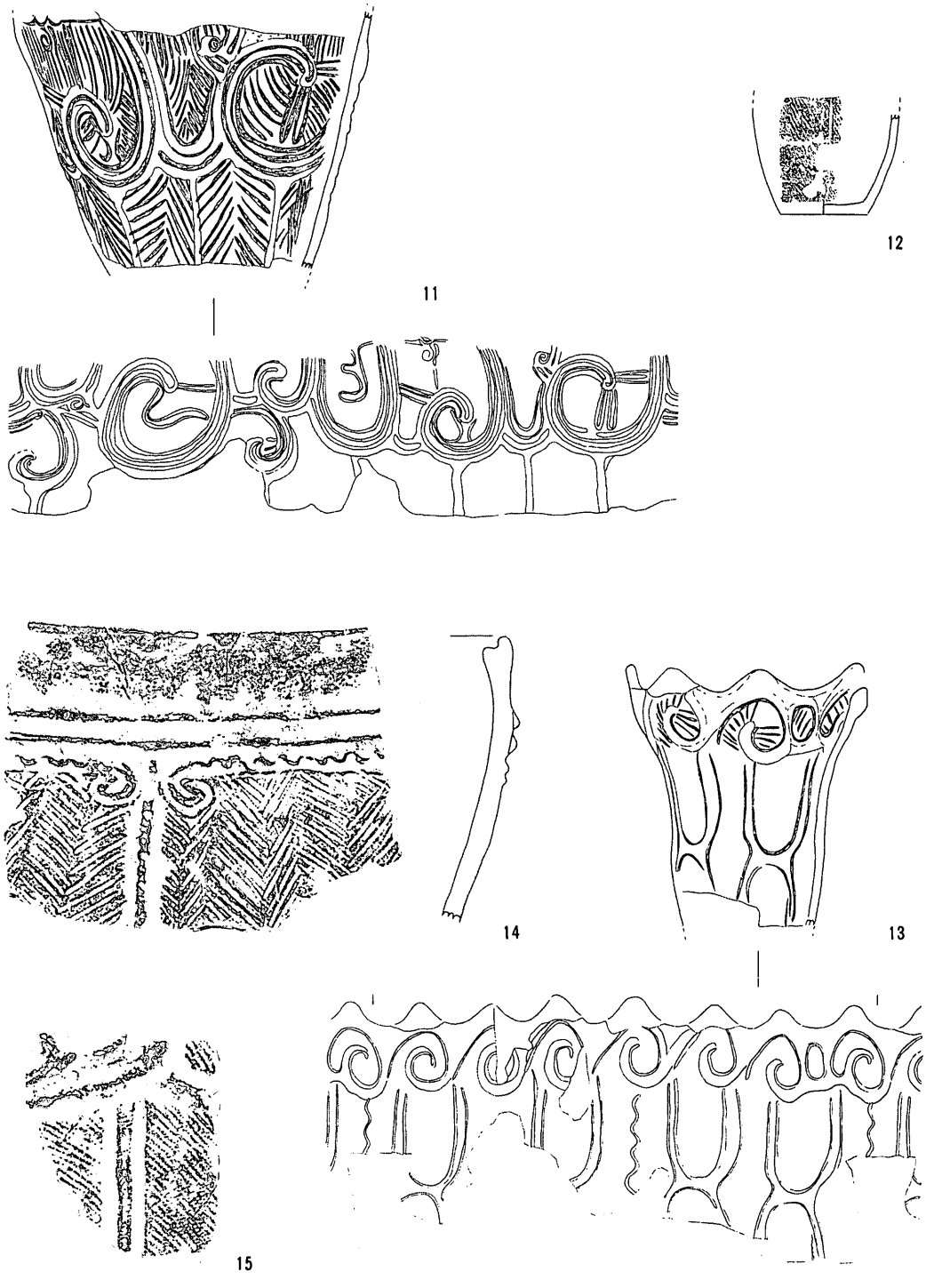
第115図　第19号住居址床面出土土器(18～24は1/6他は1/3)



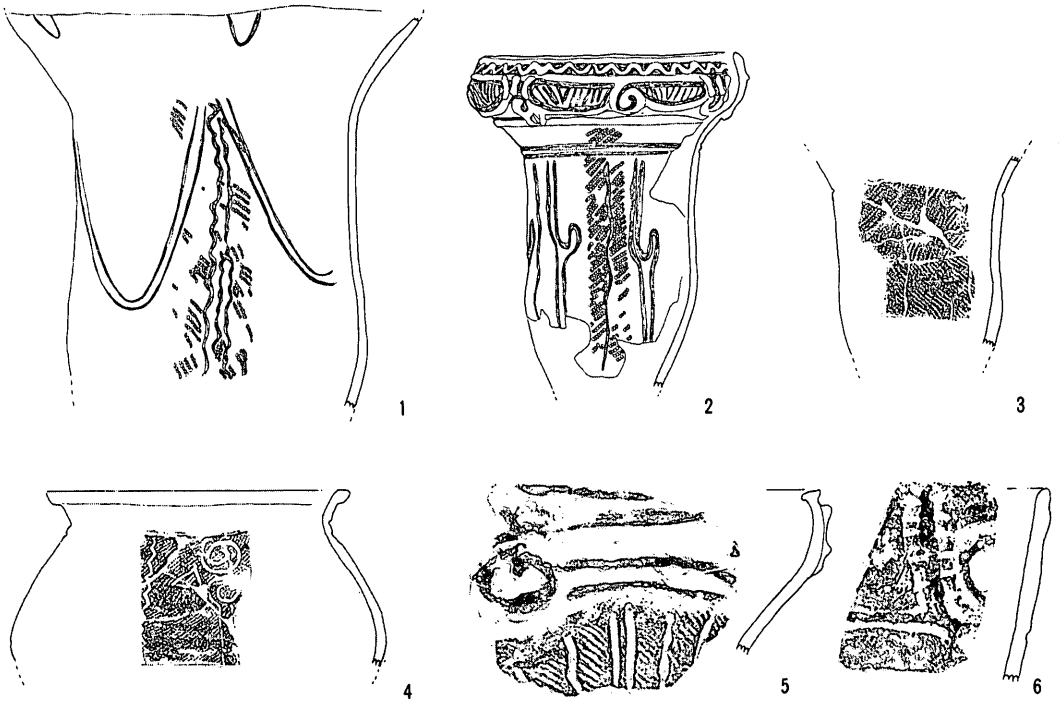
第116図　第20号住居址床面出土土器(1/3)



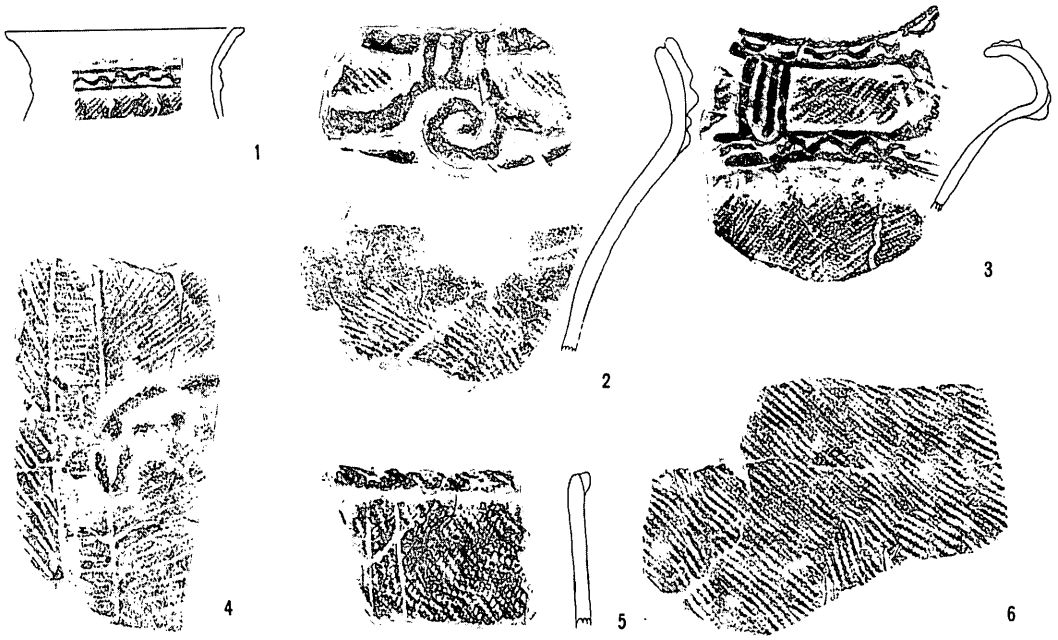
第117図　第21号住居址覆土出土土器(1～6は1/6，他は1/3)



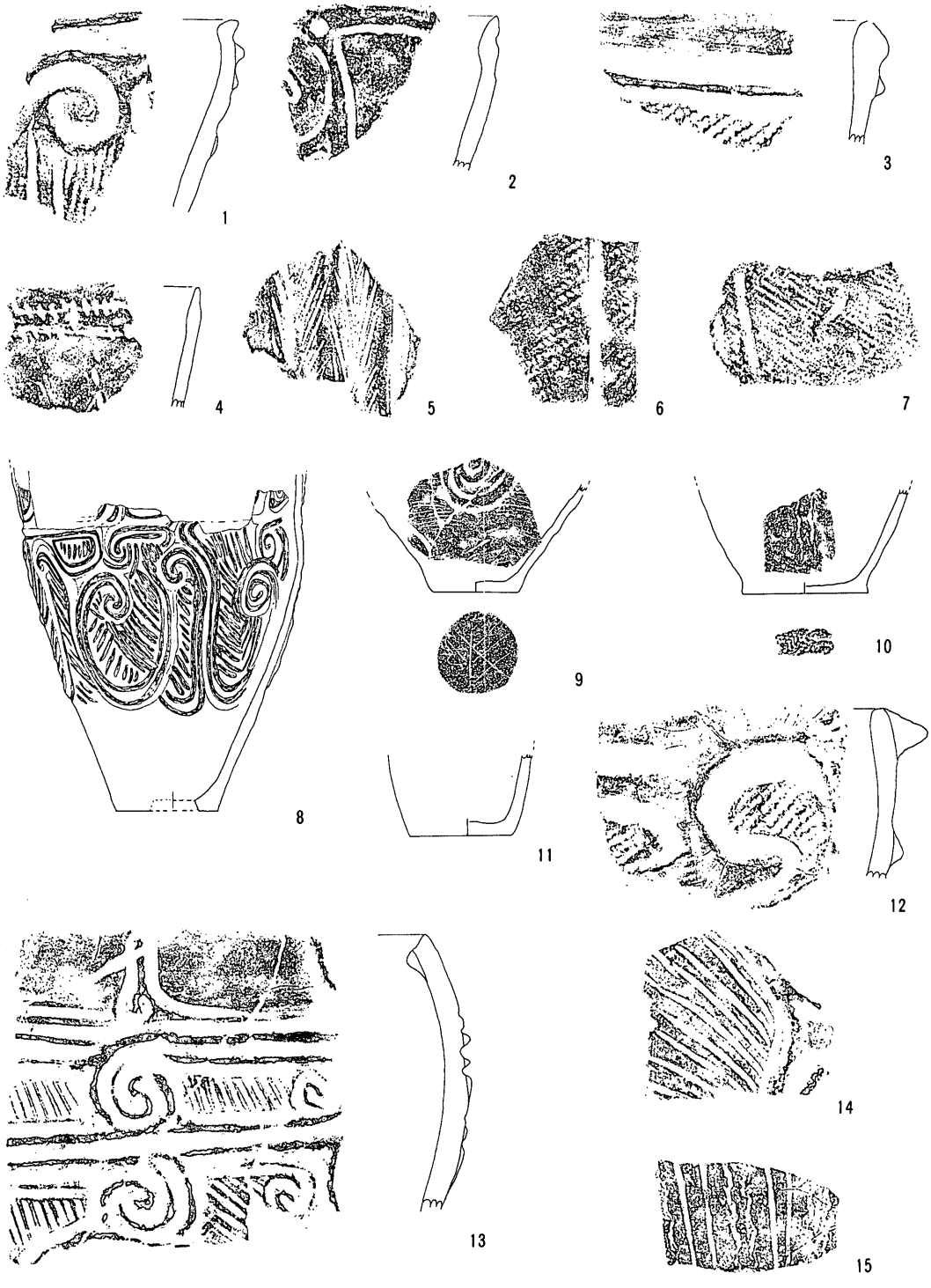
第118図　第21号住居址床面出土土器(11～13は1/6，他は1/3，11は埋甕)



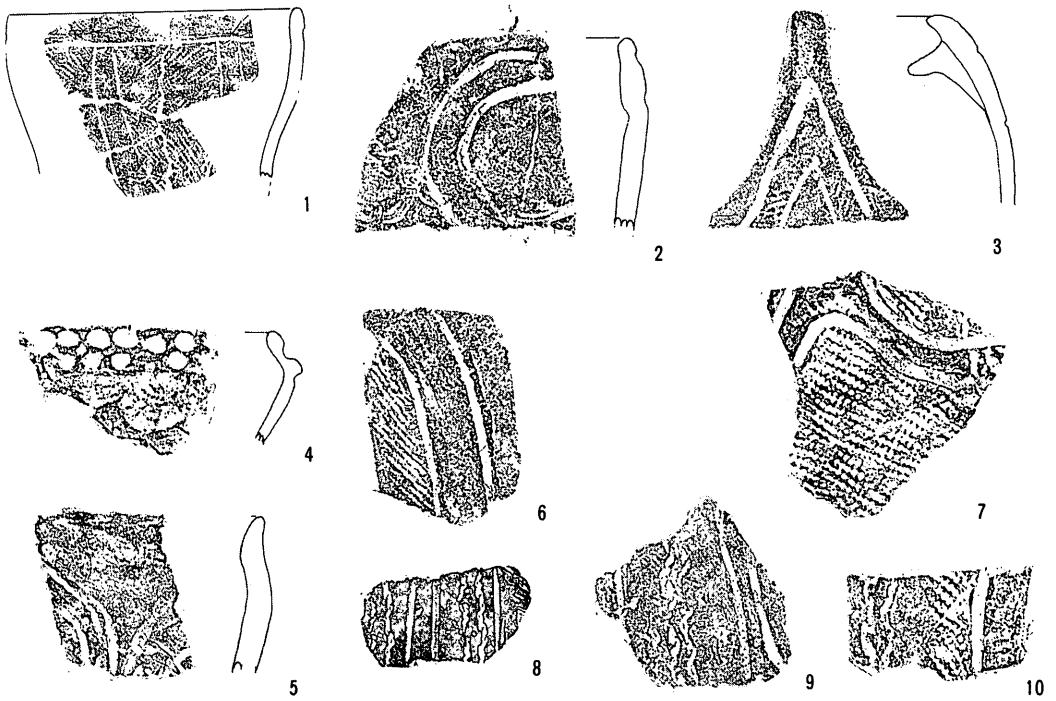
第119図　第22号住居址床面出土土器(1～4は1/6，他は1/3，1は埋甕)



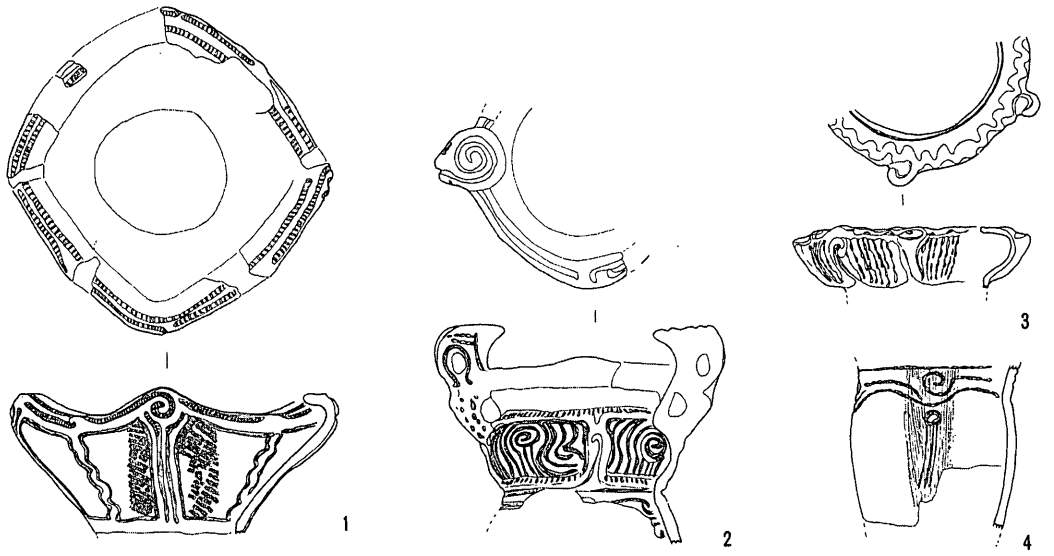
第120図　第23号住居址床面出土土器(1は1/6，他は1/3)



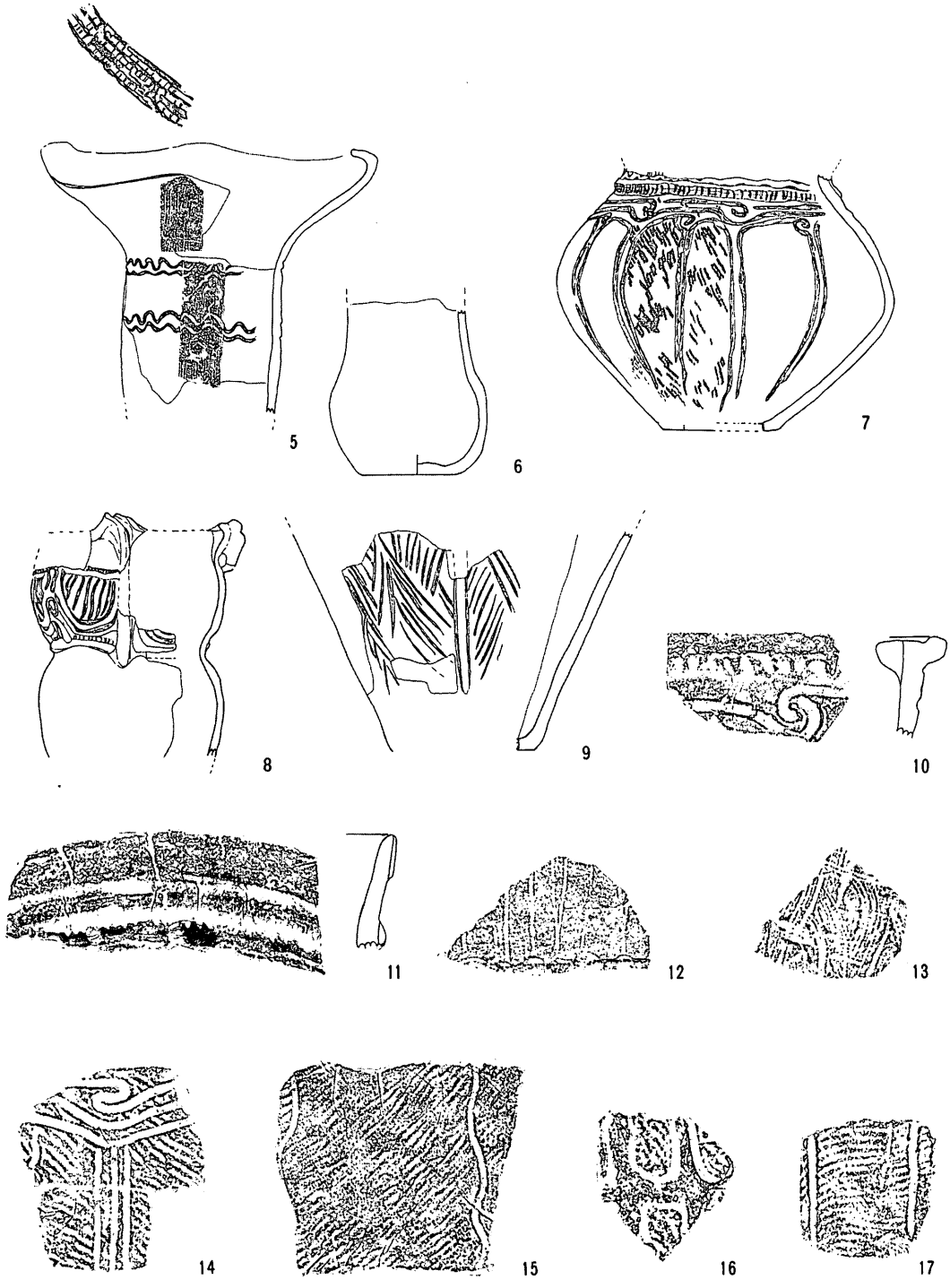
第121図　第24号住居址出土土器(1～7は覆土，8は埋甕，9～15は床面，8—11は1/6，他は1/3)



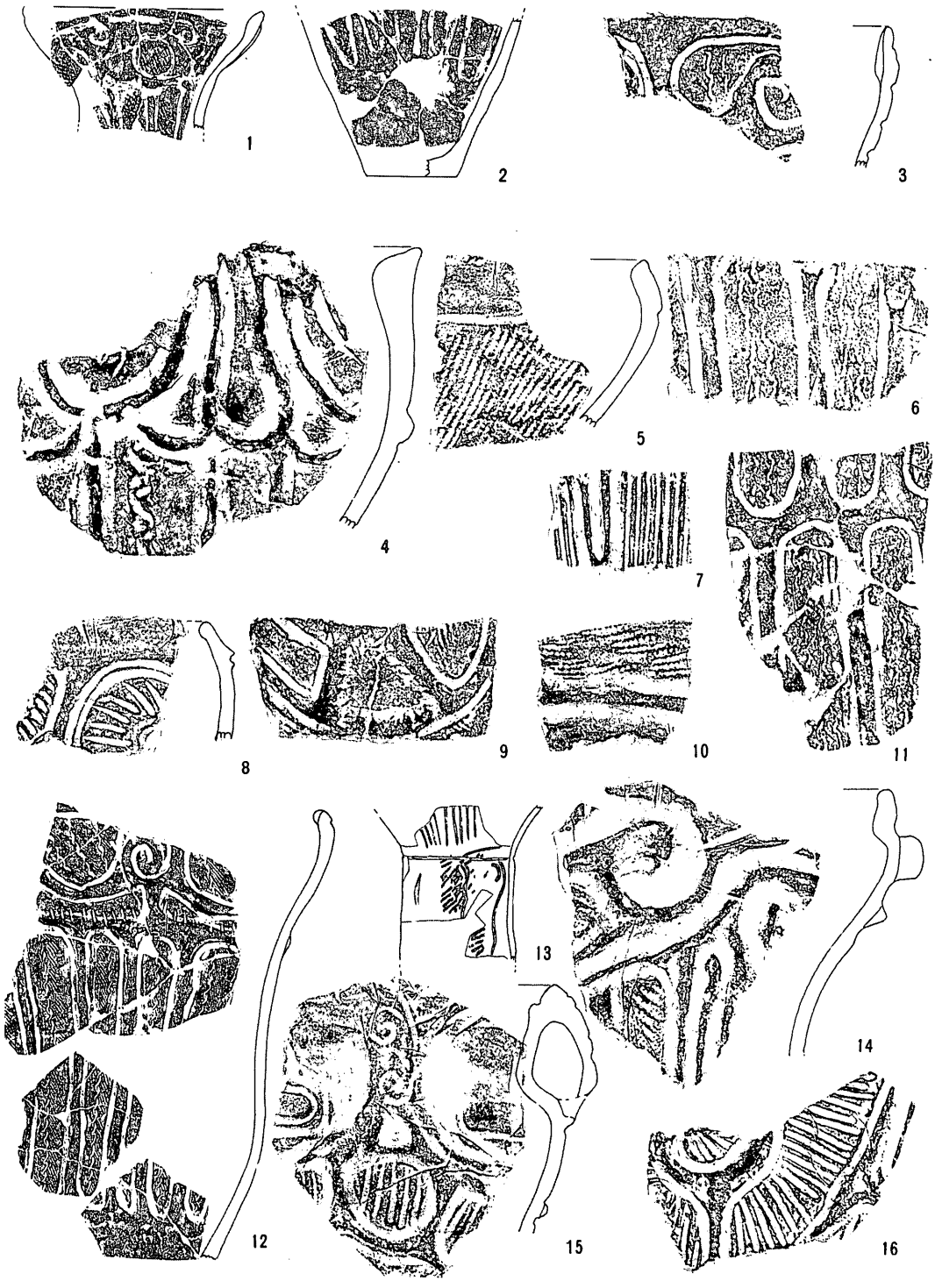
第122図　第26号住居址床面出土土器(1は1/6，他は1/3)



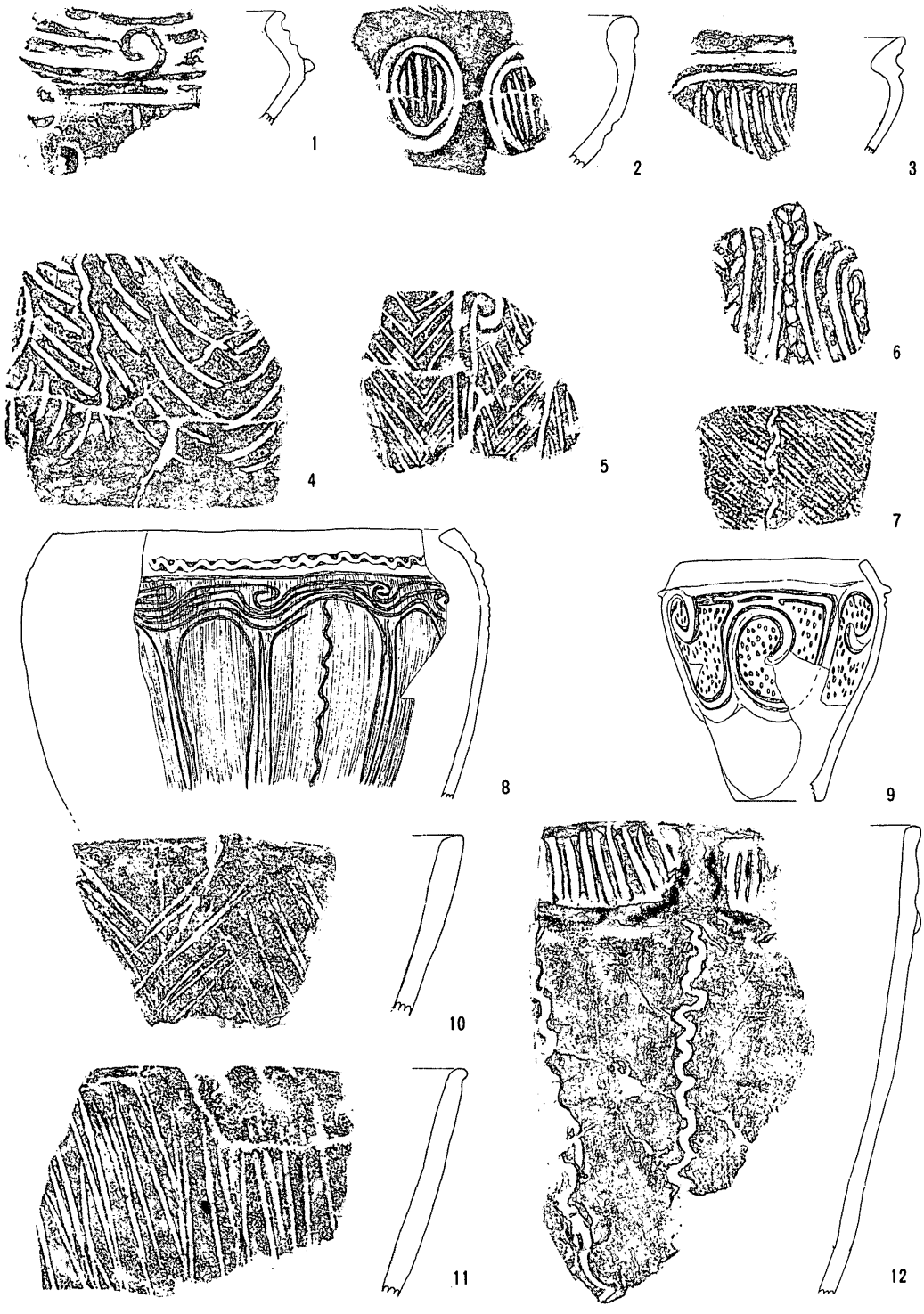
第123図　第27号住居址床面出土土器(1/6)



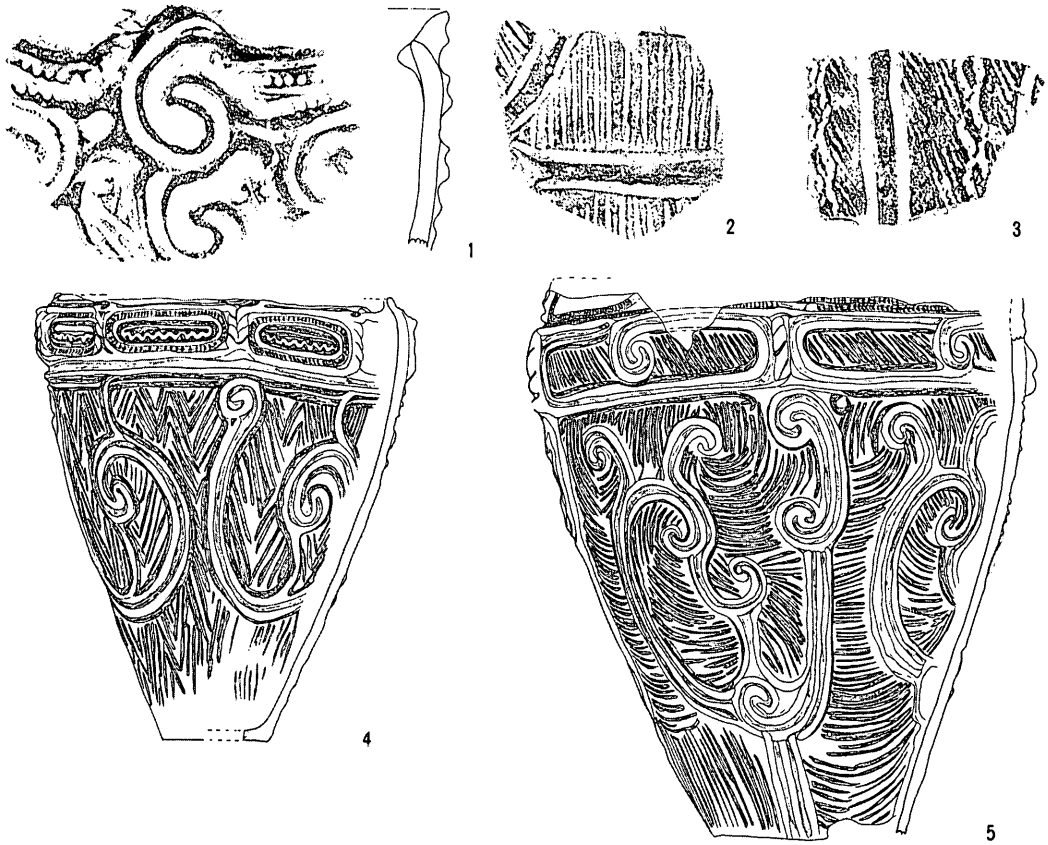
第124図　第27号住居址床面出土土器(5—7は1/6，他は1/3)



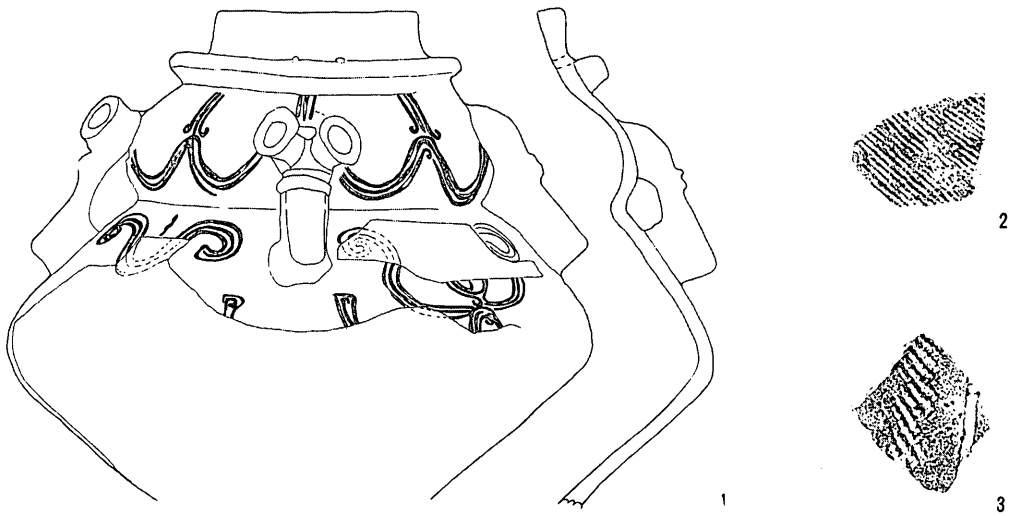
第125図　第28号住居址出土土器(1～11は覆土，12～16は床，1・2・12・13は1/6，他は1/3)



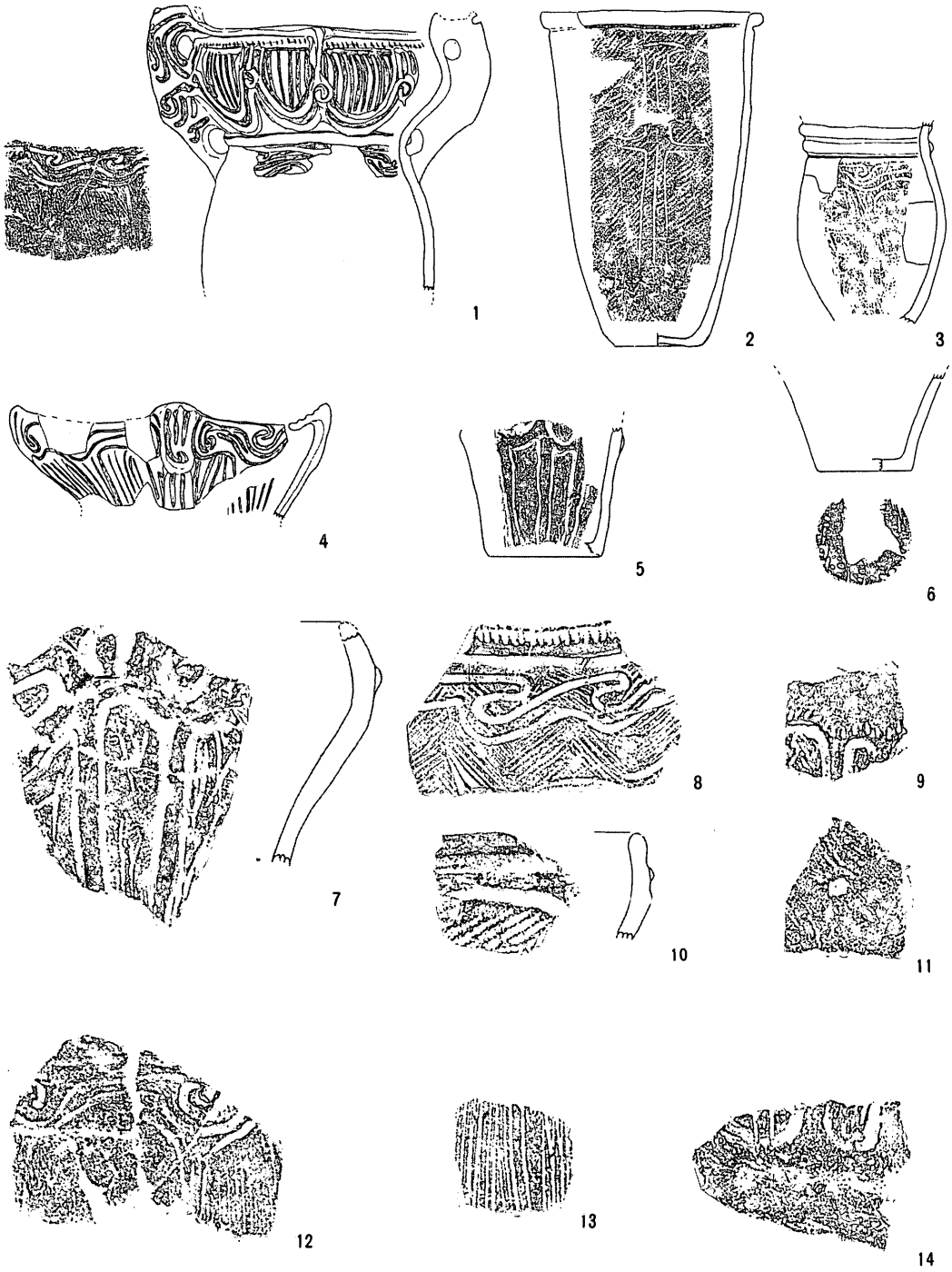
第126図　第29号住居址出土土器(1～7は覆土，8・9は炉内，10～12は床面出土，8・9は1/6，他は1/3)



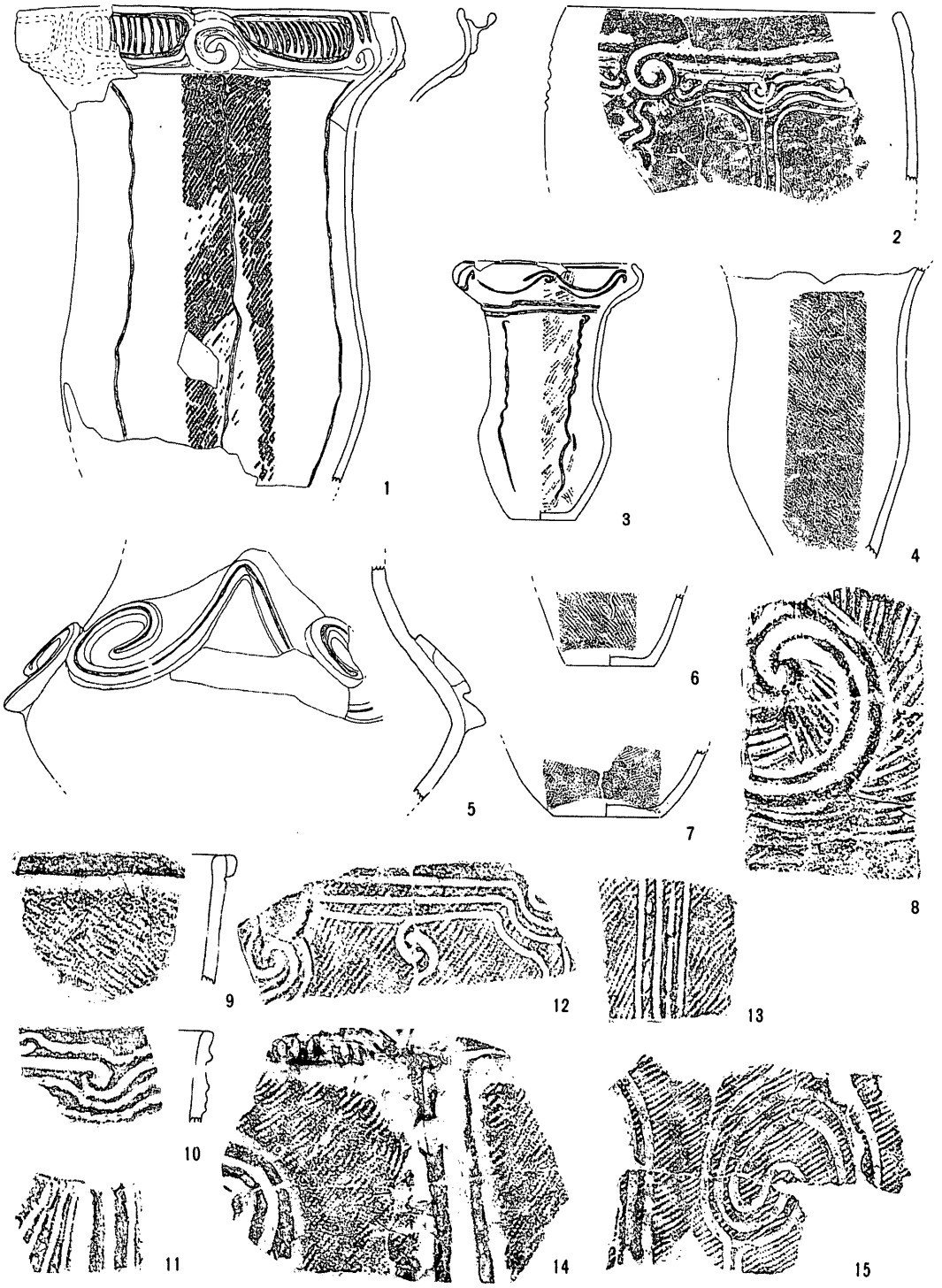
第127図　第30号住居址出土土器(1～3は覆土，4は埋甕，5は埋雍2，1～3は1/3，4・5は1/6)



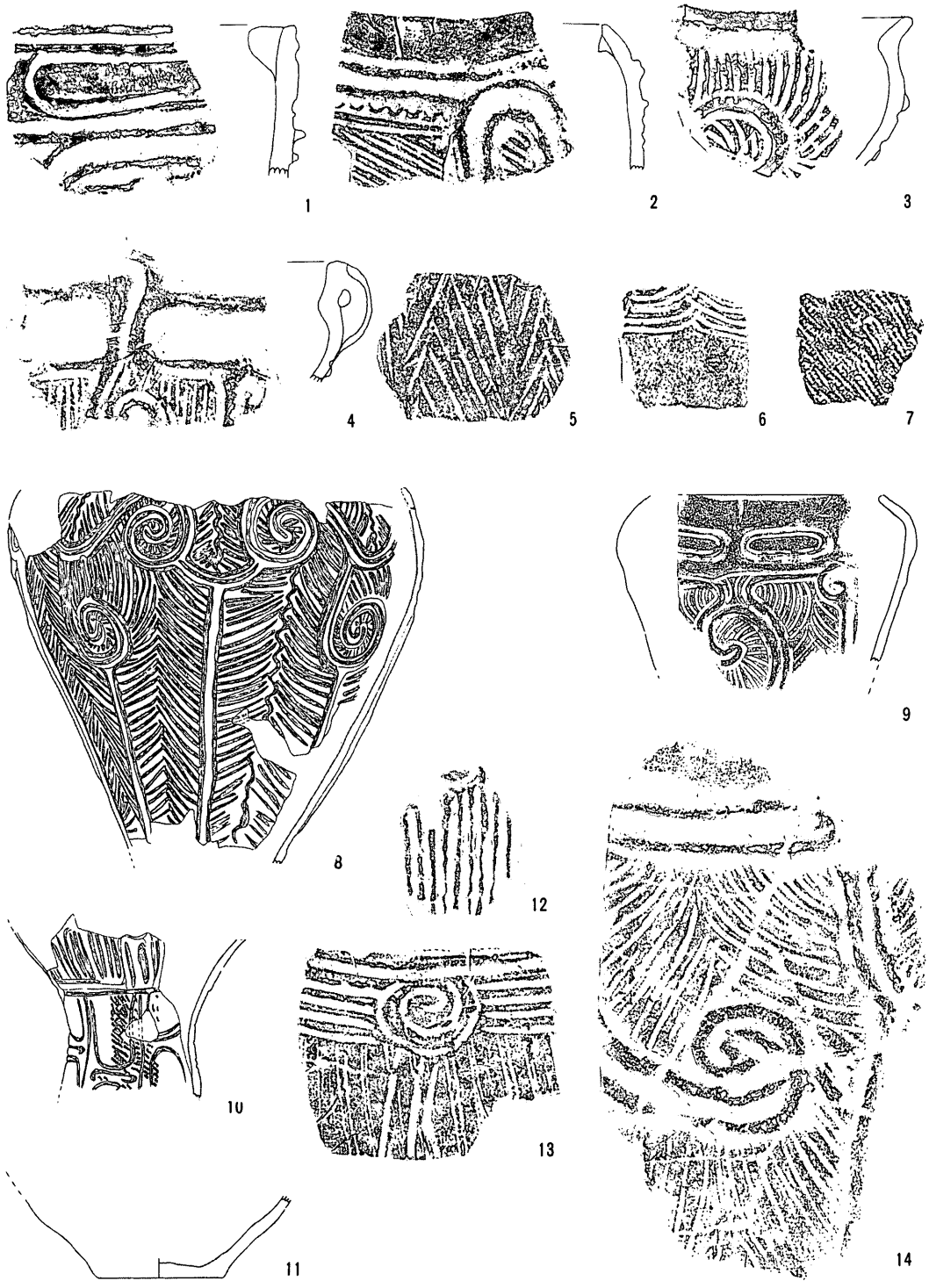
第128図　第31号住居址床面出土土器(1は1/6，他は1/3)



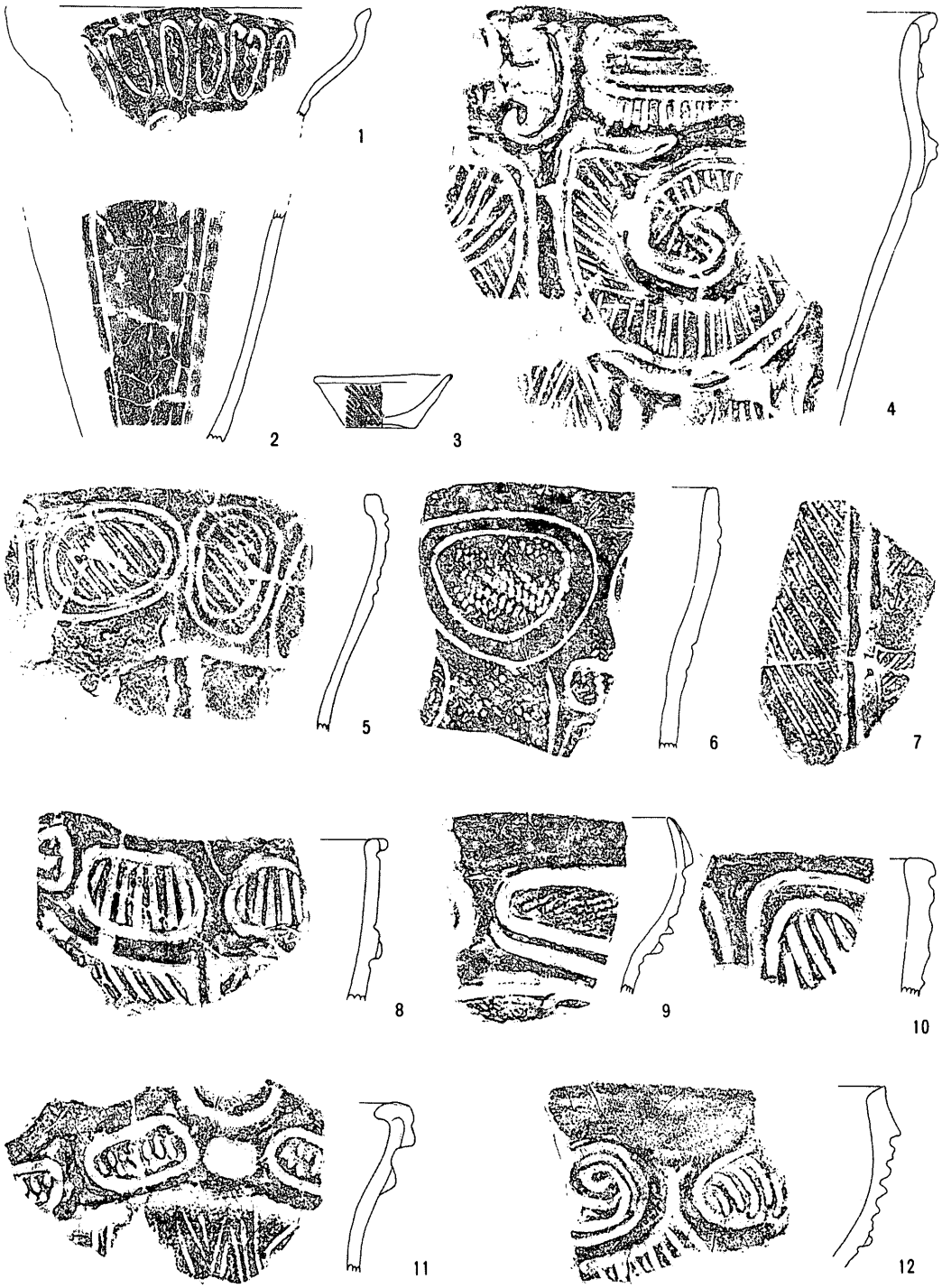
第129図　第32号住居址出土土器(1は覆土，2～14は床面出土，1～6は1/6，他は1/3)



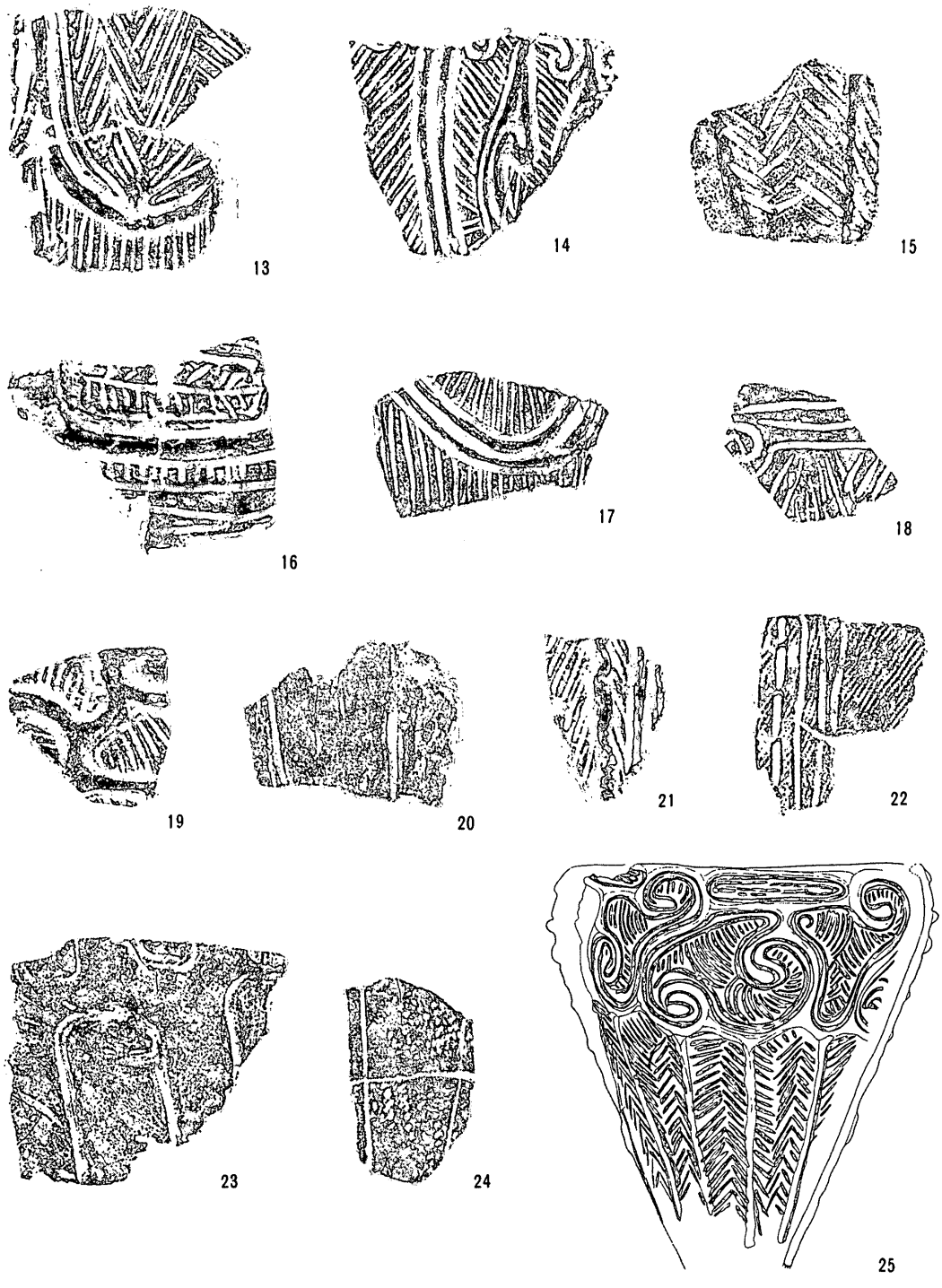
第130図　第33号住居址床面出土土器(1～7は1/6，他は1/3)



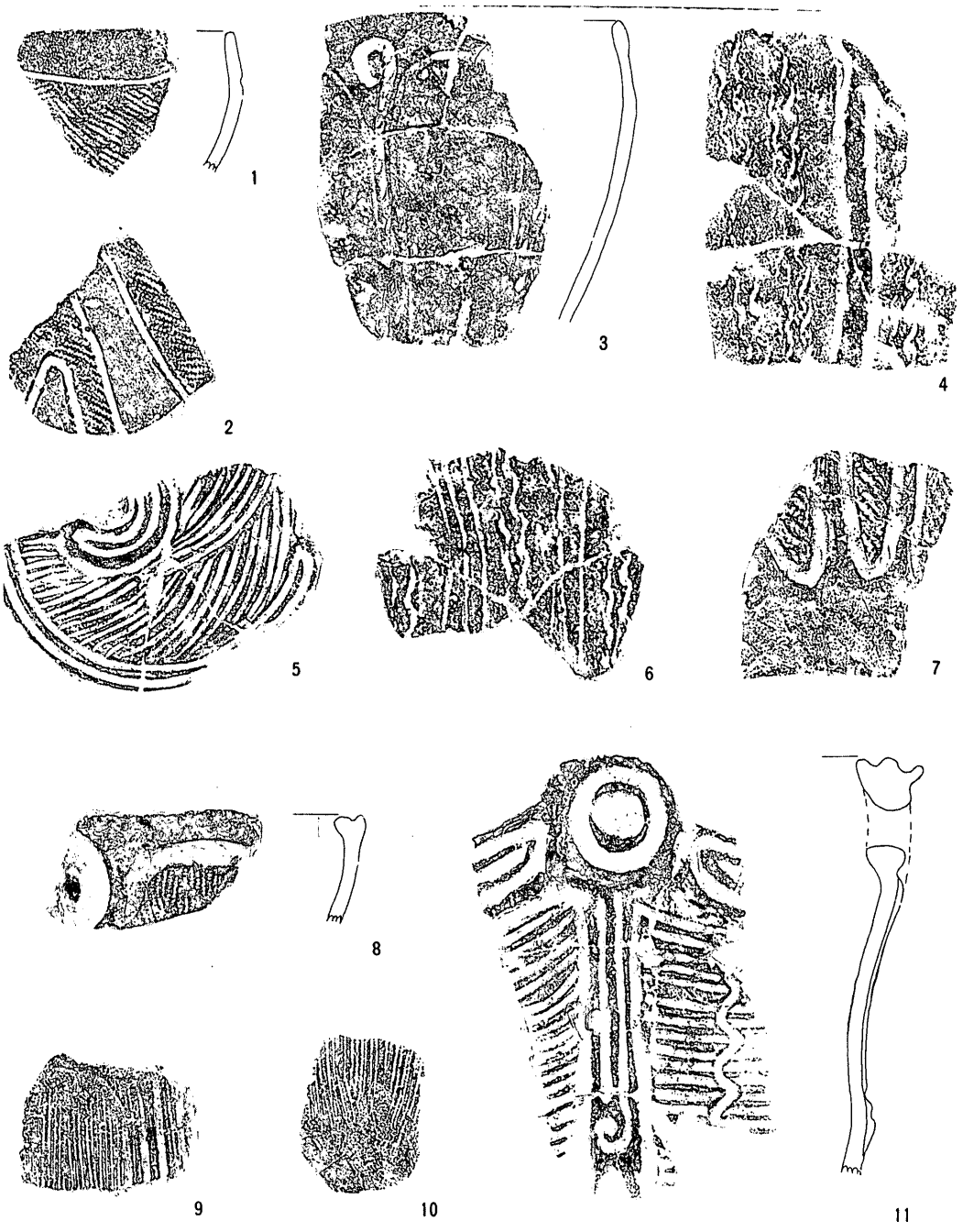
第131図　第34号住居址出土土器(1～7は覆土，8～14は床面出土，8は埋甕，8～11は1/6，他は1/3)



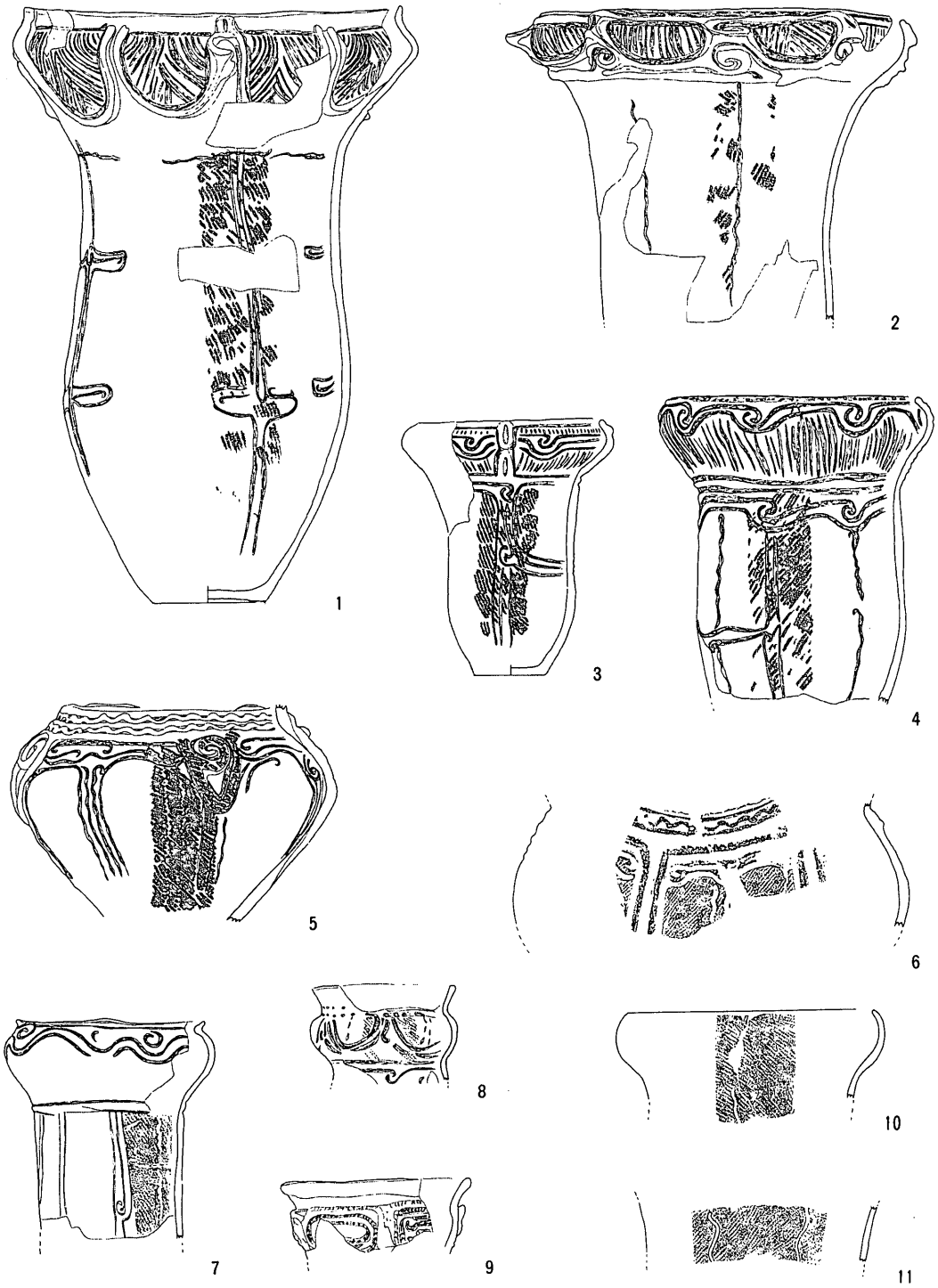
第132図　第35号住居址覆土出土土器(1・2は1/6，他は1/3)



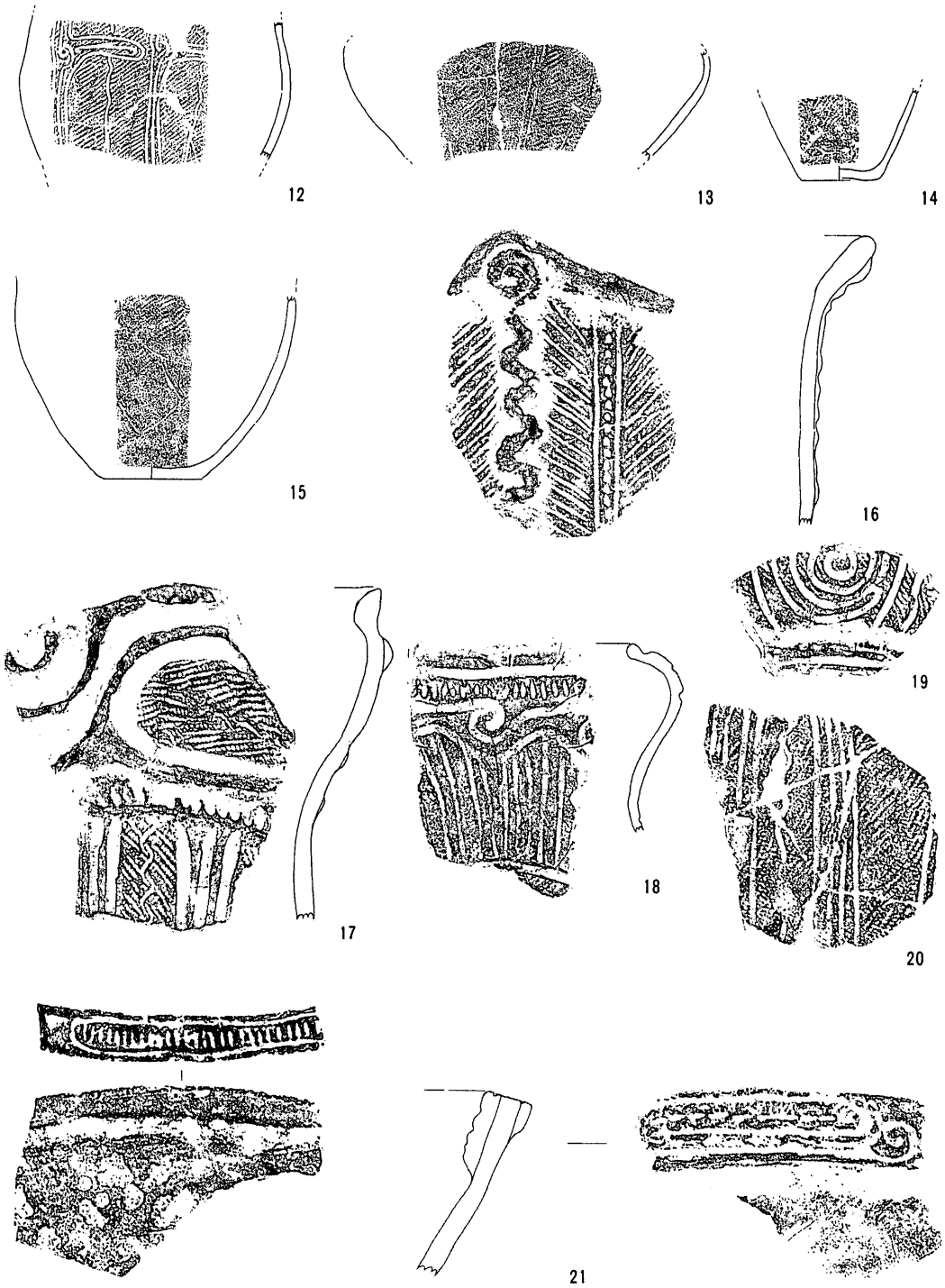
第133図　第35号住居址出土土器(1～24は覆土，25は埋雍，25は1/6，他は1/3)



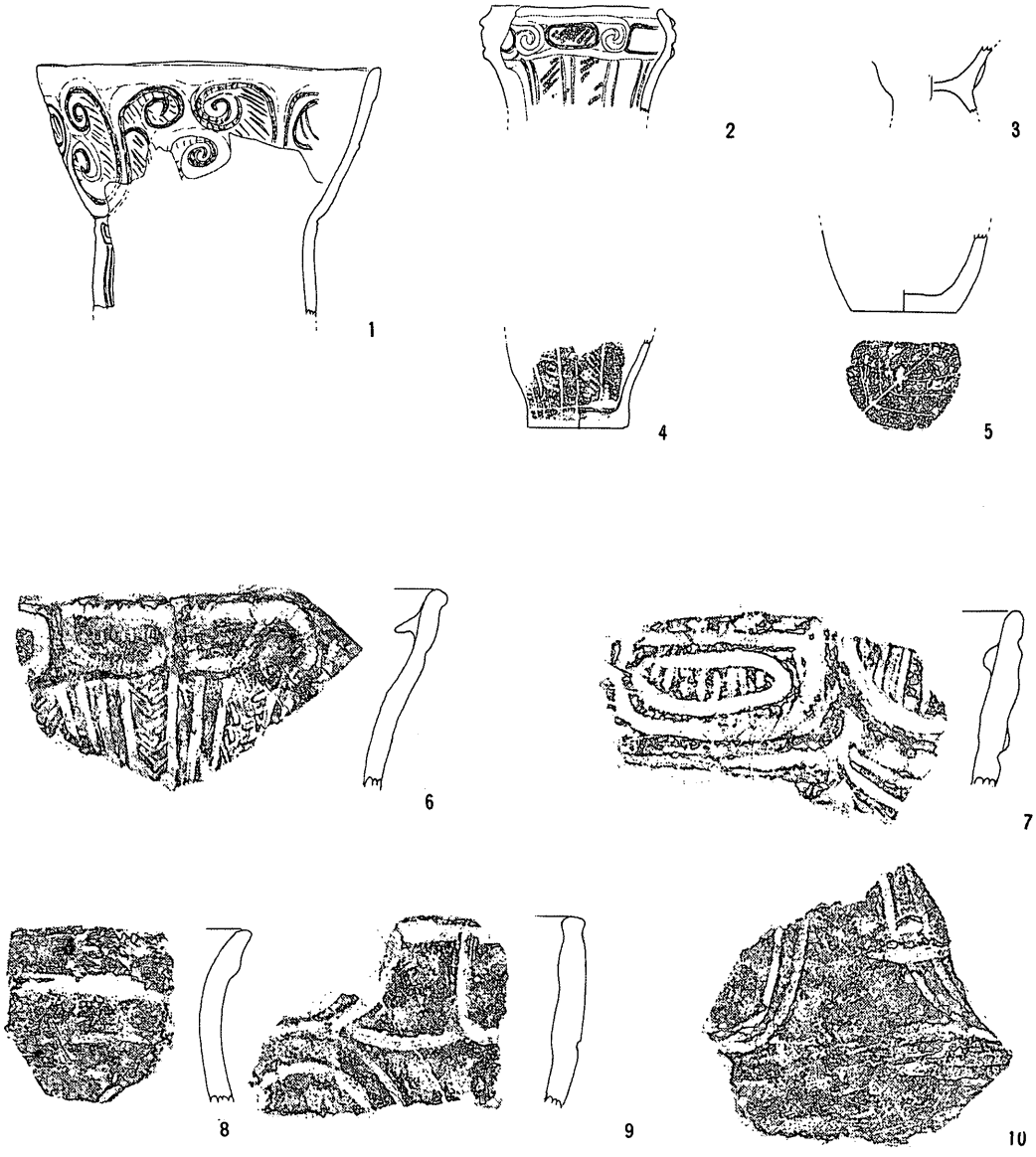
第134図　第36号住居址出土土器(1～7は覆土，8～11は床面出土，1/6)



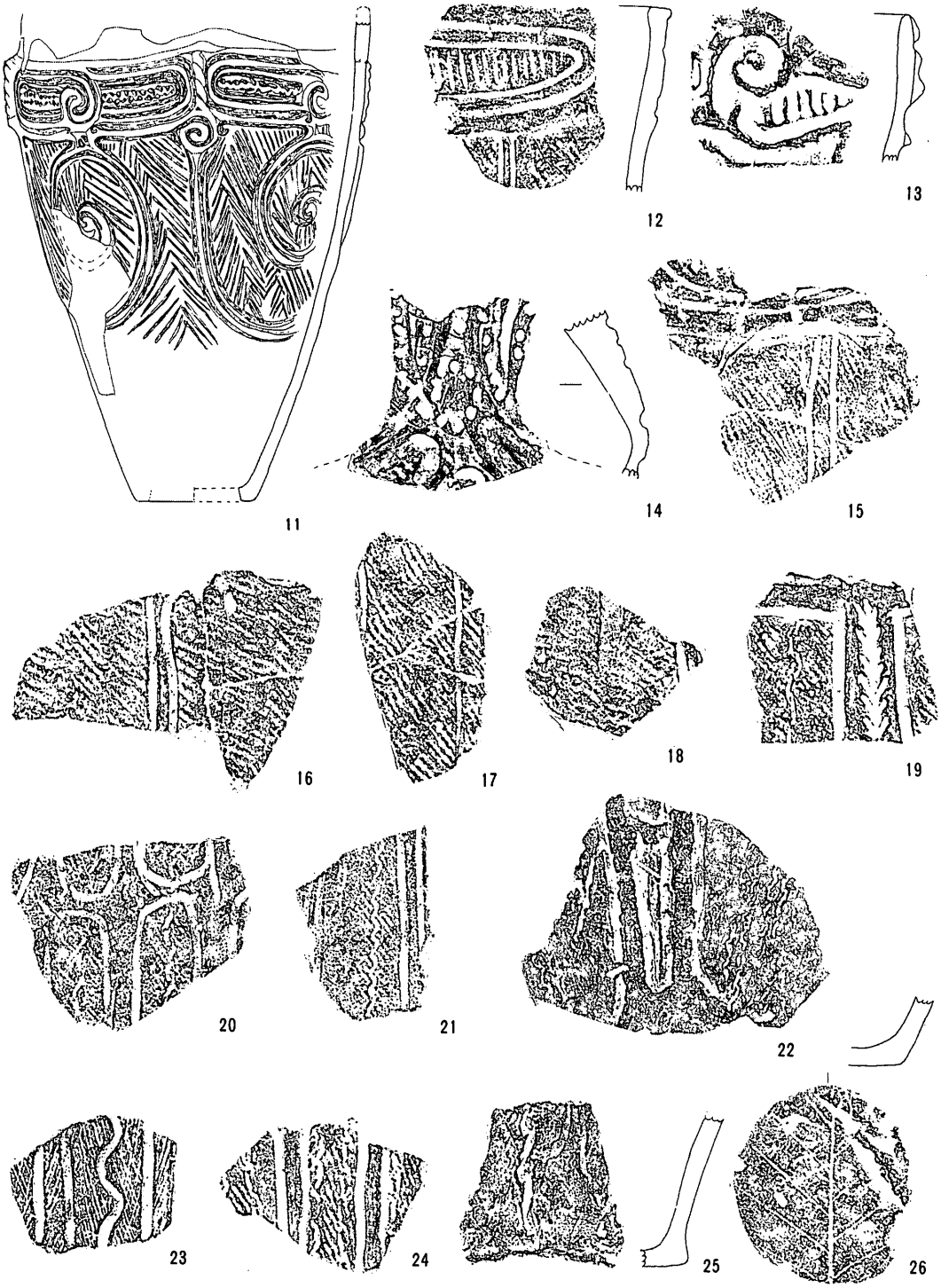
第135図　第38号住居址床面出土土器(11は炉埋設土器．1／6)



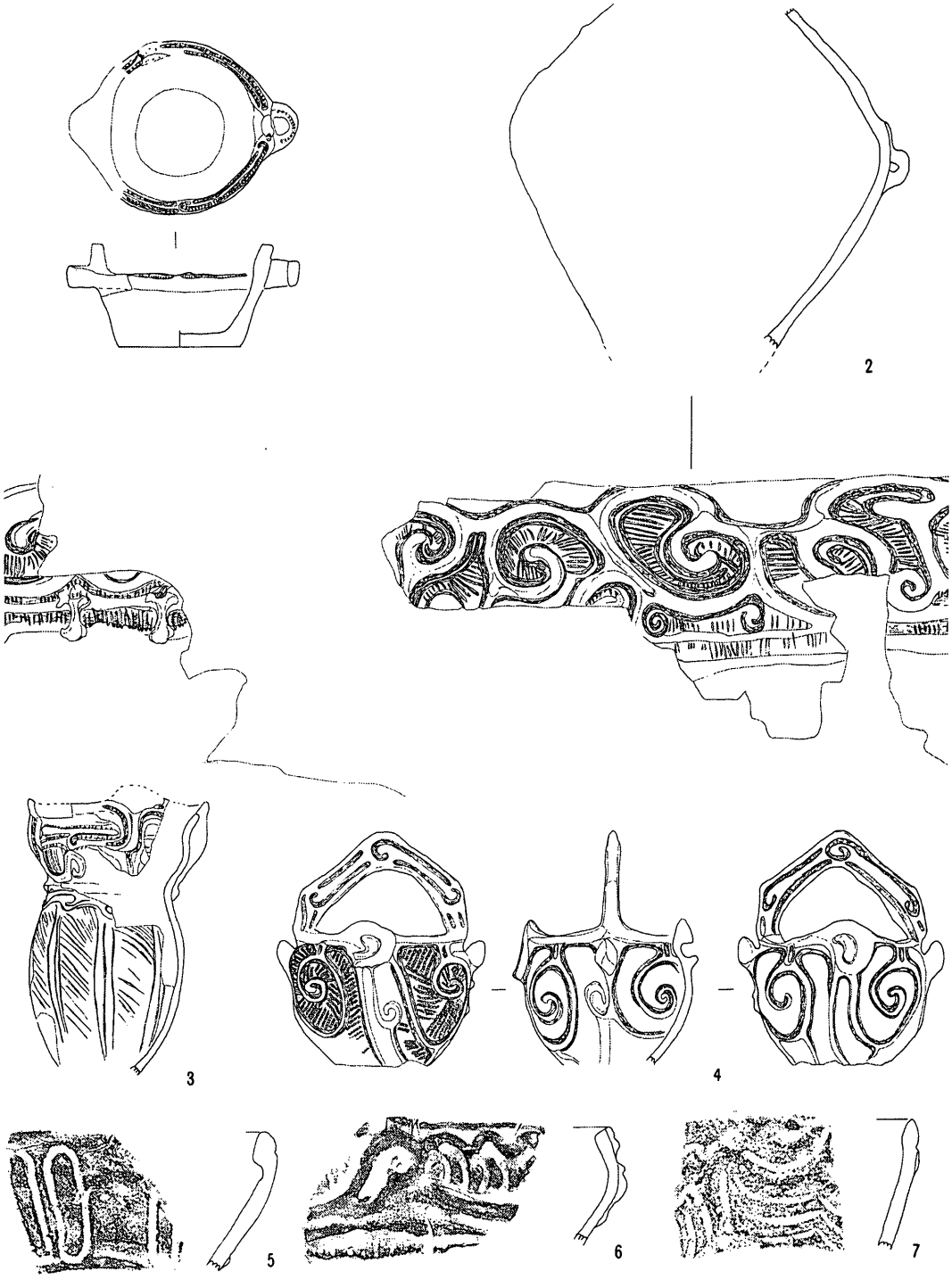
第136図　第38号住居址床面出土土器(12～15は1/6，他は1/3)



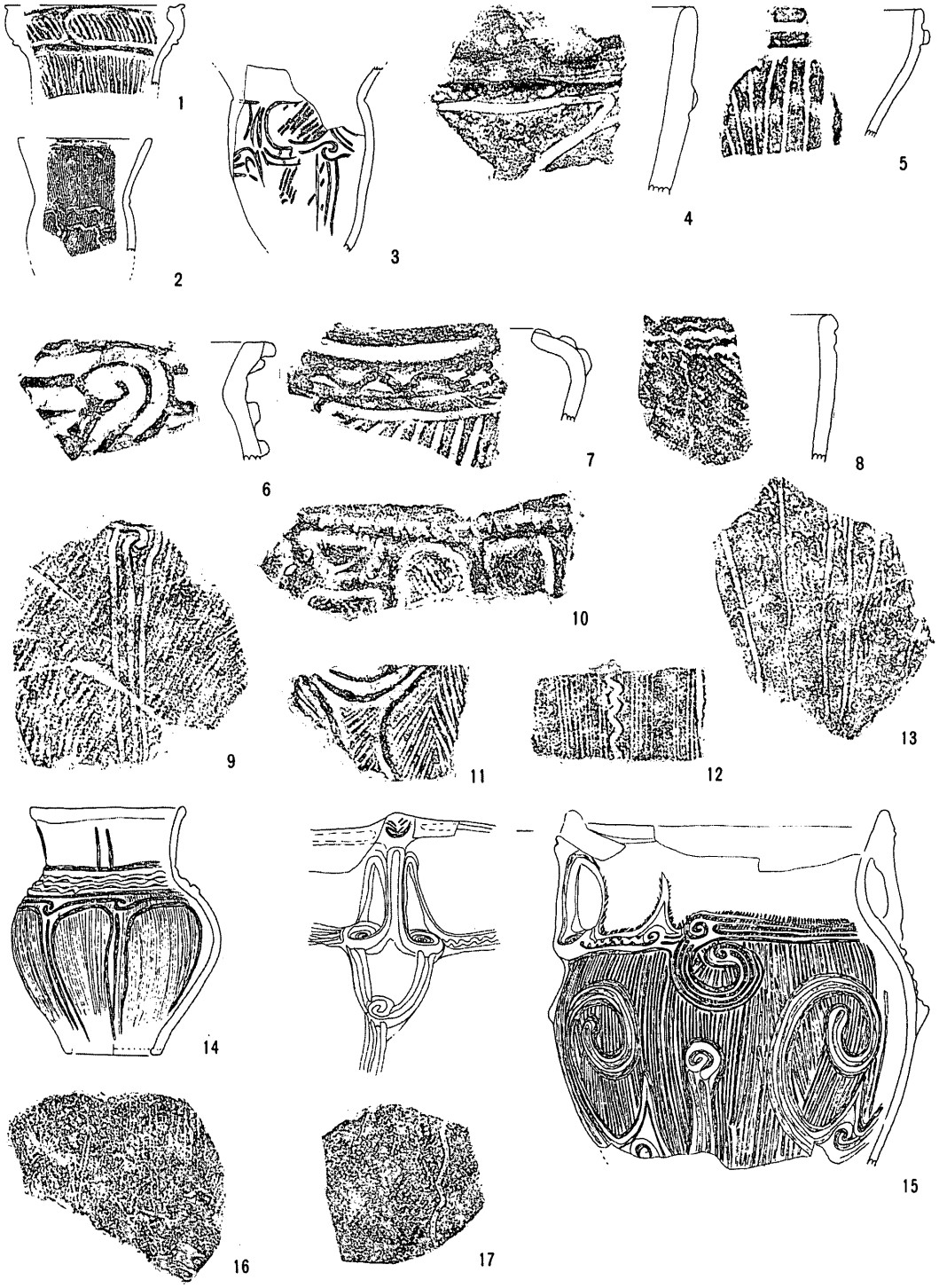
第137図　第39号住居址覆土出土土器(1～5は1/6，他は1/3)



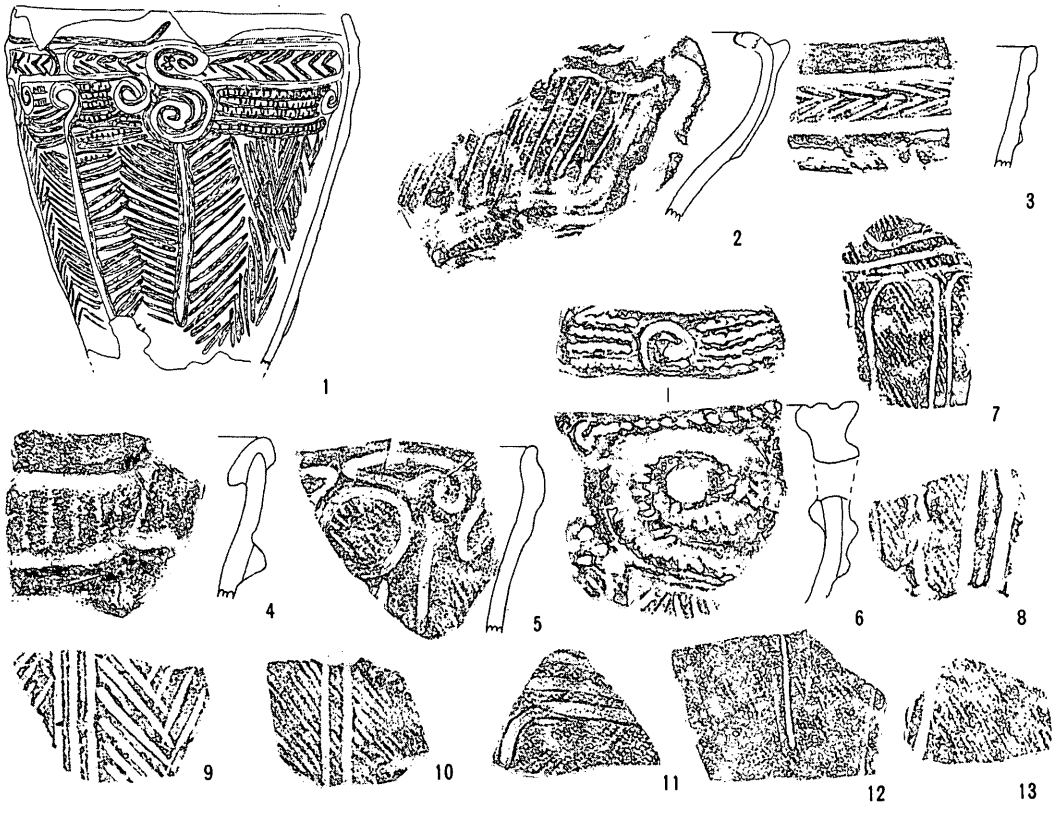
第138図　第39号住居址床面出土土器(11は埋甕，11は1/6，他は1/3)



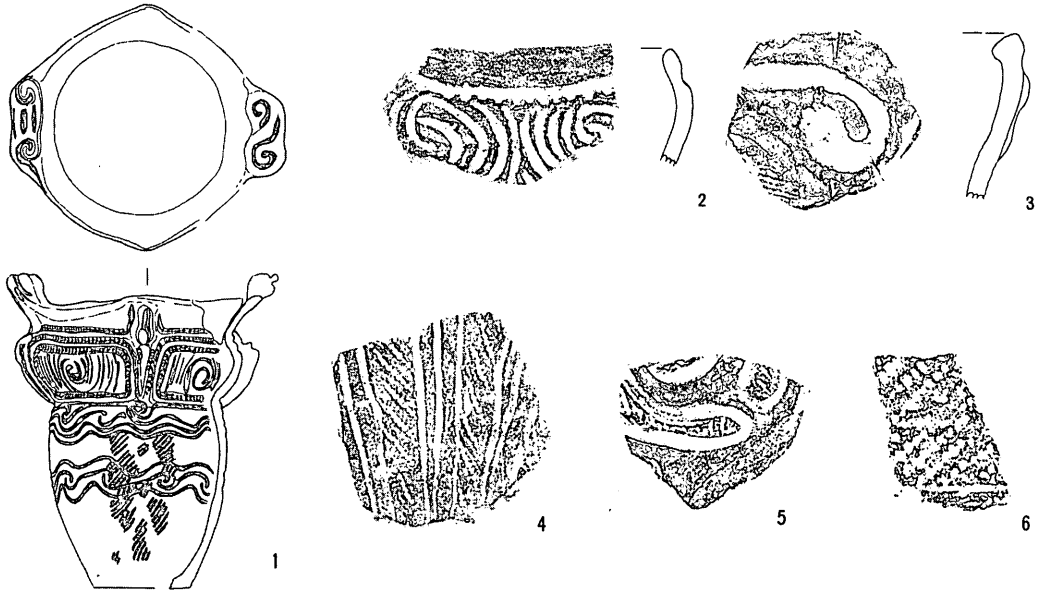
第139図　第40号住居址床面出土土器（1～4は1/6，他は1/3）



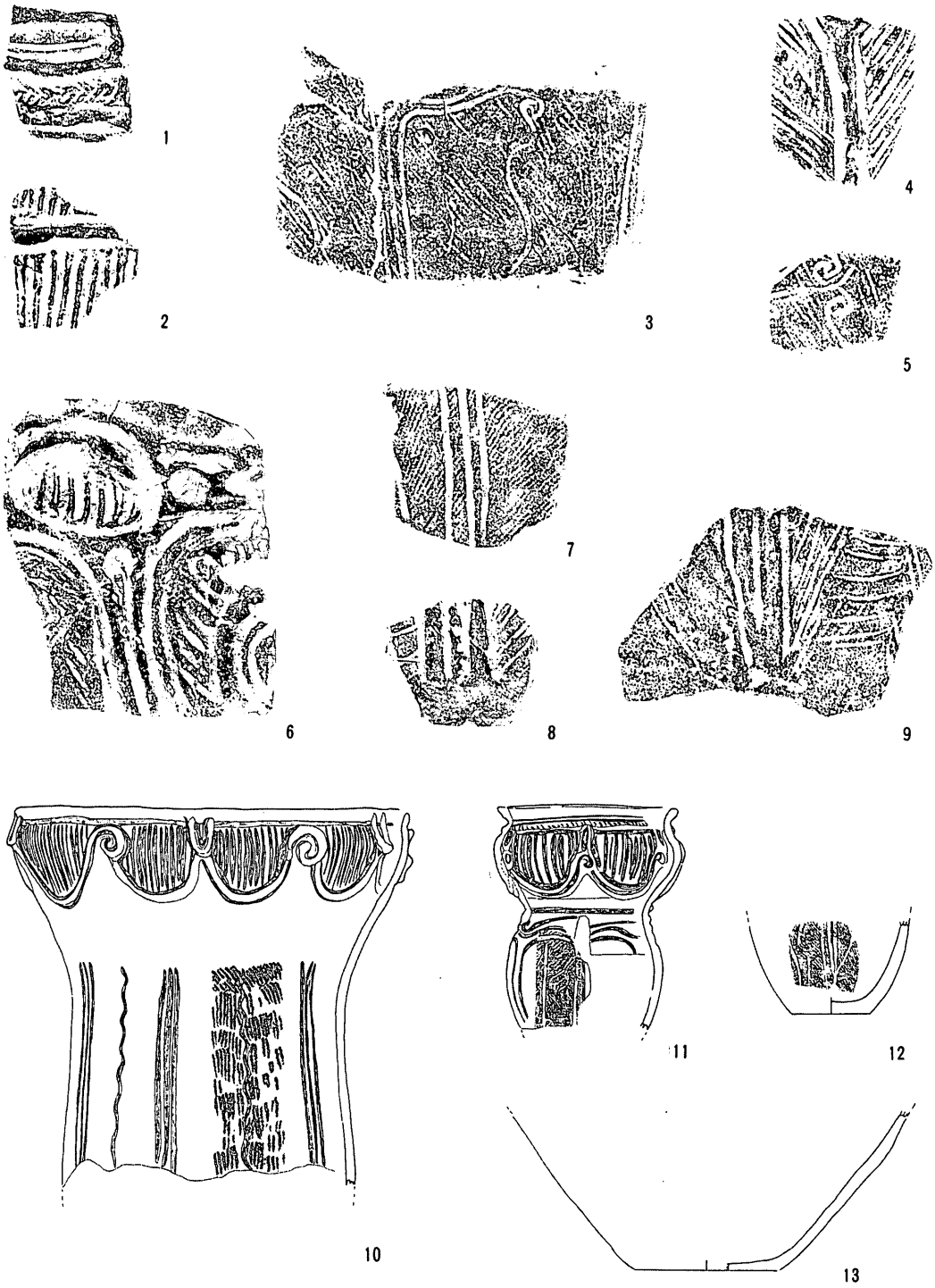
第140図　第41号住居址出土土器(1～13は覆土，14は伏甕，15は埋甕，16・17は炉内出土，1・2・3・14・15は1/6，他は1/3)



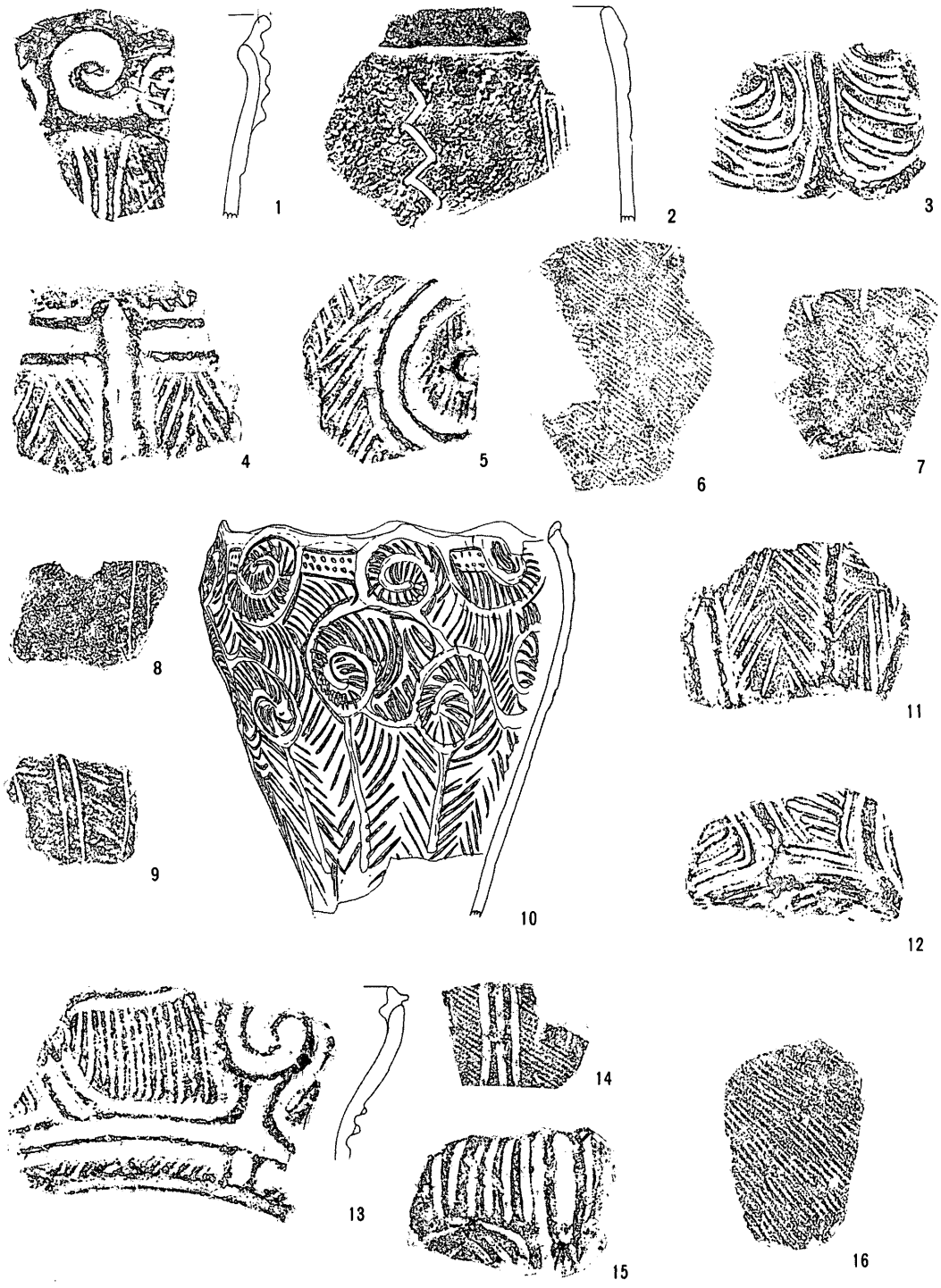
第141図　第42号住居址床面出土土器(1は埋甕，1は1/6，他は1/3)



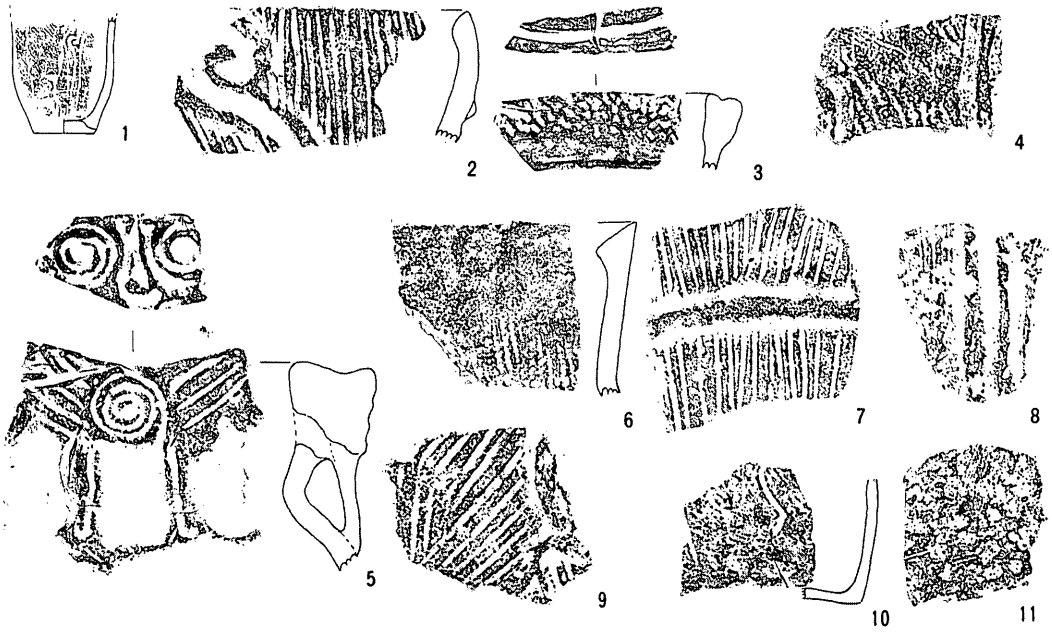
第142図　第43号住居址床面出土土器(1は1/6，他は1/3)



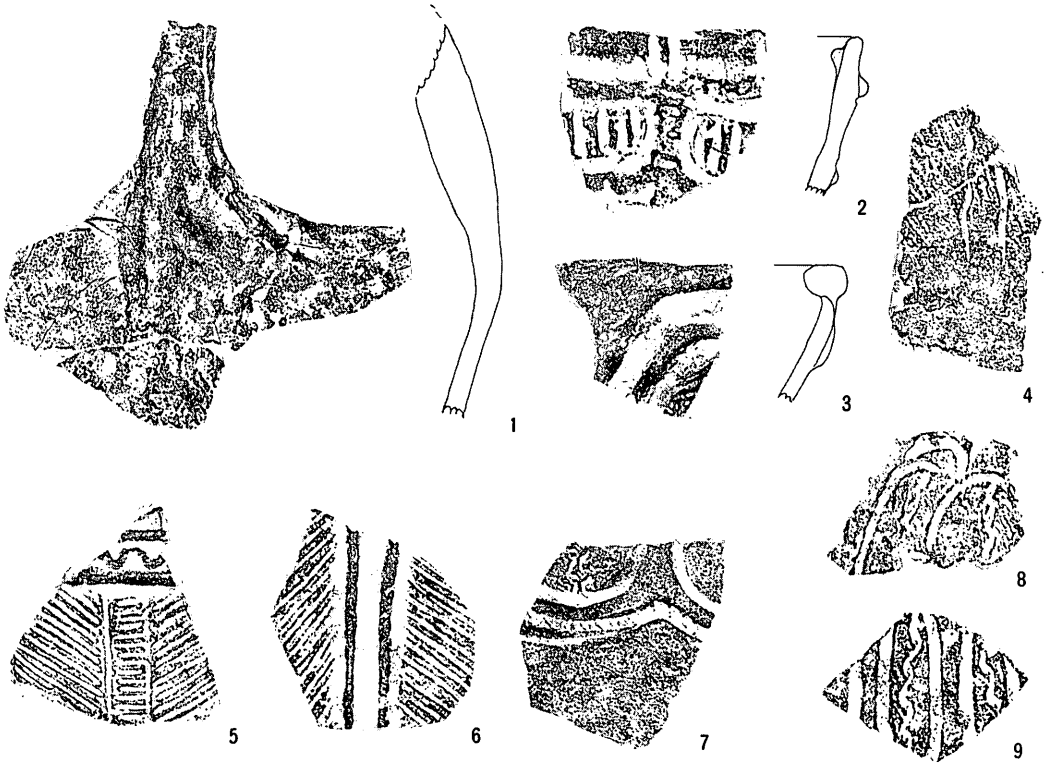
第143図　第45号住居址出土土器(1～9は覆土，10～13は床面，10は伏甕，10～13は1/6，他は1/3)



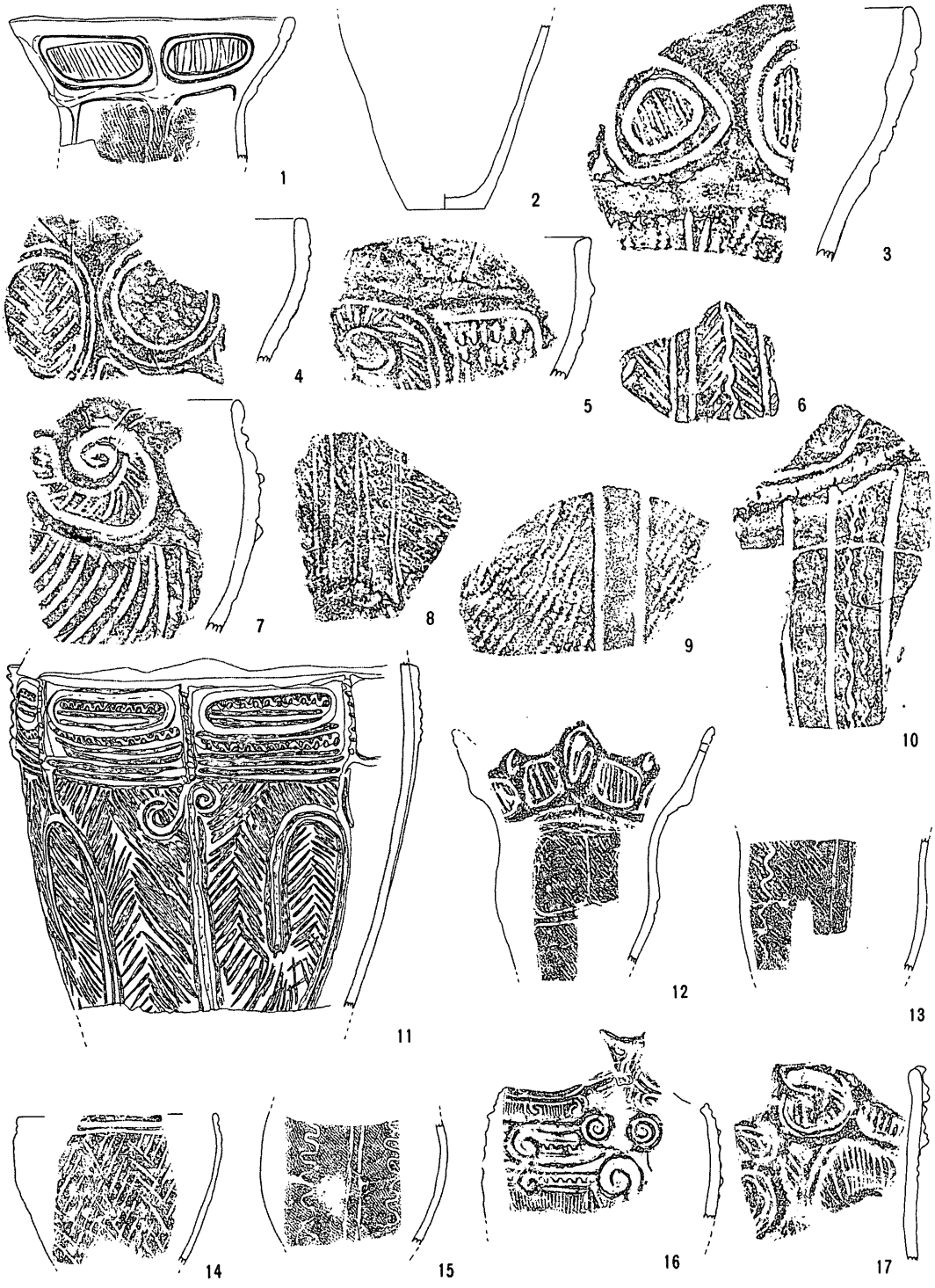
第144図　第46号住居址出土土器(1～9は覆土，10は埋甕，11～16は床面出土，10は1/6）他は1/3）



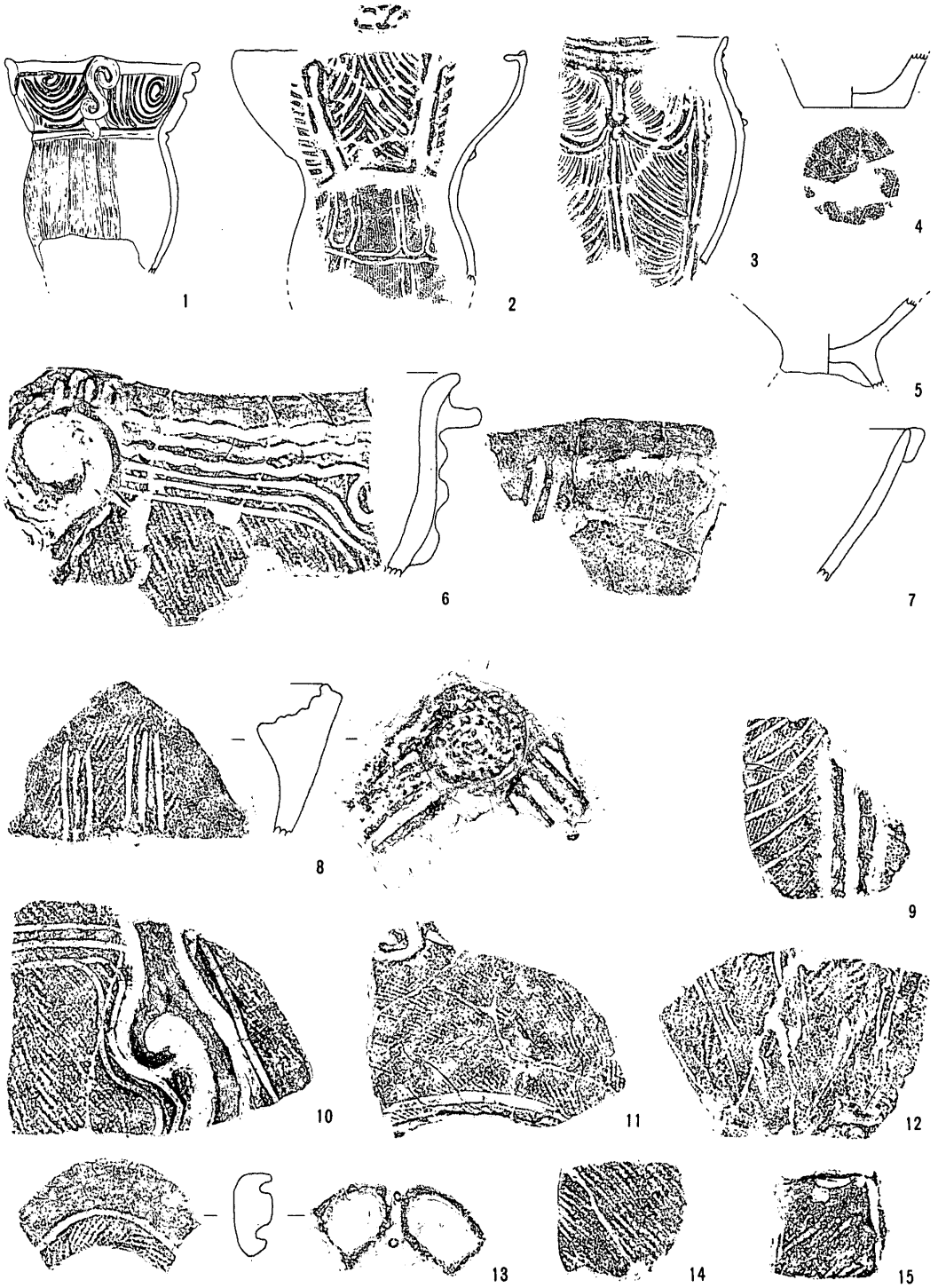
第145図　第47号住居址床面出土土器(1は1/6，他は1/3)



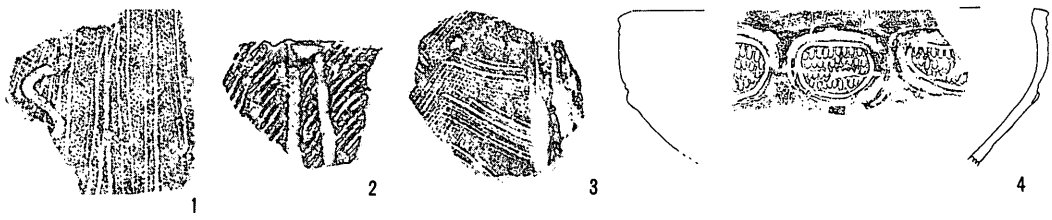
第146図　第48号住居址出土土器(1～7は覆土，8・9床面出土，1/3)

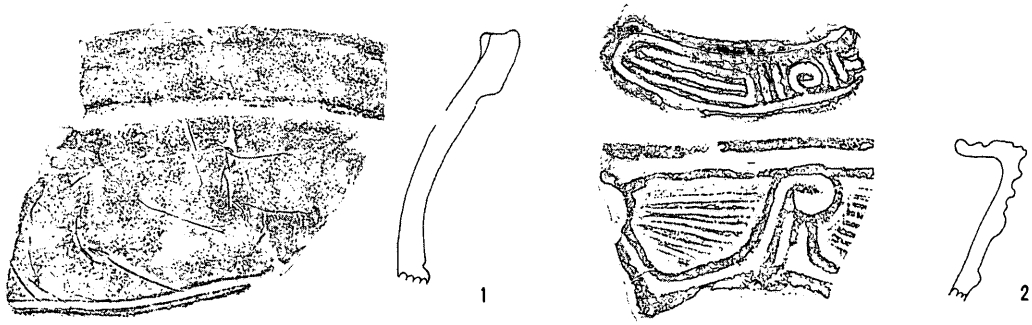


第147図　第49号住居址出土土器(1～10は覆土，11は埋甕，12～17は床面出土，1・2・11～17は1/6，他は1/3)

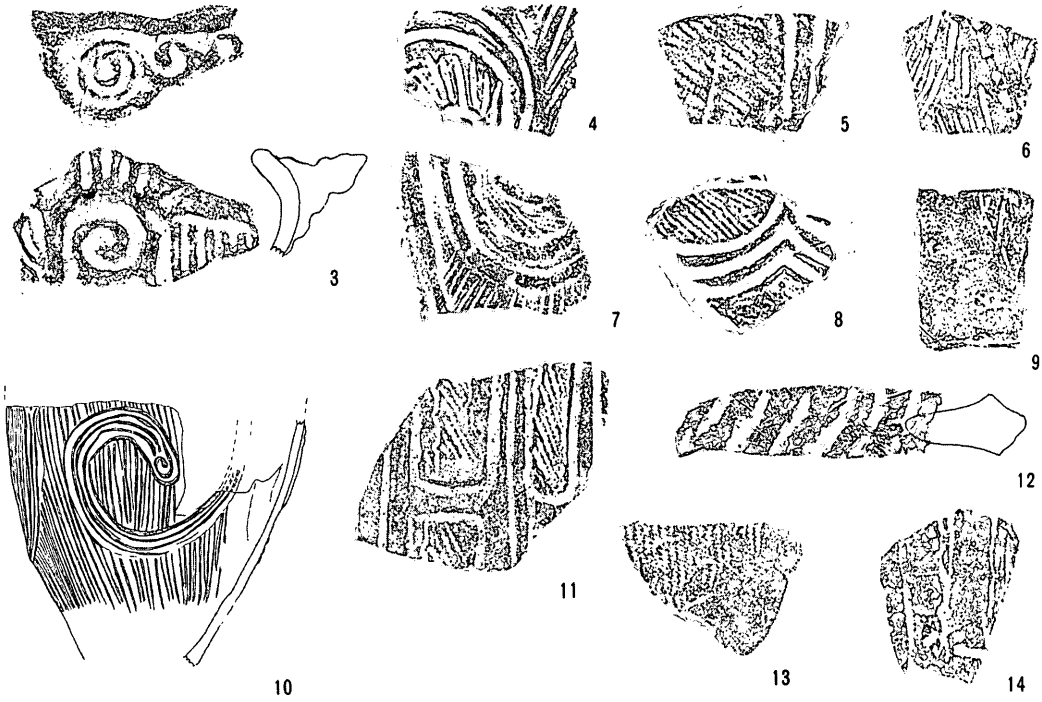


第148図　第51号住居址床面出土土器(1は埋甕，1～5は1/6，他は1/3)

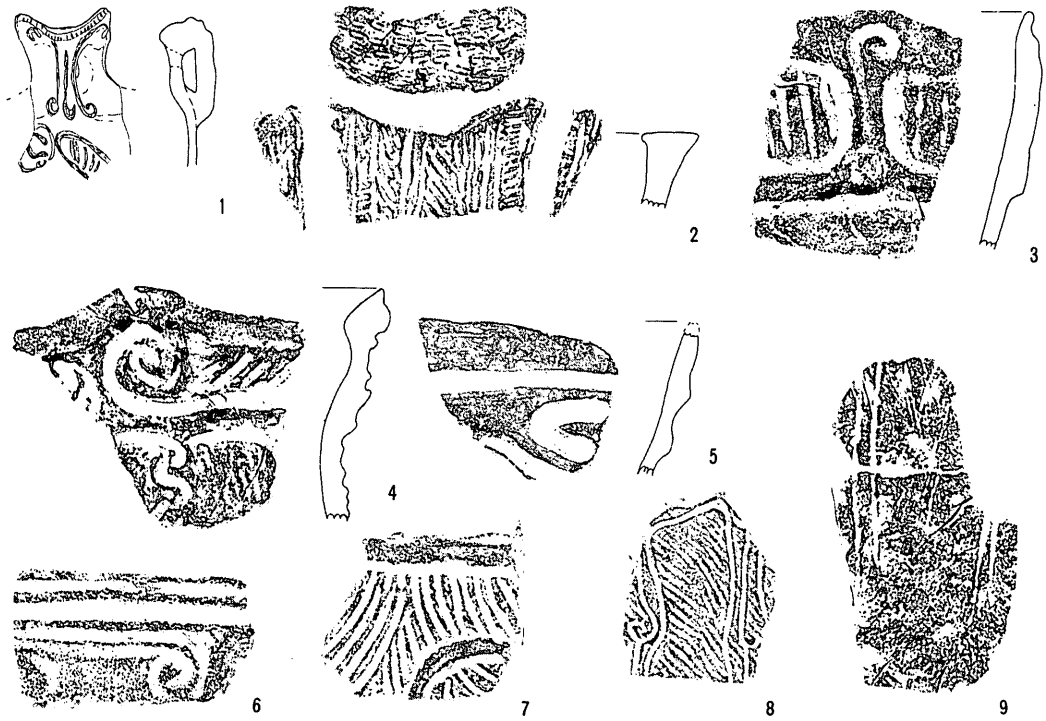




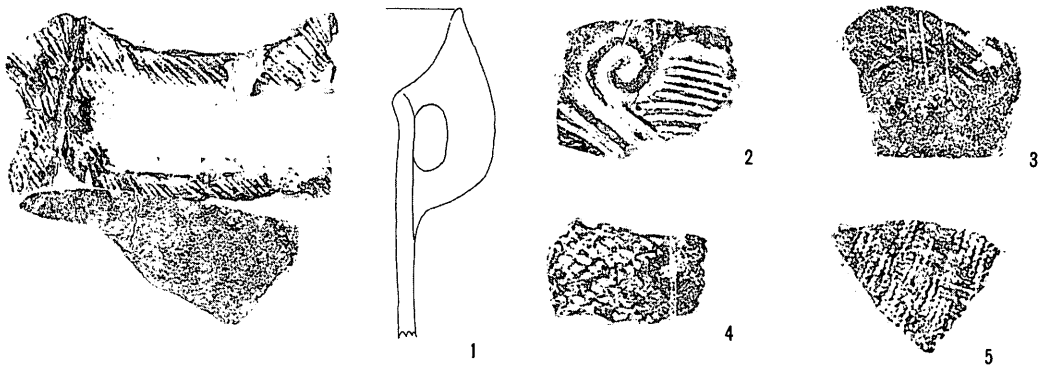
第149図　第52号住居址床面出土土器(4は1/6，他は1/3)



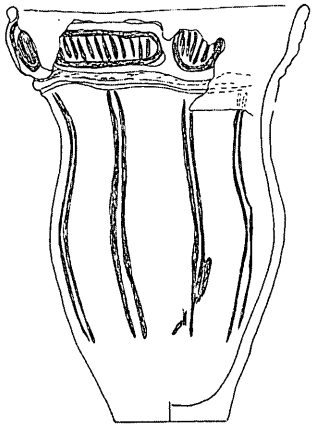
第150図　第53号住居址出土土器(1～9は覆土，10～14は床面出土，10は1/6，他は1/3)



第151図　第54号住居址床面出土土器(1は1/6，他は1/3)

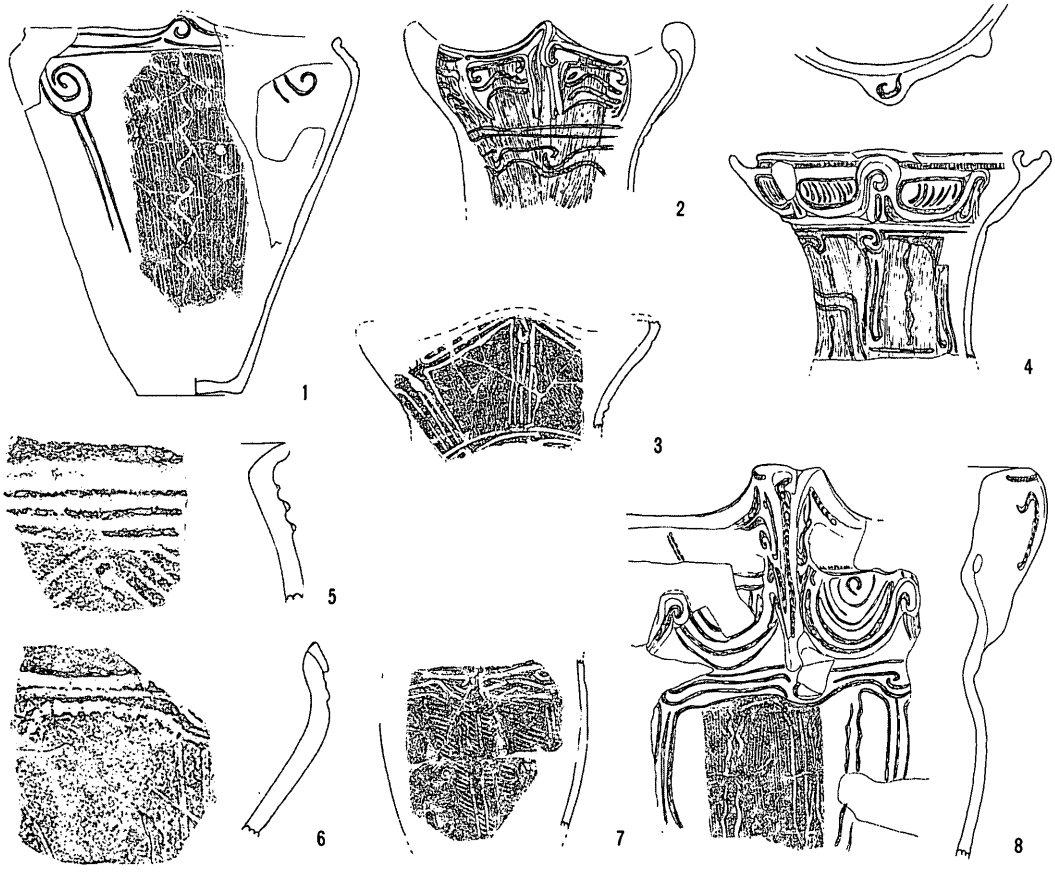


第152図　第55号住居址床面出土土器(1/3)

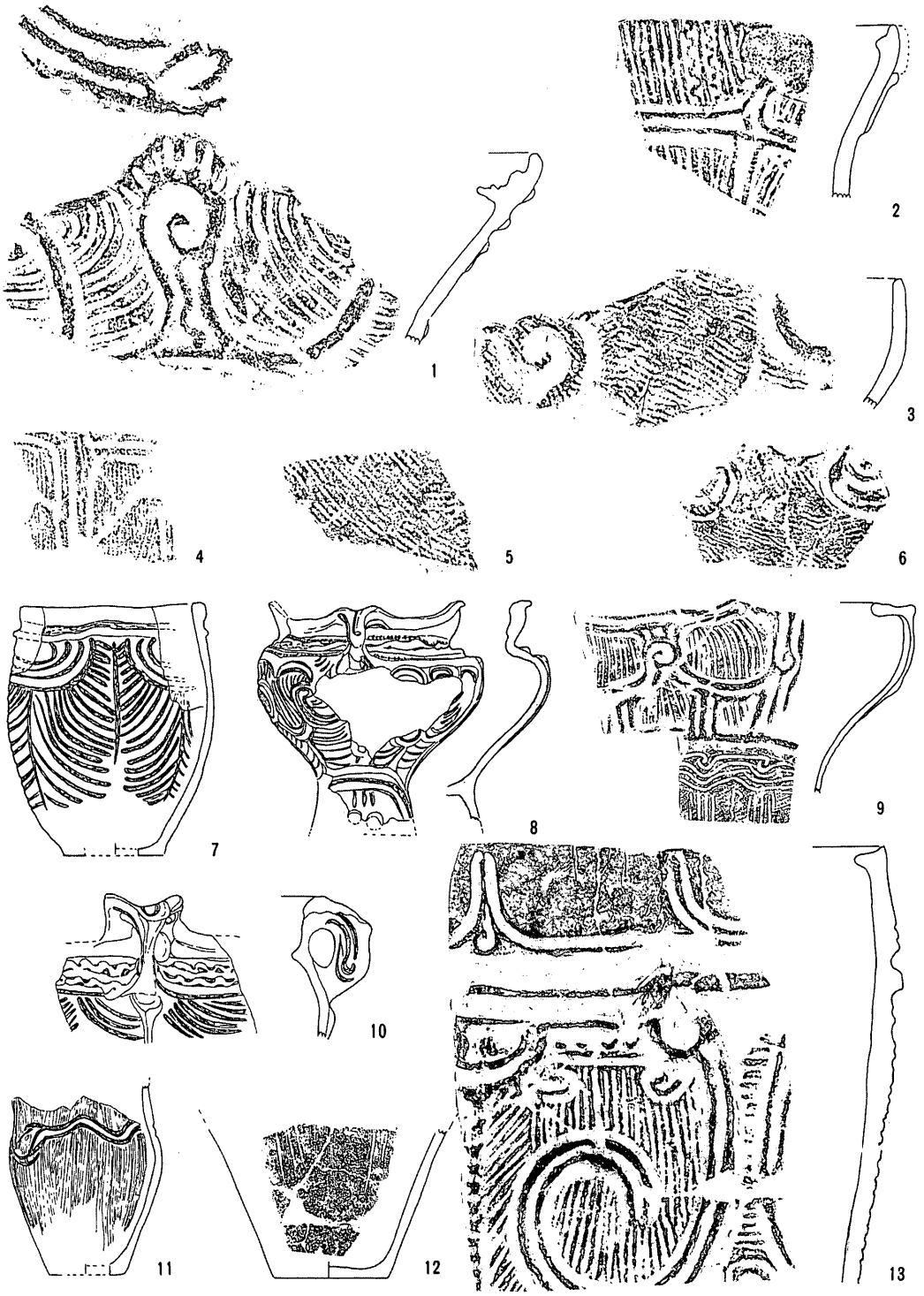


第153図　第56号住居址埋甕(1/6)

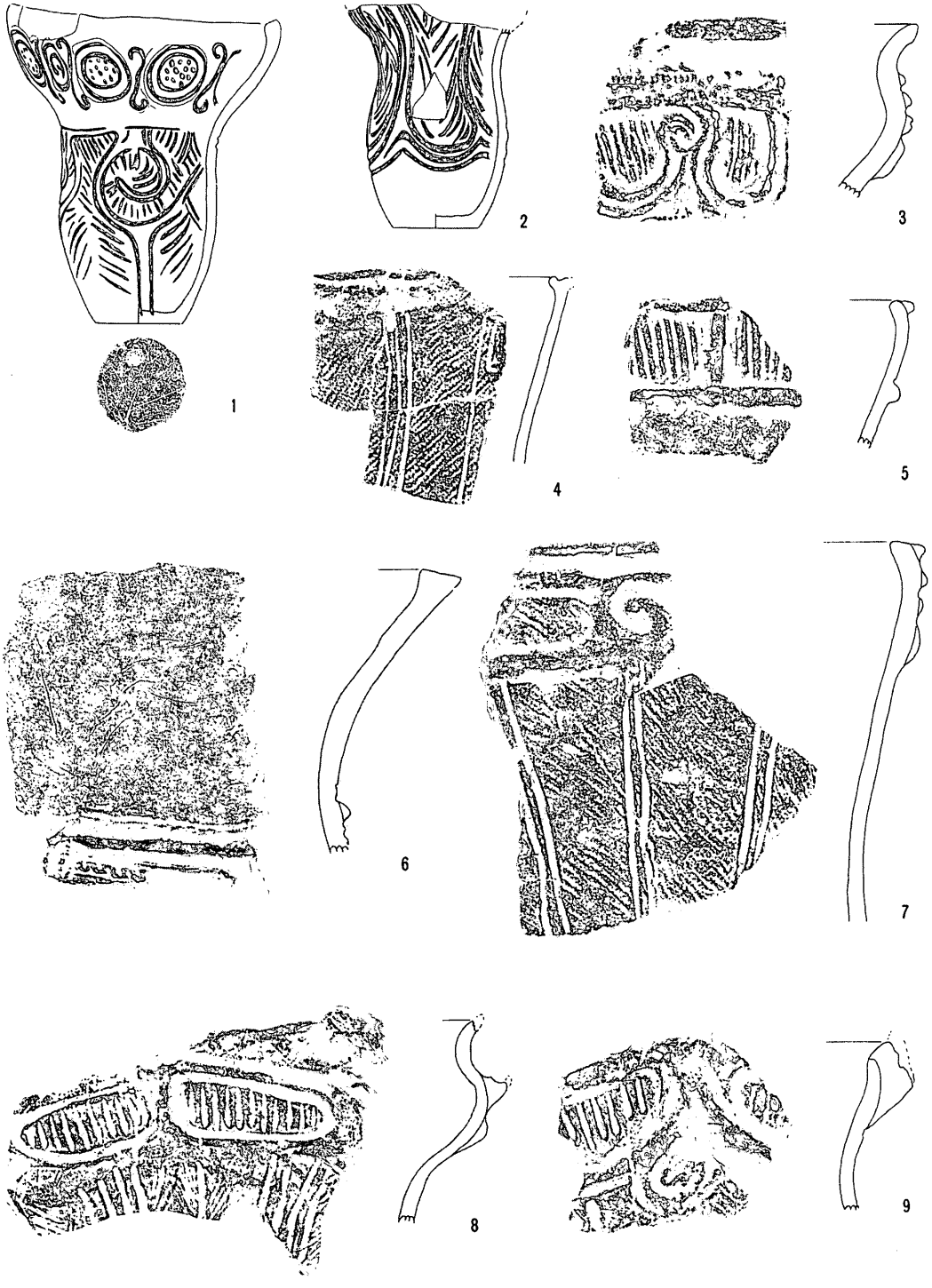
第154図　第57号住居址埋甕(1/6)



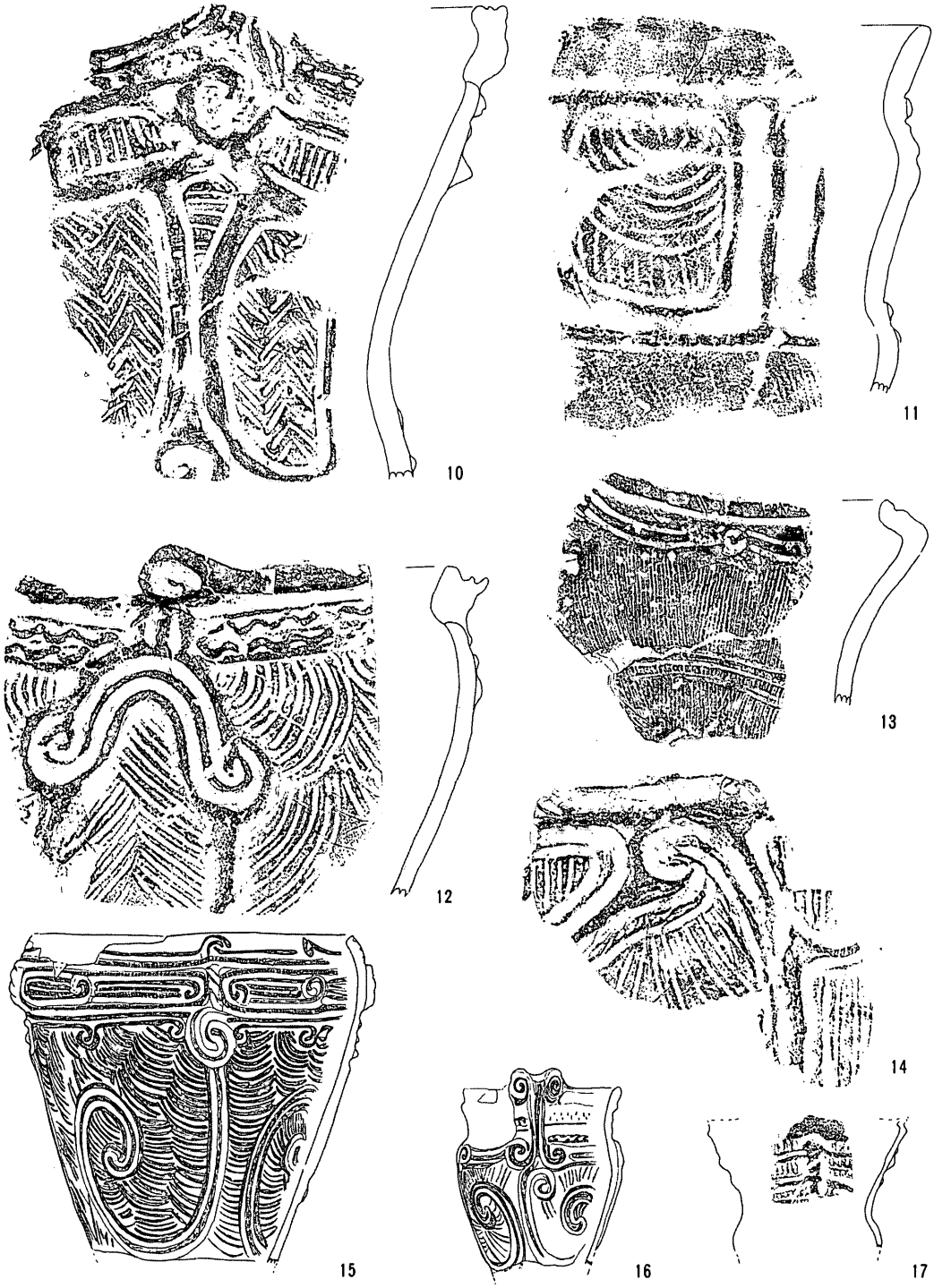
第155図　第58号住居址出土土器(1～6は覆土，7・8は床面出土，1～4・7～8は1/6，他は1/3)



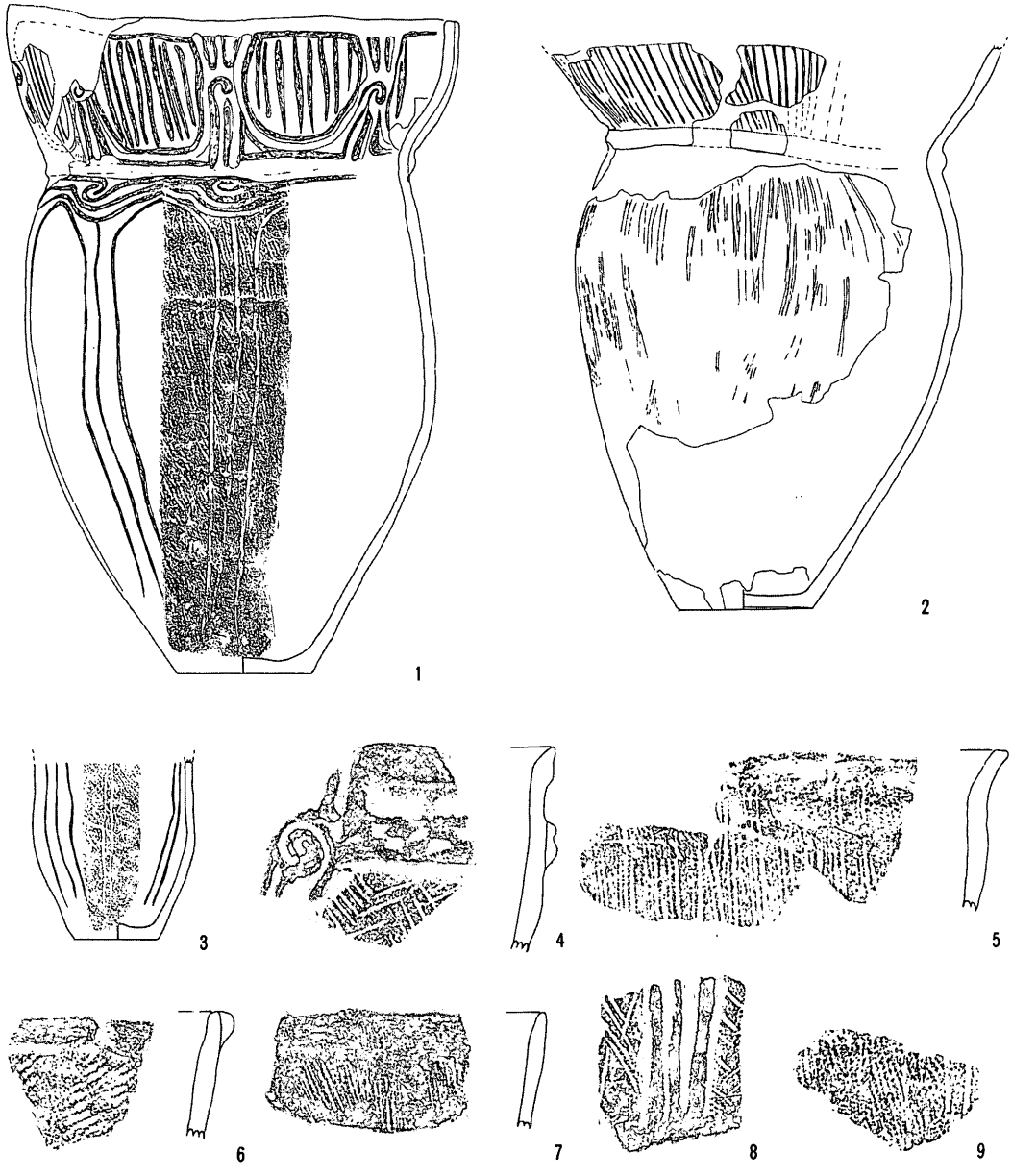
第156図　第59号住居址出土土器(1～6は覆土，7は伏甕，1・11は伏甕，8～10・12は床面出土，7～12は1/6，他は1/3)



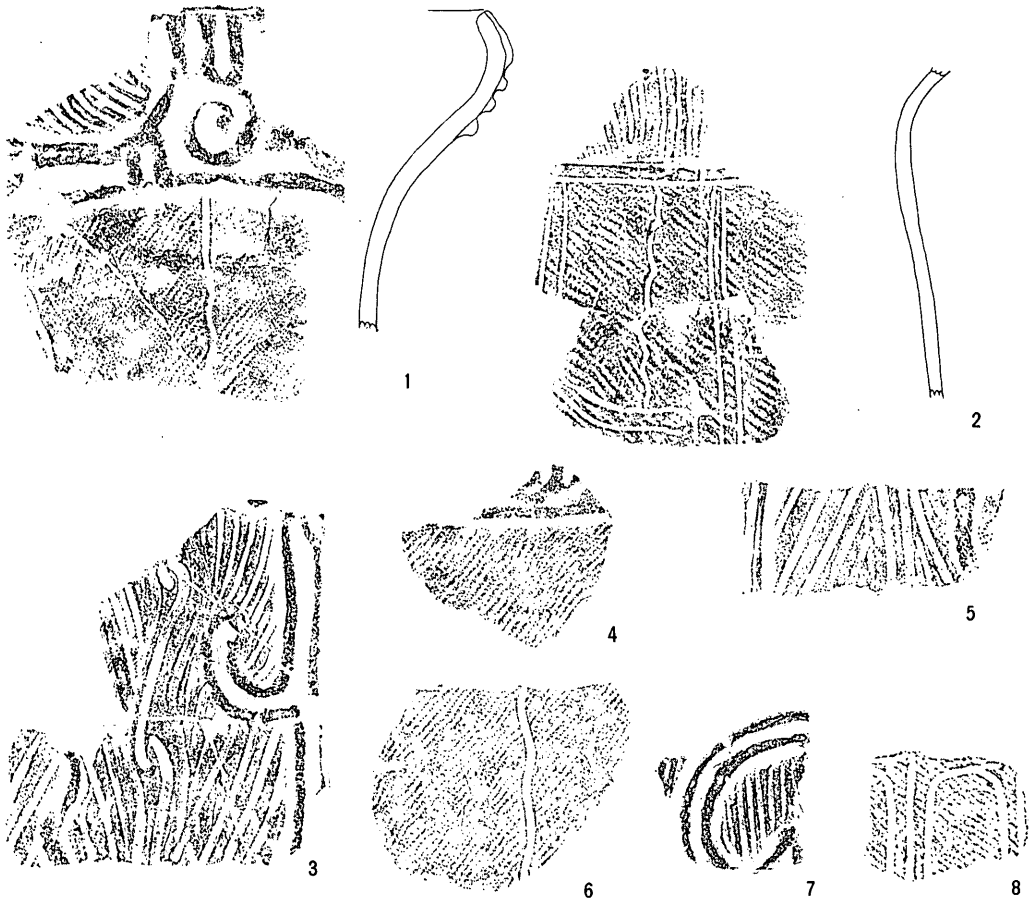
第157図　第60号住居址覆土出土土器(1・2は1/6，他は1/3)



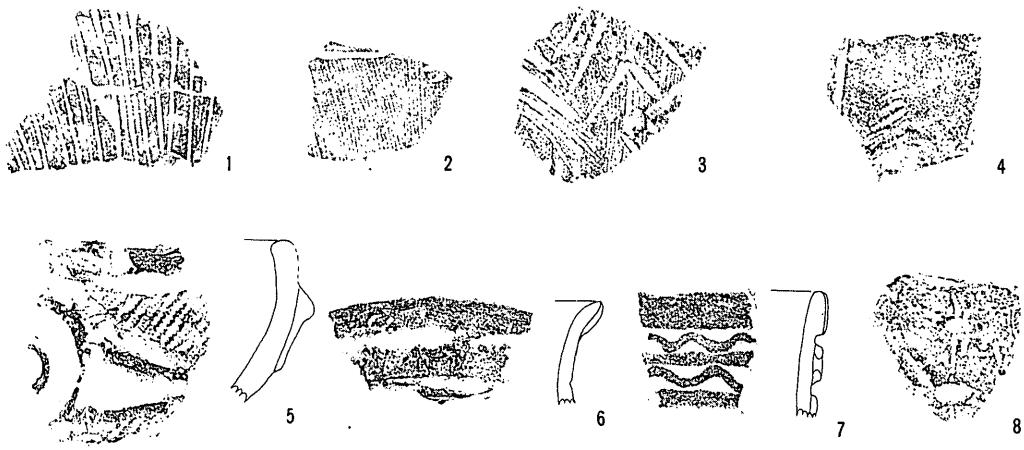
第158図　第60号住居址出土土器(10～14は覆土，15は埋甕，16・17は床面出土，15～17は1/6，他は1/3)



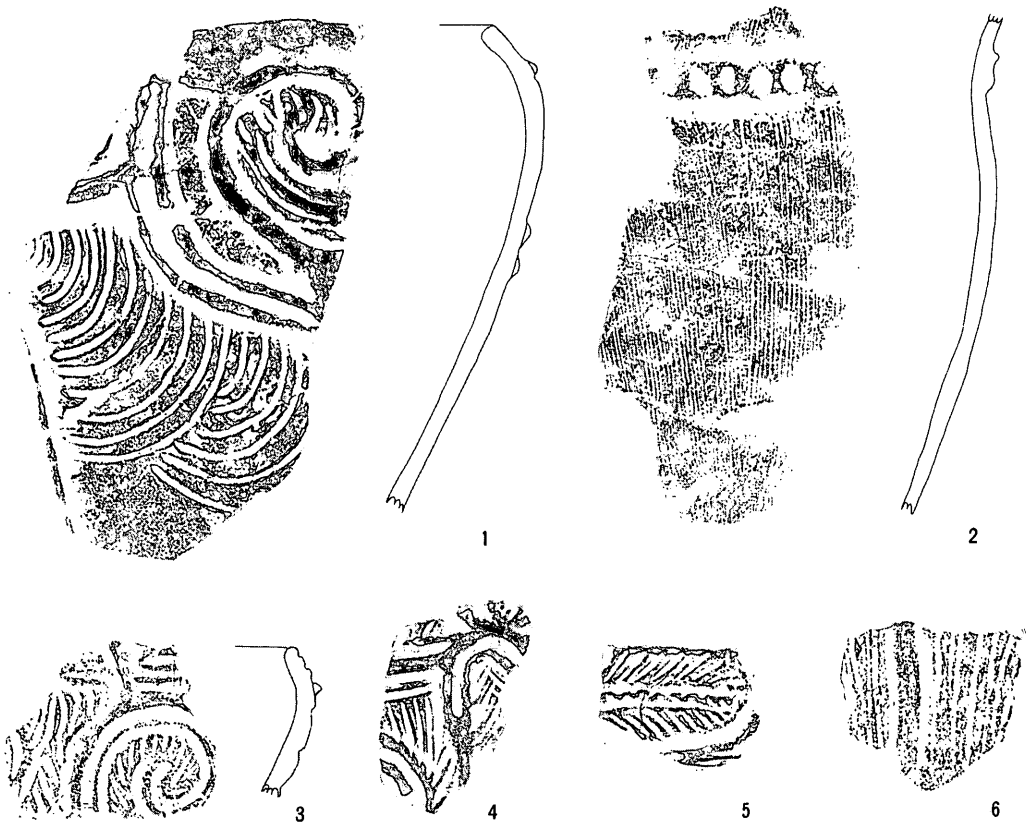
第159図　第61号住居址床面出土土器(1は埋甕1，2は埋甕2，3は埋甕2内出土，1～3は1/6，他は1/3)



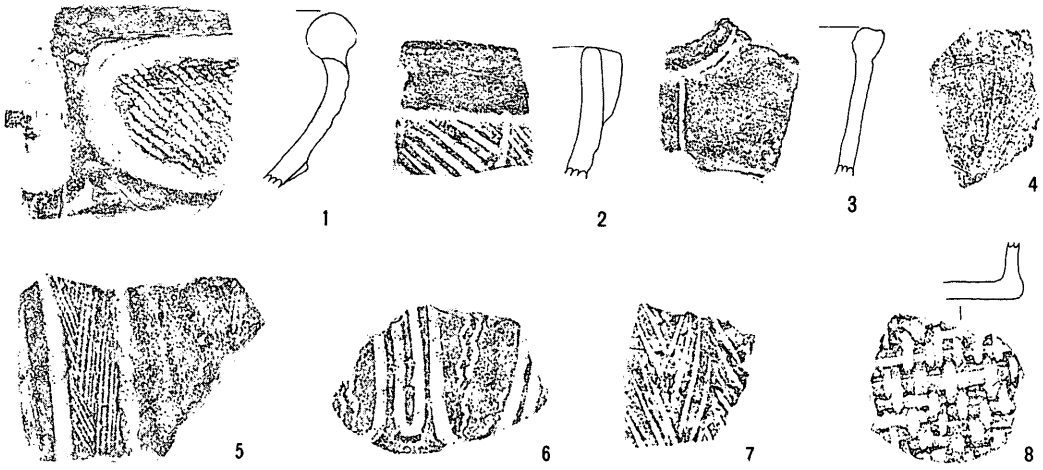
第160図　第62号住居址床面出土土器(1/3)



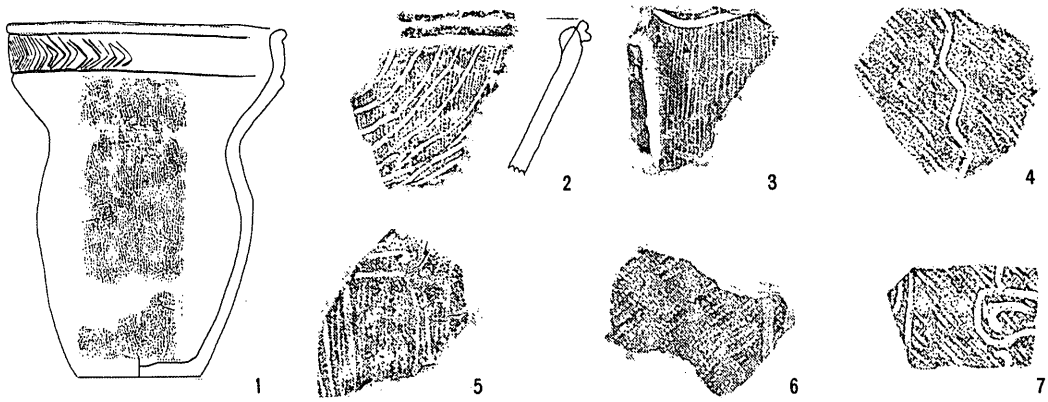
第161図　第63号住居址出土土器(1—4は覆土，5—8は床面出土，1/3)



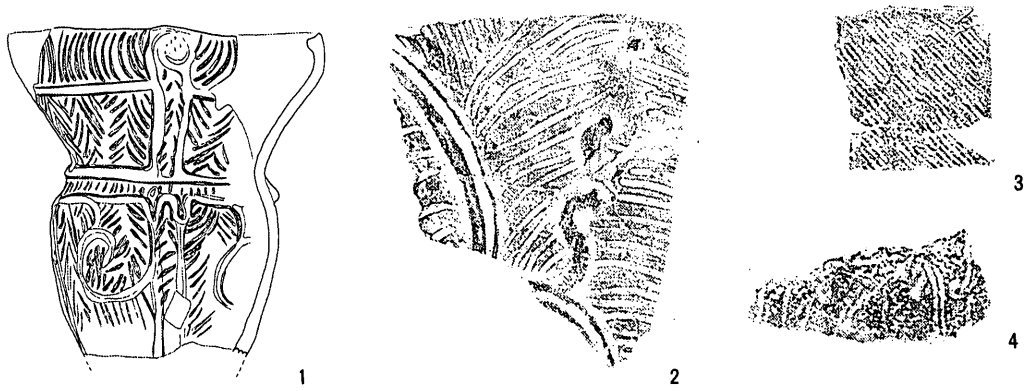
第162図　第64号住居址覆土出土土器(1/3)



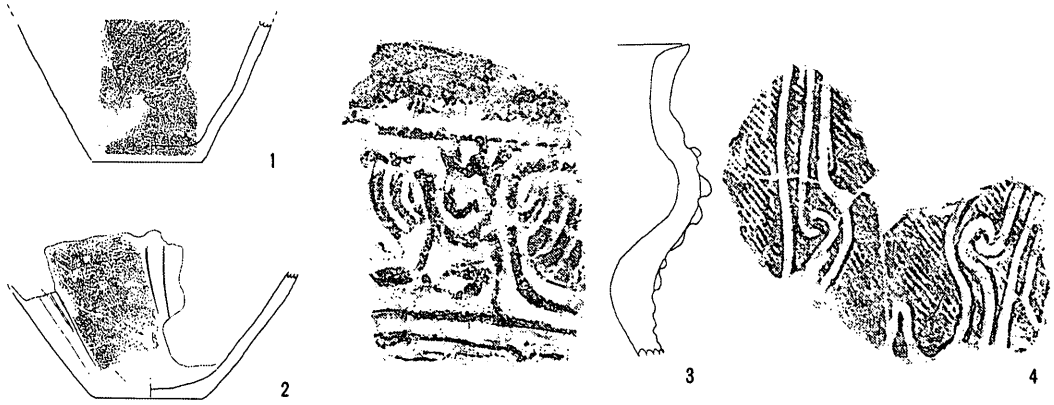
第163図　第65号住居址覆土出土土器(1/3)



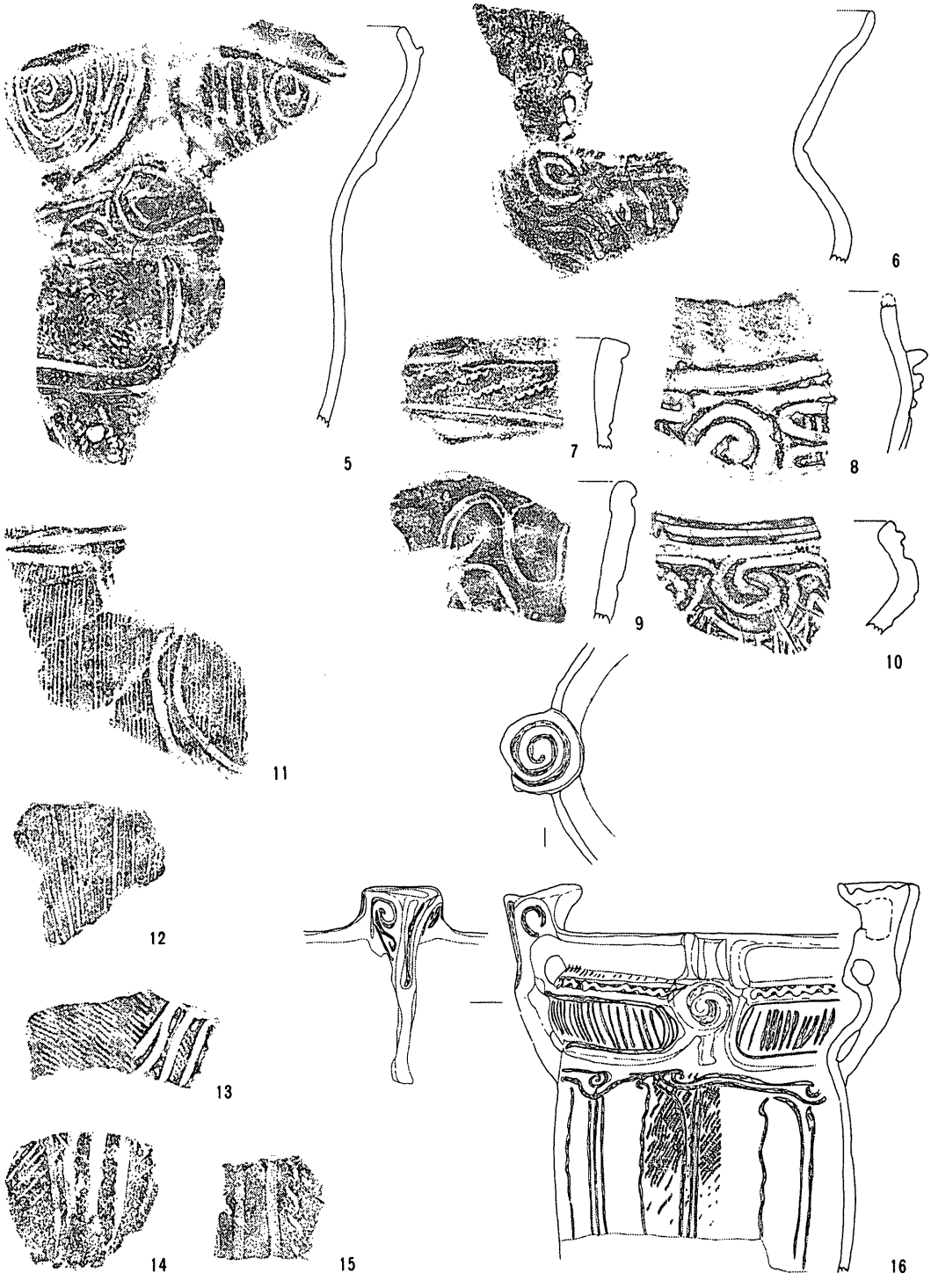
第164図　第66号住居址床面出土土器(1は1/6，他は1/3)



第165図　第67号住居址覆土出土土器(1は1/6，他は1/3)

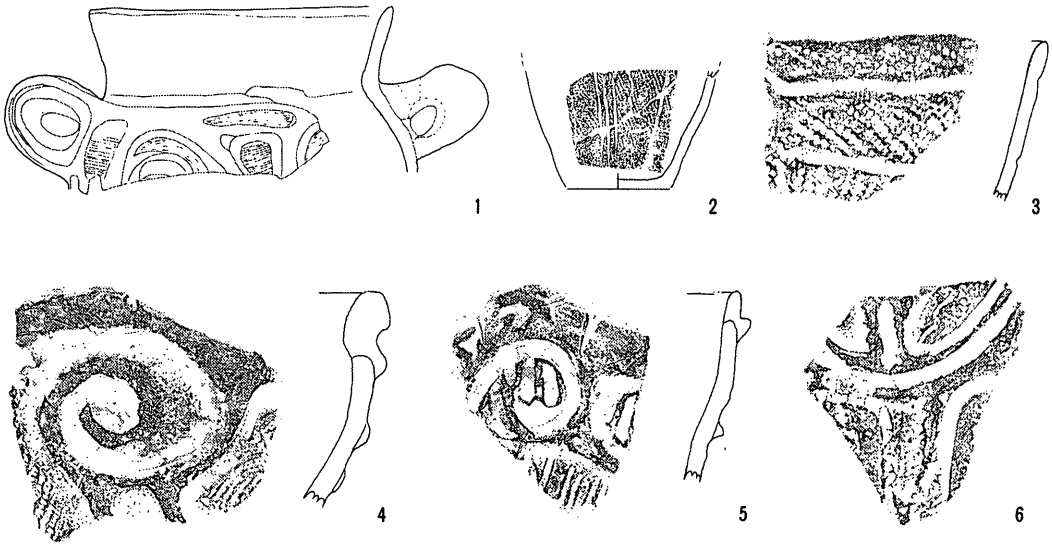


第166図　第68号住居址覆土出土土器(1，2は1/6，他は1/3)

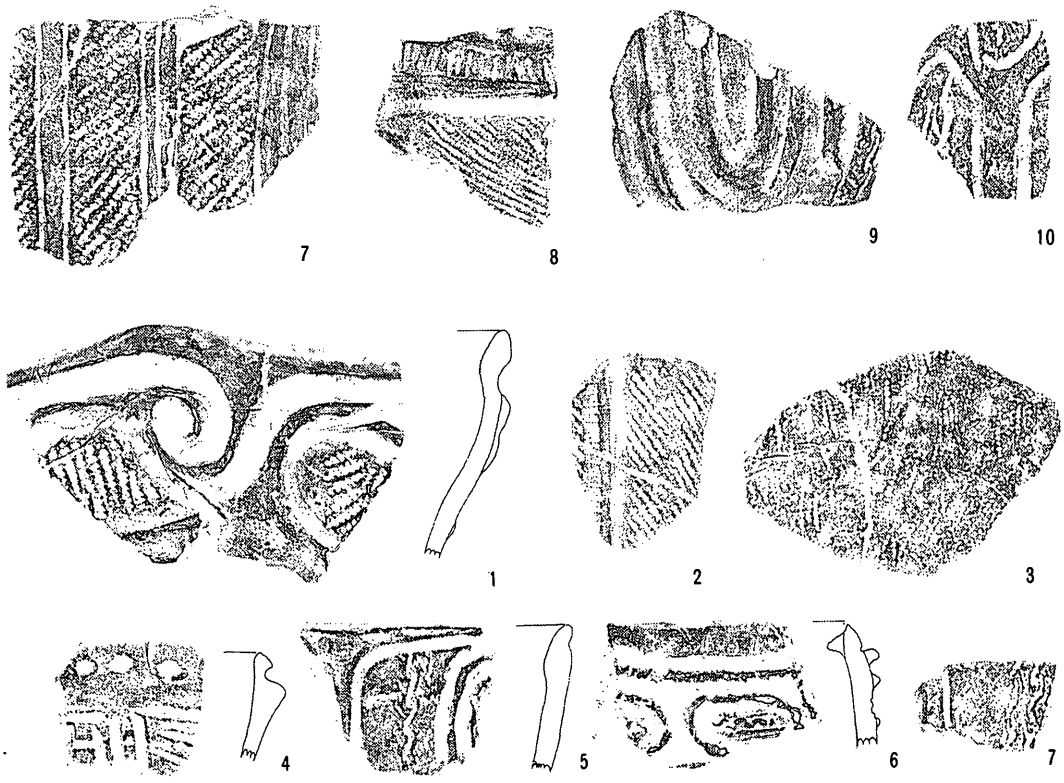


第167図　第68号住居址出土土器(5～15は覆土出土，16は伏甕，16は1/6，他は1/3)

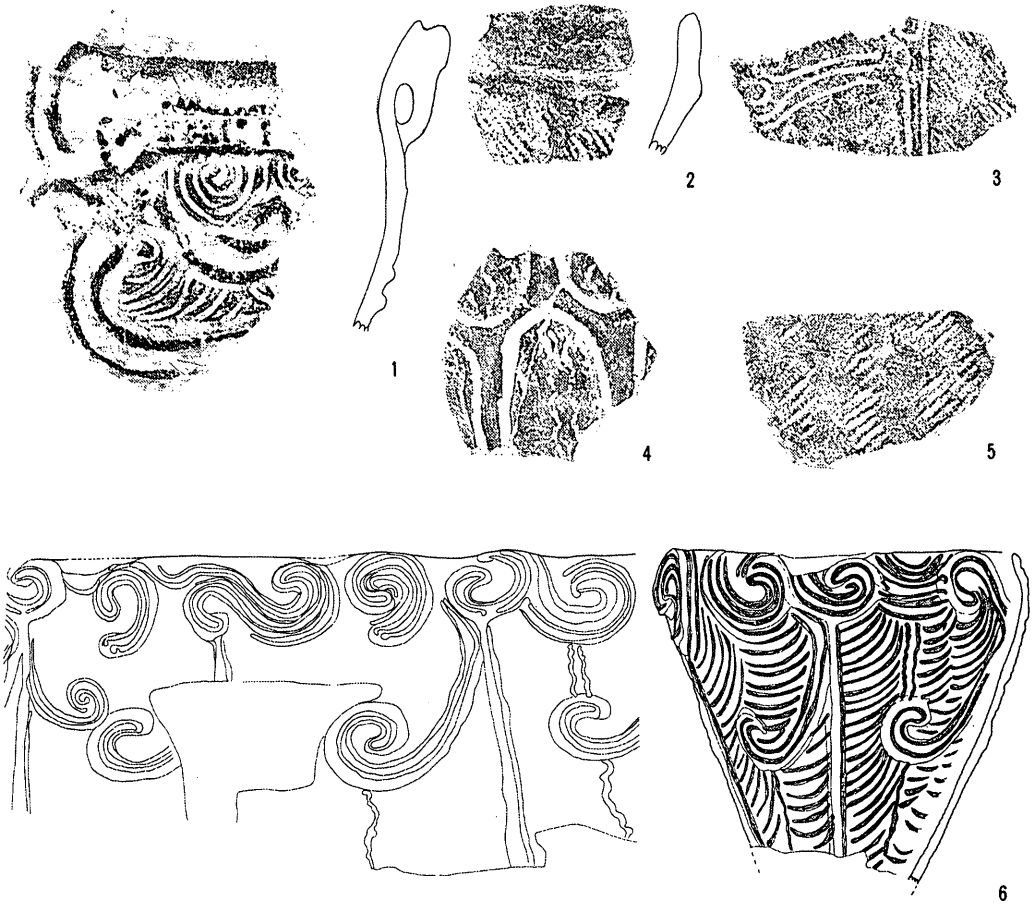
第168図　第69号住居址出土土器(1～10は覆土，11～14は床面出土，1，2，3，11～14は1/6，他は1/3)



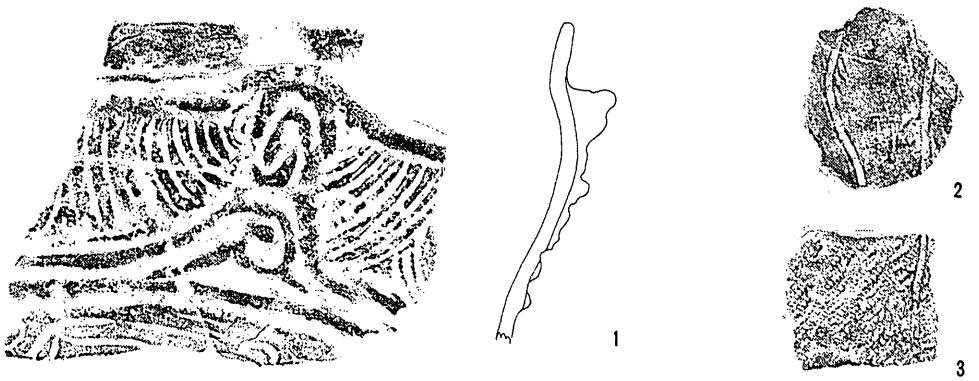
第169図　第70号住居址床面出土土器(1，2は1/6，他は1/3)



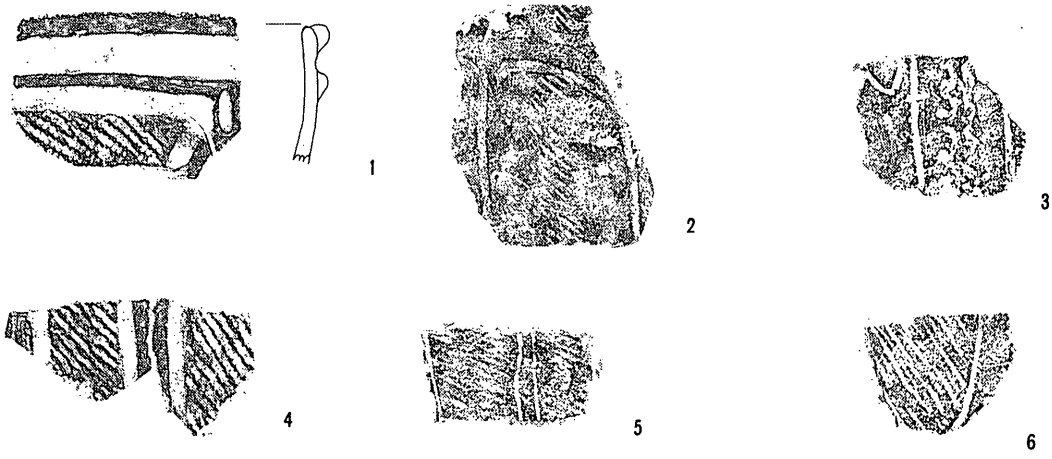
第170図　第71号住居址覆土出土土器(1/3)



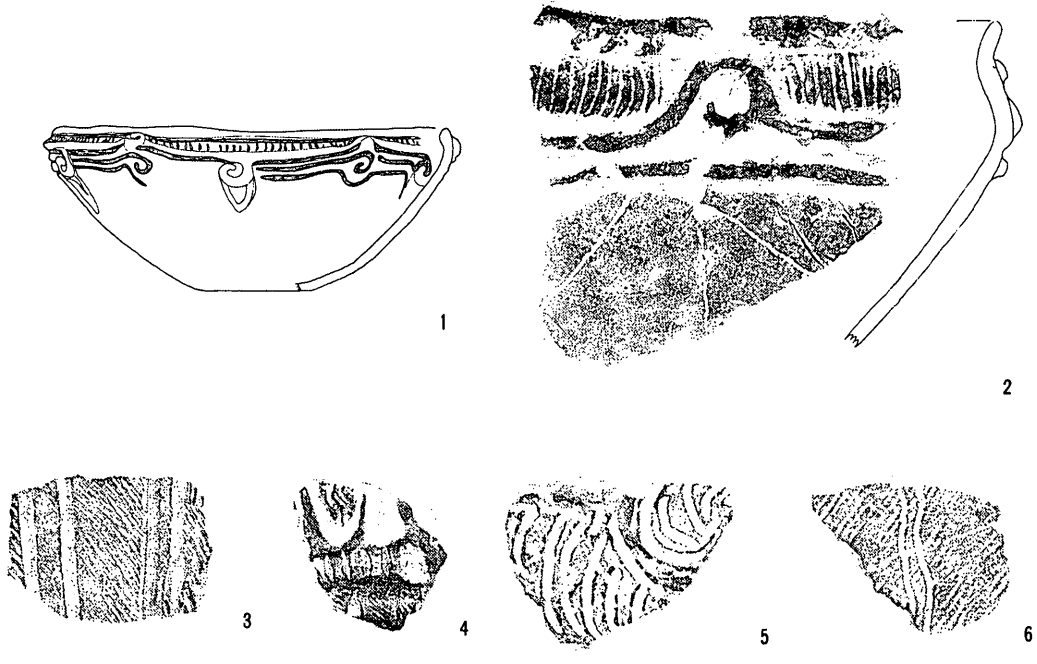
第171図　第72号住居址出土土器(1～5は覆土出土，6は埋甕，6は1/6，他は1/3)



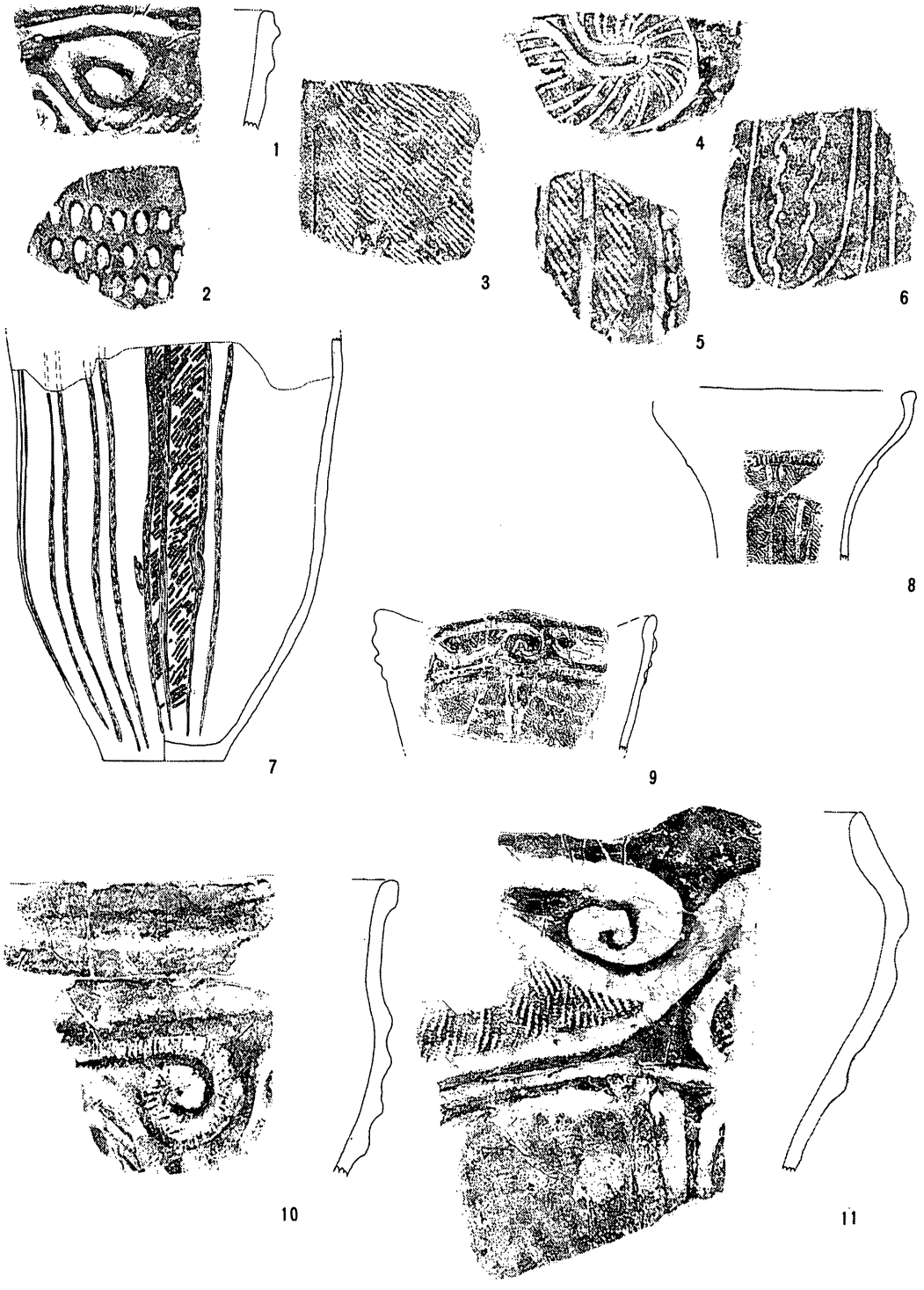
第172図　第73号住居址床面出土土器(1/3)



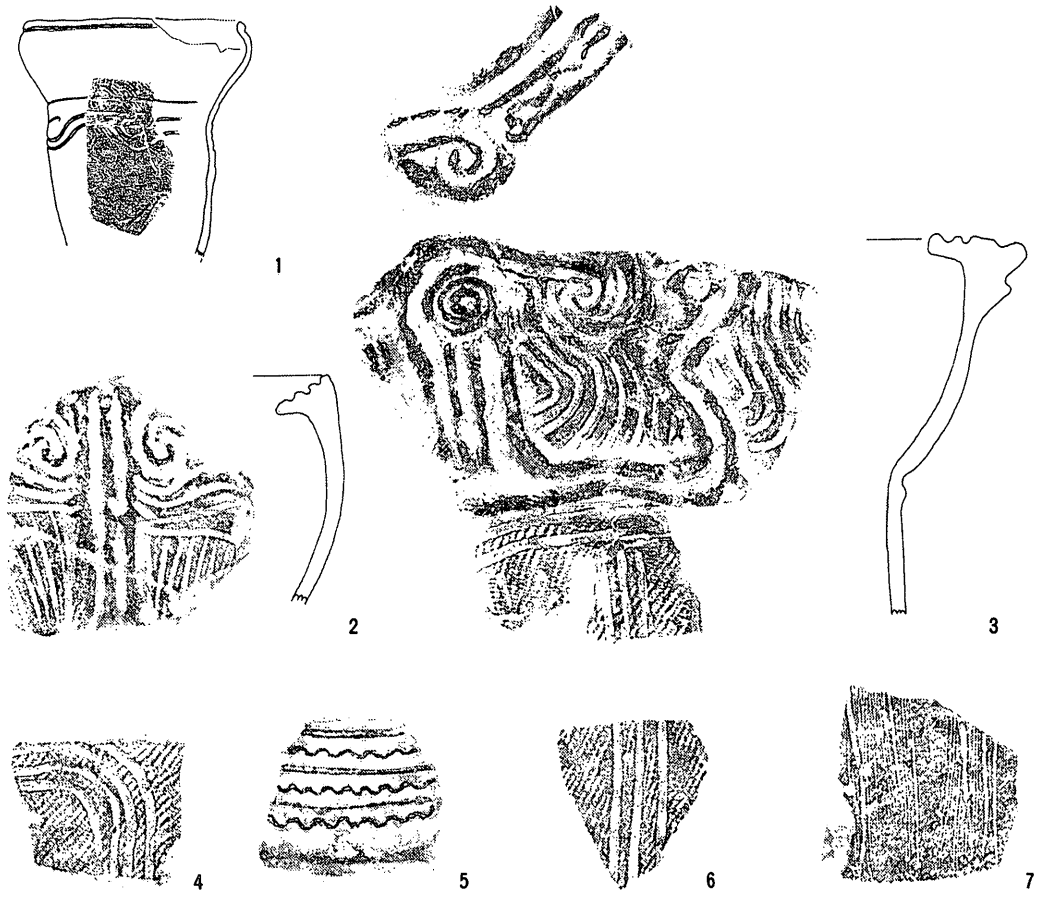
第173図　第74号住居址床面出土土器(1/3)



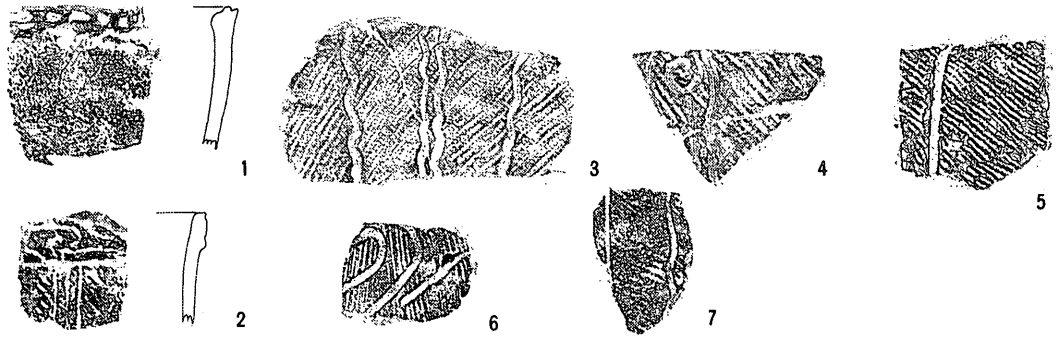
第174図　第75号住居址床面出土土器(1/3)



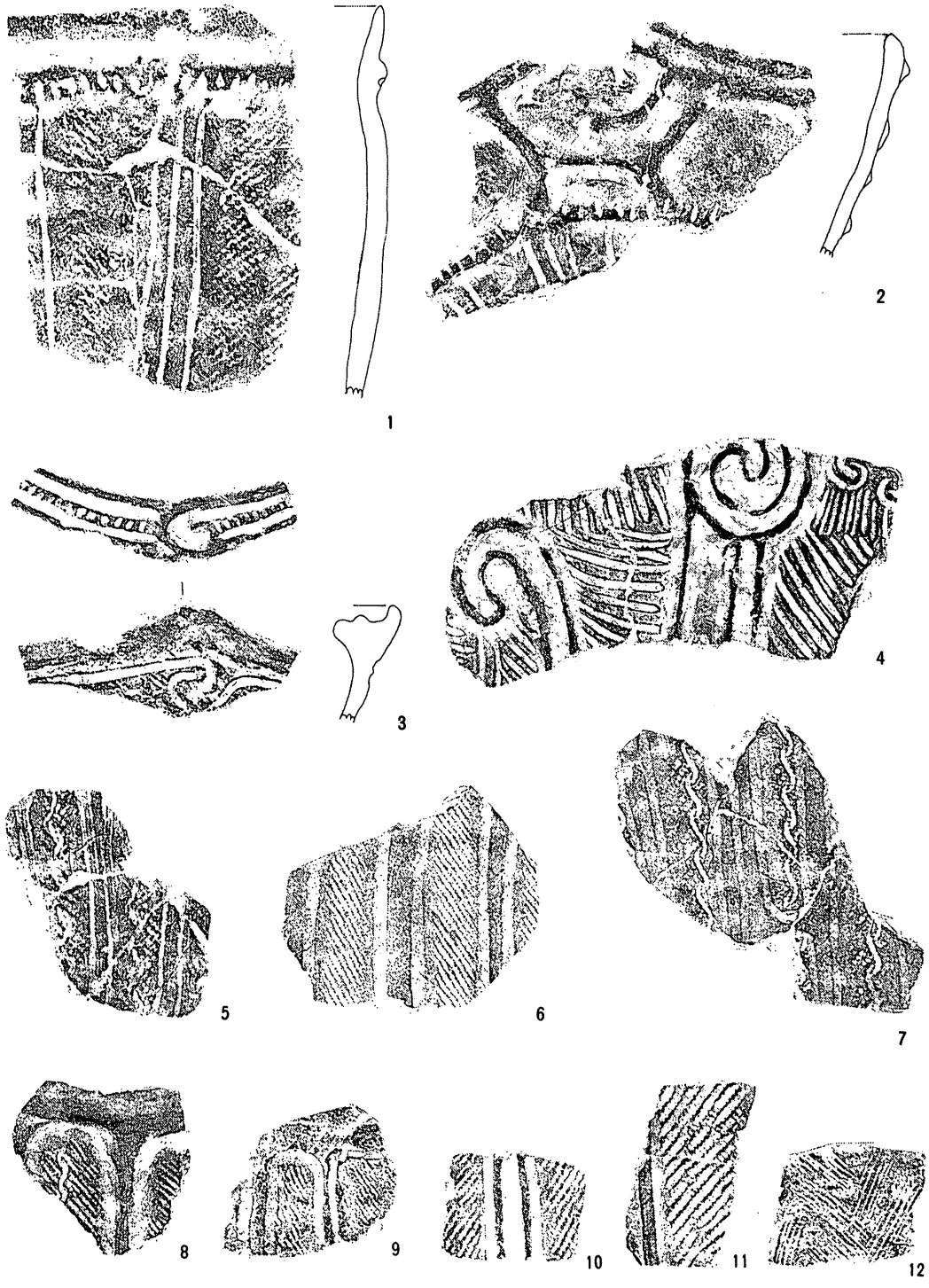
第175図　第76号住居址出土土器(1～6は覆土，7は埋甕，8～11は床面出土，7～ 9 は1/6，他は1/3)



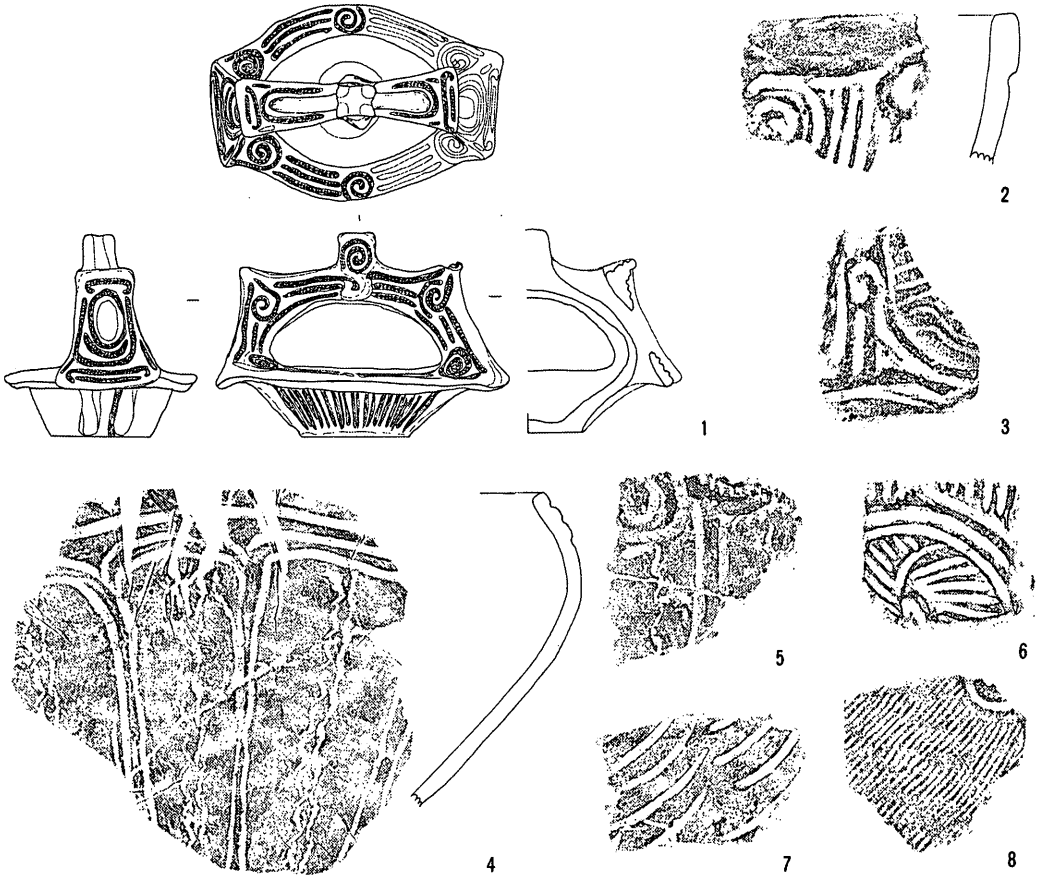
第176図　第77号住居址床面出土土器(1は1/6，他は1/3)



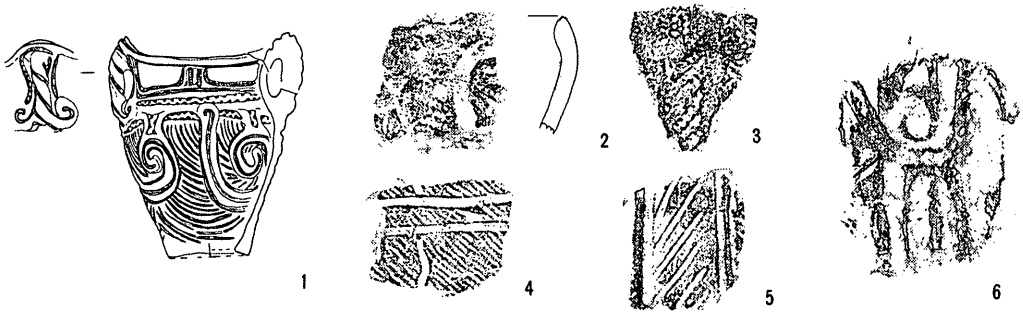
第177図　第78号住居址覆土出土土器(1/3)



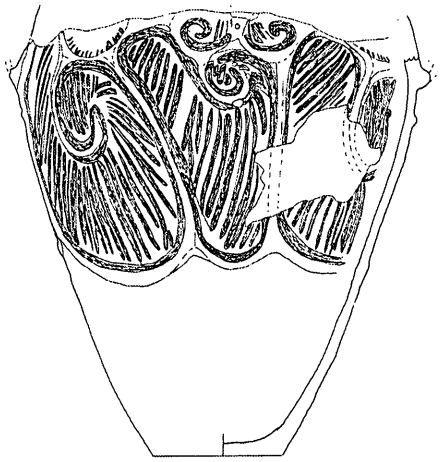
第178図　第79号住居址床面出土土器(1/3)



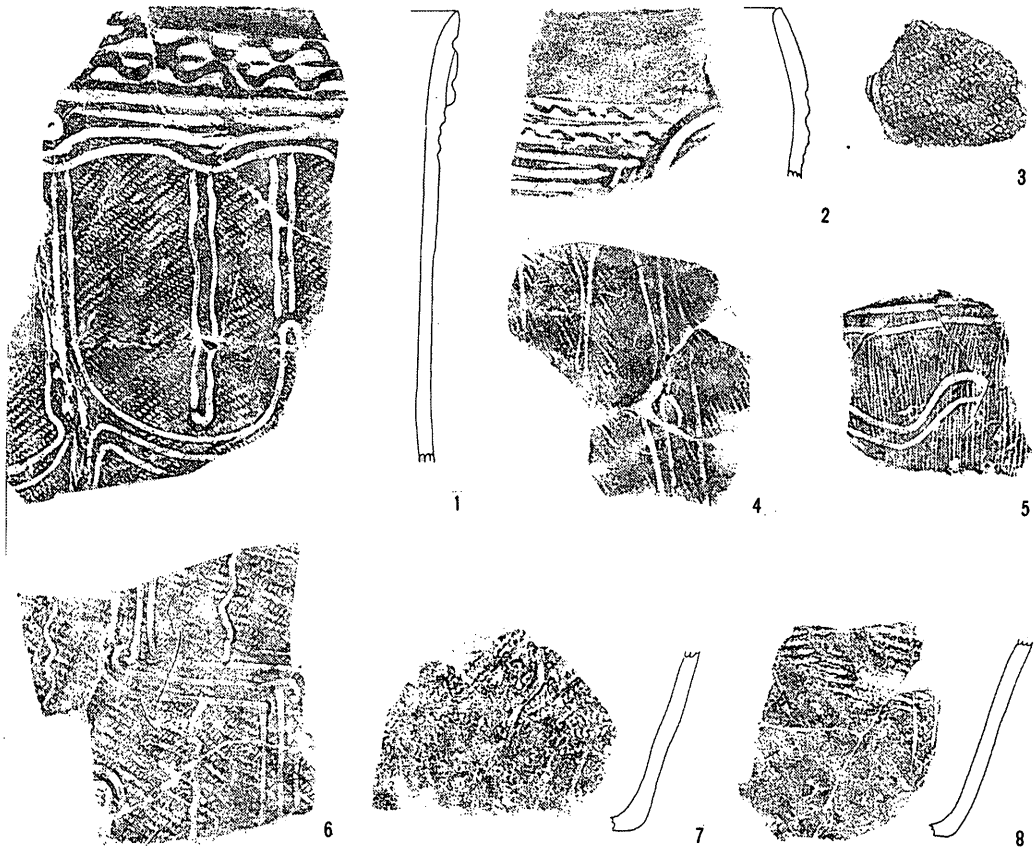
第179図　第80号住居址床面出土土器(1は1/6，他は1/3)



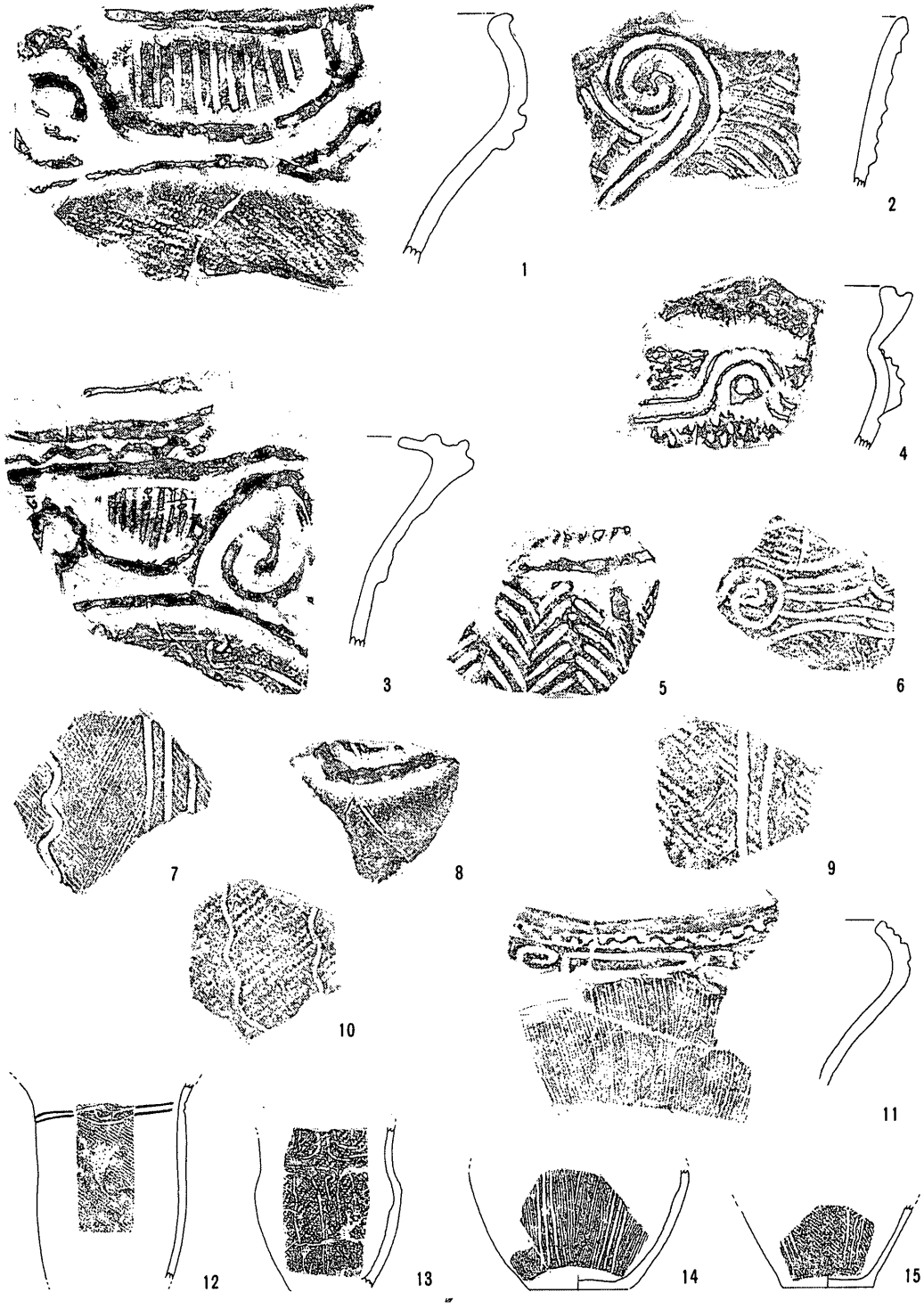
第180図　第81号住居址床面出土土器(1は伏甕，他は1/6，1は1/3)



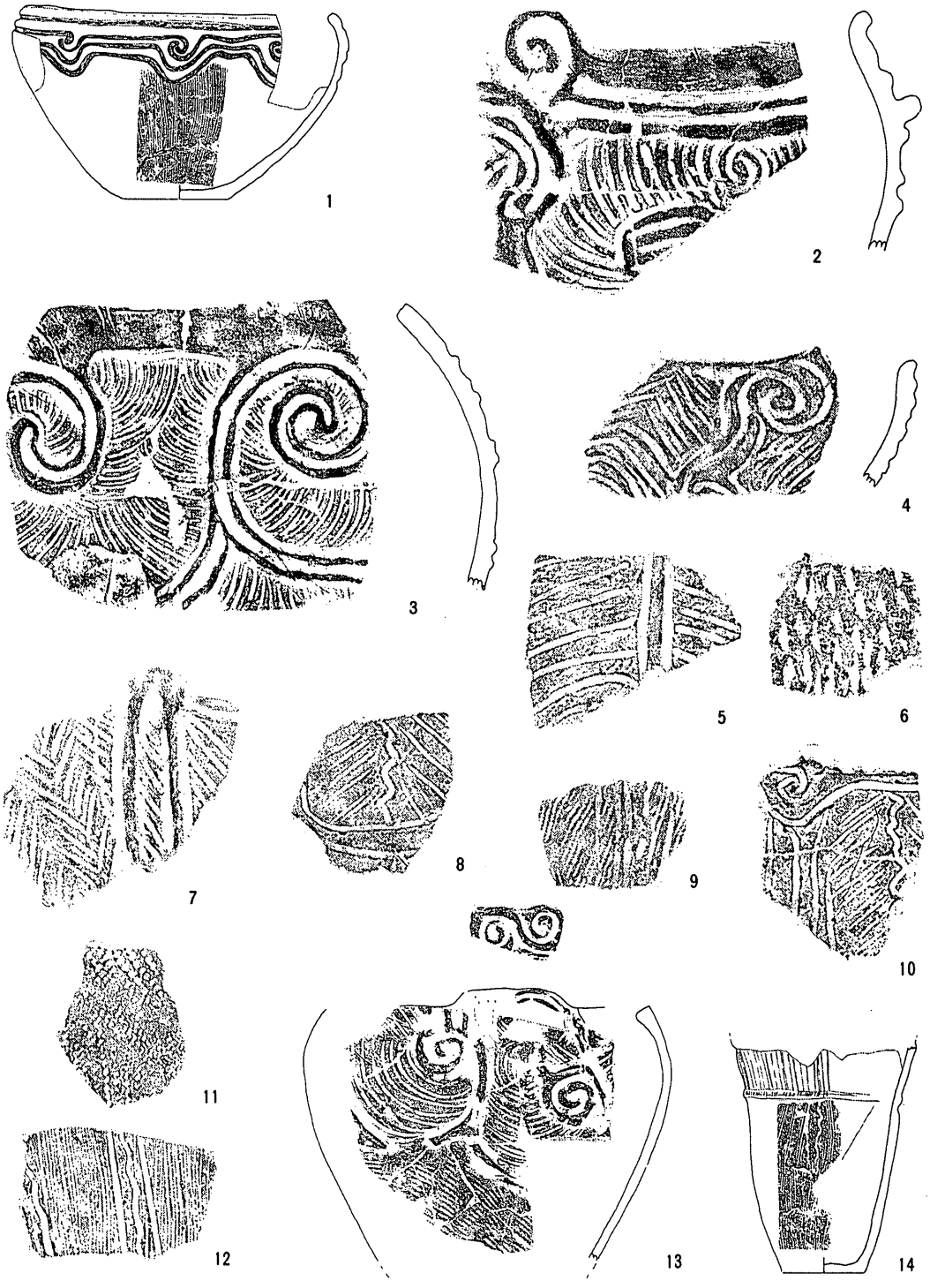
第181図　第83号住居址埋甕(1/6)



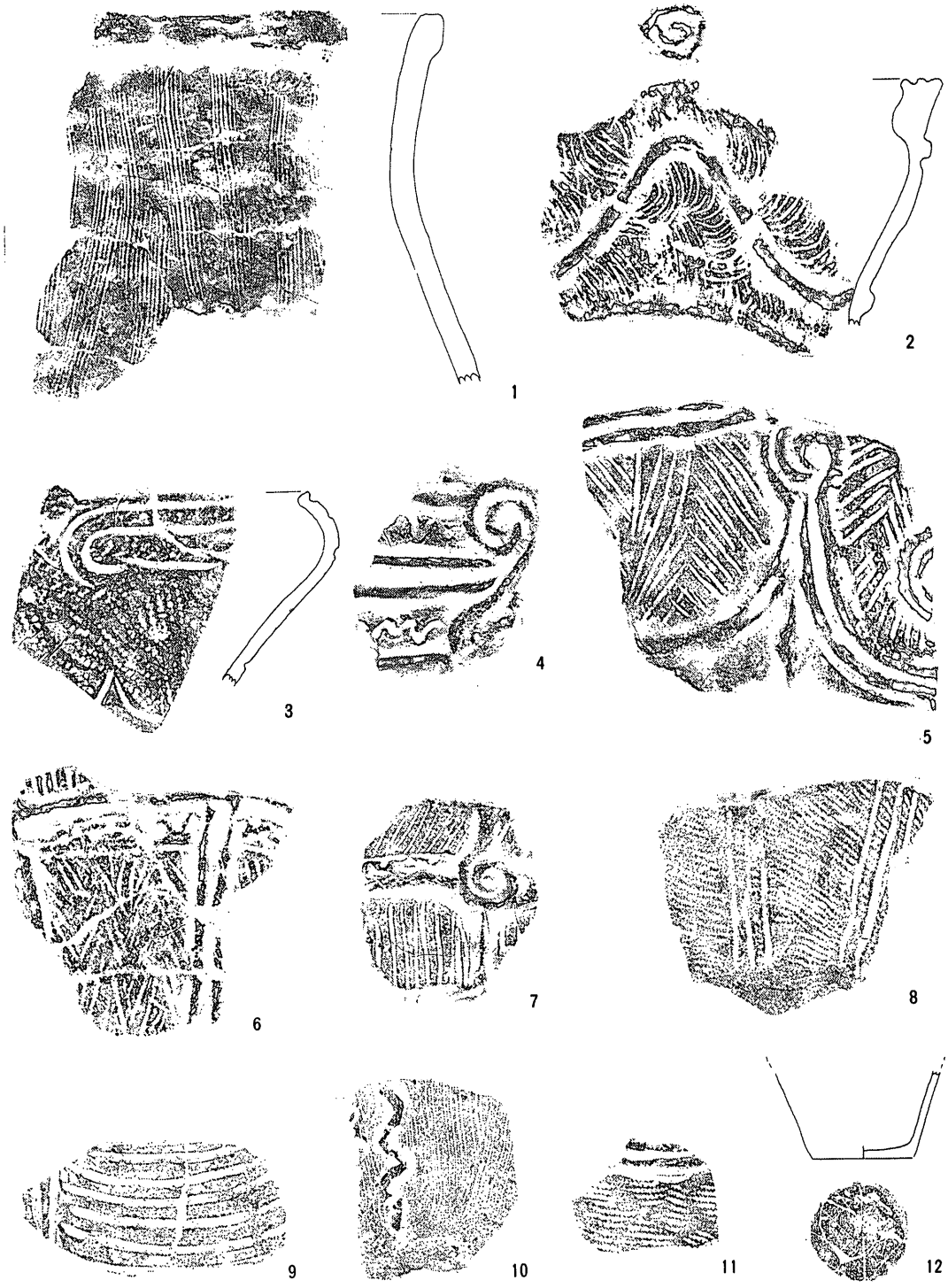
第182図　第84号住居址床面出土土器(1/3)



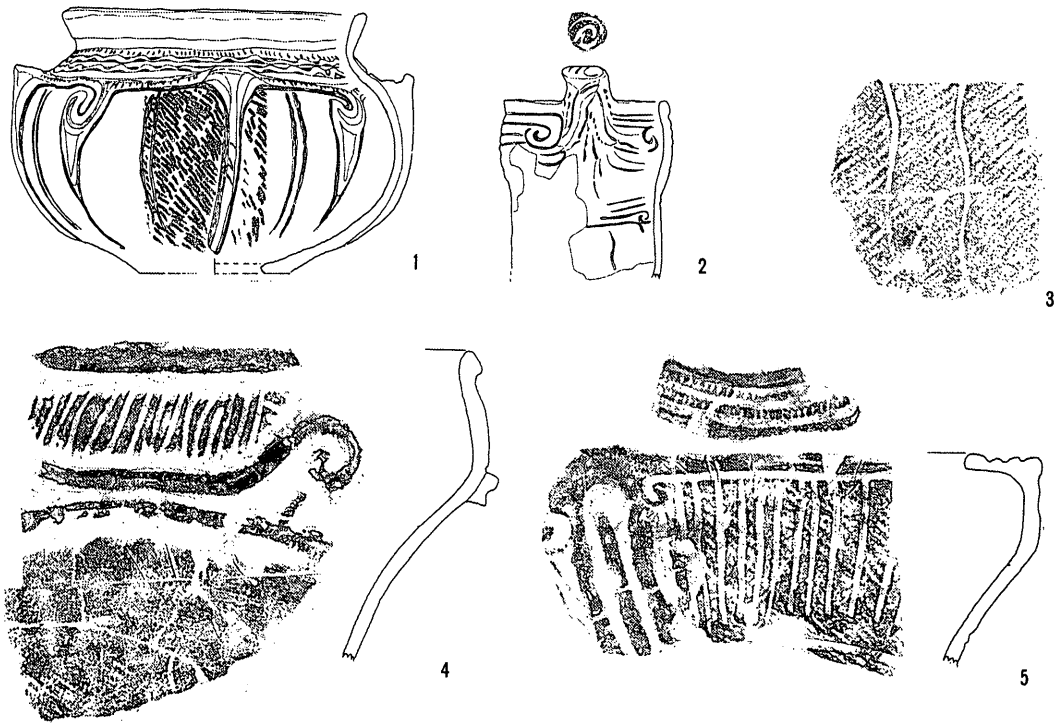
第183図　第85号住居址出土遺物(1～10は覆土，11～15は床面，12～15は1/6，他は1/3)



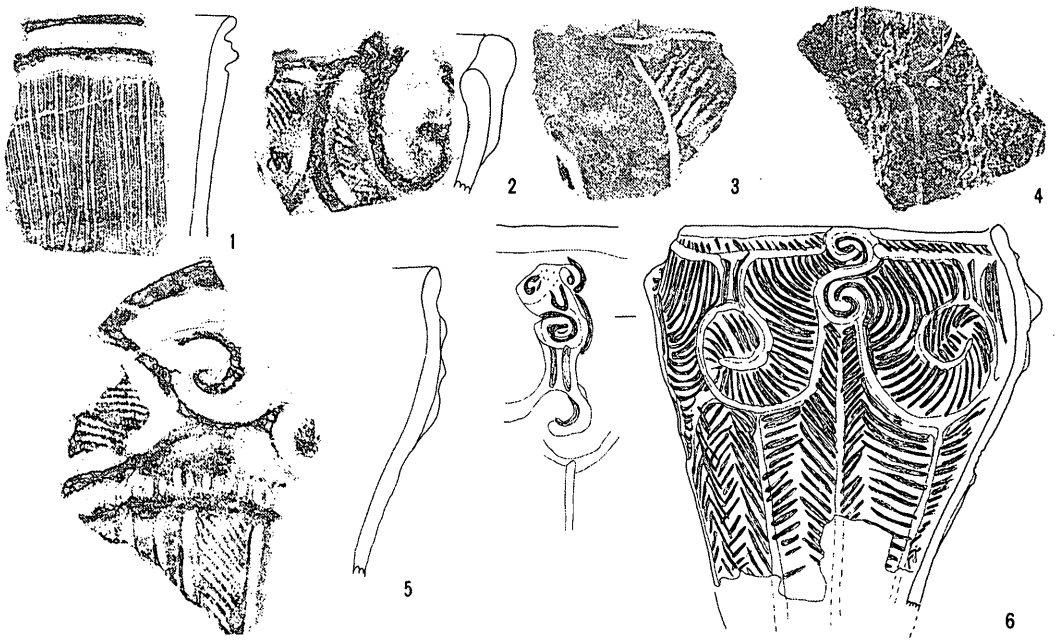
第184図　第86号住居址出土土器(1～12は覆土，13は埋甕，14は床面出土，1，13，14は1/6，他は1/3)



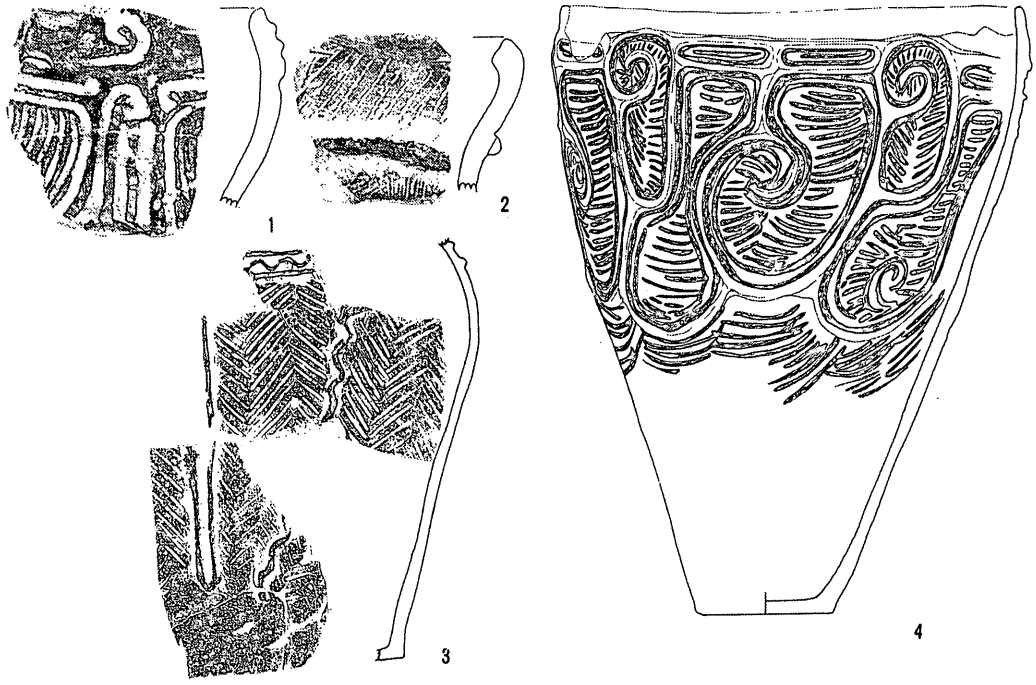
第185図　第87号住居址床面出土土器(12は1/6，他は1/3)



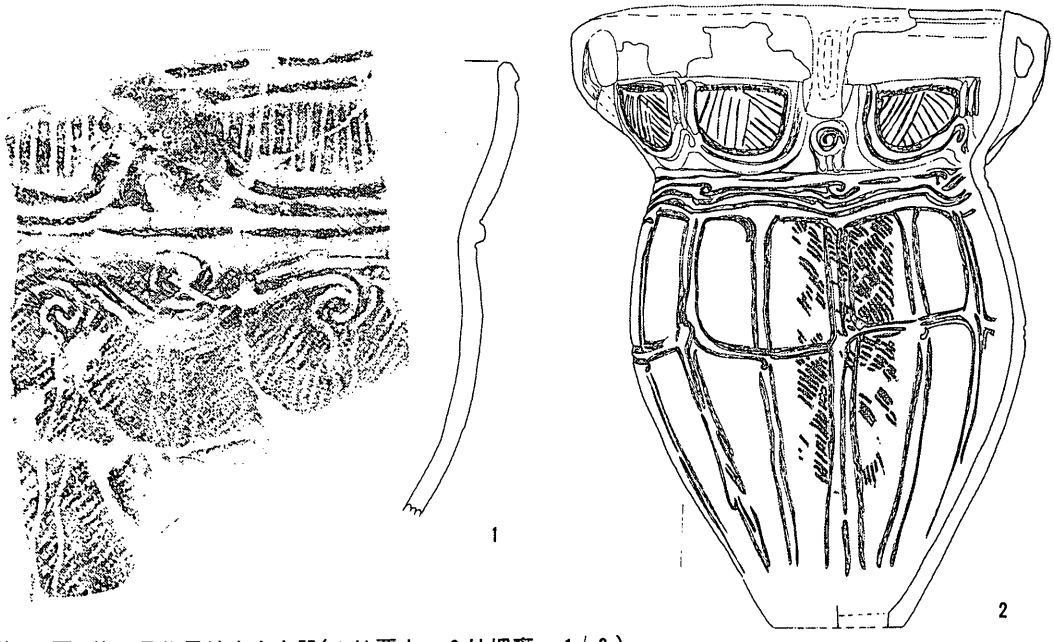
第186図　第88号住居址床面出土土器(1は埋甕，1，2は1/6，他は1/3)



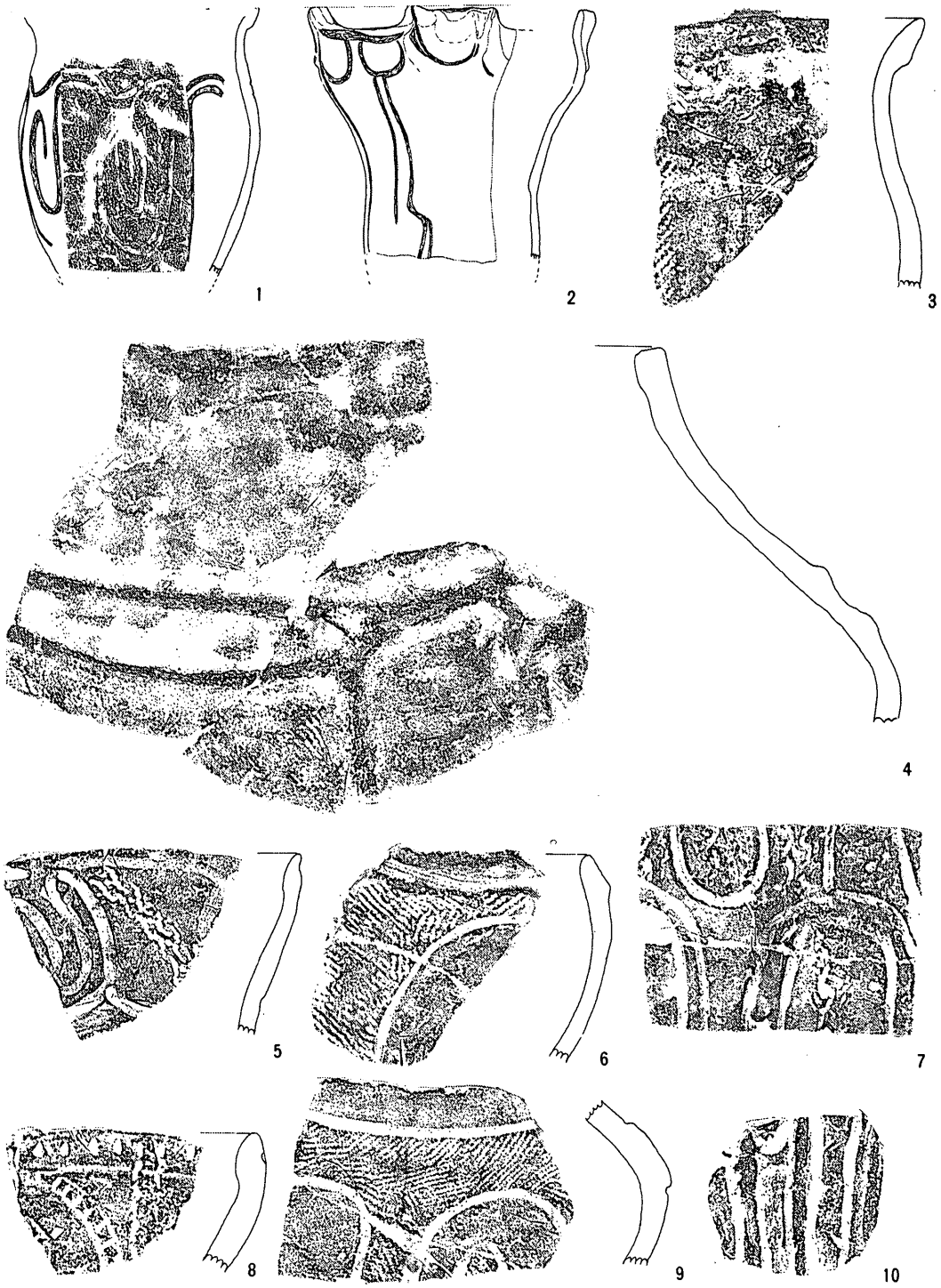
第187図　第89号住居址出土土器(1～5は覆土，6は埋甕，6は1/6，他は1/3)



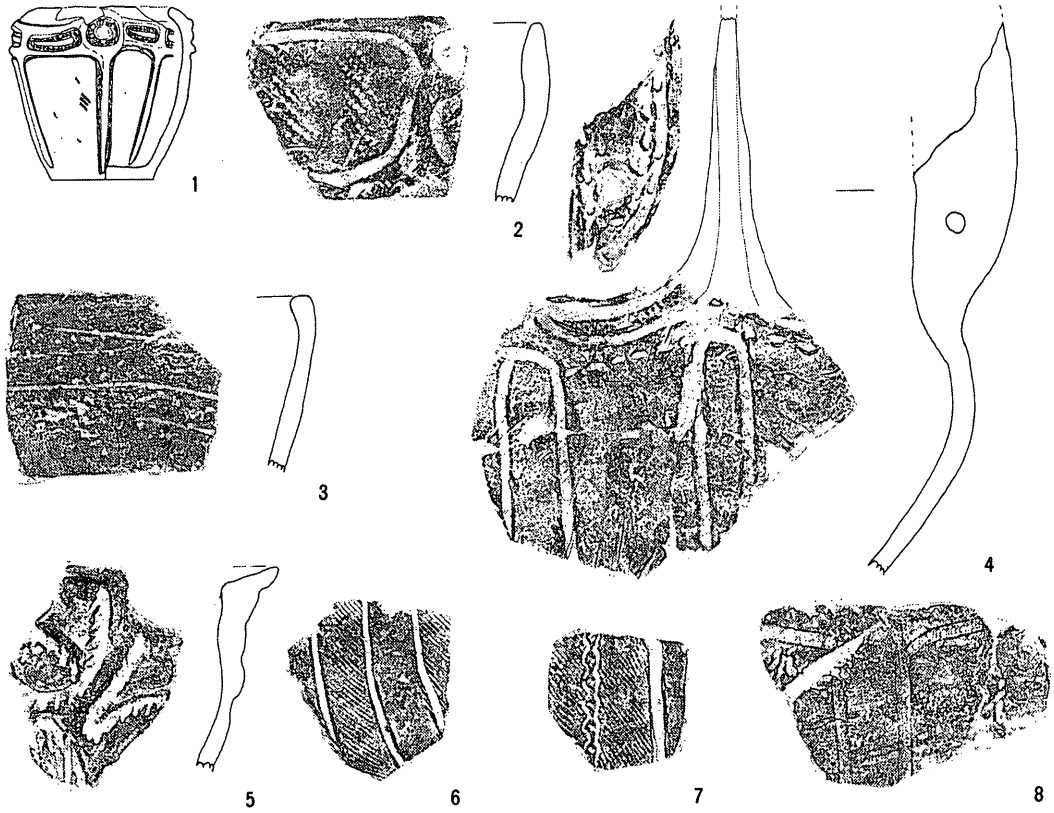
第188図　第90号住居址床面出土土器（３は埋甕１，４は埋甕２，３・４は１／６他は１／３）



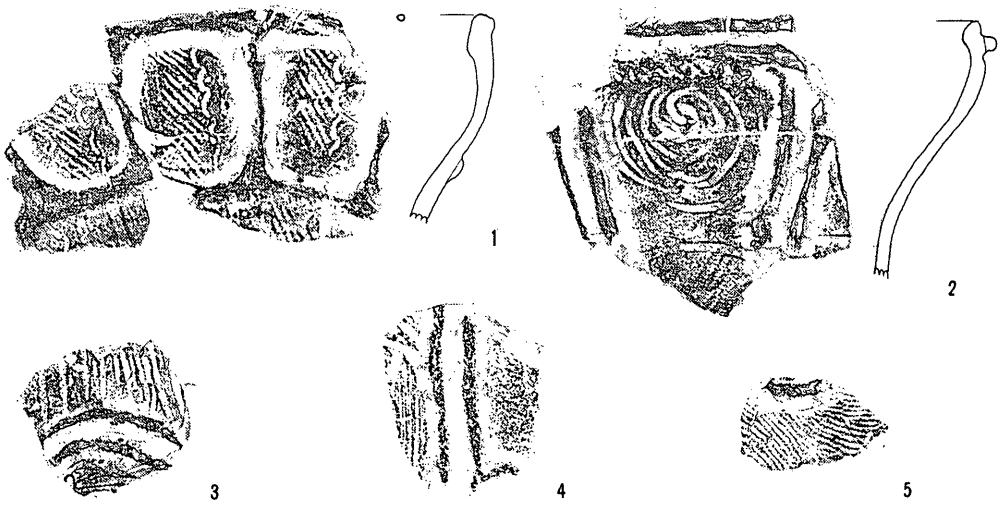
第189図　第91号住居址出土土器（１は覆土，２は埋甕，１／６）



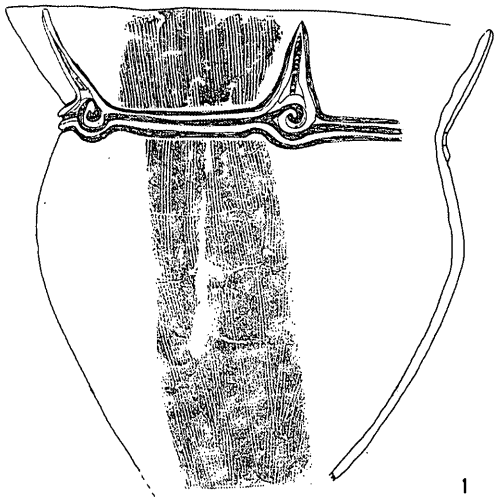
第190図　第93号住居址址面出土土器(1，2は1/6，他は1/3)



第191図　第94号住居址床面出土土器(1は1/6，他は1/3)



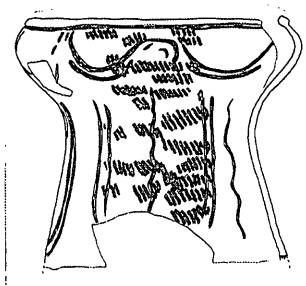
第192図　第96号住居址床面出土土器(1/3)



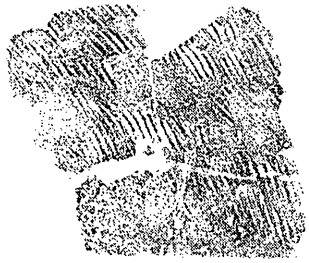
1

2

第193図　第97号住居址埋甕(1は埋甕1，2は埋甕2，1/6)



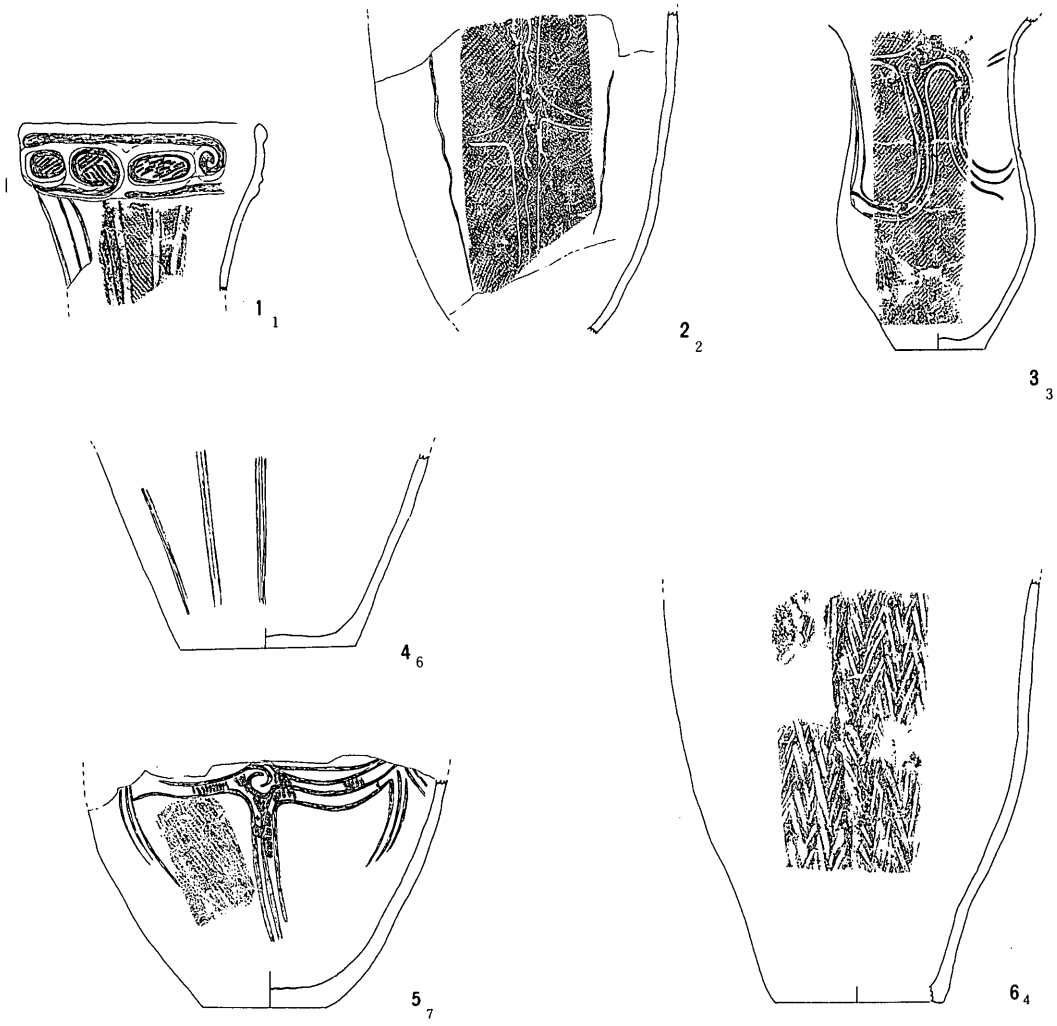
1



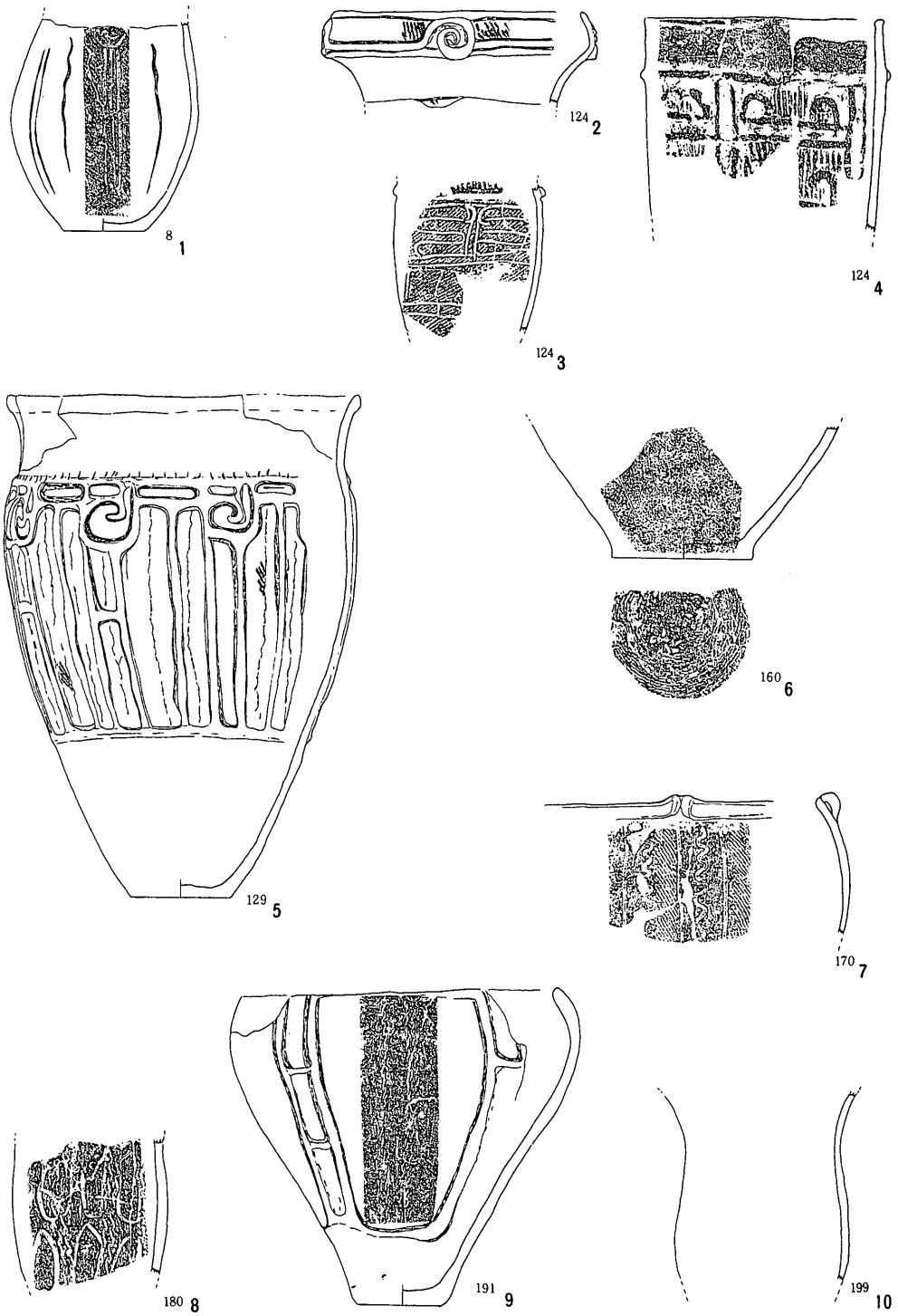
2

3

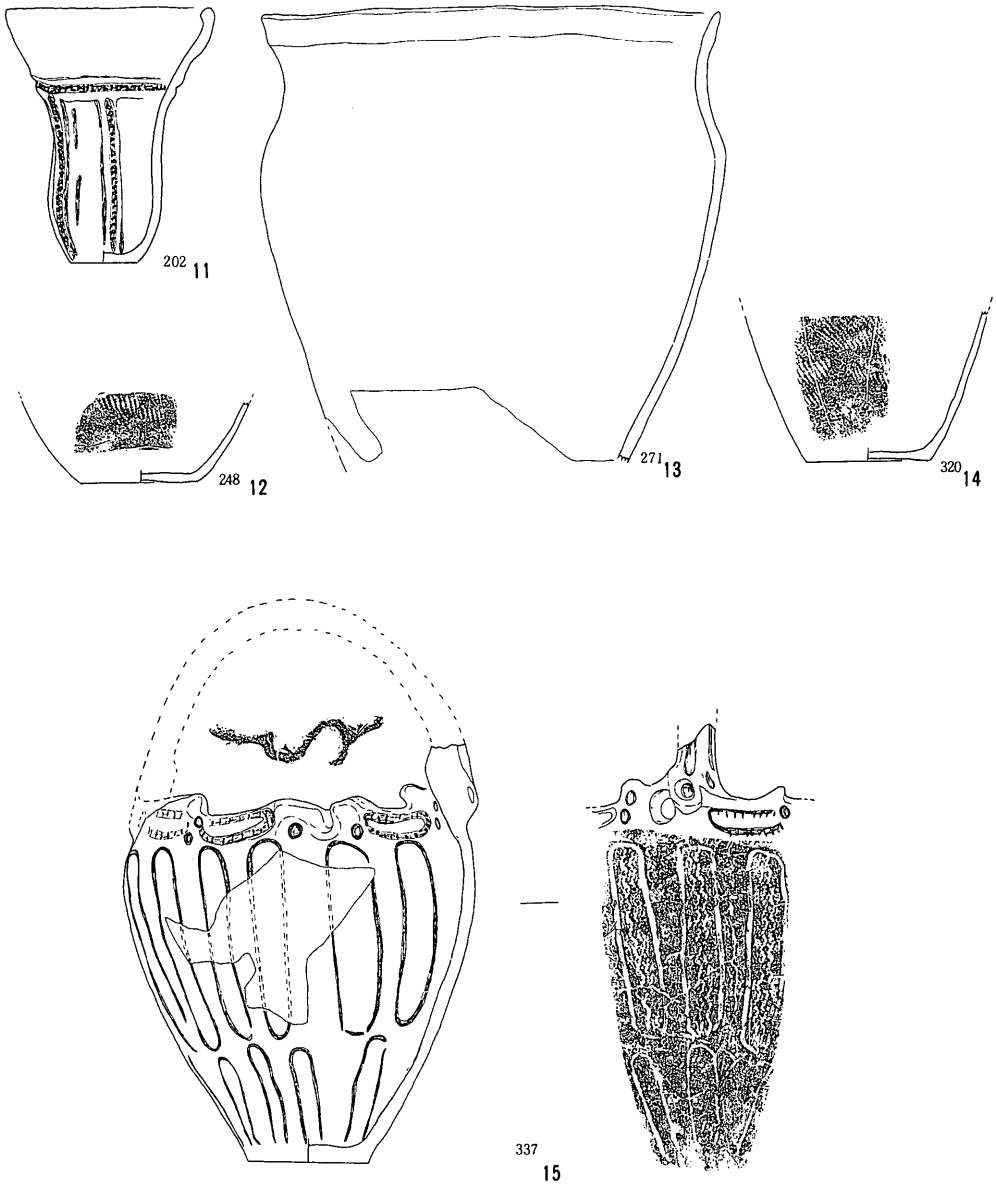
第194図　第98号住居址床面出土土器(1は埋甕，1は1/6，他は1/3)



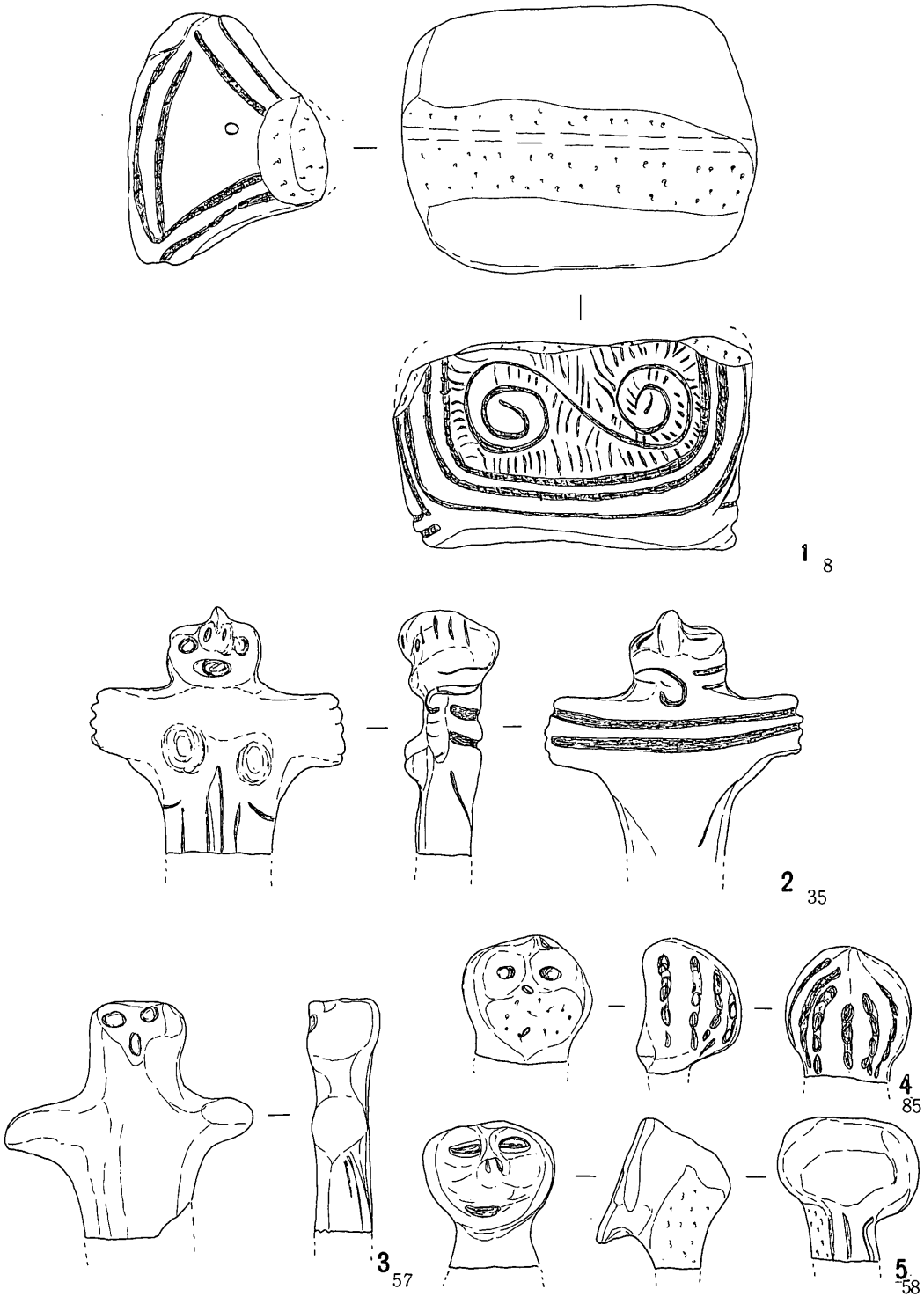
第195図　単独埋甕出土土器(1/6，小文字出土遺構番号)



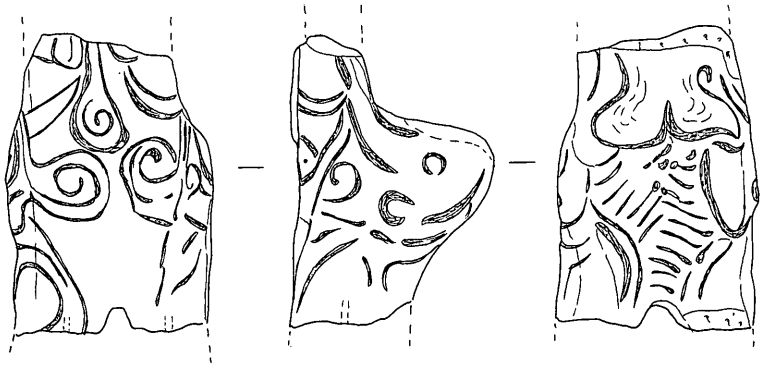
第196図　土壙出土土器(1/6，小数字は出土遺構番号)



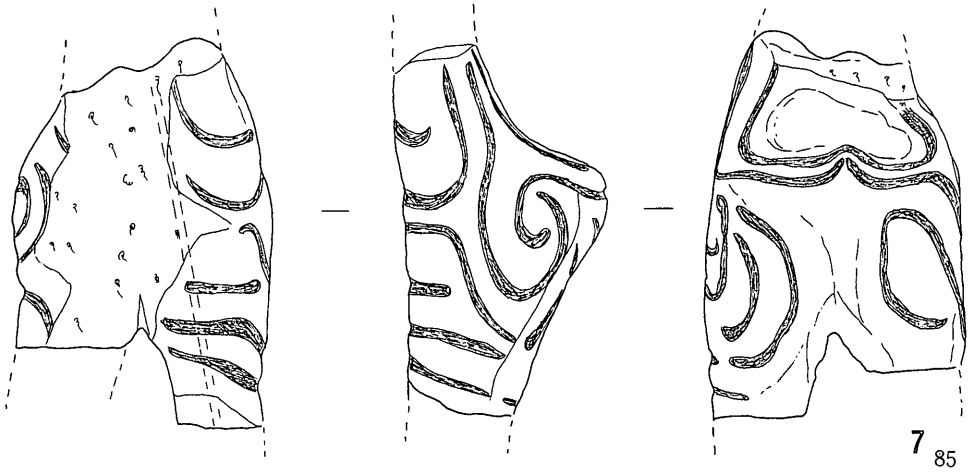
第197図　土壙出土土器(1/6，小数字は出土遺構番号)



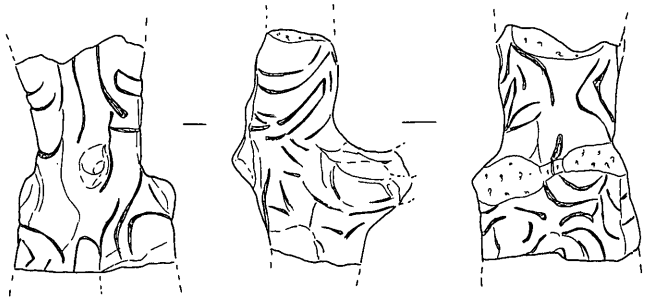
第198図　三角壔土製品・土偶実測図(1/2, 小数字は出土住居址番号)



6 81

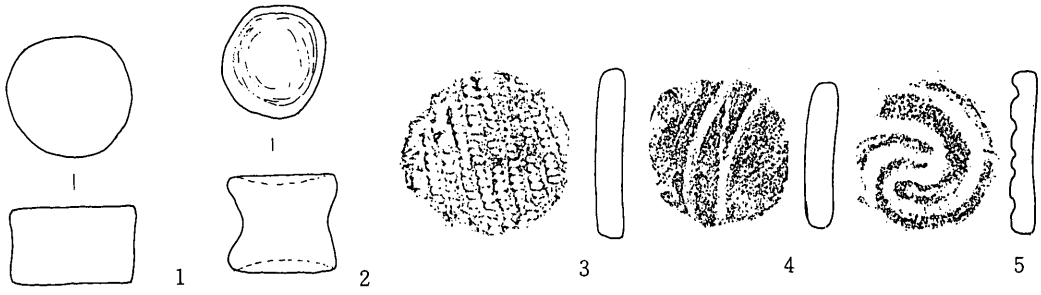


7 85

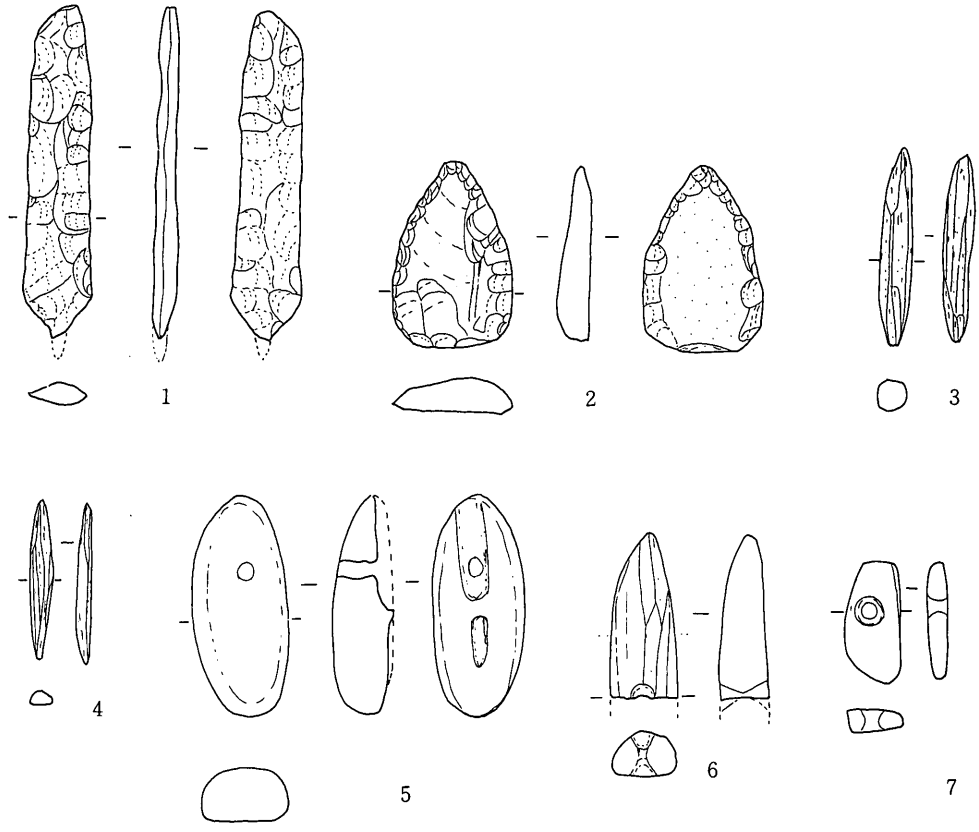


8 198

第199図　土偶実測図(1/2，6，7は住居址，8は土壙出土)



第200図　耳栓・土製円板(3～5)(1/2，1は47-Z，2は51-Nグリッド，3は33号住，4は8号住，5は3号住)

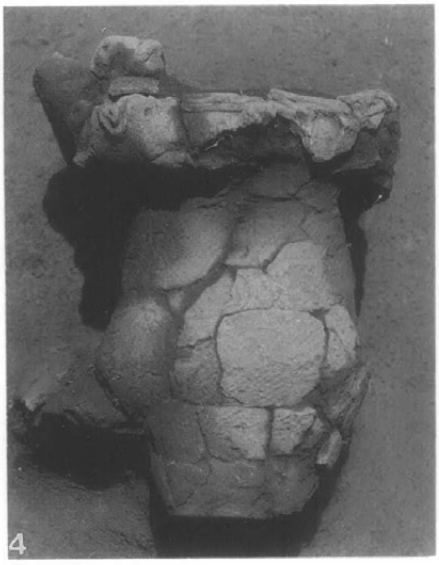


第201図　石器・飾玉実測図(1/2，1は101-ログリッド，2は89住，3は57-Sグリッド，4は1号住，5は60号住，6は14号住，7は79号住出土)

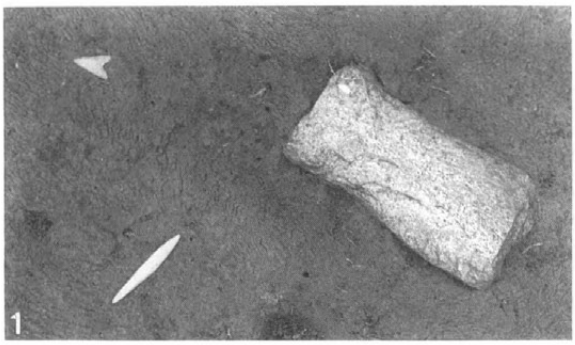
東より

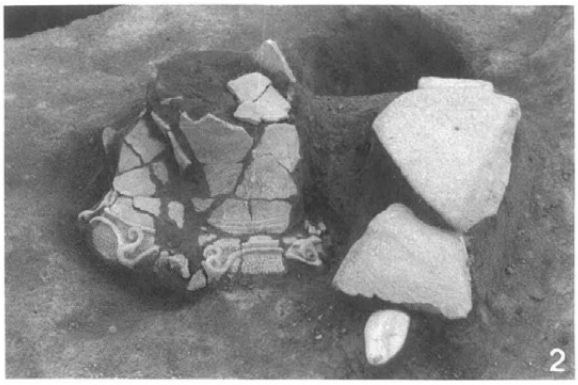
西より

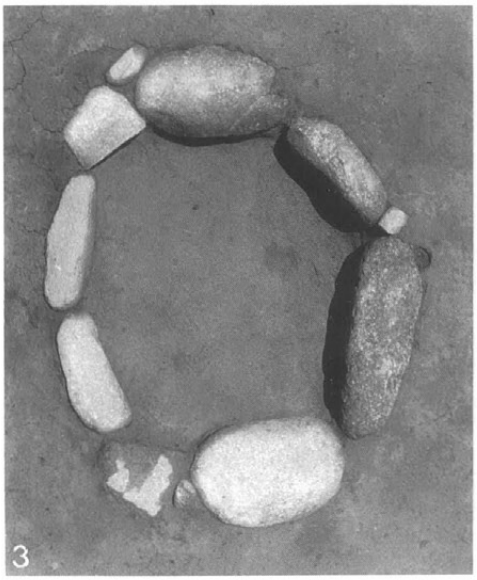
図版１　　住居址群遠影



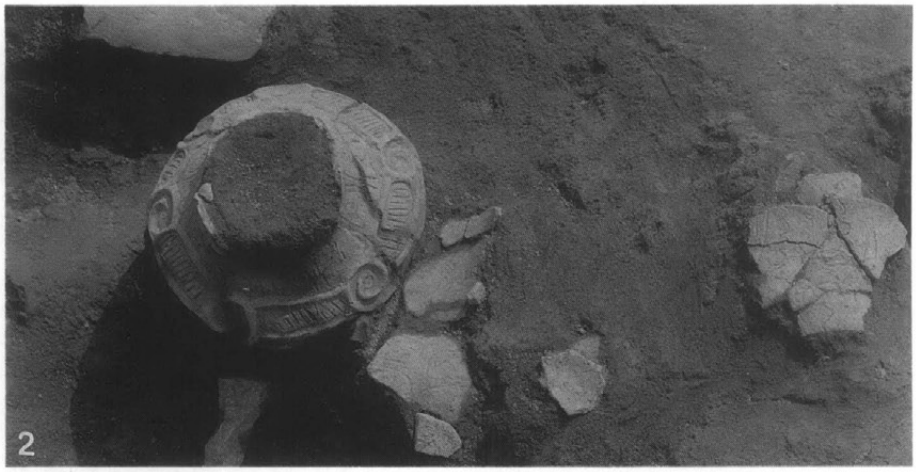
図版 2　　遺跡遠影，グリット調査，第 4 号土壙(3．4)



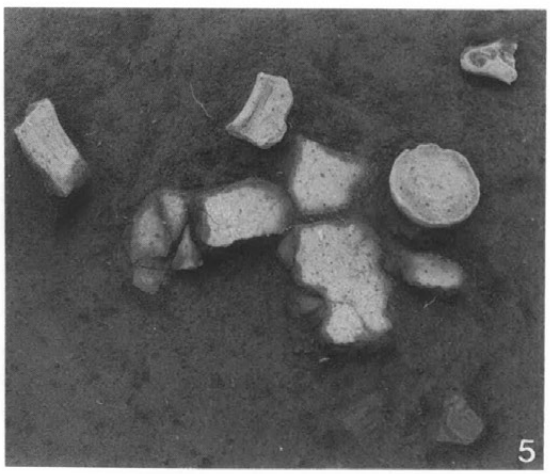




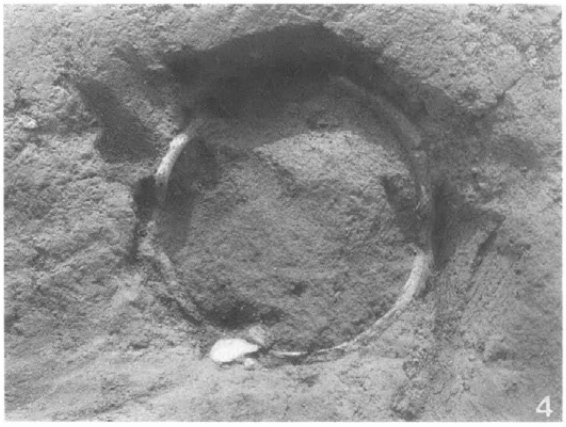
図版 3　　第 1 号住居址



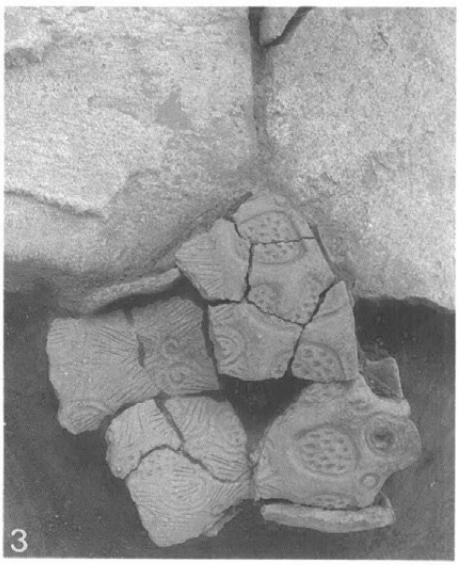
図版 4　　第 2 号(2)・第 6 号(3・4)住居址(1 奥第 2 号，手前第 6 号)



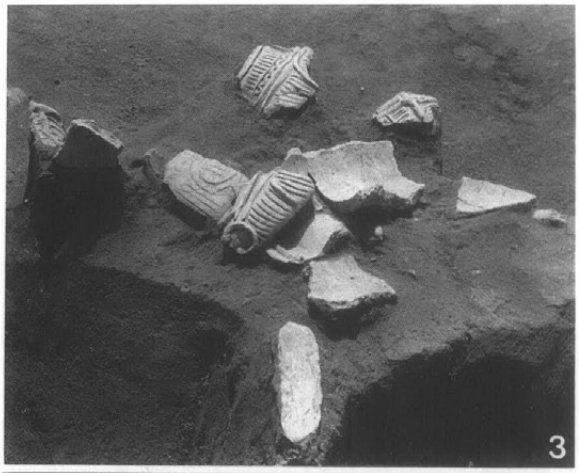
図版 5　　第 3 号住居址

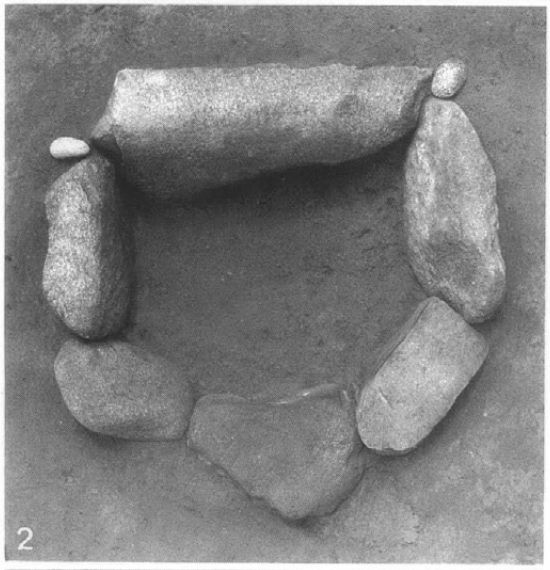


図版 6　　第 4 号住居址

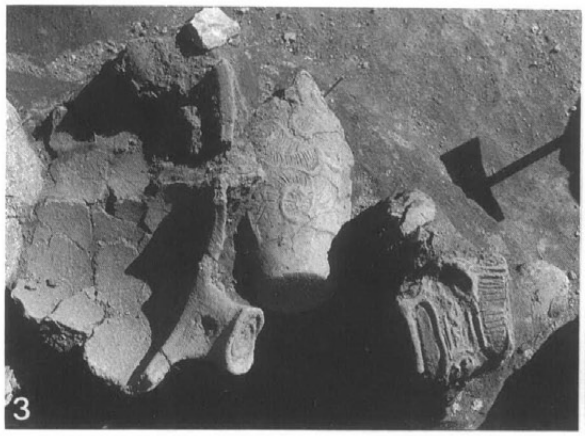


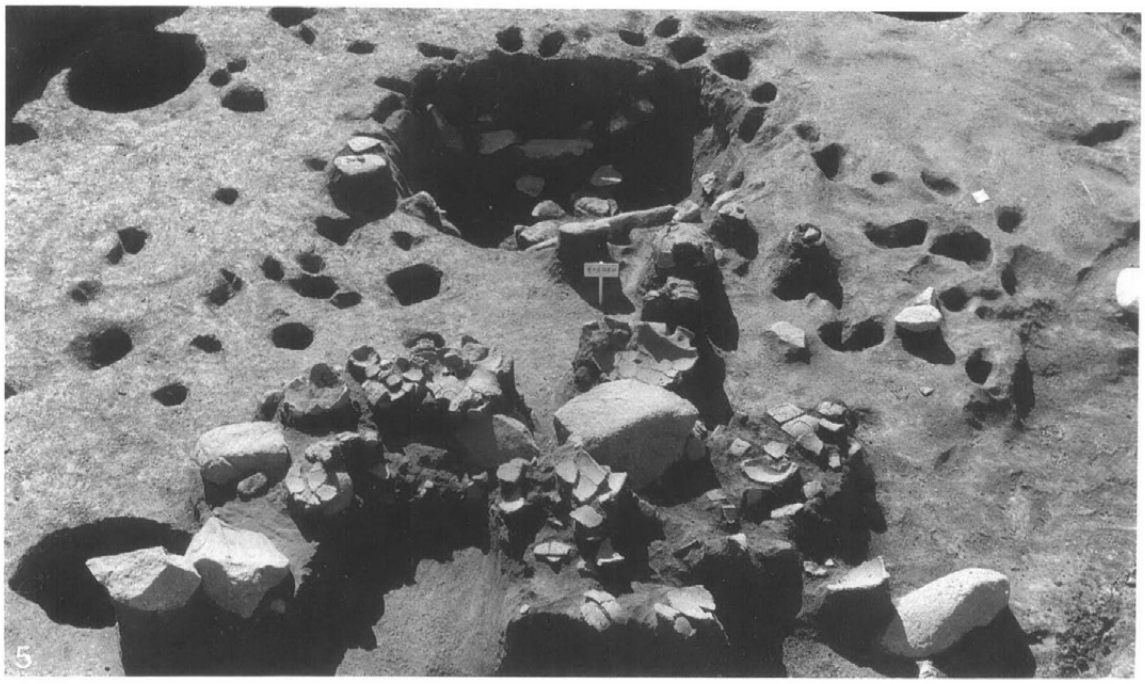
図版 7　　第 5 号住居址（4 奥は 4 号住居址）



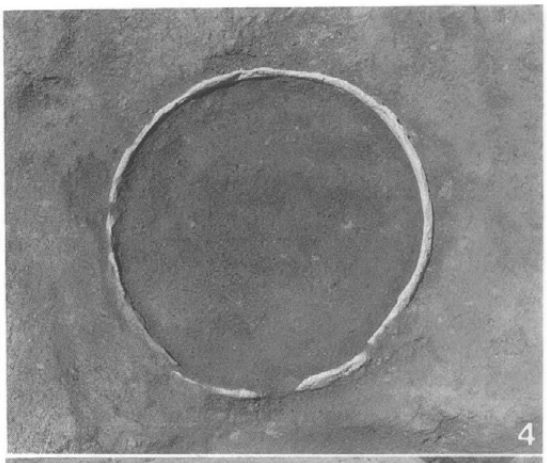


図版 8　　第 7 号住居址

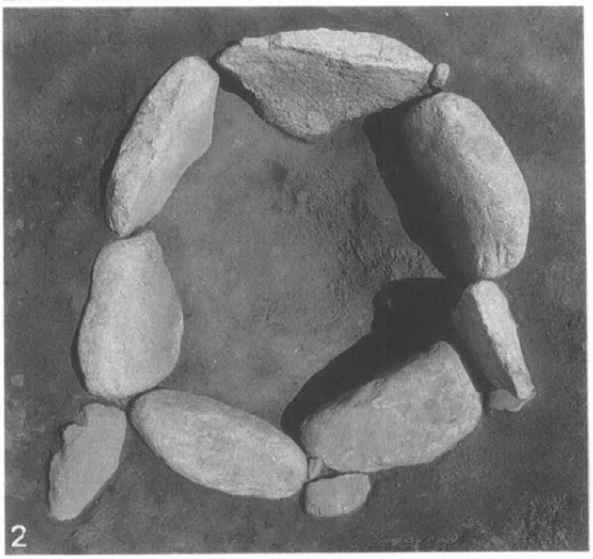


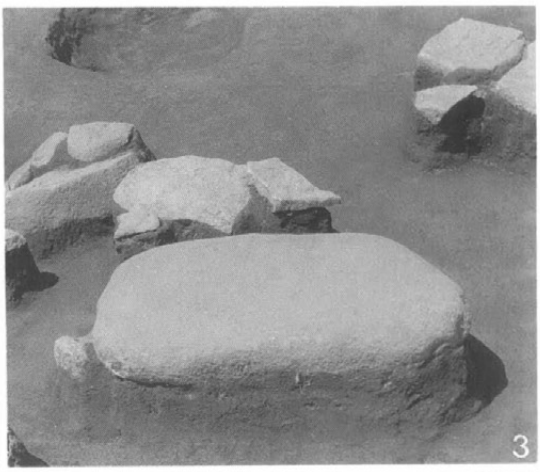


図版 9　　第 8 号住居址遺物出土状況

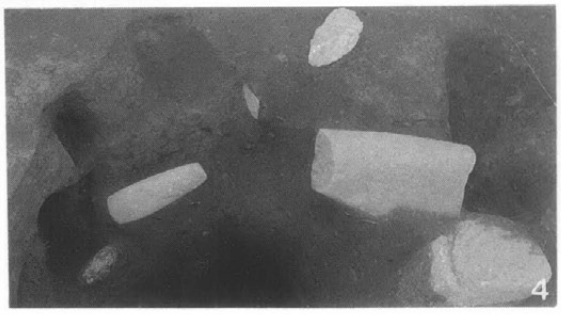


図版10　第8号住居址

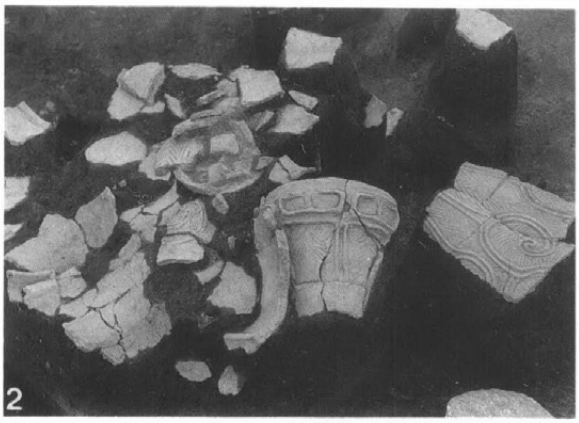


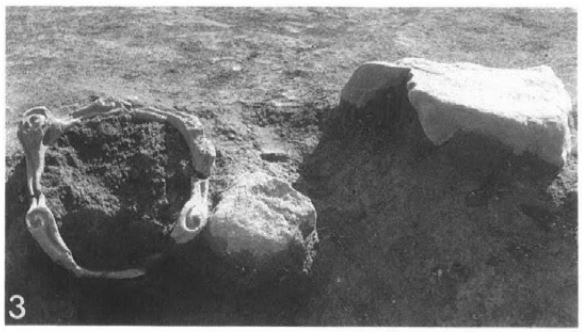


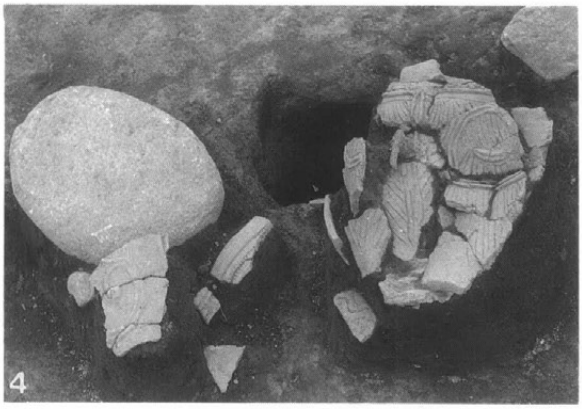
図版11　第９号（１・２），第10号住居址（３・４）

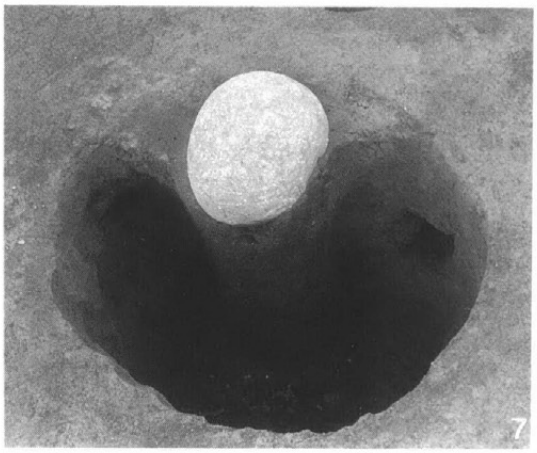


図版12　第11号住居址



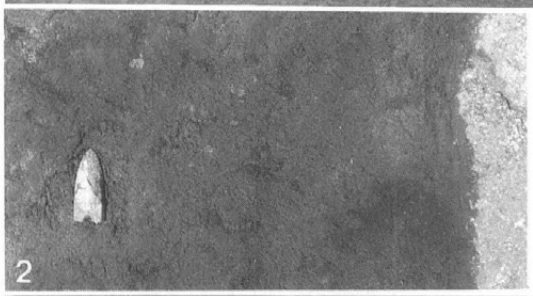


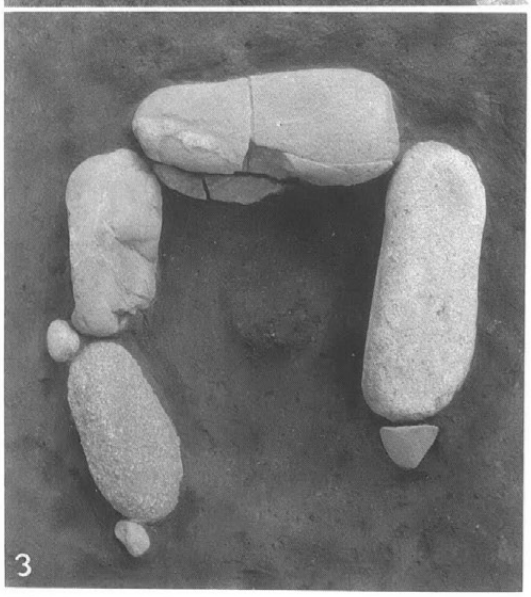




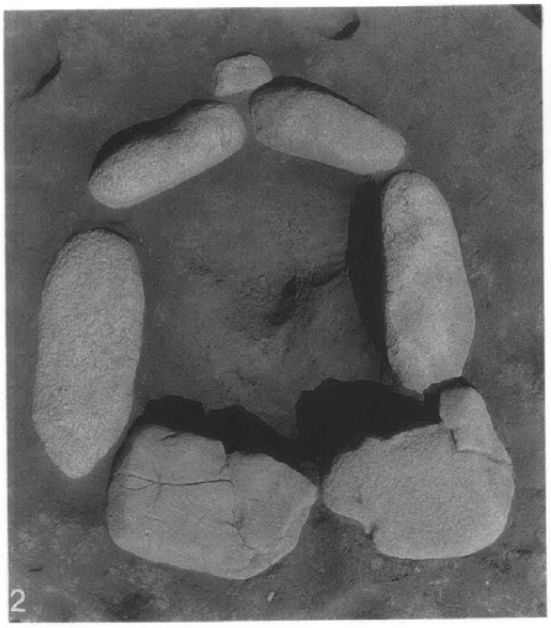
図版13　　第12号住居址

図版14　第13号住居址

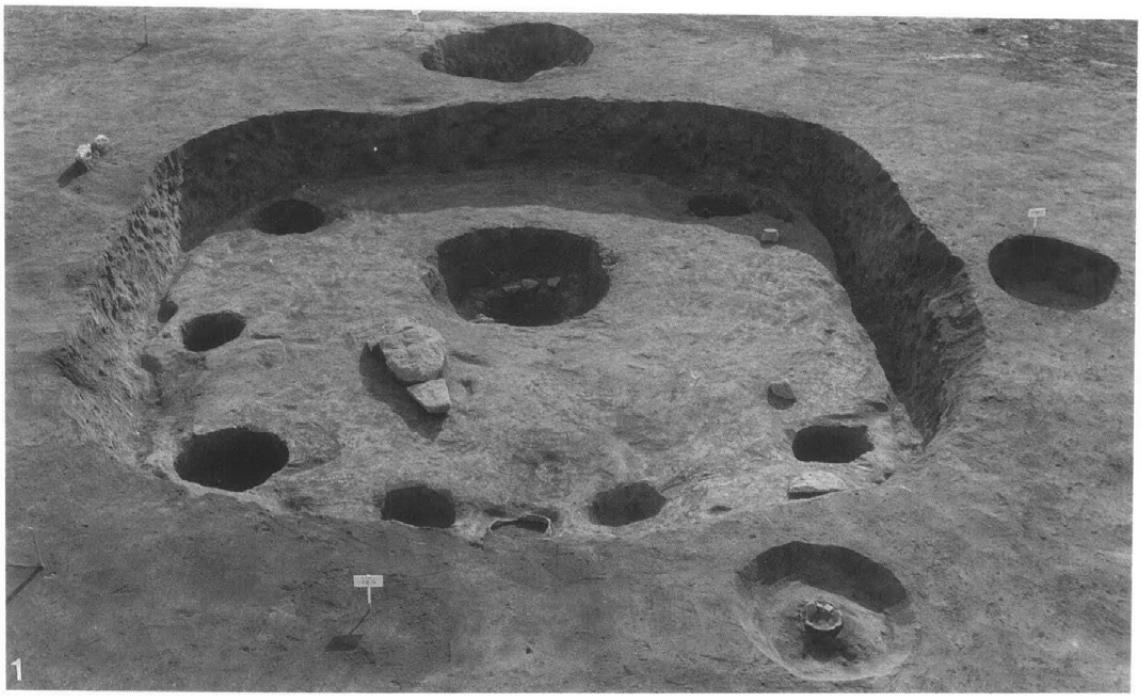




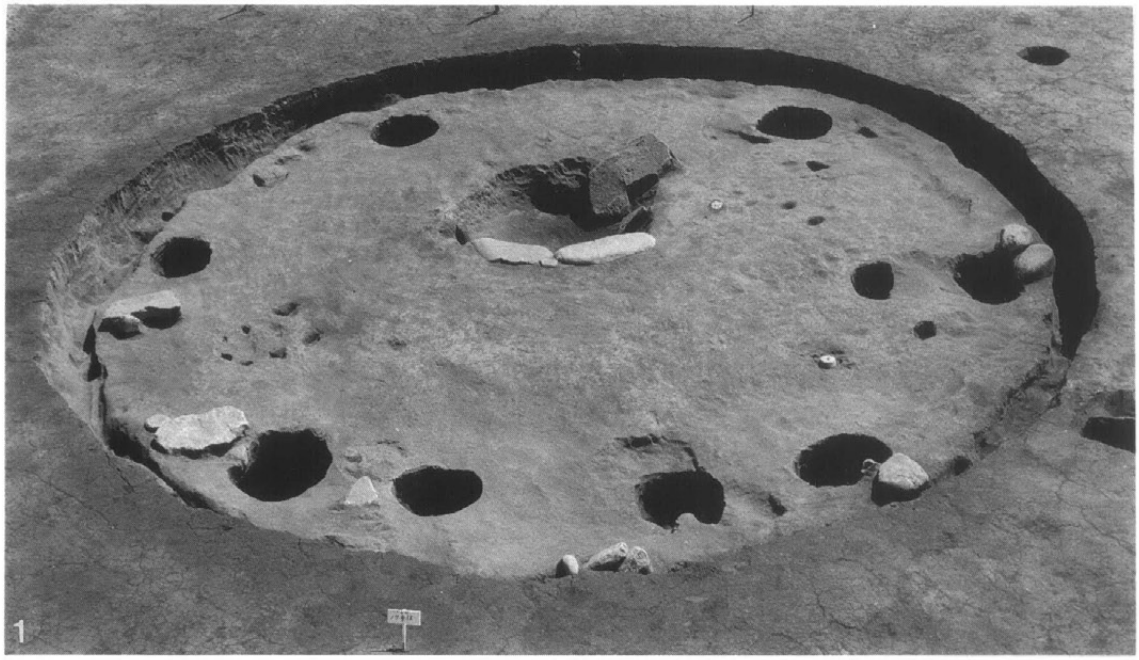
図版15　第14号住居址

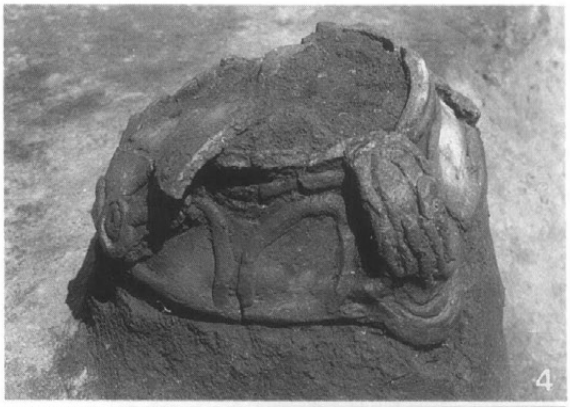


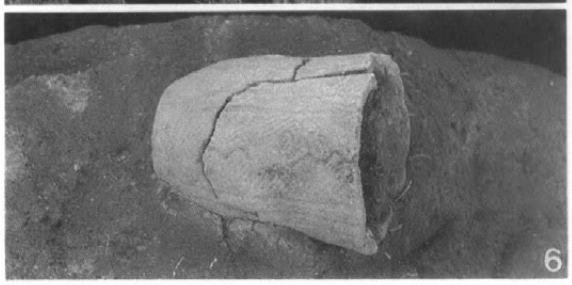
図版16　第15号住居址



図版17　第16号住居址



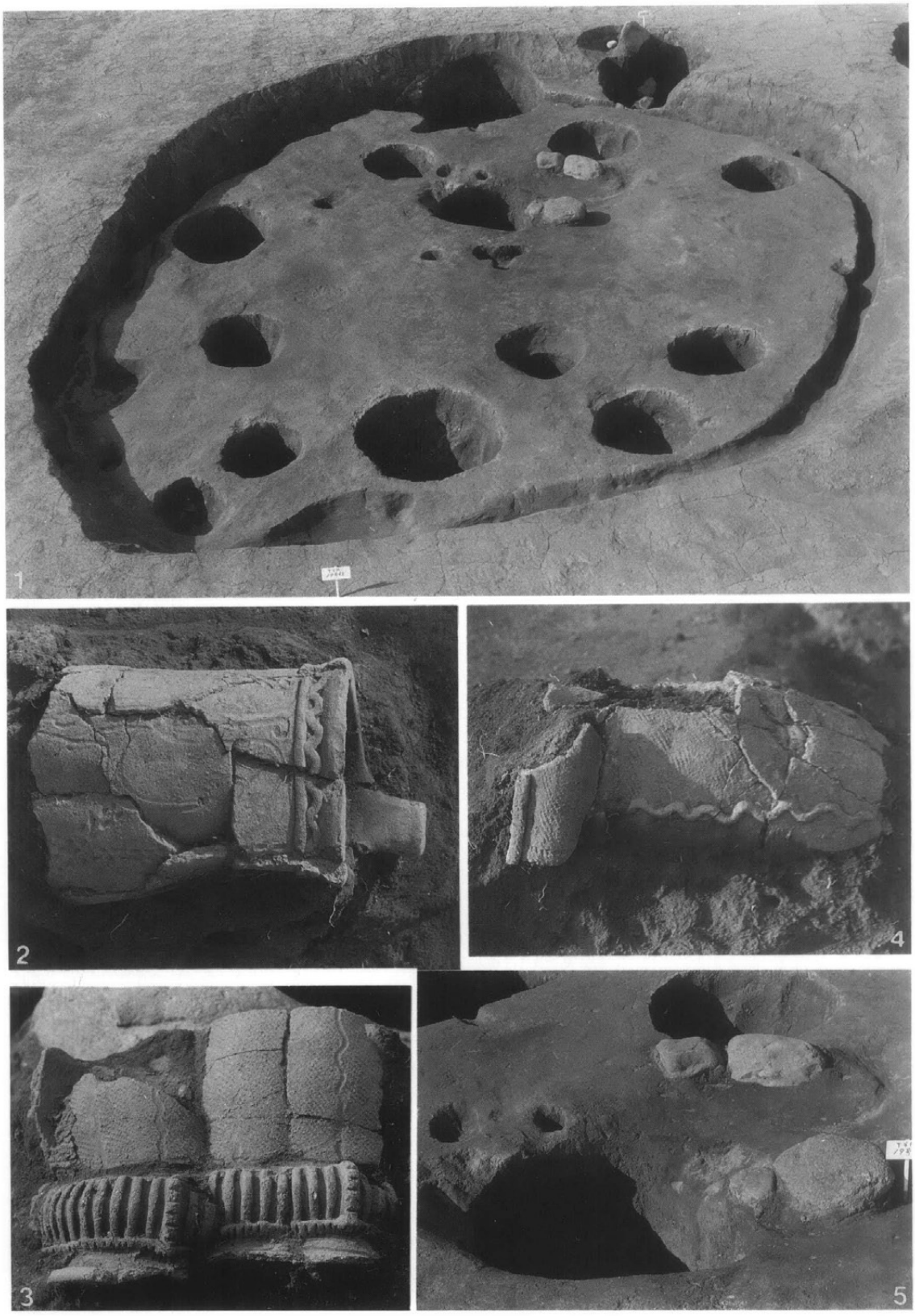




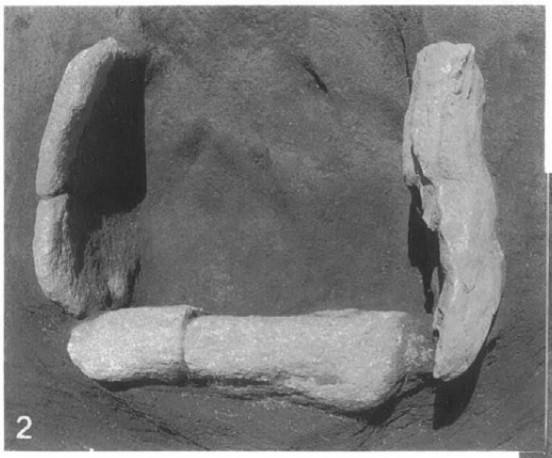
図版18　第17号住居址

手前第18号，奥第17号住居址

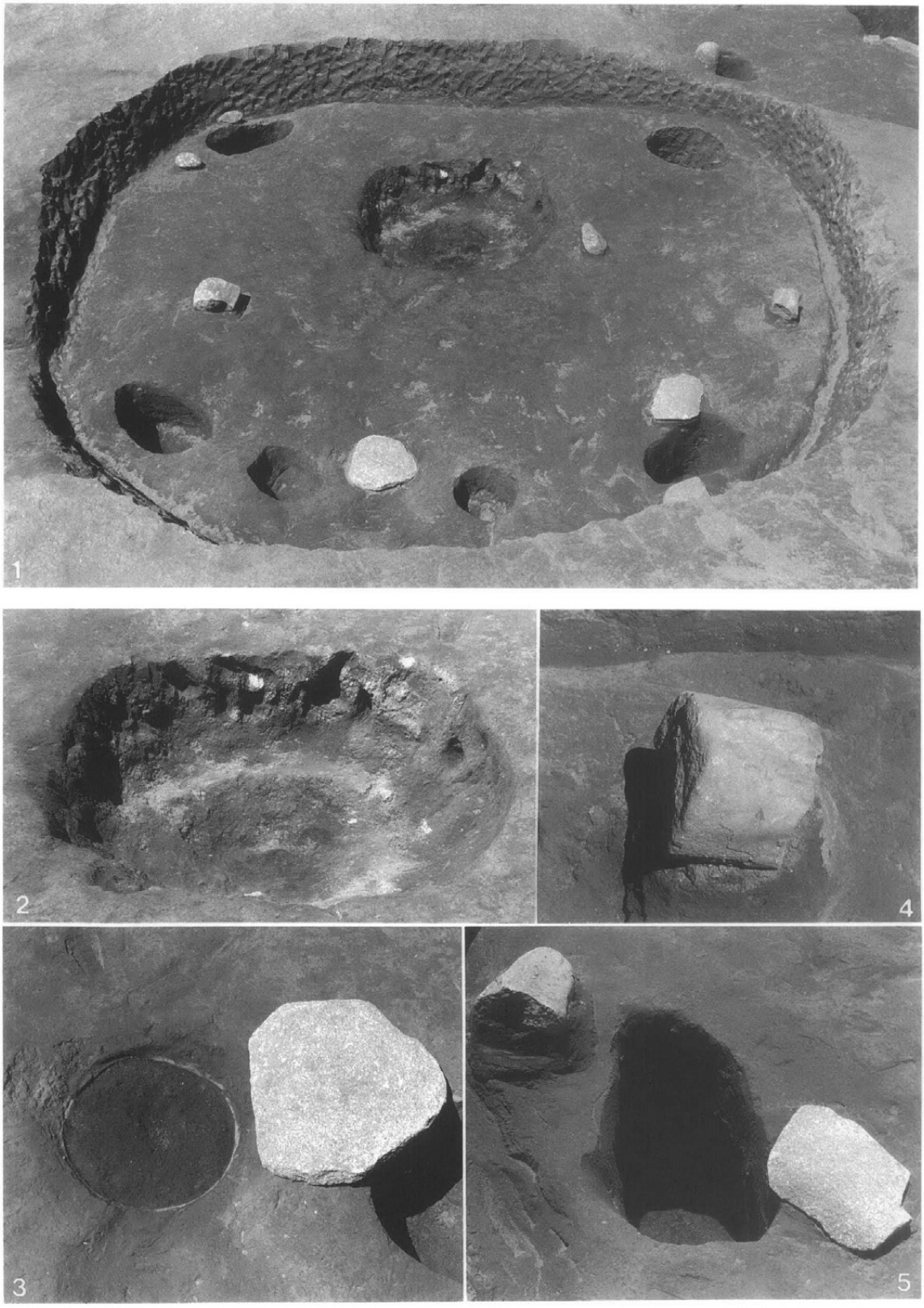
図版19　　第17号・第18号住居址（2・3）



図版20　第19号住居址



図版21　第20号（1）・第25号住居址（2）・第1号竪穴（3）



図版22　第21号住居址

図版23　第22号住居址